歴史年表

太田 修

常陸平氏東條氏系『太田氏』のwebsite: https://ja1pop.com

西暦	元号	年数	EVENT
		-138億	量子ゆらぎにより、原子1個より小さい点から**宇宙開闢**➡宇宙開闢後10^{-43}～10^{-38}秒の間に指数関数的に時空が膨張。これが**インフレーション**。宇宙空間が10^{26}倍に急膨張。このときに発生した原始重力波が現存するはず。➡「真空の相転移」により、膨張に関与したエネルギーが素粒子、光、熱に変換され超高温・超高圧・プラズマ状態の**ビッグバン(Big Bang)**➡宇宙開闢から約38万年後、宇宙の温度が約3千度Kまで下がると、浮遊して光子の移動を妨げていた電子が中性子と結合して原子が生成され光が直進可能になる。**宇宙の晴れ上がり**。約3千度Kの熱放射の光が宇宙膨張により波長が引き伸ばされ、現在受信できる宇宙マイクロ波背景放射(CMB(Cosmic Microwave Background))となる。ピークが約160GHzのプランク分布。いわゆる3K(2.725K)放射。➡まだ星がなく**宇宙の暗黒時代**➡宇宙開闢から1億8千万年後頃に**最初の星(The First Star)が誕生**➡宇宙開闢から2億年後頃に**銀河が誕生**➡宇宙空間は**減速膨張**➡宇宙開闢から62億年後頃からDark Energieにより宇宙空間が**加速膨張**に転じる➡宇宙の晴れ上がりから現在まで宇宙空間は約1000倍に膨張。 現在の宇宙の組成は元素(普通の物質)≒4.9%、Dark Matter≒26.8%、Dark Energie≒68.3%
		-45億	7千万年前　この頃、**太陽系形成開始**。
		-45億	4千万年前　この頃、**地球が誕生**。直後に地球へ火星規模の惑星『ﾃｨｱ(Theia)』が衝突して**月が誕生**したとされる(**ｼﾞｬｲｱﾝﾄ・ｲﾝﾊﾟｸﾄ説**)。
		-42億	この頃、地球は地磁気の形成により高エネルギー宇宙線から生命が守られる状態になる。太陽からの紫外線対策は、5億年前以降へ。
		-40億	この頃、地球に海洋が形成される。　この頃、**地球の物質**(一部のｱﾐﾉ酸を含む)に加え、**落下した隕石がもたらした物質**と、**隕石衝突による圧力で生成されたアミノ酸**(不足していたｱﾐﾉ酸の種類を含む)、そして**落雷で生成されたﾘﾝ**により**生命体の材料が揃い海洋へ流入**。
		-39億	5千万年前　この頃、海底の熱水噴出孔から噴き出すミネラルを栄養素として最初の**生命誕生**。**無酸素環境**。
		-27億	～24億年前　この頃、海中で**シアノバクテリア誕生**。光合成により自身のための栄養素を生成しつつ二酸化炭素を取り込み副産物として酸素を放出。地球大気に初めて酸素が供給される。シアノバクテリアはオーストラリア大陸西端シャーク湾のストロマトライトをはじめ世界の海水・淡水、そして地上の極限環境にも現存。また、子孫が植物の**葉緑体**として広く繁栄。
		-23億	この頃、1回目の地球全球凍結(ｽﾉｰﾎﾞｰﾙｱｰｽ)。2回目: 7億年前頃。3回目: 6億5千万年前頃。
		-5億	4200万年前～『カンブリア紀』 **海中でカンブリア紀の生命大爆発**。　5億1500万年前頃、海中で最初の**脊椎動物**が誕生。それは顎と歯がない**サカナ**で、二つの眼があった。円口類のヤツメウナギやヌタウナギを除き、人類に至る系統を含む多くの種は、やがて顎と歯を獲得する。　**陸上は太陽の紫外線が強くDNAが損傷して生命はまだ存在できず。**その後、シアノバクテリアから供給された酸素が成層圏に達して**オゾン層**を形成、紫外線が低減されて生命が陸上に進出可能な環境が整う。
		-4億	4370万年前～3億5920万年前の『シルル紀』・『デボン紀』に**植物**と、**サカナ**から進化して指のある四肢と二つの肺を獲得した**四足動物(四肢動物)が水中から陸上へ進出**。
		-2億	5190万年前　**P-T境界**『古生代ペルム紀/中生代三畳紀』 この頃、陸上で69%、海中で81%の動物が絶滅するという、**最大規模の絶滅事件が発生**。原因は「天体衝突説」、「スーパープルームによる大規模火山活動説」等。海洋では**無酸素事変**。三葉虫も、このとき絶滅。
		-2億	5190万年前～2億130万年前 『三畳紀』 気候は温暖・**乾燥**。三畳紀後期初頭の『カーニアン期』中の、さらに2億3400万年前～2億3200万年前までの200万年間に『**CPE**(Carnian Pluvial Episode)(**ｶｰﾆｱﾝ多雨事象**)』が発生。原因は、超海洋パンサラッサに於ける大規模火山活動。火山性ガスの増加で地球の気候が温暖・**湿潤**になる。**CPE**直前、三畳紀中期に**恐竜が誕生**。**恐竜は、この気候変動により爆発的に多様化**。**CPE**の頃、**哺乳形類が誕生**。ネズミのような小型動物で、**哺乳類**の共通祖先。 地球の大陸の、ほぼ全てが合体した超大陸**パンゲア**が存在。パンゲア南部で誕生した恐竜は、北側に存在した乾燥帯がバリア(草食動物が不在)となり北部へ移動困難だったが、**CPEによる湿潤化**で乾燥帯が消滅したためパンゲア全域に進出して**爆発的に繁栄**。 一方、大規模火山活動の末期には海洋の無酸素化により海洋生物の多くが絶滅。無酸素化の原因は不明。 **CPE**前の全陸上動物に対する恐竜の割合は10%、**CPE**後は90%。初期の恐竜は小型で、繁栄に伴い巨大化。 中生代(三畳紀、ジュラ紀(約2億130万年前～約1億4500万年前)、白亜紀(約1億4500万年前～約6600万年前))に恐竜は驚異的発展を遂げ、**哺乳類は多様化**。 現在の地球の年間平均気温は約15℃、中生代は、それより高かった。三畳紀初頭と白亜紀後半は25℃(酷暑状態)を越えていた。 現在の大気の酸素濃度は約21%。過去には35～10%で変動。下記、三畳紀以降の恐竜が生きた時代は約30%。
		-6550万	**K-Pg境界**『中生代/新生代』 この頃、直径約14kmの小惑星が隕石となってﾒｷｼｺのユカタン半島沖に落下。直径約180kmのチクシュルーブクレーター(Chicxulub crater)形成。「**衝突の冬**」の到来で地球の平均気温が6℃低下し、深海を除く地球全域で**恐竜ほか生物の3/4が絶滅**。恐竜は、隕石落下地点から遠かった現南極大陸にはK-Pg境界後も一部は生き残っていたらしい。やがてそれらも絶滅して、以後は哺乳類が台頭。
		-5000万	この頃、陸上で進化した四足動物(四肢動物)のうち水中へ戻る種があった。それはクジラ、イルカ、シャチ等の祖先。近縁種はカバ。
		-1200万	～1000万年前　この頃、人類に至る系統が**オランウータンから分岐**。
		-800万	この頃までに人類に至る系統が**ゴリラから分岐**。
		-700万	～600万年前　この頃、**アフリカ中部チャドでチンパンジーから、最初の人類となる猿人サヘラントロプス・チャデンシスが分岐**。脳容積320～380cc(ﾁﾝﾊﾟﾝｼﾞｰと大差なし)。120万年前頃まで生息。直立二足歩行の準備段階。
		-450万	～430万年前　この頃、エチオピアに**猿人アルディピテクス・ラミダスが出現**。脳容積300～370cc(ﾁﾝﾊﾟﾝｼﾞｰと大差なし)。直立二足歩行への移行期。身体が、直立二足歩行に適する構造に進化。
		-339万	この頃、エチオピアで**アファール猿人(ｱｳｽﾄﾗﾛﾋﾟﾃｸｽ・ｱﾌｧﾚﾝｼｽ)**が鋭利な石器で動物の骨を切断し骨髄を食べていた痕跡あり。この発見により**旧石器時代始期を [339万年前] に更新**。脳容積387～550c。370万～300万年前頃、タンザニア、エチオピア、ケニアに生息。ほぼ直立二足歩行だが、まだ樹上生活も可能ではある。
		-250万	この頃、**アフリカに最初のホモ属である原人ホモ・ハビリスが出現**。160万年前頃まで生息。脳容積600～700cc。化石がタンザニア、エチオピア、南アフリカから出土。石器も出土。ほぼ完全に直立二足歩行。
		-200万	～100万年前頃にチンパンジーとボノボが分岐。チンパンジーの脳容積は約390cc、体長約85cm、体重約50kg。ボノボは脳容積約350cc、体長約80cm、体重約40kg。チンパンジーより温厚な性格。しかし、オス同士はチンパンジー以上に攻撃的とされる。
		-190万	この頃、**アフリカ東部でホモ・ハビリスから原人ホモ・エレクトスが分岐**。脳容積750～1200cc。身長160～180cm。180万年前頃に**出アフリカ**開始。100万年前頃に火を利用していた痕跡あり。発話はできず。**ジャワ原人**は160万～10万年前頃まで生息。末期の脳容積は約1200ccに増加。**北京原人**は75万年前頃。インドネシアのフローレス島へは100万年前頃に到達し**フローレス原人(ﾎﾓ・ﾌﾛｰﾚｼｴﾝｽ)**。狭い島に適応するため矮小進化したもよう。身長100cmほど。脳容積約400cc。5万年前頃まで生息。**原人は航海術なくオーストラリアは到達できず**。
		-120万	この頃、**全ての猿人が絶滅**。出アフリカせずに終わる。 この頃、原人の体毛がなくなる(細く短くなる)。汗で体温調節をするための進化。熱帯の人達は紫外線対策のため肌の色が黒くなる。
		-91万	～81万3千　100万人近かった人口が千人余まで急減。人類絶滅の危機。地球寒冷化が原因らしい。この後、火の利用で人口回復。
		-78万	この頃、最後の地球磁極の反転。現在の北極がN極に、南極がS極に戻る。千葉県市原市田淵の養老渓谷のチバニアンに記録が残る。
		-70万	この頃、**アフリカで新人と旧人(ﾈｱﾝﾃﾞﾙﾀｰﾙ人、ﾃﾞﾆｿﾜ人等)の共通祖先ホモ・ハイデルベルゲンシスが原人から分岐**。脳容積1100～1400cc。40万年前頃に出アフリカ。ヨーロッパ・アジアへ。声は出せたが発話は難しかった。原人より知能が高く、住居の小屋を建造、組合せ式道具を製作して狩りを行なっていた。20万年前頃まで生息。
		-43万	この頃、ナウマン象が日本列島に渡来。1万7千年前頃まで生息。朝鮮半島と、対馬から日本列島が陸続きだったか。
		-39万	この頃、**ヨーロッパ**(たぶん)**でホモ・ハイデルベルゲンシスから旧人ネアンデルタール人(ﾎﾓ・ﾈｱﾝﾃﾞﾙﾀｰﾚﾝｼｽ)が分岐**。脳容積は新人より大きく約1550cc。骨太・筋肉質で頑丈な体格。平均身長175cm、平均体重95kg。肌の色は白。発話ができた。新人との交配あり。ヨーロッパに広く拡散。4万年前頃まで生息。 この頃、**ヨーロッパ**(たぶん)**でホモ・ハイデルベルゲンシスから旧人デニソワ人が分岐**。新人との交配あり。アジアに広く拡散。4万年前頃まで生息。遺骨の発掘場所はシベリア アルタイ山脈のデニソワ洞窟。この洞窟ではネアンデルタール人の母とデニソワ人の父の間に生まれた13歳の少女の9万年前の遺骨も発見された。新人との交配あり。DNAがオーストラリアのアボリジニーとニューギニアを中心とするメラネシア人に多く残る。
		-31万	5千年前　この頃、**アフリカのモロッコでホモ・ハイデルベルゲンシスから新人(現生人類(ﾎﾓ・ｻﾋﾟｴﾝｽ))が分岐**。ネアンデルタール人より小柄で華奢な体格。脳容積はネアンデルタール人より小さく約1350cc。
		-18万	～13万年前、**リス氷期**(最終氷期の一つ前)。リス氷期も、この後の下末吉(欧米ではｴｰﾐｱﾝ)間氷期も、安定して寒冷、また温暖ではなく千年単位で寒暖を繰り返す不安定な気候。
		-13万	～-115000　**下末吉(ｴｰﾐｱﾝ)間氷期**(現間氷期の一つ前)。新人が既に存在したが文明は開花せず。

西暦	元号	年数	EVENT
		-115000	～-15000 最終氷期 **この氷期に新人が大躍進。世界各地へ拡散。氷期の後期に中国で長江文明、日本列島で縄文文化が開花。**
		-90000	この頃、**阿蘇カルデラ噴火(Aso-4)**。九州で火砕流が到達しなかったのは南部のみ。島原半島原城跡の丘は、このときの火砕流で形成。大分県には火砕流で形成された溶結凝灰岩の広大な台地(原(はる)と呼ばれる)が残る。火砕流の一部は周防灘を走り160km先の山口県まで到達。噴煙が成層圏に達し偏西風に乗った火山灰は西日本に50cm以上、北海道東部にも15cmの降灰。阿蘇カルデラ噴火は27万年前から4回あり。27万年前=Aso-1、14万年前=Aso-2、12万年前=Aso-3、9万年前=Aso-4と呼ばれる。
		-70000	～-65000 **新人の出アフリカが大規模になる**(開始は22万年前頃)。エチオピアから中東を経て中央アジアへ拡散。ヨーロッパへ4万7千年前頃に拡散を開始。オーストラリアへは6万5千年前頃に到着。中東地域で新人とネアンデルタール人の異種交配あり(交配開始は10万年前頃)。**現在のアフリカ人以外の全ての新人にネアンデルタール人のDNAが残る**。原人は他種の原人・複数種の猿人と、旧人は他種の旧人・複数種の原人・新人と、新人も複数種の原人・複数種の旧人と、それぞれ出会っていたはずなので、異種交配があったと推測される。 ドイツ、マックス・プランク進化人類学研究所のスメル博士らによれば、混血は4万9千年前～4万5千年前の間に1回と推定。(6万年前とも)
		-50000	この頃、新人が言葉を獲得。　この頃、フローレス島のフローレス原人(ホモ・フローレシエンス)を最後に**全ての原人が絶滅**。
		-48000	この頃、**新人が中央アジアから東方向へヒマラヤの南と北の2ルートに別れて拡散を活発化**。 **ヒマラヤ南ルート**: インド経由で東南アジア方面。4万8千年前には既にスンダランド到着。 **ヒマラヤ北ルート**: シベリア南部へ46500年前頃、中国北部へ3万9千年前頃に進出。敢えて寒冷な地域へ進出したのは 、食糧確保のためマンモスなど草原の動物を追ったためらしい。さらに東へ移動して東アジアでヒマラヤ南ルートの人々と1万年ぶりに合流する集団あり。
		-45000	～-43000 この頃、ヨーロッパでは新人による**後期旧石器文化**が始まる。
		-42000	この頃、**日本列島に新人が渡来開始。渡来第一波始期**。2025/5/25、奈良文化財研究所国武貞克主任研究員らの発表によれば、広島県廿日市市の冠遺跡で4万2千年前の地層から石器発掘。同地層から見つかった木炭を放射性炭素で年代測定した。一部の石器は縁が削られた鋸歯状で、中国大陸や朝鮮半島で見つかっている4万年以上前の中期旧石器時代の石器と特徴が似ている。 この頃、**ラシャンプ地磁気エクスカーション**発生。地球の北磁極が北極から南太平洋ほかへ大きく移動し最終的に北極へ戻る。この地磁気異常は生物に影響を与え、一説にはネアンデルタール人の絶滅に寄与したとされる。ネアンデルタール人は肌の色が白く紫外線増加に耐えられなかった可能性があるという。
		-40000	この頃、**ネアンデルタール人が絶滅**。ネアンデルタール人は、新人がヨーロッパに進出を開始した4万7千年前頃から人口減少。移住してくる新人が4万3千年前頃から急速に増えると、ネアンデルタール人が急減して絶滅に至る。環境への対応力と、食糧獲得に問題があったか。新人は道具を発明して狩りの効率化を図ったので、ネアンデルタール人は食糧不足に陥った可能性あり。**デニソワ人もこの頃絶滅**。
		-38000	この頃、**新人が日本列島各地へ急速に拡散。日本の後期旧石器文化を形成**。各地にこの頃の遺跡が多数存在。**海面水位が現在より80m低下**。黄海はほとんどが陸。九州・四国・本州が陸続き。対馬海峡は東西両水道とも存在。北海道は樺太を経て大陸と陸続き。津軽海峡は存在。台湾は大陸と陸続き。海部陽介博士が、つぎの3ルートを提示。 **①対馬ルート: 3万8千年前頃**。朝鮮半島から舟で対馬を経由、または通過して九州北部へ。 **②沖縄ルート: 36500年前頃**。大陸と陸続きの台湾から与那国島へ舟で渡り沖縄諸島を経て九州南部へ。 **③北海道ルート: 2万5千年前頃**。大陸と陸続きの樺太を経て陸路で北海道へ。津軽海峡は舟で渡る。
		-29000	**姶良カルデラ大噴火**。関東でも10cmの降灰。カルデラに海水が流入し鹿児島湾形成。外輪山に2万6千年前頃桜島生成。
		-20000	この頃が**最終氷期最寒冷期**。地球の年間平均気温が約11℃まで低下。**海面水位が現在より130m低下**。黄海は陸。日本海は巨大な湖状態。対馬海峡の東水道はなく、対馬は壱岐・九州・四国・本州と陸続き、対馬海峡西水道は大河となり日本海から東シナ海へ流出。川幅は数km。北海道は樺太を経て大陸と陸続き。津軽海峡は海氷で氷の橋。台湾は大陸と陸続きで長江(揚子江)の河口は現在より500km以上先。　**渡来第一波継続(後期旧石器文化へ融合し子孫が縄文文化の担い手へ)**
		-18000	この頃、地球温暖化の兆候が顕われる。 この頃、中国の長江(揚子江)流域で世界最古の土器が製作され、**照葉樹林文化**である**長江文明の揺籃期**となる。主体は非漢民族の華奢で小柄な中国少数民族であるミャオ(苗)族・ヤオ(瑤)族・トン(侗)族・イ(彝)族・ハニ(哈尼)族・チワン(壮)族・トゥチャ(土家)族・ナシ(納西)族・モソ(摩梭)族・タイ(傣)族等。容姿が現代日本人と酷似。(少数民族名の漢字は漢民族が当てはめたもの。) **照葉樹林文化論**: 照葉樹林帯に住む民族は、文化・習俗の多くを共有する。 **照葉樹**: 亜熱帯から温暖帯に生育する常緑広葉樹。葉の表面に光沢があるのでこう名付ける。カシ(樫)、シイ(椎)、マテバシイ(馬刀葉椎・全手葉椎)、スダジイ(すだ椎)、クリガシ(栗樫)、クスノキ(楠木)、タブノキ(椨)、モチノキ(鶴の木)、ツバキ(椿)、サザンカ(山茶花)、ビワ(枇杷)、キンモクセイ(金木犀)、クチナシ(梔子)、ミカン(蜜柑)、ユズ(柚)、キンカン(金柑)、ヤマモモ(山桃)、モッコク(木斛)、ヒイラギ(柊)、アオキ(青木)、ヤツデ(八手)、ナンテン(南天)、マサキ(正木)、タイサンボク(泰山木)、茶等。 **該当地域**: ネパール、インド北部のシッキム・アッサム、ブータンのヒマラヤ山脈中腹部、ミャンマー・タイ・ラオス・ベトナムの各北部、中国の雲南・貴州・湖南・江西・浙江各省、台湾、沖縄を経て西日本に至る地域。照葉樹林文化論の提唱者中尾佐助氏や、照葉樹林文化論から日本文化の基層形成を論じた佐々木高明氏は長江上流域の雲南・貴州省辺りを照葉樹林文化の中心地と位置付けられたが、安田喜憲氏は西アジアの麦作牧畜文化圏である肥沃な三日月地帯を西亜麦作半月弧と改称し、照葉樹林文化圏を東亜稲作半月弧と改称したうえで、発掘出土物を根拠として中心地を湖南・江西省等の長江中流域に移動させることを提案されている。主たる担い手は長江中流域にいたのであって稲作起源地でもあり、長江上流域は約4200年前に食糧難で南下してきた漢民族による圧迫からの逃避先の一つでしかないというのが、その理由。逃避先は他に長江下流域、日本列島、東南アジア等。 **該当民族**: 長江文明圏の上記諸民族。台湾のアミ(阿美)族・パイワン(排湾)族等原住山地民。日本人。 **共通文化**: 土器の製作・活用、漁撈、鵜飼、養蚕、焼畑、棚田・稲作・オコワ(赤飯)・餅・チマキ・なれ寿司・麹酒、納豆、コンニャク、飲茶、漆、竹細工・竹馬、羽子板・羽根つき、吊り壁・高床建物、歌垣、天の羽衣伝説、多神教、山の神信仰、言霊信仰、抜歯(犬歯)、刺青等。
		-16500	青森県津軽半島の大平山元Ⅰ(1)遺跡で発掘された無文土器に付着したお焦げの放射性炭素年代から、この頃が**縄文文化の揺籃期**となることが判明。北東アジア最古。土器の他、多数の石鏃・石器も出土。1000 BCまで**縄文時代**(始期・終期とも諸説あり)
		-15000	**地球温暖化本格化　日本では最終(現)間氷期始期**　この頃、東北アジアの(所謂)黄色人種が海面水位の低下で陸続き(11000年前頃まで)のベーリング地峡を通過し北米大陸へ渡り氷床の間の無氷回廊を通過し太平洋沿岸を急速に南下。1000年間で南米大陸南端まで到達。北米・南米大陸の先住民族となる。南以外に東へ移動する集団があり、フロリダでは14550年前の遺跡に石器が存在。 最近、北米大陸に**23000年前に人類がいた**証拠が発掘されたため北米への進出時期が修正される可能性あり。
		-14000	この頃、中国では温暖化でそれまで草原だった地域に照葉樹林が拡大。草原の動物がいなくなり食糧危機。一方、温暖化で野生稲が長江中流域まで北上。長江中流域の**江西・湖南省で稲作が開始**された可能性あり。
		-12800	～-11500　寒の戻り、**ヤンガー・ドリアス期**。北米大陸上空で直径約100kmの彗星が爆発したことが原因とする説が有力。加えて、北米大陸北半分を占めていたローレンタイド氷床が融解し広大な湖を形成。そのうえで北大西洋側の氷の堤が決壊。低温の淡水が一気に流出して大西洋沿岸が寒冷化。それがトリガーとなりアジア西部で**麦作開始**。麦作・牧畜文化。肥沃な三日月地帯・西亜麦作半月弧と呼ばれる。寒冷化は東アジアにも影響し稲作が長江中・下流域から各地へ伝播。
		-11500	この頃から全地球規模で温暖化が加速。海面水位上昇も加速。**全地球的に最終(現)間氷期始期**
		-9000	この頃の**垣ノ島B遺跡(函館市)から漆塗り製品出土**。**世界最古か**。この頃、人類の乱獲で地球上からマンモスが絶滅。 この頃、温暖化による海面水位上昇で朝鮮半島と対馬の間の大河を海水が逆流し日本海へ流入。対馬暖流による海水温の上昇でシベリア寒気との温度差から高湿の西風となり列島日本海側に現在のような冬の豪雪地帯が形成される。 この温暖化で地中海の水位も上昇。8400年前頃、ボスポラス海峡に巨大な滝が出現。それまで水位が現在より95m低下して淡水湖となり縮小していた黒海へ海水が流入。温暖で食糧が豊富なため湖畔に集住していた人々が洪水に襲われた。この記憶がノアの方舟伝説となったとする説あり。この地域からインド・ヨーロッパ語族、すなわち麦作・牧畜文化圏の人々が各地へ逃避・拡散。東アジアでは照葉樹林文化圏、すなわち稲作・漁撈を生業とする人々が各地へ拡散。　この頃、夏島貝塚、夏島式土器(横須賀市夏山)。
		-8200	この頃、地球は一時的に寒の戻り。
		-7300	**鬼界カルデラ大噴火(アカホヤ噴火)** 薩摩半島の南約40km。爆発による地震・津波・火砕流・火山灰で南九州の縄文文化壊滅。火砕流は海を走り薩摩・大隅半島へ到達。津波は島原半島に痕跡あり。火山灰は九州南部・中部、偏西風に乗り四国全域、中国・近畿地方に降灰。和歌山に20cm。関東にも10cm。東北地方へも到達。現時点では列島で最後のカルデラ噴火。 この頃、八丈島に縄文人が現れる。180kmの航海術を有していた証拠となる。
-5000		-7030	この頃、中国では長江文明から1万年以上遅れながらも黄河中流域に漢民族による**仰韶文化が興り黄河文明の揺籃期**。

西暦	元号	年数	EVENT
		-7000	この頃、野島貝塚、野島式土器(横浜市金沢区)。
		-6500	～-5500 **温暖化のピーク**。年平均気温が現在より約2℃高かった。海面水位が現在より3～5m高く、低地に海水が入り込んでいた。**縄文海進**
		-6000	この頃、岡山市朝寝鼻遺跡で稲の栽培可能性。米の細胞化石発見。**日本最古**。
		-5900	～-4100　この間、青森県**山内丸山遺跡**が存続。この頃(5千年前)に製作された火焔土器がバヌアツ共和国で出土。縄文人は6000km離れた南太平洋へも移動していた証拠となる。
-2186		-4200	この頃、地球規模で寒の戻り。中国北部の山頂洞人に代表される長頭で大柄な漢民族が寒冷化で食糧危機に陥り長江流域まで南下。圧迫された長江文明の担い手は長江を上流方向へ移動して雲南・貴州の山岳地帯、さらに南の東南アジアへ移住。長江下流域の人々は河口付近から海路日本列島へ逃避。この人々により縄文文化へ**陸稲熱帯ジャポニカが伝わる**。**渡来第一波終期/渡来第二波始期(縄文文化へ融合)**　雲南の人々は滇王国を建国。江南に踏み留まった人々は、やがて楚を建国。334 BCへ
-2000		-4025	この頃、中国では**黄河中流域(河南省偃師市)に漢民族による二里頭(ニリトウ)文化が興る**。中国最古の王朝。後世の文献では『夏』(14代、17王)とされ支配範囲が長江付近まで及ぶが、殷(商)の甲骨文字による情報では黄河中流域(河南省と、山西省・陝西省の一部)のみ。
-1600		-3625	この頃、中國の**黄河中流域では二里岡(ニリコウ)(河南省鄭州市二里岡『鄭州商城』(二里頭の東約70km))の湯王(天乙(テンイツ))(大乙(タイイツ))が二里頭王朝(夏)を倒し殷(商)を建國**。これも漢民族。二里頭文化圏の遺民支配強化のため二里頭の東約6kmに副都として『偃師商城』を築く。國名『殷(商)』は、1046 BCにそれを倒した周が命名。周は殷(商)の西方にあり。漢字は殷(商)が創出し甲骨文字・金文として残る。殷(商)の祭祀形式は日本の皇室に現代まで続くとされる。
-1340		-3365	この頃、エジプトでは第18代王アメン・ヘテプ(ホテプ)4世(Imen hetep)(英語表記 Amenhotep IV)(後の名をイクナートン)没。イクナートンは神官の専横を嫌い多神教を禁止して太陽を神とするアトン(アテン)信仰を推進したが没後に衰退。その遺志を継ぐためかモーセが被差別民のヘブライ人を糾合し1290 BCに**出エジプト**。約束の地カナン(現パレスチナ)へ進軍。モーセはシナイ山で神から十戒を授かったと称してヤハウェ(Yahweh)神をいただく**ユダヤ教を興す**。ユダヤ教徒がユダヤ人となる。一神教は他の神を認めず、ヤハウェはこの地に存在していたバアル神を殲滅。すなわちバアル神を信仰する先住民を殺害(**現代の宗教・民族紛争の根元**)。ユダヤ教は、後に発生するキリスト教、イスラム教の原形となる。この3宗教の神は全てヤハウェであり、610に興るイスラム教ではアッラー(Allah)と称す。
-1185		-3210	地球は一時的に寒の戻り。この頃、縄文文化へ**水田稲作温帯ジャポニカが伝わる**。佐藤洋一郎氏によれば朝鮮半島の稲とは遺伝子が異なるので半島を経由せず長江河口付近から九州へ伝播した。**渡来第二波継続(縄文文化へ融合)**
-1100		-3125	この頃、中國では周王古公亶父(ココウタンポ)の長男**太伯**(タイハク)は、父の意向を忖度して3男季歴(キレキ)の男である昌(後の文王)に跡を継がせるため2男虞仲(グチュウ)と共に出奔。長江下流域北側の蘇州に都を置き現江蘇省一帯に**呉を建國**(当初は句呉と称す)(姫姓)。太伯没後に虞仲が王を継ぐ。民は地元の照葉樹林文化の担い手であり日本の縄文文化を含むその文化圏共通の習俗を維持。
-1046		-3071	中國では**殷周革命で殷(商)が倒れ周となる**。王家の姓は姫(キ)。独自文化を持たない周は殷(商)の文化を積極的に摂取。祭祀形式は尹佚(インイツ)(後に史佚(シイツ)に改姓)が後世へ伝える。 殷周革命は周王姫昌(キショウ)が姜(キョウ)族の太公望呂尚(リョショウ)を軍師として迎え着手。男の姫発(武王)が殷(商)の30代紂(チュウ)王を倒して達成。姫発は紂の叔父箕子(キシ)を賢人と崇めて臣下とせず、半島に封じて**箕子朝鮮**を建國させたとされる。箕氏もまた殷(商)の祭祀形式を伝える一族と。大國主命は、この子孫か。195 BCへ
-1000		-3025	**中國や半島に於ける戦乱の敗者と、戦乱を嫌う人々が列島へ渡来するケースが増加。この人々は列島に水田稲作温帯ジャポニカをもたらしたはず。渡来第二波終期/渡来第三波始期　渡来人と縄文人の交配が進み弥生人となる。渡来人の文化が縄文文化に融合し、弥生時代始期**(諸説あり)。弥生人は日本の支配層に進出する。言語は縄文語に渡来語が融合して弥生語となるが、縄文語の名詞は多く残り、無アクセントの縄文語にアクセントが付いて弥生語となった。関西弁が弥生語であり、縄文語は東北弁に色濃く残る。出雲地域は東北弁である。大國主命が武甕槌命から國譲りを強要されたとき、不本意ながら同意したが弥生語は受け入れなかった。さらに、國譲りの条件として出雲に巨大な神殿の建造と、その祭祀形式を朝廷に受け入れさせた。
		-3000	この頃の炭化米が八戸市風張遺跡に存在。**日本最北地**。
-773		-2798	この頃、中國の周は内乱により國勢衰退。
-771		-2796	中國の周は代々鎬京(コウケイ)に都したが12代幽王のとき犬戎に侵略され一旦滅亡。
-770		-2795	中國では、前年に滅亡した周の13代平王が成周(現洛陽付近)へ東遷して即位。以前を西周、以後を東周と称す。**中國の春秋時代始期**
-552		-2577	中國山東省の魯國で孔子誕生 479 BCへ
-479		-2504	孔子没 552 BCより
-473		-2498	中國では、**呉が越王勾踐(コウセン)に破れ滅亡**。呉の民の多くは類似文化を持つ越の民となったが、王族は上海付近から海路済州島経由で博多へ移住し、57年に光武帝より金印を授かる**奴國**へ発展したらしい。広島県の呉が古い地名なら、ここへも移住したのだろう。越の重臣范蠡(ハンレイ)は何を思ったか財産をまとめ一族郎党と共に船で何処かへ去る。日本へ渡来したとされる。その際、水田稲作温帯ジャポニカを日本へもたらしたはず。**渡来第三波継続**
-403		-2428	中國では、晋の大夫 韓・魏・趙3氏が独立。**春秋時代終期/中國の戦國時代始期**
-356		-2381	半島に**新羅が興る**。935に滅亡。
-334		-2359	中國の**越が楚に滅ぼされる**。越の王族の多くは南へ逃れ浙江省南部から福建省の地に閩越(ビンエツ)を建國。王族の一部、越の民、元は呉の民等は上海付近から海路済州島を経て博多へ入ろうとするが473 BCに滅んだ呉の人々が居たため日本海を北上し出雲・高志(後に越を「コシ」と読ませる)へ移住したらしい。出雲大社の形式や銅鐸の原型は、この人々がもたらしたと言われる。水田稲作温帯ジャポニカも列島にもたらしたはず。楚は、長江文明の担い手の後裔である漢民族以外の少数民族を主体としつつ漢民族も含む人々で構成された。**渡来第三波継続**
-259		-2284	中國で嬴(エイ)政が生まれる。長じて秦始皇帝。247 BCへ
-256		-2281	中國では、東周が秦に滅ぼされる。王族は存続。
-247		-2272	中國では嬴政が秦王に即位。嬴政は、「皇帝」を称す。自らが始皇帝、次代を二世皇帝、三世皇帝・・・と続けるように命ず。
-221		-2246	中國では、**秦始皇帝(嬴政)が戦國六國(韓・魏・楚・趙・燕・斉)を滅ぼして中國統一**。**中國の戦國時代終期**。戦國六國の人々は逃げ場を失い海路列島へ渡来。内陸部の人々は東南アジアへ逃避。**渡来第三波継続**
-210		-2235	この頃、秦始皇帝から「不老不死の仙薬を入手せよ」との命を受けた徐福(除市)が若者3千人を率いて渡海。有明海から佐賀平野へ上陸して吉野ヶ里の王となり、発展させたとする説あり。現在、佐賀県金立山に所在する金立神社の金立大権現となっている。一方、徐福上陸地伝説は北海道を含む日本列島各地に残る。この移住は秦始皇帝の苛政からの集団逃避行であり、平安時代に京都を発展させた秦氏は徐福の子孫とされる。徐福は、夏王朝初期に「徐」に封ぜられた王家の後裔であり、長江ほかの流域に繁栄していた。
-195		-2220	半島の箕子朝鮮が燕の衛満(エイマン)に乗っ取られる。衛満は**衛氏朝鮮**を建國。このときの箕子朝鮮王、箕準(キジュン)は数千人を率いて脱出し馬韓(マハン)を攻めて王となる。その後も箕氏一族の子孫は半島で生き残ったもようで、出雲へ招かれて婿養子に入り商の祭祀形式を伝えた大國主命に至ったと言われる。157へ。
-37		-2062	半島では**高句麗が興る**-668滅亡。
0		-2025	列島は百余國が分立。一部は半島の楽浪郡と交渉をもつ。九州で武器の鉄器化始まる。 この頃、出雲勢力圏に四隅突出型墓の造営が始まる。
14		-2011	半島の倭人が新羅を攻撃。新羅はそれを撃退する。
25		-2000	中國では光武帝が**後漢を興す**。
30		-1995	ローマ帝国の植民地となっていたユダヤに於いて、イエス・キリストがローマから派遣されたピラトにより磔刑に処される。預言者イエスは神の子と称しユダヤ教を改革しようとしたが異端と見なされたという。この後、紀元50年頃にパウロがイエスの預言から**キリスト教**を興す。
32		-1993	高句麗が中國の後漢に入献。
36		-1989	光武帝の**後漢が中國統一**。
37		-1988	半島では高句麗が楽浪郡を襲撃。楽浪郡は313に陥落する。
57		-1968	中國は建武中元2年　列島の倭諸國の一、博多の**奴國**が後漢の洛陽に遣使。光武帝は遣使に金印・紫綬を授ける。(**韓委奴國王(カンノワノナノコクオウ)金印**) 『三國史記』の『新羅本紀』によれば列島から半島へ流れて行った倭人の脱解尼師今62歳が新羅第4代の王位に即く。 出雲荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡から出土した青銅器は、この頃に埋められる。
59		-1966	半島の倭人が新羅と友好関係。

西暦	元号	年数	EVENT
79		-1946	イタリアヴェスヴィオ火山噴火。10km先のポンペイが1日に4mの火山灰と軽石で埋まる。その後、火砕流が到達し約2100人が犠牲。
107		-1905	倭國王師升(スイショウ)等、後漢に生口(セイコウ)(奴隷)160人を献じ請見を請う。この頃、倭國は韓・濊と共に半島の弁韓、辰韓から鉄を輸入。
146		-1879	この頃から189頃まで君主不在で**倭國大乱**。中國の後漢では桓帝が即位-167
157		-1868	『三國遺事』の「延烏郎/細烏女」の逸話は、この年の出来事とされる。岩が延烏を乗せて日本へ運び、延烏は王になった。妻の細烏が探しに行き、乗った岩が細烏を乗せて日本へ運び、夫婦が再会できた云々と。 「延烏郎/細烏女」の逸話は『出雲風土記』の國引き神話に比定されるとの説あり。「半島の迎日湾(慶尚北道)から隠岐を経て高志(越)(福井県越前岬)へ大國主命を引いた(運んだ)」と。大國主命は、素戔嗚尊の末娘の婿となって殷(商)の祭祀形式を伝えたと言われる。
158		-1867	半島の倭人が修好のため新羅を訪問。
167		-1858	中國の後漢では霊帝が即位-189
173		-1852	『三國史記』の『新羅本紀』によれば邪馬臺國の卑彌呼(卑弥呼)(まだ女王ではないが)が新羅に遣使を送り修好。
184		-1841	中國では**黄巾の乱**で漢王朝が疲弊。公孫度が高句麗王男武と戦う。
189		-1836	146頃から大乱中の倭國は、**九州の邪馬臺國諸王が奴國の卑彌呼を女王として共立し乱終熄**。南方の狗奴國は女王に従わず。
193		-1832	6月 半島の倭に大飢饉。食糧を求めて千人余の倭人が新羅へ向かう。
204		-1821	中國では後漢最後の王献帝の建安8年、遼東の公孫康が半島に帯方郡設置。
208		-1817	4月 半島の倭人が新羅國境を侵犯。
220		-1805	中國では後漢が滅び、曹操の男**曹丕が魏を建國**。黄河流域から長江北側まで。-265まで
221		-1804	中國では**劉備が蜀を建國**。魏、呉の西側。-263まで
222		-1803	中國では**孫権が呉を建國**。江南の広い地域。-280まで。これより**三國時代**。魏、蜀、呉が覇権争い。280まで。
232		-1793	4月 半島の倭人、新羅王都を包囲。王は自ら戦い撃退。追撃して千余の倭人の首を取る。
238		-1787	中國の景初2年8月23日、魏の明帝は将軍司馬懿(仲達)に4万の兵を預け帯方郡(現在のソウル近辺)の公孫淵とその男修を討つ。同時に別働隊が楽浪・帯方両郡を接収。
239		-1786	中國は景初3年　魏の明帝没。司馬懿が大傅(タイフ)となり新帝を補佐　　6月 邪馬臺國卑彌呼が難升米(ナズメ)等を魏の帯方郡を経て洛陽へ派遣。12月 洛陽に到着。魏の司馬懿から**詔書・「親魏倭王」の金印、銅鏡(内行花文八葉鏡)100枚等が卑彌呼へ下賜**される。 この頃、出雲西谷2号墓・3号墓、仲山寺9号墓等、大型四隅突出型墓が造営される。
240		-1785	中國は正治元年　帯方太守弓遵は建忠校尉梯儁等を邪馬臺國へ遣わし詔書・印綬を倭王(難升米)に拝仮。倭王は上表して答謝す。
243		-1782	中國は正治4年　卑彌呼、再び魏に遣使。魏は掖邪狗(ヤヤコ)等8人に率善中郎將の爵位を授け印綬を与える。
245		-1780	魏は邪馬臺國王難升米宛の詔書・黄幢を帯方郡へ送る。
247		-1778	帯方郡太守弓遵戦死。後任の太守王頎が塞曹掾史張政等を倭へ遣わし、魏の皇帝よりの詔書・黄幢を倭國王の難升米に拝仮。檄を以て告諭す。以て**卑彌呼没**。弟難升米に殺されたか。この年の3月24日は皆既日食。天照大神が岩戸に隠れた古事に比定。 卑彌呼の墓は福岡県糸島市(伊都國)の**平原遺跡1号墓**。宮殿は、その東3.7kmの**高祖山**に営まれたとされる(朝倉市とも)。 卑彌呼没で男王難升米が立つが再び倭國大乱。難升米を含む千人余戦死。卑彌呼の宗女とされる狗奴國の臺與を女王に立て乱終熄。 倭の新女王臺與が魏に朝貢。掖邪狗が使節団を率いて洛陽を訪問。男女生口(奴隷)30人、真珠5千個等を贈る。 [難升米 = 卑彌呼を補佐する男弟 = 一大率 = 伊都國王] [天照大神 = 卑彌呼 または 臺與]
249		-1776	中國では魏の司馬懿が叛いて全権を握る。
253		-1772	半島の倭王が新羅王子の冗談をまともに受取り王子を火刑に処す。新羅王子妃は倭の大臣を火刑にして報復。
260		-1765	～270年頃、**九州の邪馬臺國から饒速日命がヤマトへ東遷**。土地の豪族長髄彦の妹を妻とする。物部氏租。280へ
263		-1762	中國では**魏が蜀を滅ぼす**。
265		-1760	中國では**西晋の司馬炎が魏を滅ぼす**。
266		-1759	中國は泰始2年　11月、邪馬臺國の臺與が西晋に朝貢。
280		-1745	～290年頃、**狗奴國(邪馬臺國とも)から神武天皇がヤマトへ東遷**。五瀬(イツセ)と、その弟(後の)神武(狭野(サノ)(後に磐余彦(イワレヒコ))一行が、日向・球磨から船で宇沙(宇佐市)に上陸、岡田宮(八幡西区)で1年、阿岐國多祁理宮(広島県)で7年、吉備國高島宮(岡山県)で8年を過ごしたうえでヤマトへ向かうが長髄彦の抵抗で成らず。このときの傷で五瀬が没。(後の)神武は紀伊半島を迂回し、八咫烏の案内により熊野からヤマトへ向かうと饒速日命が長髄彦を殺して神武に恭順。**橿原で神武即位**。 西晋が呉(孫姓)を滅ぼし**中國統一**。280年代に三國志成立。晋の陳寿(蜀の下級官僚だったが蜀が滅びて魏に移る。魏も滅びて晋へ。)が編纂。
285		-1740	大陸・半島では扶余が燕(前燕)の武宣帝 慕容廆に攻められ滅亡の危機。286へ。これ以降、410までに扶余から列島へ渡来する者がいたらしい。
286		-1739	大陸は西晋の武帝太康7年。半島の馬韓等11國が武帝に貢献す。扶余は前年に続き燕(前燕)の武宣帝 慕容廆に攻められる。346へ
300		-1725	この頃、**ヤマト政権成る**。畿内・瀬戸内海沿岸の首長墓として前方後円墳が急速に普及。奈良に大型前方後円墳が集中。**古墳時代始期**
312		-1713	倭國王が新羅へ使臣を派遣して王子の嫁を求めた。対して新羅は重臣の娘を送る。約30年後にも再び嫁を求めるが今度は拒絶される。
313		-1712	半島では**高句麗が楽浪郡を滅ぼす**。
316		-1709	この頃(316-330)、城の山(ジョウノヤマ)古墳築造(新潟県胎内市大塚)。楕円墳(41m)。2012年の発掘により8m×約1.5mの舟形木棺、人骨、刀剣、靭(ユキ)、9cmの銅鏡、ヒスイの勾玉、ガラス玉等出土。畿内ヤマト政権の勢力圏内にあったことが判明。(産経新聞2012/9/7)
346		-1679	半島では**馬韓が滅び百済が興る**-660(滅亡) 扶余が燕(前燕)の文明帝 慕容皝に攻められる。285から3回目。この後、扶余は高句麗の属國となり命脈を保つが410に併呑される。
348		-1677	この頃、崇神天皇即位か。
350		-1675	この頃(350-360)、三輪山西麓の纒向に箸墓古墳(倭迹迹日百襲姫墓)築造(**卑彌呼の墓に非ず**)(奈良県桜井市)。
369		-1656	半島に**伽耶(任那(ミマナ))成立**-562
372		-1653	百済の肖古王が倭王に七支刀を贈り支援を求める。
374		-1651	この頃、景行天皇即位。景行天皇は御子オウスノミコトに南九州のクマソタケル兄弟を討たせる。オウスは、名を譲り受けてヤマトタケルに改名。出雲に転戦してイズモタケルを騙討ち。西征を終えヤマトに戻ると天皇は即刻東征を命じる。嘆きを聞いた伊勢に住む叔母のヤマトヒメノミコトはヤマトタケルに草那芸剣(草薙の剣)と御嚢を授ける。駿河國の豪族を討ち、相模國の走水で荒波に遭ったが后オトタチバナヒメの入水で波が治まり上総國(木更津か)へ渡って東征を終える。ヤマトへの帰路、尾張國でイヤズヒメと結婚。ここに草那芸剣を置いて伊服岐能山(伊吹山)の神を討ちに行ったところ凍死したと。
375		-1650	ヨーロッパでは**ゲルマン民族大移動**開始。
382		-1643	倭國が派遣した葛城襲津男が新羅と交戦。
383		-1642	この頃、成務天皇即位か。
391		-1634	倭が百済と新羅を破る(好太王(広開土王)碑)。
393		-1632	この頃、仲哀天皇即位か/神功皇后。
395		-1630	ローマ帝國が東西に分離。
402		-1623	倭國、広開土王の新羅と講和。
404		-1621	倭が半島の帯方郡で高句麗と戦い敗れる。
410		-1615	半島では346以降高句麗の属國となっていた扶余が高句麗に併呑される。285以降、これまでに扶余の王族・遺民が列島に渡来したらしい。物部氏祖とする説あり。**渡来第三波継続**
413		-1612	この頃、応神天皇即位か。
421		-1604	中國は文帝の永初2年
422		-1603	倭の五王の一、讃が宗に遣使、徐授あり。
425		-1600	中國は元嘉2年、倭王讃が司馬曹達を遣使とし再び朝貢。讃が死ぬと弟の珍が立ち遣使を以て朝貢し、使持節、都督倭・百済・新羅・任那・秦韓・慕韓六國諸軍事、安東代将軍、倭國王の除正を求めたが、安東将軍と倭國王が認められた。
429		-1596	この頃、仁徳天皇即位か。
430		-1595	倭王が中國に遣使
438		-1587	倭王珍(仁徳天皇か)が中國の宋に朝貢し安東将軍倭國王を徐正される。
439		-1586	中國では北魏が華北を統一し**南北朝時代**となる。

西暦	元号	年数	EVENT
443		-1582	中國では元嘉20年、倭王済(允恭天皇か)が朝貢し安東将軍倭國王を徐正される。
451		-1574	中國では元嘉28年、安東将軍・倭國王済が使持節と都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六國諸軍事を加除される。興が死ぬと弟の武が立ち、使持節と都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六國諸軍事、倭國王を自称。
455		-1570	この頃、履中天皇即位か。
457		-1568	この頃、反正天皇即位か。
458		-1567	この頃、允恭天皇即位か。
462		-1563	倭王済が没し子の興(安康天皇か)が立つ。中國では孝武帝の大明6年、興が朝貢し安東将軍倭國王を徐正される。
471	雄略 1	-1554	この頃、雄略天皇即位。　この年の銘のある鉄剣が埼玉県稲荷山古墳から出土。この鉄剣に「わかたけるの大王」と見える。雄略天皇に比定する説が有力。この頃、**大和朝廷が東北・北海道・琉球を除き列島をほぼ統一**。
476	雄略 6	-1549	**西ローマ帝國滅亡**
478	雄略 8	-1547	中國は順帝の昇明2年、倭王武(雄略天皇か)が遣使し使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六國諸軍事、安東大将軍、倭王を徐正される。
501	雄略 30	-1524	半島では武寧王即位-523
507	継体 1	-1518	継体天皇即位-531。応神天皇5世の孫として近江國に生まれるが父死して北陸越前國で育つ。前年に武烈天皇が継嗣を定めず没したことから大伴金村大連らが北陸へ赴き即位を要請したと。河内樟葉宮で即位するも大和に入るまで長期間を要す。
512	継体 6	-1513	新羅に対抗する百済の求めで大伴金村大連が「任那四鼎割譲」を実施。本件に絡み金村540に失脚。
522	継体 16	-1503	司馬達等(シバタット)が渡来し大和坂田原(明日香村付近)に堂を建て仏像を安置して祀る。(『扶桑略記』(平安時代成立))
527	継体 21	-1498	北九州一帯を支配する筑紫君磐井が新羅と通じて近江毛野を中心とするヤマト軍の新羅遠征を阻止。**磐井の乱**(福岡県八女市・みやま市)
528	継体 22	-1497	継体天皇により派遣された物部麁鹿火(モノノベノアラカイ)により**磐井の乱終熄**。磐井は斬殺されたとも豐前國上膳鼎(福岡県豊前市一帯)に逃亡したとも言われる。磐井の子、筑紫君葛子は糟屋屯倉(福岡県古賀市)を献上して死罪を免れ筑紫君存続。物部氏は筑紫國に移住し筑紫君を監視。
532	継体 26	-1493	金官加羅國王、新羅に降伏(『三國志記』)。
536	継体 30	-1489	5月 米を運ぶ際の朝廷3豪族の情報、①蘇我大臣稲目宿禰は尾張連を遣して尾張國の屯倉から、②物部大連麁鹿火は新家連(ニイノミノムラジ)を遣して新家屯倉から、③阿部臣は伊賀臣を遣して伊賀國の屯倉から…とあり(『日本書紀』)、使役する側される側の関係が分かる。
538	欽明 1	-1487	この頃、欽明天皇即位。　仏教公伝(『元興寺伽藍縁起』&『上宮聖徳法王帝説』)(『日本書紀』では552)。百済聖明王が支援を求めるため欽明天皇へ釈迦仏金銅像一躯・幡蓋若干・経論若干巻を贈る。
540	欽明 3	-1485	「任那四鼎割譲」(512)にあたり大伴金村が百済から賄賂を受け取ったと物部氏が訴え、金村失脚。
548	欽明 11	-1477	高句麗が百済へ侵攻。百済は新羅の援軍を得て高句麗を退ける。じつは、新羅の援軍派遣は自らの勢力拡大策だった。
552	欽明 15	-1473	10月 仏教公伝(『日本書紀』)。百済聖明王が支援を求めるため欽明天皇へ釈迦仏金銅像一躯・幡蓋若干・経論若干巻を贈呈。(『元興寺伽藍縁起』&『上宮聖徳法王帝説』では538) 仏教採否を巡り有力氏族間の対立が表面化。唯一の推進派蘇我稲目と、反対派物部尾興(モノノベノオコシ)&中臣鎌子ほかの対立。欽明は蘇我稲目に仏像を与え、稲目は小墾田(明日香村)の自宅に向原寺(後に拡張して豊浦寺、櫻井寺と呼ばれる)を建てて祀った。
553	欽明 16	-1472	疫病が蔓延。反仏教派の物部尾興・中臣鎌子等は仏教が原因であるとして向原寺を焼き討ちする。
554	欽明 17	-1471	炊屋姫(カシキヤヒメ)(額田部皇女)誕生-628 長じて33代推古天皇　父29代欽明天皇/母蘇我稲目女(馬子妹)堅塩姫 用明天皇妹
562	欽明 25	-1463	新羅により**伽耶(任那)滅亡**(一説には560)。これにて倭人は半島に於ける拠点失う。欽明、子の敏達、聖徳太子まで任那復興を狙う。
570	欽明 33	-1455	高句麗が倭國に遣使。
571	敏達 1	-1454	29代欽明天皇病死/30代敏達天皇即位。蘇我氏(稲目男馬子の代)と物部氏(尾興の男守屋の代)の対立激化。
574	敏達 4	-1451	厩戸皇子(聖徳太子)誕生。用明の男・敏達の甥。蘇我氏邸で生まれ養育されたらしい。
575	敏達 5	-1450	敏達の先妻が没/豊御食(トヨミケ)炊屋姫(後の推古天皇)が皇后。
577	敏達 7	-1448	大別王が敏達天皇の使者として百済を訪問。百済威徳王は僧侶2名、尼1名、呪禁師1名、工人2名を授ける。大別王は帰國後、浪速に大別王寺を建立。
581	敏達 11	-1444	中國では**隋が勃興**。
583	敏達 13	-1442	大和朝廷は百済の日羅(九州の豪族刑部氏出身で百済威徳王に出仕)を日本に招請した。威徳は激怒するも日本に脅されて承諾。日羅は来日したが同行してきた徳爾に殺された。
584	敏達 14	-1441	蘇我馬子のために鹿深臣が百済から弥勒菩薩石像を持ち帰る。佐伯連も百済から仏像一体を持ち帰る。(『日本書紀』)
585	用明 1	-1440	2月 蘇我大臣馬子宿禰が大野丘に塔を建てる。直後に物部守屋に焼かれるが馬子はこの塔の位置を基準に仏教寺院建立を推進。 8月15日、30代敏達天皇没/31代用明天皇即位(厩戸父)、厩戸12歳。　疱瘡(天然痘)が蔓延
586	用明 2	-1439	元旦、穴穂部間人王女(厩戸母)が正式に用明天皇大后となる。
587	用明 3	-1438	4月2日 用明天皇発病、疱瘡らしい。　この頃、次期天皇候補の穴穂部王子が額田部王女を襲う。 4月9日 31代用明天皇没 7月 蘇我氏と物部氏が天皇後継者争い(仏教推進派、蘇我氏と排斥派、物部氏の宗教戦争)。厩戸皇子13(14?)歳で参戦。蘇我氏苦戦するも厩戸の呪術により大連物部守屋没落。蘇我馬子の指示により32代崇峻天皇即位-592、後年、崇峻と馬子が不仲となる。(物部氏系文書『先代旧事本紀』には宗教戦争の記事はなく、守屋は傍流であり物部氏の女人が蘇我馬子との間に入鹿を生んだ。)
588	崇峻 1	-1437	百済が大和朝廷に仏舎利を献じる。
589	崇峻 2	-1436	**隋が中國統一**
592	崇峻 5	-1433	4月 厩戸皇子立太子(聖徳太子)(立太子はもっと後であり、推古の実子竹田皇子が推古朝初期に没した後らしい。) 11月 蘇我馬子の刺客東漢直駒(ヤマトノアヤノアタイコマ)が崇峻天皇を暗殺。12月8日、33代推古天皇39歳、飛鳥豊浦宮に即位-628(日本1人目の女帝、半島では632、中國では690が最初)。これより**飛鳥時代**(広義で)-710まで。645以降は文化史では白鳳時代と称す。 飛鳥: 奈良県橿原市南半部・桜井市南郊・高市郡明日香村・高市郡高取町、豊浦宮(トユラノミヤ)は高市郡明日香村豊浦(トヨウラ)に比定。
593	推古 1	-1432	4月10日 厩戸皇子、推古天皇の摂政となる-622まで(実権は大臣である蘇我馬子)。厩戸皇子、この年難波四天王寺建立。
596	推古 4	-1429	飛鳥寺(法興寺)完成
597	推古 5	-1428	4月 百済王子 阿佐太子来日。『御物唐本御影』(キョブツトウホンミエイ)作者の伝承あり。法隆寺東院にあり1978に皇室に献納。
600	推古 8	-1425	中國は開皇20年、倭王(姓: 阿毎、字: 多利思比孤、号: 阿輩雞彌)が遣使。
601	推古 9	-1424	2月 厩戸皇子、斑鳩宮造営開始(磐余(奈良県櫻井市)(飛鳥の北東に隣接)の上宮から北西へ15Km)。転居は605年。
603	推古 11	-1422	12月 冠位十二階制定(馬子は別格として官位除外)。厩戸皇子と蘇我馬子の共同作業か。 推古は豊浦宮から小墾田宮へ遷宮。　広隆寺創建。
604	推古 12	-1421	1月1日 冠位十二階発効、、4月、厩戸皇子、十七条憲法「和(ヤワラギ)を以て尊しと為す」(これは厩戸自身の起草らしい)
605	推古 13	-1420	10月 厩戸皇子、斑鳩宮に遷宮。中心地の飛鳥からは距離があるが東西との主要道が抑えられる要衝の地。
606	推古 14	-1419	この年(または609)、蘇我馬子、飛鳥(明日香村)に蘇我氏の氏寺として元興寺(法興寺)創建。唯一現存する小堂安居(アンゴ)院に日本最古の仏像 釈迦如来座像(金銅製)あり。元興寺は「ガンゴウジ」「ガンゴジ」「ガゴウジ」「ガゴジ」「ガゴゼ」として鬼の意。
607	推古 15	-1418	7月 第一次遣隋使、小野妹子。國書(王は多利思比孤)に「日出ずる國の天子、書を日没するところの天子に致す、恙なきや」。厩戸皇子が多利思比孤であれば、厩戸が倭國王ということになる。隋の帝は悦ばず「無礼である」と。 厩戸皇子、斑鳩宮西隣に斑鳩寺(法隆寺若草伽藍)建立。これは670に焼失(したまま)。現存の法隆寺西院伽藍、東院伽藍は後世に建立。 643, 669, 670参照。一説に、ここには厩戸のほか蘇我入鹿、長屋王、天武天皇(全て蘇我系)も密かに祀られていると。
608	推古 16	-1417	隋は小野妹子の帰國時に使節として裴世清を倭に同道させ國交樹立。「多利思比孤」が男名であることと、中國側の記録「隋書」に「女帝」が見えないことから裴世清が面会した倭王は推古ではなく厩戸であると言われる。
610	推古 18	-1415	アラビア半島のマッカ(メッカ)で預言者ムハンマド(マホメット)により**イスラム教**が興る。ユダヤ教が基礎となっているため、イスラム教に於ける唯一神であるアッラーは、ユダヤ教・キリスト教と同じヤハウェ(Yahweh)。5大預言者は、ノアの方舟のノア、ノアの子孫アブラハム、ユダヤ教のモーセ、キリスト教のイエス、イスラム教のムハンマド。三つの一神教のうちキリスト教とイスラム教は世界宗教へ発展するが、ユダヤ教はユダヤ人自身によって民俗宗教に留められている。現代中國ではイスラム教徒がウイグル自治区に集中し、この地域では宗教を抑圧しようとする共産党政府と衝突が頻発している。共産主義自体が一種の一神教であることが一因であると言われる。

西暦	元号	年数	EVENT
621	推古 29	-1404	12月 厩戸皇子の母(穴穂部間人大后)没、『上宮聖徳法王定説』(ｼﾞｮｳｸﾞｳｼｮｳﾄｸﾎｳｵｳﾃｲｾﾂ)によれば「鬼前大后」すなわち鬼と。
622	推古 30	-1403	2月21日 膳部菩岐々美郎女(ｶｼﾜﾍﾞﾉﾎｷｷﾐﾉｲﾗﾂﾒ)没。厩戸皇子の4人の妻の1人。厩戸と心中説も。または伝染性熱病か。 2月22日 厩戸皇子没49歳(暗殺説も)(聖徳太子の呼称は751『懐風藻』に初見)。蘇我馬子が政治的台頭を狙う。 叡福寺(上の太子)に厩戸(聖徳太子)、野中寺(中の太子)に中宮天皇(天武天皇か)、大聖勝軍寺(ﾀﾞｲｼｮｳｼｮｳｸﾞﾝｼﾞ)(下の太子)に長屋王が、それぞれ祀られている。
623	推古 31	-1402	3月 法隆寺金堂釈迦三尊像成る。　半島では新羅が任那を破る。倭は征新羅軍を派遣。
626	推古 34	-1399	葛城(中大兄)皇子誕生(長じて38代天智天皇)。父舒明/母皇極(後 重祚し斉明)天皇。　蘇我馬子没/男蝦夷相続
628	推古 36	-1397	3月7日 33代推古天皇没73歳554-、在位36年間。　9月 遺詔の解釈(推古が田村皇子と山背大兄王(厩戸皇子の長子(子ではないという伝承も))のどちらを後継に指名したか明確でなかった)をめぐり蘇我本宋家と山背大江王が対立。田村皇子を推す(田村皇子と蘇我系女人の間に生まれた古人大江皇子を天皇に就けるのが目的)蘇我蝦夷は山背大江王を推す叔父堺部摩理勢を殺害。
629	舒明 1	-1396	蘇我蝦夷に推された田村皇子即位して34代舒明天皇-641まで。寶皇女(ﾀｶﾗﾉﾋﾒﾐｺ)が皇后(舒明没後に皇極が重祚して斉明天皇)。 **唐が中國統一。**
630	舒明 2	-1395	5月 第一次遣唐使、犬上御田鍬(ｲﾇｶﾞﾐﾉﾐﾀｽｷ)。この年から838まで15回。
631	舒明 3	-1394	百済王義慈の王子、豊璋が人質として来日。
632	舒明 4	-1393	新羅では半島最初の女帝、善徳女王。
641	舒明 13	-1384	10月 34代舒明天皇没49歳593-。皇太子なく中大江皇子、古人大江皇子、山背大江王ら後継候補が並び立ち再び後継争い。 11月 隋に倭国の使者が到着。太宗は高表仁を使者として倭国へ派遣するが、高表仁の外交能力欠如により国交断絶。
642	皇極 1	-1383	蘇我蝦夷が葛城高宮に祖廟を造営し八侑の舞を強行。蝦夷の主導で舒明の皇后が嗣ぎ35代皇極天皇(二人目の女帝)(655に重祚し37代斉明天皇)。一方、蝦夷の男、入鹿は古人大江王を支持。山背大江王の排斥を計画。
643	皇極 2	-1382	『日本書紀』によれば、11月、蘇我蝦夷は病気と称し皇極の意向を無視して男入鹿に大臣の職を譲る。その翌日、古人大江皇子を推す入鹿は巨勢徳陀古臣と土師娑婆連ら(軽皇子(乙巳の変後に孝徳天皇)を含む)を斑鳩に差し向け、山背大兄王を急襲。山背大兄は斑鳩宮(法隆寺東隣)寝殿に馬の骨を投げ置き生駒山に逃げる。入鹿勢斑鳩宮を焼き落とすと骨を発見。囲みを解く。だが山背大兄は武装蜂起の進言を入れず斑鳩宮へ戻り妻子、一族と共に自殺。上宮王家滅亡。聖徳太子の血脈絶える。8世紀に建立され現存する法隆寺東院伽藍は、聖徳太子が造営し太子自身と長子(一説に山背大江王は大使の子ではないと)である山背大江王の住居だった斑鳩宮跡地に建つ。 670へ
644	皇極 3	-1381	『日本書紀』によれば、蘇我氏の専横に危機感を抱いた中臣鎌子(鎌足)は、先ず軽皇子(中大江叔父)(後の孝徳天皇)に近付くがその優柔不断ぶりに彼を見限り舒明/皇極の実子中大江皇子に接近して蘇我入鹿を除くべく画策。蘇我氏支流の有力者蘇我倉山田石川麻呂(ｿｶﾞﾉｸﾗﾔﾏﾀﾞｲｼｶﾜﾏﾛ)(蘇我馬子の孫)を味方に引き入れ補強のため石川麻呂の女遠智娘を中大江の妃とす。
645	大化 1	-1380	6月12日 **乙巳(ｲｯｼ)の変、中大兄皇子・中臣鎌足ら飛鳥板葺宮大極殿で蘇我入鹿を暗殺。** 6月13日 甘樫丘の自邸で不利を悟った入鹿の父蝦夷は自宅に放火して自殺。蘇我本宋家滅亡するも本宋家以外の蘇我氏は健在。 6月14日 中大江らから計画を知らされていなかった皇極天皇退位。皇位継承順位第一の古人大江皇子(舒明天皇/蘇我馬子女の男)は危機を察し即位を辞退。出家して吉野へ。中大江も即位を辞退(中臣鎌足が「政治を動かすなら皇太子がよい」と進言したらしい)。皇極は弟の軽皇子に譲位し36代孝徳天皇として即位させる。中大江皇太子、蘇我倉山田石川麻呂は右大臣。中臣鎌足は内臣(ｳﾁﾂｵﾐ)。 9月 吉野の古人大江皇子に中大江が謀反の嫌疑をかけて兵を送り殺害。 12月　孝徳天皇、**難波宮遷都。**　この年-710、**文化史では白鳳時代と称す。**
646	大化 2	-1379	1月1日 **大化改新詔** (1)私有地・私有民廃止 (2)國・郡・里制により地方行政を朝廷に集中 (3)戸籍作成・耕地調査により班田収受法実施 (4)調・庸による税制統一。以上により古代東アジア的な中央集権國家の発足。(広辞苑) この年以降、多珂・久慈・那賀・茨城・筑波・新治6國を常陸國とし、国衙を石岡に置く。
647	大化 3	-1378	七色十三階の官位制定。　淳足柵(ﾇﾀﾘﾉｻｸ)設置。
648	大化 4	-1377	(後の)弘文天皇誕生-672(在位671-672) 天智天皇男。　磐舟柵(ｲﾜﾌﾈﾉｻｸ)設置。
649	大化 5	-1376	3月 中大江が蘇我倉山田石川麻呂に謀反の嫌疑をかけ山田寺で自殺させ死体を損壊。石川麻呂一族滅亡。
650	白雉 1	-1375	2月15日改元
653	白雉 4	-1372	常陸國に信太評(ｺｵﾘ)建置(701に信太郡)。地方統治の一環。　5月 孝徳が信頼する隋からの留学生 旻(ﾐﾝ)法師が病に伏す。 中大江が孝徳天皇に飛鳥還都を要求。孝徳は拒否するも中大江は皇后 間人皇女(中大江の妹)を含め要人を強引に飛鳥へ戻す。
654	白雉 5	-1371	10月 36代孝徳天皇没(憤死か)。中大江、**難波宮から飛鳥へ還都**。聖徳太子と蘇我氏が進めた國政改革事業頓挫。 12月 隋へ倭の遣使が朝貢。大きな琥珀と瑪瑙を献上。遣使曰く「倭は新羅と友好関係にあり。新羅が高句麗、百済と戦うときは援軍を送る」と。
655	斉明 1	-1370	1月 元皇極天皇、重祚し37代斉明天皇-661
656	斉明 2	-1369	斉明天皇が多数の土木工事を行ない民が批判。
658	斉明 4	-1367	11月 蘇我赤江臣に謀られ有間皇子(孝徳男)挙兵。赤江は物部朴井連鮪に有間皇子を捕らえさせ斉明天皇へ送る。中大江尋問し処刑。
659	斉明 5	-1366	中臣(藤原)不比等誕生。鎌足男-720まで。藤原氏興隆に貢献。父と同じく権謀術数の人物。
660	斉明 6	-1365	7月 半島では唐・新羅連合軍に百済義慈王降伏し**百済(一旦)滅亡**。　9月 百済遺臣 大和朝廷へ救援要請。大和朝廷へ人質として送っていた義慈の王子豊璋を立て百済王朝再興を図る。　12月 斉明天皇 百済へ援軍派遣を決定し難波宮へ移る。中臣鎌足の意向を汲んだ中大江の指示だろう。
661	斉明 7	-1364	1月 斉明一行 百済救援のため難波宮から北九州へ進発。中大兄、中臣鎌足も随行。　5月 朝倉宮(福岡県朝倉郡朝倉町山田)に逗留したところ鬼火(人魂)出現で大舎人ほか病んで死す。　7月 斉明天皇 朝倉宮陣中で急死68歳。5月の事件と共に「入鹿に祟られた」と。
662	天智 1	-1363	1月 朝廷第一軍5千が半島へ渡海　5月 朝廷軍が豊璋擁立し**百済王朝再興成る。**
663	天智 2	-1362	8月27-28日 大和朝廷軍2万7千 白村江(ﾊｸｿﾝｺｳ)で唐・新羅連合軍に大敗。豊璋は高句麗へ遁走。完全に**百済滅亡**。
664	天智 3	-1361	5月 唐の遣使来る。　朝廷(中大江)は唐・新羅の報復を恐れて対馬・壱岐・筑紫に防人、太宰府前方に水城。
667	天智 6	-1358	3月19日 中大江、**近江大津京遷都**。遷都は唐・新羅からの報復対策
668	天智 7	-1357	1月 中大兄皇子即位して38代天智天皇-671まで。天智、近江令制定。日本初の律令(整備された形ではなかったらしい)。 新羅は高句麗も滅ぼし半島統一。**高句麗滅亡**で新羅が唐と國境を接したため領國は敵対。故に新羅も唐も日本攻撃の余裕なし。新羅は逆に大和朝廷へ朝貢。　滅亡した百済・高句麗からの亡命者多数(716参照)　**渡来第三波ほぼ終期(その後も継続との説あり)**
669	天智 8	-1356	天智天皇、危篤の中臣鎌足を見舞い大織冠・大臣位を授け藤原賜姓(藤原氏祖)　10月 藤原鎌足没56歳。　この冬、法隆寺火災。
670	天智 9	-1355	2月 戸籍(庚午年籍(ｺｳｺﾞﾈﾝｼﾞｬｸ))が作られる。　4月 法隆寺全焼。　**國号『日本』は、この年から700までの間に確定。**
671	天智 10	-1354	6月 近江令施行　天智は弟(異父兄か)の大海人皇太子でなく男の大友皇子を後継にしたくなる。危機を察知した大海人皇子は出家し吉野に遁世。　12月3日 天智天皇没58歳。天智の希望どおり大友皇子即位。39代弘文天皇-672まで。　常陸國の戸籍完成
672	弘文 1 天武 1	-1353	弘文元年6月22日 朝廷の不穏な動きを察知して大海人皇子挙兵　**壬申の乱**　吉野→伊賀→伊勢を経て不破に着陣。この間に兵を募り大津京へ進撃。蘇我氏系尾張氏が貢献。　7月22日 瀬田川の決戦。近江朝内にいた蘇我氏の寝返りもあって天皇方破れ近江朝陥落。　7月23日 弘文天皇自殺し壬申の乱終熄。　9月改元　天武元年9月12日 大津京から**飛鳥古京へ還都**　大海人皇子、浄御原宮を造営。
673	天武 2	-1352	2月 大海人皇子、飛鳥浄御原宮に即位して40代天武天皇-686まで。天武は男の舎人皇子を総裁として『日本書紀』の編纂を命ずる。現実は天智女持統と藤原不比等(藤原鎌足男)が編纂を主導。720に完。　7月 不破関設置
681	天武 10	-1344	2月 草壁皇子立太子。　3月『帝紀』『旧辞』成る。　この年 天武天王、飛鳥浄御原令編纂を命ず。
682	天武 11	-1343	5月3日 藤原京地鎮祭
683	天武 12	-1342	天武朝、銀銭を禁じ銅銭を使う
684	天武 13	-1341	八色の姓(ﾔｸｻﾉｶﾊﾞﾈ)を制定。　3月 飛鳥から藤原への遷都計画完了。天武天皇による。実施は持統天皇により10年後。 10月14日(684年11月29日)南海トラフを震源とする大地震。土佐では地震性地殻変動で12km^{2}の田畑が海中に没し、津波来襲。
686	天武 15	-1339	7月20日改元　9月 天武天皇没65歳。　10月 天武第3子、大津皇子自殺24歳。鸕野皇后(690に持統天皇)が、我が男草壁皇子の皇位継承に甥の大津が危険な存在と見て大津に謀反の嫌疑をかけ捕らえて自殺させたもの。　園城寺(三井寺)創建。
687	持統 1	-1338	3月15日 高句麗人56人を常陸國に居住させる。
689	持統 3	-1336	天武が681に編纂に着手した浄御原令は遺志を継いだ鸕野皇后(持統)が完成させ、この年6月施行。**浄御原令に於て國号が『日本』と定まった**とする説が有力。　この年 皇太子草壁皇子病没

西暦	元号	年数	EVENT
690	持統 4	-1335	鸕野皇后即位して41代持統天皇。夫天武の死後、一人息子の草壁を即位させるつもりだったが先年草壁が没してしまったので、孫の軽皇子が成長するまでの中継ぎとして自身が即位したもの。周囲の説得のため高市皇子を太政大臣(すなわち即位不可)。 高市皇子、藤原宮候補地を視察。　中國では一人目の女帝、則天武后。
692	持統 6	-1333	5月3日 藤原京地鎮祭
694	持統 8	-1331	12月6日 持統天皇、**藤原京遷都**。西に畝傍山、北に耳成山、東に天香久山の大和三山に囲まれた地。以後約16年間。
696	持統 10	-1329	高市皇子没。柿本人麻呂が挽歌を作る。
697	文武 1	-1328	持統 草壁皇子の遺児軽皇子15歳に譲位/42代文武天皇即位。持統自身は太上天皇(上皇)として後見役。
698	文武 2	-1327	薬師寺完成　高松塚古墳築造　中國に**渤海興る**。
699	文武 3	-1326	5月 役君小角(エンノキミオヅヌ)(役行者)(葛城山で修行。修験道の祖だが実在か否か不明)、謀反の疑いにより伊豆に流罪。
700	文武 4	-1325	文武の後見、持統は飛鳥浄御原律令を整備改訂し702の大寶律令にて完成。忍壁皇子・藤原不比等らが**『大寶律令』**撰定。
701	大寶 1	-1324	3月21日改元　8月3日 藤原不比等らにより大寶律令制定。　聖武天皇誕生。 常陸國信太評が信太郡となる。武藏國には橘樹郡、都筑郡、久良(後に久良岐(クラキ))郡ほか。
702	大寶 2	-1323	2月 **大寶律令施行**。　12月22日 持統上皇没58歳(皇室での火葬はこのときに始まる)。 遣唐使粟田真人が武周の武則天(則天武后)(中國唯一の女帝、唐から武周と改める)に『日本』の使者である旨述べる。
704	慶雲 1	-1321	5月10日改元　702に出発した遣唐使、粟田真人ら帰國。
707	慶雲 4	-1318	文武、諸王・諸臣の五位以上に遷都を議論させる。　6月 文武天皇没25歳/43代元明天皇即位-715。
708	和銅 1	-1317	武藏國から自然銅献上され1月11日、和銅に改元。　元明天皇、和同開珎(銀銭と銅銭)初鋳。於藤原京。　出羽柵設置
709	和銅 2	-1316	白壁王誕生。父天智天皇男施基皇子/母紀諸人女橡姫。桓武父となる。
710	和銅 3	-1315	3月 元明天皇、**平城京遷都**　藤原不比等(鎌足男)が遷都を推進(蘇我氏の飛鳥を捨てるためと)。これより**奈良時代**-784(または-794)。 不比等のとき藤原氏は北家・南家・式家・京家に分かれ、後、房前の北家のみが天皇一族との婚姻関係により栄える。 遷都に伴い朝廷は寺へも平城京への移転を求めたが、明日香村の元興寺(飛鳥寺(現 法興寺))一寺のみが従わず。745へ 平城宮に興福寺。不比等が飛鳥の厩坂寺を移築したもので、藤原氏の氏寺として一族の繁栄と共に寺勢を拡大。
711	和銅 4	-1314	藤原宮、大官大寺など焼亡。
712	和銅 5	-1313	1月**『古事記』**成る。天武天皇が稗田阿礼に帝紀・旧辞を精選・暗記させ元明天皇が太安万侶に阿礼の語りを筆録させる。
713	和銅 6	-1312	**『常陸國風土記』**成る。大和朝廷が諸國に命じ、地名の由来、産物、地形、伝説などを報告させたものの一。
715	霊亀 1	-1310	郷里制採用　43代元明天皇譲位し44代元正天皇即位-724まで。　9月2日改元
716	霊亀 2	-1309	5月16日 668年の百済・高句麗滅亡のおりに日本へ亡命し、駿河・常陸・甲斐など7國にいた渡来氏族799人を武藏國へ移住させ高麗郡を作る。埼玉県日高市・飯能市。日高市に高麗神社(『社神麗句高』と)。祭神は高句麗王若光(ジャッコウ)。子孫が宮司で現在59代。 信濃國高井郡には高井氏あり。高井氏は高句麗始祖王朱蒙(58 BC-19 BC)の後裔と。
717	養老 1	-1308	11月17日改元
718	養老 2	-1307	養老律令選上　薬師寺、藤原京から平城京へ移転。藤原京での創建は、天武が皇后(後の持統)の病気平癒を願ったもの。平城京への移転は伽藍・仏像をそのまま移したという説と、名籍のみを移して伽藍・仏像は新規に造立したという、二説あり。
720	養老 4	-1305	5月**『日本書紀』**(全30巻)成る。帝紀・旧辞を原本とし古事記や中國・朝鮮の正史を取入れた日本の正史。　8月 藤原不比等没62歳659- 『日本書紀』は天武の命で天武男、舎人皇子を総裁として編纂。藤原不比等が編纂事業を管理。 天皇名の韓風諡号は、日本書紀編纂40年後に淡海三船が考案したもの。　大隅國で隼人の反乱。陸奥國では蝦夷の反乱。
721	養老 5	-1304	737まで藤原氏が朝廷を独占。不比等の男四兄弟が遺産を継承。不比等の女、宮子と文武天皇の子が聖武天皇。不比等の女、光明子が聖武の正妃。
723	養老 7	-1302	三世一身法制定
724	神亀 1	-1301	元正天皇譲位/45代聖武天皇(藤原の子なるも天武系天皇として藤原氏に敵意)即位-749　陸奥に多賀柵(多賀城)設置。　2月4日改元
726	神亀 3	-1299	興福寺東金堂建立
727	神亀 4	-1298	聖武天皇に皇太子誕生。高句麗と靺鞨によって共立された渤海の使節が平城京に来朝。大武芸王の國書を聖武天皇に奉呈。國書では「日本と渤海は共に扶余を祖とする兄弟國である。」と述べている。
728	神亀 5	-1297	聖武の皇太子没。これにより天武孫の長屋王が皇位継承者に浮上したため藤原四兄弟(不比等男 武智麻呂・房前・宇合・麻呂)他が動く。 藤原不比等女、光明子立后。
729	天平 1	-1296	神亀6年2月 **長屋王の変**。藤原四兄弟から「左道(不正な道)を学んだ」と「誣告」され妻子と共に自殺54歳(46歳か)。　8月5日改元
730	天平 2	-1295	薬師寺東塔建立　興福寺東塔建立
733	天平 5	-1292	遣唐使が、これまで日本に不在だった戒師として鑑真に来日を要請/承諾。長屋王が贈った約千枚の袈裟に感動したか。来朝は754
734	天平 6	-1291	1月 井真成(イノマナリ)、唐の地で没36歳。遣唐留学生。2004年10月に中國西安市の西北大学が発表。西北市北の工場建設現場で発見され西北大学博物館が収蔵した墓誌に、玄宗皇帝が井真成の死を悼み「尚衣奉御(ショウイホウゴ)」の職を贈った旨の記述あり。
737	天平 9	-1288	**山部王誕生-806。長じて桓武天皇。在位781-806。(天智の孫。白壁王(光仁天皇)と高野新笠の男。高野新笠の父は和史乙継(ヤマトノフヒトオトツグ)、母は百済系渡来人土師(ハシ)氏。和史氏の先祖が百済武寧王の皇子純太太子であると言われる。)** 4月17日 藤原房前没 以降9月までに**藤原四兄弟天然痘により相次いで死す**。この後、藤原氏の傀儡であった聖武天皇は藤原に反抗する態度に転じ物部・蘇我氏を味方に付ける。
738	天平 10	-1287	3月28日 朝廷から法隆寺への食封(ジキフ)再会。4兄弟の急死を長屋王の祟りと解した藤原氏の発意による。
739	天平 11	-1286	朝廷により法隆寺に夢殿建立。藤原氏の発意による。
740	天平 12	-1285	9月3日 太宰少弐**藤原広嗣の乱**。大野東人により太宰府で討たれる。　**恭仁(クニ)京遷都**。
741	天平 13	-1284	3月24日 聖武天皇 國分寺・國分尼寺建立の詔を発す。
743	天平 15	-1282	聖武天皇、盧舎那大仏建立の勅願を発令。安置する寺として東大寺(藤原の興福寺に対抗する寺)の造営開始。　墾田永年私財法制定
744	天平 16	-1281	2月 聖武天皇 **難波京遷都**。藤原氏への対抗措置か。
745	天平 17	-1280	5月 聖武天皇 **平城京還都**。平城京への移転命令に従わぬ飛鳥元興寺(飛鳥寺(現 法興寺))に対抗し朝廷が奈良に(新)元興寺を建立。
747	天平 19	-1278	9月29日 聖武天皇 東大寺盧舎那大仏鋳造開始。　光明皇后が聖武天皇の眼病平癒のため行基に新薬師寺を建立させる。
749	→ 1	-1276	陸奥國で日本初の産金。於宮城県涌谷町。2月22日 聖武天皇へ、その金を献上。　4月14日天平から天平感寶に改元。　7月2日 聖武天皇譲位し46代孝謙天皇-758/天平勝寶に改元。　天平勝寶元年7月 東大寺大仏鋳造成る。
751	→ 3	-1274	天平勝寶 『懐風藻』成立
752	→ 4	-1273	天平勝寶 4月9日 **東大寺盧舎那大仏開眼供養**。陸奥國産の金でメッキを施す。東大寺の伽藍は、この後40年近くをかけて整備。
754	→ 6	-1271	天平勝寶 唐から渡海に挑戦すること6度目で成功し、**鑑真来朝**。律宗伝来。5度目の渡海挑戦のとき両眼失明。
756	→ 8	-1269	天平勝寶 聖武上皇没56歳。遺品を東大寺に施入し正倉院建立。
757	→ 1	-1268	天平勝寶 9年5月 養老律令施行。　橘奈良麻呂の乱。　8月18日 天平寶字に改元
758	→ 2	-1267	天平寶字 8月 孝謙天皇譲位し47代淳仁天皇(藤原氏の傀儡)-764まで。
759	→ 3	-1266	天平寶字 8月 唐招提寺(唐律招堤)建立。唐の僧 鑑真和上が天武天皇第7皇子、新田部親王の旧宅を賜わり『唐律招堤』と称す。平安時代初期に全伽藍が完成。『唐招提寺』はそれ以降の呼称。
764	→ 8	-1261	天平寶字 9月 恵美押勝(藤原仲麻呂が自分の傀儡である淳仁天皇から賜わった名前)が孝謙上皇に「道鏡は大臣だった先祖の栄光を取り戻そうとしている」と訴え、上皇と天皇御璽の取合いとなり**恵美押勝の乱**。他の藤原氏を敵に回した押勝59歳は近江で斬殺される。 10月 孝謙上皇が淳仁天皇を廃帝させ淡路配流 孝謙上皇が重祚し48代称徳天皇-770まで。
765	→ 1	-1260	1月7日 天平神護に改元　称徳天皇の勅願により常騰を開基として平城京に西大寺創建。
766	→ 2	-1259	天平神護
767	→ 1	-1258	8月16日 神護景雲に改元
768	→ 2	-1257	神護景雲　春日大社造営 710の平城京遷都の際に不比等が藤原氏の氏神を祀ったのが起こり。藤原氏繁栄と共に社殿を造営。 武藏國「久良(くら)郡」の地名が歴史に初出。金沢区を含む横浜市南部の地域。
769	→ 3	-1256	神護景雲
770	寶亀 1	-1255	神護景雲8月4日 称徳天皇没/白壁王即位して49代光仁天皇(62歳)-781まで。光仁は銅鏡を下野薬師寺に追放。　10月1日 寶亀に改元

西暦	元号	年数	EVENT
772	寶龜 3	-1253	4月 銅鏡(弓削宿称(ﾕｹﾞﾉｽｸﾈ)没。孝謙上皇(三人目の女帝)(重祚して称徳天皇)に取入った怪僧(物部弓削連守屋の後裔らしい)。 藤原百川の策謀により井上内親王(光仁の皇后)が夫の光仁に「巫蠱(ﾌｺ)(呪うこと)を行なった」として皇后廃位。その子、他戸親王も「厭魅大逆(ｴﾝﾐﾀｲｷﾞｬｸ)(妖術で君主を呪うこと)に加わった」として廃太子。
773	寶龜 4	-1252	1月2日 山部親王、皇太子。　藤原百川の策謀により井上内親王と、その子他戸親王が捕らえられ大和國宇智郡に幽閉。
775	寶龜 6	-1250	大和國宇智郡に幽閉中の井上内親王と、その子他戸親王が同日に没。ということは、藤原百川による暗殺だろう。　この年、太陽にスーパーフレア発生。樹齢1900年の屋久杉に痕跡。紀元前にも3回発生した可能性。次回は994。
776	寶龜 7	-1249	7月14日 常陸國を含む4カ國に船50隻を作らせ陸奥國へ送る。　11月26日 陸奥國の軍をもって胆澤の賊を討つ。
779	寶龜 10	-1246	7月 藤原百川没48歳『水鏡』によれば「百川に殺された井上内親王が祟って出た」と。
780	寶龜 11	-1245	771からこの頃までに『万葉集』成立。
781	天應 1	-1244	1月1日改元　4月 光仁天皇譲位し**山部王即位して50代桓武天皇-806まで。**　12月23日 光仁天皇没73歳
782	延暦 1	-1243	8月19日改元
784	延暦 3	-1241	6月10日 桓武天皇、長岡京着工(山背(城)國長岡(京都府向日市など))。　11月11日 **長岡京遷都** **狭義では710から本年までを奈良時代。広義では、さらに794までを奈良時代に含む。**
785	延暦 4	-1240	8月28日 大伴家持没　9月24日 長岡造京責任者藤原種継暗殺。9月28日 桓武は実弟早良親王を暗殺犯一味として廃太子・淡路配流(途次抗議の断食で没)、安殿皇子を立太子。その結果、変事が続いて早良の祟りとされ、僅か10年で長岡京から逃げ出すことになる。
786	延暦 5	-1239	**葛原親王誕生-853(桓武第5皇子) 長じて葛原親王系桓武平氏祖となる。**
788	延暦 7	-1237	最澄、比叡山に一乗止観院(後の延暦寺)建立。
792	延暦 11	-1233	6月 朝廷は陸奥、出羽、佐渡、太宰府を除き軍団を廃止し健児(ｺﾝﾃﾞｲ)を配置。
794	延暦 13	-1231	10月22日 桓武天皇、**平安京遷都**。10月28日 遷都の詔。11月8日 山背を山城と改め新京を平安京と命名。これを以て**平安時代始期**-1185まで391年間
797	延暦 16	-1228	2月『続日本紀』成る。697-791の記録をまとめた平安初期の史書。藤原継縄(ﾂｸﾞﾀﾀﾞ)、菅野眞道らにより794に編纂を開始しこの年完成。 勘解由使設置。　坂上田村麻呂征夷大将軍。
798	延暦 17	-1227	7月2日 坂上田村麻呂、清水寺創建。　渤海に遣使。
799	延暦 18	-1226	遣新羅使廃止
800	延暦 19	-1225	3月 **富士山延暦の噴火** 足柄峠不通 801へ
801	延暦 20	-1224	2月 坂上田村麻呂、蝦夷征討に発向。　前年の富士山噴火で不通になった足柄峠路が復旧
802	延暦 21	-1223	1月 朝廷 坂上田村麻呂に陸奥胆澤(ｲｻﾞﾜ)城を築かせ鎮守府を移転。 富士山噴火で不通になった足柄峠に代える予定だった箱根峠も開通。
803	延暦 22	-1222	坂上田村麻呂、志波城を築く。
804	延暦 23	-1221	高棟王誕生-867(葛原親王長男)(桓武孫)825に平朝臣として臣籍に降るが大納言まで昇り子孫は中級貴族となる。　最澄、空海等渡唐。
805	延暦 24	-1220	桓武政権、財政疲弊。藤原緒継諫言により造作(平安京造営)と軍事(蝦夷征伐)を中止。　7月 最澄、唐から帰朝し天台宗を開く。
806	大同 1	-1219	**桓武天皇没**70歳737-/51代平城天皇-809　5月18日改元　8月 空海 唐から帰朝し真言宗を開く。
809	大同 4	-1216	平城天皇、病気で弟に譲位し52代嵯峨天皇-823まで。多数の皇子は臣籍降下し814に嵯峨源氏となる。 11月12日 平城上皇、藤原仲成らに平城宮を造営させる。　12月4日 平城上皇、平城宮へ行幸。
810	弘仁 1	-1215	譲位した平城上皇が病気恢復して政権奪回を図る。嵯峨天皇は坂上田村麻呂らを派遣し制圧。 唐招提寺五重塔建立。 9月19日改元
811	弘仁 2	-1214	5月23日 坂上田村麻呂没54歳　**10月 葛原親王、上野國利根郡長野牧(群馬県利根郡月夜野町に比定)を賜わる。**
812	弘仁 3	-1213	6月2日 諸國に夷俘長を置く
814	弘仁 5	-1211	嵯峨天皇が皇子・皇女に源姓を与える(**賜姓源氏初回**)。　6月1日「新撰姓氏録」撰上される。
816	弘仁 7	-1209	検非違使設置
820	弘仁 11	-1205	2月 朝廷が遠江・駿河國に配した新羅帰化人700人が叛乱。
821	弘仁 12	-1204	1月27日 空海、讃岐國に満濃池を築く。　藤原冬嗣、勧学院創建。
823	弘仁 14	-1202	4月 嵯峨天皇、弟に譲位し53代淳和天皇-833まで。　空海、東寺を与えられ教王護國寺と称す。
824	天長 1	-1201	1月5日改元　**高見王誕生-885(桓武孫)(葛原親王次男)。生涯無位。高望王(平高望)の父となる。**
825	天長 2	-1200	**葛原親王臣籍降下**　同年、その長男高棟王が平朝臣の姓を賜わる。清盛妻時子、後白河女御滋子らの祖先。
826	天長 3	-1199	9月6日 **上総・常陸・上野が親王任國となる**。「守」である親王は任國に赴かないので次席の「介」が事実上の長官。
828	天長 5	-1197	空海、綜芸種智院創設。
833	天長 10	-1192	2月 淳和天皇、第1皇子に譲位し54代仁明天皇-850まで。
834	承和 1	-1191	1月3日改元
835	承和 2	-1190	3月 空海没63歳
838	承和 5	-1187	円仁ら遣唐使として入唐-847帰國。　630からこの年まで遣唐使15回。　この年、神津島が噴火。
839	承和 6	-1186	**高望王誕生-911(桓武曾孫) 長じて賜姓平氏、上総介平高望として下向し常陸平氏、および桓武平氏の主流を生む。**　最後の遣唐使帰國。
841	承和 8	-1184	『日本後紀』撰上。
842	承和 9	-1183	**承和の変**
844	承和 11	-1181	**1月 葛原親王 常陸守となる。次に上野守、再び常陸守を歴任。この間に上野國利根郡長野牧、甲斐國巨麻郡馬相野等 東國に領地を保有したことが後に桓武平氏興隆の基礎となる。**
847	承和 14	-1178	観心寺如意輪観音像
848	嘉祥 1	-1177	承和15年2月 上総國で俘囚、丸子廻毛等叛乱。　6月13日改元
850	嘉祥 3	-1175	3月 仁明天皇没により第1皇子即位し55代文徳天皇。-858まで。
851	仁寿 1	-1174	4月28日改元
853	仁寿 3	-1172	**葛原親王没786-。平高棟・高見王の父。**　この頃 孫王や東國の國司ら美濃國を通り恣に畿内外に出入りする。(官符)
854	斉衡 1	-1171	11月30日改元
857	天安 1	-1168	2月21日改元　源興(ﾐﾅﾓﾄﾉｵｺｽ)が相模國司。この後ほぼ連続して一字名の嵯峨・仁明源氏9人が同職に任ぜられる。 右大臣藤原良房太政大臣。
858	天安 2	-1167	病弱な文徳天皇32歳で没/第4皇子9歳即位し56代清和天皇。-876まで。 外戚藤原良房が実権を握り摂政の実を行なう。北家の摂関政治確立前段階。
859	貞観 1	-1166	4月15日改元　12月21日 藤原朝臣真冬、常陸介となる。
860	貞観 2	-1165	山城國に石清水八幡宮建立。
861	貞観 3	-1164	11月 武蔵國に凶族多く毎郡に検非違使を置く。
864	貞観 6	-1161	本年～866 **富士山貞観噴火** 山頂の北西約10kmの側火山長尾山(山梨県南都留郡鳴沢村)での割れ目噴火。爆発はなく有史以来最大量の溶岩流出。広大な剗海(ｾﾉｳﾐ)に流入して西湖、精進湖、本栖湖に分断。各湖は地中で接続しているため湖水面の標高が連動。このときの溶岩流の上に形成されたのが青木ヶ原樹海。
866	貞観 8	-1159	7月 美濃國各務・厚見両郡司、歩兵・騎兵を率いて尾張國の郡司・役夫等を襲撃。　**応天門の変** 9月 伴善男ら大逆罪で伊豆へ配流。 11月 朝廷、健児・統領・選士の弱体化対策として試練を加えることを命ず。
868	貞観 10	-1157	円珍が延暦寺座主となる。
869	貞観 11	-1156	藤原良房ら『続日本後紀』撰上。　5月26日(869年7月13日)三陸沖でM8.3を越える**貞観の三陸地震**。津波が内陸へ数Km浸入。同様の震源域で1142年後の2011年に、この貞観地震を上回る『**平成23年東北地方太平洋沖地震**』が発生し『**東日本大震災**』となる。
870	貞観 12	-1155	12月 上総國で俘囚が叛乱。
872	貞観 14	-1153	藤原良房69歳没で藤原基経摂政。
873	貞観 15	-1152	清和天皇が皇子・皇女に源姓を与える。清和源氏。
874	貞観 16	-1151	醍醐寺創建
875	貞観 17	-1150	5月 下総國で俘囚が叛乱。武蔵・上総等の國から兵を動員。　7月 下野國で俘囚が叛乱。
876	貞観 18	-1149	清和天皇27歳で第1皇子9歳に譲位/57代陽成天皇-884(異常な振る舞いが多い)

西暦	元号	年数	EVENT
			実権は外戚藤原基経。清和の皇子の多くは臣籍降下し清和源氏。
877	元慶 1	-1148	4月16日改元
878	元慶 2	-1147	6月 小野春風、鎮守府将軍として秋田城を救援。
879	元慶 3	-1146	『日本文徳天皇實録』撰上。　この頃、神仏習合が広まる。
880	元慶 4	-1145	清和天皇没31歳
881	元慶 5	-1144	**この頃 平良望(長じて國香と改める)誕生(935没時に55歳として)。**　在原行平が奨学院創立。
883	元慶 7	-1142	2月 上総國市原郡で俘囚等再び反乱。
884	元慶 8	-1141	陽成天皇 乱行により藤原基経により廃位へ誘導されて譲位/58代光孝天皇-887まで
885	仁和 1	-1140	2月21日改元　**高見王没824-。高望王の父。生涯無官位。**
886	仁和 2	-1139	**高望王に良文誕生。長じて武蔵國村岡に住し村岡五郎平良文と称す。鎮守府将軍。上総氏、千葉氏、畠山氏等の遠祖となる。** この年、新島が噴火。
887	仁和 3	-1138	藤原基経 初代関白。　光孝天皇重病で基経が臣籍降下していた源定省(ｻﾀﾞﾐ)を立太子のうえ59代宇多天皇。-897まで。 この年 南海トラフを震源とするM9程度の**仁和地震**。八ヶ岳山体崩壊の原因となったか。
888	仁和 4	-1137	仁和寺金堂建立
889	寛平 1	-1136	4月27日改元　4月 東國の賊首、物部氏永が蜂起。　**5月 高望王(高見王男)(桓武曾孫)平姓を賜わる。　12月 平高望、上総介として東國に下向。その後、10世紀初頭に常陸大掾に任ずる源護(本拠地: 新治郡大串(下妻市大串))一族と結び在任中から上総・下総・常陸に私営田を開く。長男平國香(良望改)には真壁郡石田(館は明野町東石田)、良兼には服織(真壁町羽鳥)、良将(良持)には下総國豊田郷(結城郡石下町)、良文には筑波郡水守郷(つくば市水守)を与えた。★「遠祖常陸大掾平國香か後也」(太田氏系圖)** **平良将(または良持)に長男将門誕生。**-940まで。(『応仁記』)
890	寛平 2	-1135	8月5日付「従四位上藤原良尚蔭子菅根等連署荘園施入帳」(『朝野群載』巻17)。南家藤原良尚の蔭子(親王または五位以上の人の子)6人が先祖からの私有地藻原(千葉県茂原市)・田代両庄を興福寺諸聖衆供料と維摩会料のため荘園として施入した。寄進型荘園の先蹤。
892	寛平 4	-1133	この年 菅原道真、『類聚國史』撰上。
893	寛平 5	-1132	この頃、『ひらがな』が現われる。　この頃、『竹取物語』、『伊勢物語』成る。
894	寛平 6	-1131	9月 宇多天皇の信頼厚い菅原道真の建言により遣唐使廃止。唐からの自立。
895	寛平 7	-1130	この頃、東國で僦馬党が横行。
897	寛平 9	-1128	7月 宇多天皇 、第1皇子に譲位し60代醍醐天皇。-930まで。　9月 僦馬党取締りのため相模國足柄峠と上野國碓氷峠に偵邏を設置。
898	昌泰 1	-1127	4月26日改元
899	昌泰 2	-1126	宇田上皇、剃髪出家し初めての法皇となる。
901	延喜 1	-1124	昌泰4年1月 右大臣菅原道真、太宰府へ左遷。　**この頃、源護が常陸大掾となる。**　7月15日改元
903	延喜 3	-1122	2月 菅原道真、失意の歌「東風(こち)吹かばにほいおこせよ梅の花あるじなしとて春を忘るな」を残し左遷先太宰府にて憤死59歳。
905	延喜 5	-1120	紀貫之ら『古今和歌集』撰上。(勅撰和歌集の初め)
907	延喜 7	-1118	中國では**唐滅亡**。この余波で926に渤海、935には新羅も滅亡。
911	延喜 11	-1114	**平高望没73歳839- 國香・良兼・良将・良持・良文らの父。**
913	延喜 13	-1112	8月 延喜式編纂開始-927まで。
916	延喜 16	-1109	8月 流刑を無視したとして朝廷から藤原秀郷の追討令(929にも追討令)。同月、下野國に藤原秀郷等18人が配流。
917	延喜 17	-1108	4月11日 元常陸介藤原朝臣高風、武蔵守となる。
918	延喜 18	-1107	半島では王建が高麗を建國。
919	延喜 19	-1106	5月23日付 前権介源任(ﾂｶｳ)(嵯峨源氏)が武蔵守高向(ﾀｶﾑｺﾉ)利春・権守等を襲撃し官物を奪ったうえ國府を焼いた旨、武蔵國から報告。
920	延喜 20	-1105	3月20日 橘朝臣實範、常陸介となる。　能書家小野道風が昇殿を許される。
921	延喜 21	-1104	空海に弘法大師の諡号。
923	延長 1	-1102	最後の新羅使来日。　醍醐天皇の皇太子急死。「道真の祟り」と。醍醐は道真に正二位追贈、道真左遷の詔書を破棄するが祟り続く。11月改元
924	延長 2	-1101	法性寺(ﾎｯｼｮｳｼﾞ)建立。
926	延長 4	-1099	大陸では**渤海滅亡**。原因は907年の唐滅亡の余波。白頭山の大噴火が原因との説もあるが、噴火は937年のため無関係。
927	延長 5	-1098	藤原忠平等、延喜式完成(施行は967)。　円珍に智証大師の諡号。
929	延長 7	-1096	5月 下野國で藤原秀郷が再度乱行し國々の人兵が派遣される。しかし940に「将門の乱」平定の功で許されたばかりでなく逆に賞される。
930	延長 8	-1095	宮中に落雷。大納言他死者数名。「道真の祟り」と。 9月22日 醍醐天皇、寛明(ﾕﾀｱｷﾗ)親王8歳に譲位61代朱雀天皇-946。落雷の一件で発病した醍醐没。 朝廷は道真の供養のため北野天神(北野天満宮)(京都市上京区)を建立。朱雀の外戚、藤原忠平摂政。**平将門は忠平に仕う。**
931	承平 1	-1094	延長9年 朱雀天皇(9歳)発願(実は母穏子の希望)により醍醐寺五重塔着工(京都市伏見区)・・・完成は20年後(951)。 4月26日改元　平将門 所領をめぐって伯父平良兼と不和。
934	承平 4	-1091	7月 兵庫允在原相安、諸家兵士・武蔵國兵士を率いて海賊を追捕。
935	承平 5	-1090	紀貫之の『土佐日記』成る。　平良将の死後、その子将門に対する一族からの所領侵略と将門の女論が原因で一族に内訌。初期には平良文(武蔵國大里郡村岡(埼玉県熊谷市)畠山、千葉、上総、土肥、三浦諸家の祖)も将門に同調して上野國で國香らと戦う。 **2月4日 平将門 前常陸大掾源護に味方した伯父平國香を藤代河の戦いで殺害(自殺)。**常陸國野本・石田・大串・取木等から筑波・真壁・新治三郡の**國香**方伴類(従類より緩い関係)の舎宅500余と与力の家まで焼き払う。平氏一族の内紛拡大。この時点では平貞盛は「将門は本意の敵にあらず」と言い、源護(ﾏﾓﾙ)は扶・隆・繁ら子の死を嘆くばかり、良兼は上総國に居して参戦せず。平良正(良茂男)一人が奮戦。 10月21日 平将門の叔父、平良正が将門を誅せんと将門の國新治郡川曲で合戦。良正敗退。　12月29日 将門召還の官符。 半島では**新羅滅亡**。907の唐滅亡の余波によるもので、926の渤海滅亡も同じ。
936	承平 6	-1089	6月26日 父の仇平将門を討つべく帰國した平貞盛に同調した上総介平良兼・源護が兵を揃え常陸國に発向。 6月27日 平良兼、水守で良正・貞盛と合流、下野國境で将門と合戦するが大敗。 9月7日 源護の告状により前年12月29日に発せられた、将門を召し進むべき由の太政官符が届く。 10月17日 将門は告人である源護より先に京都に行き、検非違使庁で事の詳細を陳弁す。　高麗が半島統一。
937	承平 7	-1088	4月7日 平将門、朱雀天皇(15歳)元服の大赦により無罪となる。 5月11日 将門、帰國のため京を出発。 8月6日 恨みを忘れぬ良兼は将門を攻撃、子飼の渡で将門を破り豊田郡栗栖院常羽の御厨を焼く。 8月17日 将門、大方郷堀越の渡で良兼と合戦するも脚の病気のため大して戦わず遁走。幸島郡葦津江に潜伏。 9月19日 将門、良兼の拠点真壁郡服織の宿を焼く。良兼を筑波山へ追撃 。 9月23日 将門、弓袋山で良兼と合戦。 11月5日付 上総介平良兼、掾の源護・平貞盛、および平公雅・公連、秦清文等を追捕すべきの官符が武蔵・安房・上総・常陸・下毛野等の國に下される。　11月 **富士山噴火**。 平良兼は将門の駆使丈部小春丸を買収し、将門の石井の営所の詳細を報告させる。 12月14日夕刻 良兼は夜討の兵を構えて石井の営所を襲撃するも失敗。 現北朝鮮の白頭山大噴火。日本列島にも降灰。
938	天慶 1	-1087	承平8年2月中旬 平貞盛は朝廷へ陳弁のため密かに東山道を京に向かう。これを知った平将門は100騎の兵を率して追う。 2月29日 将門、信濃國小縣郡國分寺付近で貞盛に追いつき千河川(ﾁｸﾏｶﾞﾜ)一帯で交戦。貞盛、辛くも山中に遁れて京に着き将門の非を訴える。4月5日 京で地震。　5月22日 天災と兵乱を鎮めるため**天慶**に改元 武蔵國権守興世王・武蔵介源経基と、足立郡司判官代の武蔵武芝が争い将門が調停して和解させる。 この頃、久良郡「鮎浦(ふくら)」の地名が記録される。鮎浦は六浦庄を指し、六浦庄は現在の金沢区全域をいう。
939	天慶 2	-1086	2月 源経基は興世王と武芝の紛争を平将門が仲裁したことを疑い京都へ逃げ帰る。『将門記』に「経基いまだ兵の道に練れず」と(しかし純友の乱では功あり)。 3月25日 経基は、将門と興世王が結んで謀反を起こしたと朝廷へ告訴。

西暦	元号	年数	EVENT
			5月2日 将門 板東五國司(常陸・下総・下毛野・武蔵・上毛野)の解文を取付け謀反無実を藤原忠平に言上。 6月 平良兼没。　この頃、貞盛は将門召喚の官符を持ち、常陸大掾に任ぜられて常陸國に帰國。 6月 武蔵権守興世王は新國司百済貞連と不和となり出奔して下総國に寄宿。 6月 武蔵國住人藤原玄明と國司藤原維幾が対立。玄明は行方・河内両郡の不動倉の穀糒を盗み下総國豊田郡に逃亡。 6月 常陸介藤原維幾が玄明追捕の移牒を下総國と将門に送る。将門は拒否し逆に追捕令の撤回を求める。 11月21日 将門軍1千余は貞盛を引渡さぬ常陸國府を襲撃し國軍3千を討ち國主藤原維幾を捕縛、印鉦(ｲﾝ=國印)(ﾔｸ=倉庫の鍵)を奪う。これを以て國家に対する反乱に発展。**平将門の乱(天慶の乱)**(これ以前は、同族内の私闘であった) 将門は12月11日に下野、12月15日に上野の各國府を攻略。下野國守藤原弘雅を京に追い返す。 12月19日 将門は上野國府で即位、新皇(ｼﾝﾉｳ)と自称。同時に板東諸國司を任命。①下野守将頼(将門弟)、②上野守多治経明、③常陸介藤原玄茂、④上野介興世王、⑤安房守文屋好立、⑥相模守(介)将文、⑦伊豆守将武、⑧下総守将為。このとき、将平は兄将門に対して「本朝に例なし」と諫める。　この反乱は12月27日、信濃國から朝廷へ通報。 同12月、瀬戸内海では**藤原純友の乱(これも天慶の乱)**。二つの乱に朝廷は震撼。
940	天慶 3	-1085	成田山新勝寺が開かれる。朱雀天皇(18歳)から平将門の乱平定のため宝刀を賜わった寛朝が興す。 1月11日 将門追討の官符「身分を問わず貴族にする」と。　同1月 朝廷 藤原純友に従五位下を贈り懐柔するも純友は乗らず。 1月中旬 新皇将門 5千の兵を帯して残敵を討つため常陸國に発向し那珂・久慈両郡の藤原氏は美を整して大饗す。このとき平貞盛は逃げるが、貞盛の妻と源扶の妻は吉田郡蒜間の江(涸沼)の辺で将門方に捕らえられる。 1月19日 朝廷、藤原忠文を征東大将軍、源経基を征夷副将軍に任ず。　この頃、貞盛が下野國押領使藤原秀郷を見方に引き入れる。将門が常陸國の藤氏らに貞盛・為憲の所在を問うが言わず。将門は油断して休養のため兵を一時帰郷させ残るは約400。これを察知した貞盛・秀郷らは4千の兵を動かす。 2月1日 平貞盛・藤原秀郷らの来攻を知った将門は驚き、随兵400を率いて川口村に戦うが敗退、幸島郡広江に隠れる。 2月13日 群衆を誘って兵を増した貞盛らは堺(境町)へ迫り将門は飯沼の畔に隠れる。貞盛らは将門の本拠地石井(茨城県岩井市)にて新皇の館、与力の家も悉く焼き掃う。 **2月14日(940年3月25日)夕刻 新皇将門(52歳くらい) 幸島郡北山にて討たれる。** **将門は貞盛(秀郷男千常39歳の説あり『和漢合図抜萃』)の征矢に倒れ、秀郷に首を刎ねられる。平将門の乱終熄** 1月11日付で東海・東山道諸國に将門・その兄弟と伴類を追捕すべきの太政官符が下されており、将門第2夫人桔梗の前は秩父、将平も秩父、将頼は相模、将武は甲斐、その他一族も各地で恩賞目当ての土豪・野武士に悉く殺害さる。 同2月 平良兼の男公雅は上総國で興世王を誅殺。この功により五位に昇進。　藤原玄明は常陸國で斬られる。 征東大将軍、藤原忠文が常陸に着いたときには将門は既に討ち取られた後で、残党狩りのみを行なって帰京。よって恩賞なし。 3月5日 将門誅殺の知らせが京に届く。 3月9日 下野國押領使藤原秀郷が高く評価され六位から従四位下に昇進、常陸掾平貞盛は正五位上右馬助、征夷副将軍武蔵介源経基は「最初は虚言を奏したが結果的には実事になった」として従五位下に賞される。さらに秀郷は11月16日、下野守に補任。 3月25日 将門の首級は秀郷の使者により京に到着。東市に梟首さる。 5月 征東大将軍藤原忠文が帰洛し節刀を返上して将門追討完。 この頃、『将門記』(ｼｮｳﾓﾝｷ)成る。(軍記物の初出(ただし、同時代の記録として信頼性が高い。))
941	天慶 4	-1084	6月20日 藤原純友/重田丸12歳父子が小野好古らに降り(橘遠保が捕縛)**藤原純友の乱終熄**。征西大将軍藤原忠文の着陣前に乱が平定されていたため忠文は恩賞なし。忠文は藤原忠平を恨んだ・・・と。　11月 藤原忠平関白
942	天慶 5	-1083	4月25日 常陸介従五位下藤原朝臣雅量、従五位上に昇る。
946	天慶 9	-1079	4月 朱雀天皇(24歳)譲位し朱雀上皇/62代村上天皇-967まで。　紀貫之没。
947	天暦 1	-1078	4月22日改元　北野天満宮建立。
948	天暦 2	-1077	京都に群盗が横行し右近衛府・清涼殿等に押し入る。
949	天暦 3	-1076	8月 藤原忠平没70歳。
951	天暦 5	-1074	931に朱雀天皇の発願で着工した醍醐寺五重塔(38.1m)完成(京都市伏見区)。　宮中に和歌所設置。　西光寺建立(後の六波羅蜜寺)。
952	天暦 6	-1073	朱雀上皇没(30歳)。
957	天徳 1	-1068	10月27日改元
958	天徳 2	-1067	皇朝十二銭最後の「乾元大寶」鋳造。
959	天徳 3	-1066	2月7日 藤原朝臣滋望、常陸介となる。　3月3日 感神院と清水寺が争闘。
960	天徳 4	-1065	天徳の歌合。　この頃、寝殿造の大成。　中國では趙匡胤(ﾁｮｳｷｮｳｲﾝ(太祖))が宋(北宋)を建國。
961	應和 1	-1064	2月16日改元　10月14日 常陸介藤原朝臣為忠、官物を納め加階の賞を願う。　11月4日 源経基没45歳
964	康保 1	-1061	7月10日改元
966	康保 3	-1059	藤原道長誕生(-1027)(北家)長じて1016頃には藤原氏全盛を現出する。 12月 小野道風(ｵﾉﾉﾄｳﾌｳ)没71歳(能書家，小野好古(ﾖｼﾌﾙ)弟，小野妹子後裔)
967	康保 4	-1058	延喜式施行。　藤原實頼関白(これより摂関を常設) 5月 村上天皇没/63代冷泉天皇-969(幼児期から精神不安定) 6月 秀郷の男千春は村上天皇没にあたり源満仲(源経基(平将門の乱では将門記に「いまだ兵の道に練れず」と酷評されるが、藤原純友の乱では純友方桑原生行を生捕りにして面目をほどこす)男)と共に固伊勢関使に任ぜられる。しかし。両名共に辞退。朝廷は満仲のみ病気を理由に辞退を受理。これは安和の変に絡み満仲が千春を失脚させる伏線であろう・・・と(土田直鎮『王朝の貴族』)。固関使は、政変・天皇の代替わりの際に伊勢鈴鹿、近江逢坂、美濃不破を固める使の一。 平忠常誕生(-1031) 鎮守府将軍平良文孫。長じて上総・下総に大勢力を形成し上総介。1028 乱を起こし病没するも子孫繁栄。
968	安和 1	-1057	東大寺と興福寺が乱闘。　8月13日改元
969	安和 2	-1056	**安和の変** 左大臣源高明左遷。これにより藤原氏による他氏排斥完了。　冷泉天皇譲位し64代円融天皇-984 3月25日 前相模介藤原千春、その男久頼、および隋兵等は安和の変に絡み検非違使源満季(満仲男)により検挙禁獄され千春は遠流の刑で壱岐國へ。朝廷は藤原秀郷後裔の挙兵を危惧して下野國に秀郷後裔へ教喩を加えるべきの官符。
970	天祿 1	-1055	3月25日改元
972	天祿 3	-1053	この年 高麗使、対馬に来着。　この頃、荘園が権門に集中。
973	天延 1	-1052	1月28日 雀部良義、常陸大目となる。　2月27日 大和薬師寺焼亡　3月13日 北野社焼亡　天禄4年12月20日 天延に改元
974	天延 2	-1051	尾張國の百姓等の訴えにより國守藤原連貞罷免　藤原道綱母の『蜻蛉日記』記録開始-995まで
965	康保 2	-1060	藤原清光、常陸介となる。
977	貞元 2	-1048	4月17日 常陸太守照平親王、源姓よりあらためて親王となる。
978	天元 1	-1047	11月29日改元
979	天元 2	-1046	**宋が中國統一**　藤原朝臣師頼、常陸大掾。　橘朝臣在正、常陸権介。
981	天元 4	-1044	この年 元常陸介平維将(貞盛男)没
982	天元 5	-1043	3月5日 常陸介源朝臣満仲、左馬権頭を兼任。
983	永観 1	-1042	4月15日改元
984	永観 2	-1041	8月 円融天皇譲位し65代花山天皇-986 冷泉天皇第1皇子 父と同じく乱心の振る舞い。　高麗人、筑前國に来着。
985	寛和 1	-1040	4月27日改元
986	寛和 2	-1039	6月 花山天皇譲位し66代一条天皇-1011
987	永延 1	-1038	**1月24日 平繁盛 金泥大般若経を延暦寺に運上**
988	永延 2	-1037	尾張國司藤原元命(ﾓﾄﾅｶﾞ)、法外な徴税で郡司・百姓らに訴えられる。
989	永祚 1	-1036	尾張國司藤原元命、苛政により解任せらる。　8月8日改元
990	正暦 1	-1035	女御 藤原定子(ﾃｲｼ)(道隆女)一条天皇の中宮となる。清少納言は定子に仕える。　11月7日改元
991	正暦 2	-1034	円融皇太后詮子出家し東三条院の女院号を受ける。女院制開始
993	正暦 4	-1032	円珍門徒(寺門派)が円仁門徒(山門派)と争い比叡山を下り園城寺に入る。

西暦	元号	年数	EVENT
994	正暦 5	-1031	この年、太陽にスーパーフレア発生。樹齢1900年の屋久杉に痕跡。紀元前にも3回発生した可能性。前回は775。次回は1770。
995	長徳 1	-1030	疫病が流行し藤原道隆43歳、道兼35歳没。藤原道長30歳内覧(准摂政)となる。道長、藤原伊周(コレチカ)と争う。　2月22日改元
996	長徳 2	-1029	7月 藤原道長31歳 正二位左大臣(人臣最高位)
997	長徳 3	-1028	高麗使来日　奄美島民が壱岐・対馬を襲う。
998	長徳 4	-1027	12月 平維衡(貞盛男)と平致頼が伊勢で合戦。維衡は阿波へ移住させられ、致頼は隠岐に流された。
999	長保 1	-1026	長徳4年1月朔日 藤原道長34歳女彰子(ショウシ)12歳 一条天皇に入内。彰子女房が紫式部。　1月13日改元　**12月 常陸大掾平維幹(繁盛男 繁盛兄貞盛の養子となって全領地を相続し常陸平氏祖)は右大臣藤原實資に臣従。絹、馬を贈り官位の五位を買い取る。　12月9日 常陸介平維幹、花山院に名簿等を贈り栄爵を請う。　12月11日 常陸介平維幹、花山院に絹を進上(賄賂)。**
1000	長保 2	-1025	2月 藤原道長35歳、中宮定子を皇后とし彰子を中宮(皇后と同格)。定子没。女房清少納言解任、生活困窮。　興福寺僧徒の乱暴を禁止。
1001	長保 3	-1024	
1002	長保 4	-1023	2月30日 丈部時正、常陸権介。　4月1日 佐伯家光、常陸権介。
1003	長保 5	-1022	藤原頼通12歳(道長38歳長男) 元服と同時に正五位下。以後、超スピードで出世。
1004	寛弘 1	-1021	7月20日改元
1005	寛弘 2	-1020	2月29日 常陸介藤原行平、治國の巧により四位に叙される。
1006	寛弘 3	-1019	3月 藤原頼通15歳(道長41歳長男)、従三位。
1007	寛弘 4	-1018	9月28日 藤原為継、常陸権介となる。
1008	寛弘 5	-1017	9月11日 一条天皇と彰子(道長43歳女)に敦成(アツヒラ)親王(後の後一条天皇)誕生。よって道長は次期東宮外祖父となる。
1009	寛弘 6	-1016	藤原頼通18歳(道長44歳長男) 参議を飛ばして中納言。
1010	寛弘 7	-1015	
1011	寛弘 8	-1014	一条天皇譲位し病没/67代三条天皇-1016　道長46歳 三条天皇にも二女妍子を入内させ翌年中宮。道長 引き続き左大臣。
1012	長和 1	-1013	閏10月23日 前常陸介源頼信、藤原道長に馬10頭を献上(賄賂)。　12月25日改元
1013	長和 2	-1012	
1014	長和 3	-1011	
1015	長和 4	-1010	2月16日 飛鳥部宿禰弘真、常陸大掾となる。
1016	長和 5	-1009	1月 藤原道長51歳は三条天皇に譲位させ敦成親王9歳を即位68代後一条天皇-1036 **道長摂政 藤原氏全盛を現出「この世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」。**　この頃、紫式部没。
1017	寛仁 1	-1008	4月23日改元　藤原頼通26歳(道長52歳長男)摂政、道長は太政大臣。
1018	寛仁 2	-1007	源頼光71歳(清和源氏源満仲男)(逸話大江山酒呑童子退治主人公)が藤原道長53歳に新築祝いの家具を贈る。摂関家への賄賂。 道長女威子(イシ) 後一条天皇の中宮となる。
1019	寛仁 3	-1006	**刀伊の入寇**(トイノニュウコウ) 刀伊=女真族の海賊が対馬・壱岐・筑前に来襲。太宰権師 藤原隆家が指揮を執り撃退。
1020	寛仁 4	-1005	7月3日 常陸介藤原惟通(紫式部弟)、常陸國府で没。その妻を**常陸大掾平維幹男 為幹が強姦し奪う。**　9月19日 平維衡、常陸介。
1021	治安 1	-1004	2月2日改元　7月 源頼光没74歳　9月10日 常陸介平維衡、常陸國へ赴任　閏12月26日 **平為幹は前年7月の罪を許される。**
1022	治安 2	-1003	
1023	治安 3	-1002	11月23日 常陸交替司行明、病痛のため赴任せず、改めて藤原實國を常陸國司に任ず。
1024	萬壽 1	-1001	7月13日改元　常陸介平維衡、常陸相撲人公侯有恒を殺害。罪を相撲人公侯常材に転嫁。翌年へ
1025	萬壽 2	-1000	7月21日 常陸國相撲人公侯有恒殺害につき当任國司藤原信通が真偽を調査。前司平維衡の犯行と報告。　11月10日 平維衡、藤原實資に絹10疋、支子1石を進上(賄賂)。　12月18日 常陸介藤原信通、常陸國は前司以前は作田僅かに300町で國が亡弊するばかりだったが、現在は作田700町で3年分の貯えを得たと藤原實資に報告。
1026	萬壽 3	-999	
1027	萬壽 4	-998	上総介平忠常 上総・下総に勢力を増し國守に敵対。(敵対は以前にもあって当時の常陸介源頼信(源満仲男)に攻められ、手向かわず名符を差し出し頼信の家人となっていた。) 忠常追討の官軍源頼信2千騎に、**常陸大掾水漏大夫平維幹(維基)は3千騎を率いて支援を申し出る(水漏=水守 茨城県つくば市水守)。**一方、忠常は「頼信には降伏してもよいが維幹は先祖の敵なので、その前で降伏する姿を見せることはできない。」と述べたことから**國香流**と良文流の同族対立(板東平氏同士)が先祖の代から続いていたことがわかる。**維幹は水守の近くの多気山(タキヤマ)(茨城県つくば市北条)にも館を持ち多気大夫とも呼ばれる。**　12月 藤原道長没62歳
1028	長元 1	-997	萬壽5年6月 上総介平忠常 所領侵略に耐えかねて安房に攻め込み安房守惟忠を焼き殺す。**平忠常の乱** 6月5日 忠常追討に関する朝議。 6月21日 忠常追討使として右衛門尉平直方・中原成道が任ぜらる(共に検非違使)。　7月25日改元 8月5日 追討使平直方・中原成道ら、随兵200余人で京を発向。
1029	長元 2	-996	2月5日 平忠常追討の官符。　6月8日 平直方更迭の議。　12月8日 中原成道解任。　源頼信甲斐守。
1030	長元 3	-995	5月14日 平忠常 上総國夷隅郡伊志見山に籠もる。　5月20日 忠常 出家。　7月8日 平直方更迭。 9月2日 朝廷、甲斐守に転じていた源頼信と板東諸國司に忠常追討を命ず。
1031	長元 4	-994	4月28日 源頼信 平忠常に降伏の意志ある旨を京へ報告。 6月6日 忠常56歳 源頼信が京都へ護送中 美濃國山縣で病死(忠常に真実をバラされることを恐れた役人による毒殺説もあり)。 6月16日 頼信参洛。忠常梟首。平直方は功を遂げず空しく帰洛す。**平忠常の乱終熄** **平直方はその後、東國の本拠地として鎌倉(現在の寿福寺の地)に居を構え、忠常追討で誼を通じた源頼信の男頼義を女婿として迎え、この館を譲る。以来、この館は頼義から義家・為義・義朝・義平と、清和源氏棟梁の館として受け継がれた。1180へ**
1032	長元 5	-993	2月8日 菅原孝標、常陸介。　同日、平忠常を追討した巧により甲斐守源頼信を美濃守に任ず。
1033	長元 6	-992	
1034	長元 7	-991	8月9日 京都は台風・洪水。　8月19日 風損した殿舎修造を諸國に割当。常陸國は神祇官の南屋1宇を担当。
1035	長元 8	-990	3月 圓城寺僧徒と延暦寺僧徒の争いが激化
1036	長元 9	-989	4月 後一条天皇没/69代後朱雀天皇-1045
1037	長暦 1	-988	1月9日 興福寺僧徒が東大寺東南院を破壊。　4月21日改元
1038	長暦 2	-987	
1039	長暦 3	-986	この頃、八幡太郎源義家誕生 父源頼義/母桓武平氏平直方女。異母弟に末弟新羅三郎義光。
1040	長久 1	-985	長久の荘園整理令　京都で放火が頻発　11月10日改元
1041	長久 2	-984	
1042	長久 3	-983	
1043	長久 4	-982	
1044	寛徳 1	-981	1月1日 藤原隆家没(66歳)　11月24日改元
1045	寛徳 2	-980	1月 後朱雀天皇没/70代後冷泉天皇-1068　諸國に新立荘園の停止を命ず(寛徳の荘園整理令)。
1046	永承 1	-979	1月18日 藤原實資没(90歳)　4月14日改元
1047	永承 2	-978	
1048	永承 3	-977	4月17日 源頼信没81歳
1049	永承 4	-976	
1050	永承 5	-975	
1051	永承 6	-974	故源頼信の男 源頼義(義家父) 陸奥守 陸奥俘囚の安倍頼時が國守に反抗。朝廷は源頼義に追討を命ず。**前九年の役**-1062
1052	永承 7	-973	
1053	天喜 1	-972	1月11日改元　3月 前年に着工した平等院阿彌陀堂(鳳凰堂)成る。　源頼義 陸奥守兼鎮守府将軍
1054	天喜 2	-971	

西暦	元号	年数	EVENT
1055	天喜 3	-970	天喜の荘園整理令
1056	天喜 4	-969	藤原清衡誕生-1128 後年、後三年の役で清原氏遺産を継ぎ奥州藤原氏祖となる。
1057	天喜 5	-968	**前九年の役 黄海(キノミ)の戦い** 安倍貞任方4千、源頼義勢1800で苦戦。頼義麾下は伊豆國藤原景通・大宅光任・清原貞廣・藤原範季・藤原則明・相模國佐伯経範ら。(波多野氏系図の一つにこの佐伯経範を祖とするものあり) 7月26日 源頼義、安倍頼時を討つ。 11月 源頼義、安倍貞任を討つ。
1058	康平 1	-967	8月29日改元
1059	康平 2	-966	
1060	康平 3	-965	
1061	康平 4	-964	
1062	康平 5	-963	**前九年の役 小松柵の戦い** 苦戦の源頼義3千は、1万を率いる清原武則の来援を得て安倍貞任を討つ。**前九年の役終熄**。頼義麾下は平真平・平経貞・菅原行基・橘孝忠・源親季・藤原時経・藤原光貞・丸子(マリコ)弘政・佐伯元方・紀季武・安部師方ら板東精兵。
1063	康平 6	-962	2月16日 安倍貞任討伐の巧により、源頼義を伊予守、源義家を出羽守、清原武則を鎮守府将軍に任命。 鎌倉に帰った源頼義が由比郷(材木座)に社殿を造営、京都石清水八幡宮の分霊を祀る。これが鶴岡八幡宮寺の前身。1180へ
1064	康平 7	-961	
1065	治暦 1	-960	8月2日改元
1066	治暦 2	-959	
1067	治暦 3	-958	
1068	治暦 4	-957	4月 後冷泉天皇没/71代後三条天皇-1072
1069	延久 1	-956	2月23日 寛徳2年以降の新立荘園を停止(延久の荘園整理令) 4月13日改元
1070	延久 2	-955	鎮守府将軍 清原武則没。嫡男清原武貞が継ぎ、藤原恒清未亡人(安倍頼時女)を娶る。この連れ子が清衡。 清原武貞没後、長男真衡が継ぐが内紛発生。真衡 vs 叔父吉彦秀武・清衡・家衡。真衡の居宅焼失。後三年の役の端緒となる。
1071	延久 3	-954	
1072	延久 4	-953	12月 後三条天皇譲位/72代白河天皇-1086 藤原忠綱、常陸介。
1073	延久 5	-952	
1074	承保 1	-951	8月23日改元
1075	承保 2	-950	延暦寺と園城寺の僧徒が争う。 7月 源頼義没88歳
1076	承保 3	-949	
1077	承暦 1	-948	11月17日改元 8月11日 藤原爲定、播磨國の官倉を打ち開き、百姓を殺した罪により常陸國へ配流。
1078	承暦 2	-947	6月18 源基宗・藤原爲定、処分を待たず帰洛した罪で下野・常陸両國へ配流。
1079	承暦 3	-946	延暦寺の僧徒が強訴。
1080	承暦 4	-945	7月29 前常陸介源朝臣實國出家
1081	永保 1	-944	2月10日改元 2月14日 前常陸介源経隆没。 園城寺の僧徒と延暦寺の僧徒の争いが激化。
1082	永保 2	-943	熊野の僧徒が強訴。
1083	永保 3	-942	八幡太郎源義家、陸奥守兼鎮守府将軍。 9月 **後三年の役**-1087 清原真衡死後の相続分に不満の家衡が兄清衡に敵対。清衡の館が焼かれ妻子を殺される。 清原清衡は八幡太郎源義家に泣きつき、義家はこの内紛に乗じて所領を得ようと陸奥守となり介入。このときの源義家家人は参河國兵藤大夫正経・伴次郎助兼・相模國鎌倉権五郎景正・三浦平太郎為次(継)**(景正と為次は桓武平氏良文流)**・藤原資道(後に山内首藤氏を名乗る)ら。総勢数万。**常陸大掾平宗幹(致幹)も義家に与同。納豆の起源**: 義家が持参していた藁に入れた豆が発酵して納豆になった。
1084	應徳 1	-941	2月7日改元
1085	應徳 2	-940	伊豆三宅島噴火(記録に残る最古の噴火)
1086	應徳 3	-939	後三年の役に於て、清原清衡+源義家連合軍、沼柵で清原家衡に敗退。家衡側には叔父武衡が参軍、本拠地を沼柵から金澤柵(秋田県仙北郡仙南村と横手市)へ移すことを進言。 11月 白河天皇譲位/73代堀河天皇-1107 白河上皇院政を開始
1087	寛治 1	-938	4月7日改元 11月14日夜 金澤柵攻防戦 **後三年の役終息** 清原家衡の兄清衡+源義家連合軍側に義家弟新羅三郎義光(佐竹氏遠祖)が左兵衛尉の官位を捨てて京から参じる。義家方は兵糧攻めと皆殺し戦法で家衡を討ち清衡を清原氏の後継者とす。 12月 朝廷は後三年の役を「私闘である」として義家に恩賞を与えず陸奥守を解任。仕方なく義家は私財を投じて論功行賞。 清原氏遺産は清衡が継ぎ奥州藤原氏祖となる。
1088	寛治 2	-937	
1089	寛治 3	-936	
1090	寛治 4	-935	吉田神社、貞観14年の新羅國の海賊撃退祈願のときに授けられた租穀の額を先例のまま給わることを願う。
1091	寛治 5	-934	清原清衡、この頃より藤原氏を名乗る。 朝廷は源義家への荘園寄進を禁止。
1092	寛治 6	-933	三浦義明誕生-1180 後年、頼朝挙兵に与同。 6月 **藤原清衡の乱**
1093	寛治 7	-932	興福寺僧徒が春日大社の神木を奉じて強訴。 源義家 清衡に出羽鎮護のため金澤柵跡に八幡神社を創建させる。
1094	嘉保 1	-931	2月22日 上毛野朝臣松真、常陸小掾。 12月15日改元 鹿嶋神宮寺落雷により焼亡。
1095	嘉保 2	-930	10月 延暦寺僧徒が日吉大社の御輿を奉じて強訴。白河上皇は北面の武士を置く。
1096	永長 1	-929	12月17日改元 平忠盛(正盛男)誕生。父正盛は白河法皇に寵遇され、忠盛は長じて鳥羽上皇の信任を得る。 ヨーロッパではエルサレム王國の建國を目的として第1次十字軍遠征-1199。
1097	承徳 1	-928	11月21日改元 平正盛(清盛祖父) 私領20町(白川法皇が、死んだ媼子内親王の元御所を寺にした)を六條院に寄進。白河法皇は正盛を寵遇。平家躍進の礎となる。**平家の呼称は主として正盛～忠盛～清盛一門をいう。**
1098	承徳 2	-927	源義家に院昇殿許可。『中右記』10月23日条に「義家は天下第一の武勇の士」と。平家はこれより遅れて1132年に平忠盛が院昇殿許可。
1099	康和 1	-926	8月28日改元 1月23日 源國房、常陸介。
1100	康和 2	-925	7月23日 前常陸介菅原朝臣是綱、大学頭の再任を願う。
1101	康和 3	-924	
1102	康和 4	-923	
1103	康和 5	-922	2月30日 高階能遠、常陸介となる。 4月30日 高階能遠の辞退により高階経成、常陸介となる。
1104	長治 1	-921	2月10日改元
1105	長治 2	-920	2月15日 藤原清衡 平泉に中尊寺建立
1106	嘉承 1	-919	4月9日改元 7月 八幡太郎源義家没68歳。源氏の後継者争い表面化。次男義親は嘗て人民殺害公物押領で隠岐に配流されたことがあり、義家死後には出雲で目代殺害。結局、14歳の為義が家督を相続。 藤原信西(通憲)誕生-1159。
1107	嘉承 2	-918	7月 堀河天皇没29歳/74代鳥羽天皇5歳で即位-1123
1108	天仁 1	-917	嘉承3年1月 白河法皇に寵遇される因幡守平正盛は源義親(義家男)の追討を命じられ出雲で誅殺成功。京へ凱旋。到着前に但馬守に任ぜらる。『中右記』1月24日条では正盛を批判。 8月3日改元
1109	天永 2	-916	
1110	天永 1	-915	7月13日改元
1111	天永 2	-914	10月 荘園整理のため記録荘園券契所開設。 藤原魚名後裔藤原實宗が常陸介に任じられて伊佐荘中村(下館市)に住し子孫が伊佐氏を称す。伊達政宗遠祖。伊佐氏は南北朝期、南朝方に立ち高師冬に攻められて伊佐城落城。
1112	天永 3	-913	岡崎義實誕生-1200 三浦介義明弟。後年、頼朝挙兵に積極的に与同。 平正盛が六道珍皇寺から六波羅に領畠一町八段を請ける。この地が平家本拠地となる。
1113	永久 1	-912	3月14日 平正盛男忠盛18歳 検非違使・左衛門尉 内裏寶藏を荒らした夏焼大夫を捕らえた功で従五位下に叙せらる。 平正盛・忠盛父子、興福寺の大衆を防ぐため宇治に出陣。 7月13日改元
1114	永久 2	-911	平正盛、白河法皇のために法勝寺新御堂を造営。その功で但馬守に加え備前守を重任。
1115	永久 3	-910	

西暦	元号	年数	EVENT
1116	永久 4	-909	
1117	永久 5	-908	下総守源仲正、衆百人の兵を引き連れ、源義親を匿った者を追捕すると称して常陸國へ乱入する。
1118	元永 1	-907	4月3日改元　平清盛誕生-1181 忠盛23歳男(実父は白河法皇らしい)　千葉常胤誕生-1201 長じて頼朝挙兵に与同。 この年西行誕生-1190 俗名佐藤義清。秀郷流藤原氏。北面の武士となるが出家。歌人。後年 鎌倉で頼朝に面談。
1119	元永 2	-906	平正盛(清盛祖父)は、5月に京の強盗を、そして12月には鎮西で賊を討つ。京へ凱旋。
1120	保安 1	-905	4月10日改元
1121	保安 2	-904	
1122	保安 3	-903	**常陸大掾平宗幹(致幹)、本拠地新治郡新治村片穂荘の東城寺に経筒を納める。**
1123	崇徳 1	-902	1月 鳥羽天皇譲位/75代崇徳天皇-1141　1月28日改元 7月 平忠盛、源為義ら延暦寺僧徒の入京を退ける。忠盛は鳥羽上皇の信任を受けた。 源義朝誕生-1160 源為義長男。三浦介義明女を娶り頼朝・義経等の父となる。
1124	天治 1	-901	4月3日改元　藤原清衡建立の奥州平泉**中尊寺金色堂成る。**　**常陸大掾平宗幹 新治郡新治村片穂荘東城寺を保護。経筒を納める。**
1125	天治 2	-900	12月 京、大火。　殺生厳禁の制。
1126	大治 1	-899	1月22日改元　3月 中尊寺金色堂三重塔の落慶供養。藤原清衡が20余年を費やした中尊寺成る。
1127	大治 2	-898	後白河雅仁誕生-1192 鳥羽天皇皇子 母は藤原璋子。天皇在位は1155-1158。譲位後は院政に専念。 同年 三浦義澄誕生-1200 三浦介義明男 鎌倉殿(鎌倉幕府)第一の宿老として頼朝に尽くす。
1128	大治 3	-897	7月 藤原清衡没73歳1056- 奥州藤原氏祖。遺体は中尊寺金色堂に現存。家督を基衡が継ぎ奥州藤原氏2代目。
1129	大治 4	-896	3月 備前守平忠盛(34歳) 山陽・南海の海賊を追捕(1回目)。忠盛は男清盛にこの功を譲って清盛12歳 従五位下。 7月 白河法皇没77歳。　11月 源為義 興福寺僧徒の争乱を鎮定。
1130	大治 5	-895	
1131	天承 1	-894	1月29日改元
1132	長承 1	-893	天承2年3月 平忠盛 鳥羽上皇御願寺として得長寿院(三十三間堂)を造進し内昇殿許可。平家、ついに殿上人となる。　8月11日改元 院(ｲﾝﾉ)昇殿は上皇の御所まで上がれるが、内昇殿は内裏まで上がれる。すなわち殿上人。　この頃、『信貴山縁起』『鳥獣戯画』成る。
1133	長承 2	-892	8月 平忠盛 院宣と詐称し肥前神崎荘で宋船と直接交易
1134	長承 3	-891	閏12月2日 左兵衛尉平家貞、海賊追捕の巧により左衛門尉となる。
1135	保延 1	-890	4月27日改元　6月 平忠盛 4月に着任した海賊追討使として首領を捕縛(海賊追討2回目)。忠盛は男清盛にこの功を譲って清盛18歳 従四位下。平家 西國に勢力を扶植、日宋貿易で富を築く。同年 安達盛長誕生-1200 後年、鎌倉殿十三人合議制の一員となる。
1136	保延 2	-889	平忠盛 男清盛(従四位下)に功を譲って清盛19歳 中務少輔
1137	保延 3	-888	従四位下中務少輔の平清盛20歳 肥後守兼任
1138	保延 4	-887	北條時政誕生-1215 後年、源頼朝と共に挙兵し鎌倉殿(鎌倉幕府)初代執権となる。　平重盛誕生-1179 清盛長男
1139	保延 5	-886	3月 興福寺の僧と別当の争い。平忠盛 宇治、淀で興福寺僧徒の入京を防ぐ。　この頃、忠盛 鳥羽院の御厨別当。
1140	保延 6	-885	10月 佐藤義清出家し西行となる。1186に鎌倉で頼朝に会う。　三善善信誕生-1221 後年、鎌倉殿(鎌倉幕府)問注所執事となる。
1141	永治 1	-884	7月10日改元　12月 鳥羽上皇の圧力で崇徳天皇退位(保元の乱の原因となる)/76代近衛天皇3歳即位-1155　鳥羽上皇出家して法皇
1142	康治 1	-883	4月28日改元　**7月29日 源頼盛、常陸國へ配流。**
1143	康治 2	-882	6月 源為義 内大臣藤原頼長に臣従。　中原親能誕生-1208 大江廣元の義弟。鎌倉殿(鎌倉幕府)にて京都守護職となる。
1144	天養 1	-881	2月23日改元　9月頃 相模國にて伊勢神宮領**大庭御厨乱入事件**。鎌倉之楯(鎌倉市寿福寺境内)に住する源義朝が「大庭御厨の一部鵠沼郷は自領である」と称して俣野川を越え乱入したもの。 10月22日 田所目代散位源朝臣頼清・上総曹司源義朝名代清大夫安行・三浦庄司平義次・義次男平義明・中村庄司平宗平・和田太郎平助弘ら1千余騎が大庭御厨に乱入。大庭御厨側の平(大庭)景宗(景義・景親父)は有効な反撃をせず。
1145	久安 1	-880	天養2年6月 源義朝・三浦義継ら大庭御厨での濫行を朝廷から禁止される。　7月22日改元
1146	久安 2	-879	2月 平清盛 父忠盛の功移譲により正四位下安芸守。父忠盛は播磨守。平家 西國に勢力拡大。
1147	久安 3	-878	6月 平清盛従者が祇園臨時祭で祇園社神人と争う。源頼朝誕生-1199於京都(または熱田) 源義朝第3子/母熱田大宮司藤原季範女　同年 和田義盛誕生-1213 長じて鎌倉殿(鎌倉幕府)侍所別当となる。　この年 ヨーロッパでは第2次十字軍遠征-1149 **伊勢平氏平家盛(忠盛男)は常陸介として常陸國を知行。家盛没後、頼盛/経盛へ相伝し伊勢平氏による常陸國知行が継続。1151へ**
1148	久安 4	-877	大江(中原)廣元誕生-1225。長じて鎌倉殿(鎌倉幕府)政所別当となる。毛利氏遠祖
1149	久安 5	-876	**平頼盛、常陸介**-1156まで
1150	久安 6	-875	京の周辺に盗賊が横行。　左大臣藤原頼長は氏長者となり兄の忠通と不和。　この頃、カンボジアでアンコールワット完成。
1151	仁平 1	-874	1月26日改元　**藤原宗子(ｿｳｼ)(平忠盛妻/頼盛母で出家後池禅尼(1160参照))は常陸介頼盛の支援により美福門院得子(ﾄｸｼ)(鳥羽上皇妃)へ信太郡西條(小野川の西側)を寄進し信太荘を立荘。常陸國側では多気直幹/下妻弘幹父子が支援。小野川の東側を東條と称す。** **常陸平氏5代目多気直幹は、この年以前に4男弘幹に下妻を与えていた。直幹の2男、3男は早世らしく、以後、順次5男、6男へ常陸國の所領を割譲する。1160へ**
1152	仁平 2	-873	平清盛、厳島神社社殿を修造。
1153	仁平 3	-872	1月 平忠盛没58歳　正四位下安芸守の清盛が平家棟梁。藤原頼長は忠盛を「財力と武力を兼備し奢らぬ人」と評す。源義朝31歳下野守
1154	久寿 1	-871	9月 延暦寺僧徒が強訴。　10月28日改元 11月 源為朝が九州で乱行をはたらき、その父為義解官さる。　源義仲誕生(於埼玉県比企郡嵐山町の大蔵館)。後の木曽義仲。
1155	久寿 2	-870	7月 近衛天皇没17歳/77代後白河天皇即位-1158 **大蔵合戦** 源義朝長子義平(後に悪源太の呼称)が叔父義賢の武蔵國比企郡大蔵館を襲撃。義賢と河越重隆敗死。義賢男駒王丸(後の義仲)(2歳)は家臣の齊藤別当實盛に抱かれて木曽へ逃げる。源氏の内紛のみならず桓武平氏系の争いも絡む。 10月 源義朝、信濃國源頼賢討伐を命ぜらる。　この年 藤原泰衡誕生-1189 後年 奥州藤原3代の栄華を潰す。
1156	保元 1	-869	北條政子誕生-1225。於伊豆國市寺家。父 北條時政/母不明。 4月27日改元　弟の後白河に皇位を奪われた兄の崇徳と後白河の兄弟対立が激化。 7月10-11日 **保元の乱** (勝)後白河天皇・清盛ら vs (負)崇徳上皇　7月20日 鳥羽法皇没。 7月28日(1156/8/15) **崇徳方の中根氏遠祖平忠正、六波羅にて清盛の手で処刑される。**
1157	保元 2	-868	
1158	保元 3	-867	8月 藤原基實 関白　後白河天皇譲位し院政開始/78代二条天皇-1165　平清盛太宰大弐となり太宰府を掌握。
1159	平治 1	-866	源義経誕生。　4月20日改元 12月9-27日 **平治の乱** 平清盛・後白河法皇方勝利。源信頼敗死。源義朝は東國へ向け敗走。　義朝男頼朝初陣13歳。敗走中父義朝とはぐれ、浅井で老尼に助けられる。　**源平争乱の端緒** 12月29日(大晦日) 鎌田政家ら源義朝一行3名、知多半島の源氏累代の家人で政家の義父 長田忠致(**桓武平氏良兼流**)宅へ立ち寄る。
1160	永暦 1	-865	平治2年1月3日 源義朝38歳 長田忠致の裏切りで忠致の女婿鎌田政家と共に殺害される。義朝は忠致に勧められて入った風呂場で殺害され首を京に送られた。(1190/10/29 忠致は覇権を掌握した頼朝により義朝の墓前で男と共に土磔にて処刑される。) 1月10日改元　2月 父源義朝とはぐれて敗走中の頼朝14歳を平家方の弥平兵衛宗清が美濃國関ヶ原で捕縛。 3月11日 池禅尼が「死んだ子に似ている」という理由で清盛に助命を哀訴。結果、**頼朝は助命され伊豆へ配流**と決定。頼朝は池禅尼に感謝(1151および 1183/7/25参照)。平清盛と源頼朝が逆の立場なら、頼朝が清盛を許すことは絶対にない。 3月15日 頼朝、京を出発。3月20日 伊豆國蛭ヶ小島に配流。　源義経は母常磐と共に平清盛のもとへ。 6月 平清盛 正三位(ｼｮｳｻﾝｲ)。 8月 清盛 厳島神社へ初参詣。この留守中に参議(公卿の末席)に任じられる。武士として初めて公卿に列す。 この年、**宮本茶村**の先祖となる山内首藤経俊(1137-1225)が、山内首藤氏祖であり父である俊通の菩提を弔うため鎌倉に明月庵(後の明月院)を建立。俊通は源氏譜代の家人として源義朝に従い前年の平治の乱で討死。このとき、男の経俊は病で参陣成らず。 この頃、志田(信太)三郎先生源義廣(ｼﾀﾞﾉｻﾌﾞﾛｳｾﾝｼﾞｮｳﾐﾅﾓﾄﾉﾖｼﾋﾛ)(源為義3男(頼朝叔父))は常陸國へ潜入して信太荘浮島に居住。庄司代行のような仕事をしていたらしい。平家には恭順の態度をとり、頼朝に対しては寿永2年(1183)討伐の兵を挙げる。

西暦	元号	年数	EVENT
			この頃、水戸に常陸平氏馬場(ﾊﾞﾝﾊﾞ)氏が居館(水戸城の前身)を構える。しかし應永年中江戸氏に逐われる。 平清盛妻時子の妹滋子は後白河の寵愛を受け、この年、憲仁親王(長じて高倉天皇)を生む。憲仁は以仁王の異母弟。 **この頃、常陸平氏宗家5代目多気直幹の5男忠幹は常陸國信太郡(文禄4年(1595)から河内郡)東條五郷(小野(稲敷市小野)・朝夷(稲敷市下根本)・高田(稲敷市高田)・乗浜(稲敷市神宮寺・阿波)・稲敷(龍ヶ崎市八代町))を与えられ開発領主・地頭として東條太田城を築城。東條五郎左衛門尉忠幹と称し東條氏初代となる。以後、東條太田に430年間居住。1172へ**
1161	應保 1	-864	9月4日改元　平清盛 権中納言。
1162	應保 2	-863	この年藤原定家誕生-1241 九条家 歌聖『新古今和歌集』『新勅撰和歌集』選者 日記『名月記』
1163	長寛 1	-862	3月29日改元　北條義時誕生-1224 北條時政次男。後年 鎌倉幕府2代執権となる。
1164	長寛 2	-861	畠山重忠誕生 父桓武平氏良文流秩父氏系畠山重能/母三浦介義明女 次男。生誕地 埼玉県大里郡川本町畠山 8月2日 崇徳上皇 配流先の讃岐にて没す。崇徳は平家を後ろ盾にした信西入道(藤原通憲)の為事で配流された。 蓮華王院建立供養。後白河上皇の院御所 法住寺殿の一角に建立。清盛が備前國に費用を支出させて造営。現存する三十三間堂は蓮華王院本堂のみ(ただし鎌倉中期の再建)。功により男の重盛 正三位。清盛一族 厳島神社へ32巻の『平家納経』。
1165	永萬 1	-860	6月5日改元　二条天皇譲位し79代六条天皇-1168　平清盛 権大納言。
1166	仁安 1	-859	8月27日改元　11月 平清盛 内大臣　源義経はこの頃、鞍馬寺へ。
1167	仁安 2	-858	2月 **平清盛 従一位太政大臣**となるも3ヶ月で辞職。 平重盛 院宣で全國的軍事警察権獲得。 **平家絶頂期**　**大納言平時忠(高棟王系)曰く「此一門(平家)にあらざらむ人は皆人非人(ﾆﾝﾋﾟﾆﾝ)なるべし」**。時忠は平家滅亡後も能登で命脈を保つ。時忠家(石川県珠洲市)。
1168	仁安 3	-857	2月 平清盛重病で出家。一時重体に陥るも恢復。　六条天皇5歳で譲位/80代高倉天皇-1180　清盛その外戚となる。清盛 厳島神社神主佐伯景弘を援助し社殿を大修築。美を尽くす。　平時忠 検非違使別当
1169	嘉應 1	-856	4月8日改元　後白河上皇出家して法皇。平重盛男資盛が摂政藤原基房一行から被害。父が基房に復讐するという事件発生。
1170	嘉應 2	-855	奥州の藤原秀衡(3代目)49歳 従五位下鎮守府将軍。秀衡に一目を置く清盛は陸奥守出羽押領使にも推薦。 平清盛、福原に後白河法皇を招き宋人と面会。
1171	承安 1	-854	4月21日改元　12月 平清盛女徳子 後白河法皇の養女となり入内し女御。
1172	承安 2	-853	後白河法皇女御の平清盛女徳子、中宮となる。 **常陸平氏宗家5代目平直幹が6男長幹へ真壁を割譲。長幹は真壁城を築き真壁六郎長幹と称す。1176へ**
1173	承安 3	-852	3月 後白河法皇、平清盛に宋への返書を命ず。　5月 文覚 伊豆に配流。
1174	承安 4	-851	3月 後白河法皇と清盛、福原から厳島へ赴く。
1175	安元 1	-850	7月28日改元　法然 浄土宗を開く。
1176	安元 2	-849	4月27日 源頼朝34歳 配流先伊豆國北條で文覺より以仁王の令旨を受領し、挙兵を促す後白河の密命を聞く。 **6月以前、常陸平氏宗家5代目平直幹は妻と共に長男義幹に殺害さる(『吉記』安元2年6月18日条)。義幹は常陸大常識と多気の所領を相続し多気太郎義幹と称す。**　10月 運慶 円成寺大日如来像を作る。
1177	治承 1	-848	安元3年6月1日 **鹿ヶ谷の会議** 藤原信西男静賢(後白河・平清盛両者から信頼されていたので本件には無関係か)の山荘にて平家打倒の謀議。後白河は関与するも会議には欠席(清盛の判断で追求せず)。摂津源氏多田行綱の密告で発覚。清盛 西光法師を斬首、藤原成親・俊寛・平康頼・蓮海らを流罪(成親は清盛により配流先備前國で殺害)。　頼朝 北條政子と結婚。　8月4日改元
1178	治承 2	-847	2月 源頼政 従三位　11月 言仁(ﾄｷﾋﾄ)親王(安徳天皇)誕生 父高倉天皇/母滋子(清盛女)
1179	治承 3	-846	8月1日 平重盛1137- 病没42歳　後白河法皇 重盛の知行國だった越前を没収 11月20日 平清盛 後白河法皇を鳥羽院に幽閉、院政停止。　『梁塵秘抄』成る。後白河法皇。
1180	治承 4	-845	この年、源頼朝が瀬戸神社創建、北條政子が枇杷島弁財天を創建(横浜市金沢区)。 2月 平清盛の圧力で高倉天皇譲位/81代安徳天皇即位3歳-1185 4月9日 後白河と平清盛に皇位継承の望みを絶たれた後白河の皇子以仁王30歳、平家討伐の令旨を発す(**以仁王令旨**)。以仁王は源三位頼政(伊豆國主)76歳を誘う。 4月10日 山伏姿に身を窶した新宮十郎源行家(義朝弟)が令旨を全國の源氏に伝えるべく出発。だが行家は熊野新宮僧兵にそのことを漏らしていた。 4月27日 源頼朝34歳 配流先伊豆國北條で文覺より以仁王の令旨を受領し、挙兵を促す後白河の密命を聞く。 5月14日 平清盛 後白河の幽閉を解く。 5月15日 平清盛 以仁王が平家追討令旨を発したことを知る。 5月26日夜-27日未明 宇治合戦(宇治橋・平等院の戦い)。以仁王・源頼政/仲綱父子・渡辺競ら300は大津三井寺から奈良興福寺へ向け逃走中山城國宇治で平家勢2万に追いつかれた。平等院に籠もったが頼政/仲綱は以仁王を逃がした後自害。以仁王も山城國光明山にて流れ矢で敗死。 5月27日朝 大津三井寺炎上。攻撃に消極的な宗盛・通盛らに代わり、宇治合戦から凱旋した平知盛・重衡らが焼き討ち。 6月1日 平清盛 福原(神戸市兵庫区・長田区)遷都を発表。 6月2日 平清盛 安徳天皇・後白河法皇・高倉上皇を福原へ移す。 6月3日 清盛、**福原遷都**強行。 6月19日 源頼朝へ三善康信より宇治合戦の詳細と平清盛の源氏追討令発令の知らせ来る(康信の母は頼朝乳母の妹)。 6月27日 源頼朝を大番帰途の三浦義澄、下総千葉常胤6男胤頼(両名とも桓武平氏良文流)が訪ねる。 7月5日 源頼朝 伊豆山郷/律師に妻政子を預け、後事を託す。 7月10日 源頼朝へ安達籐九郎盛長から報告あり。 7月23日 頼朝の陣へ住吉昌長・大中臣頼隆が参じる。 8月4日 源頼朝近臣の絵師大和判官代藤原邦通が伊豆國目代山木判官平兼隆の屋敷図と周辺見取り図を頼朝へ持参。頼朝は兼隆を第一標的と定め北條時政を閑所へ招いてその絵図を前に軍評定(ｲｸｻﾋｮｳｼﾞｮｳ)。山木を第一標的とさせたのは時政であり、三嶋大社祭礼の日を決起日としたのも時政の建言による。 8月18日未明 **源頼朝挙兵** 30余騎で山木館を夜襲。山木兼隆を討ち取る。 8月20日 源頼朝の軍300余となる。 同日 三浦義澄一党300は軍船にて出航せんとするが風浪やまず。 8月22日 三浦義澄らは陸路に変更。しかし、諸河川の増水でこれも難儀。23日夜、丸子川(酒匂川)を渡れず八木下(鴨宮付近)に布陣。 8月23日夜 源頼朝軍300(北條時政父子、安達盛長、狩野茂光、土肥實平(**桓武平氏良文流**)、大庭景義(**桓武平氏良文流**))らは、相模國土肥郷**石橋山の合戦**で大庭景親・熊谷直實軍(伊豆・相模・武蔵の武士3300)に大敗。背後からは伊東祐親の軍勢。 8月24日 **小坪合戦** 三浦義澄らは石橋山から敗走した三浦党の大沼三郎から戦況を訊く。圧倒的な戦況不利を知り衣笠での再挙を決定。撤退途中、和田義盛が平家方畠山重忠の陣へ挑発行動。応じて三浦党を追った畠山重忠軍500は由比ヶ浜-小坪辺りで追いつく。義澄100騎が待機し義盛200騎と畠山重忠500騎が稲瀬川で対峙するも両者親戚であることから和平交渉成る。ところが別行動をとっていてこれを知らぬ和田義茂(義盛弟)7騎が重忠軍へ斬り込んだため義盛200騎も戻って合戦。義茂と重忠側秩父平氏武蔵党の綴氏の一騎打ちとなり義茂は次々に綴氏3名の首を取り合戦終了。これが二日後の三浦攻めの原因となる。 8月24日 伊豆椙山 の「しとどの窟(ｲﾜﾔ)」に潜む源頼朝らを大庭景親一族の梶原景時が発見するも故意に見逃す。 8月26日 **衣笠合戦** 川越重頼・江戸太郎重長らを糾合した畠山重忠軍3000騎は衣笠城を攻め、三浦義澄父義明89歳を討ち取る。義澄らは船で安房へ敗走。(秩父平氏の多くは頼朝挙兵直後は平家方) 8月27日 源頼朝、土肥實平の建言に従い實平の領地真鶴岬から海路安房へ這走。 8月29日 源頼朝、安房國平北郡猟島(安房郡鋸南町竜島)に上陸。先着の北條時政・和田義盛・三浦の一党らが浜に出迎える。**頼朝再挙兵。** 一説に「頼朝は鴨川の仁右衛門島に隠れ、島司 平野仁右衛門に助けられた」とも。 9月1日 清盛 大庭景親使者により頼朝の再挙兵を知る。 9月4日 頼朝 安西三郎景益の館に匿われ、景益の建言に従い上総介廣常には和田小太郎義盛を、千葉介常胤には安達籐九郎盛長を派遣し、書を以て協力を訴えることに決定。 9月5日 清盛 平維盛・薩摩守平忠度・平知盛らを大将とする頼朝討伐軍派遣を決定す。しかし進発は29日まで遅れる。 9月7日 上総介廣常を訪ねた和田小太郎義盛早々に帰着。廣常は「千葉介と相談のうえ、後日回答する」と回答した旨を報告。 9月7日 **源(木曽)義仲信濃國木曽に挙兵。**　**武田信義 甲斐國に挙兵。** 9月9日 千葉介常胤を訪ねた安達籐九郎盛長帰着。「常胤は即、協力を承諾した」と報告。盛長は、常胤が決心するまで城外で3日間待っ

西暦	元号	年数	EVENT
			た。深慮遠謀。対して和田義盛は性急な性格。ともあれ、廣常と常胤のこのときの態度が後に両者の命運を決定付ける。 9月13日 頼朝 手兵200と共に安房國から上総國に到着。安西景益も従う。この時点で上総介廣常は未だ頼朝に参陣せず。頼朝一行は同日下総國に至り千葉介常胤ら300が下総國府に頼朝を迎える。頼朝 感激す。常胤は鎌倉を源氏再興の地とすべき旨建言。 9月19日 頼朝 千葉介常胤の建言に従い鎌倉に本拠を置くことに決定し下総國府を発す。300騎(600の説も)。 同日 隅田川到着。鷺沼の陣。ここへ上総介廣常率いる2万騎合流。頼朝は廣常の遅参を叱責。廣常参陣により他家も加わり2万7千余騎となる。鷺沼の陣へ義経同母兄全成も参陣。頼朝挙兵を知って東下し佐々木兄弟と共に澁谷重國館に匿われていた。 9月24日 頼朝より武田氏糾合の命を受け甲斐國石和御厨に宿して甲斐源氏武田太郎信義と折衝中の北條時政・義時父子の許へ頼朝の使者土屋宗遠着。「駿河國に参会せよ」と。 9月27日 江戸太郎重長**(桓武平氏良文流秩父氏系)**は隅田川対岸の江戸を守り頼朝に従わず。頼朝は江戸氏一族の豊嶋(テシマ)清元・葛西清重らを介し、さらには使者を直接派遣して「平家に与したことを水に流すから従うよう」勧論。結果、重長も頼朝に参陣。 9月29日 小松少将維盛を総大将とする頼朝討伐平家軍3万余騎、当初予定の9月22日から1週間も遅れて京都進発。 10月2日 3万余騎となった頼朝軍、隅田川を渡り江戸隅田宿に入る。豊嶋清元、葛西清重、続いて足立遠元が迎える。後の小山朝光14歳もここで参陣。 10月4日 500余騎を率いる畠山次郎重忠 頼朝に参陣を請う。土肥實平、千葉常胤らの推挙により許される。三浦氏も了承したが、以後、両家は不仲。頼朝は重忠に鎌倉入り先陣を命じ、以後、重忠は期待に応えて幕府の重臣を務める。 一方、北関東の佐竹冠者秀義、新田大炊頭義重、足利太郎俊綱は頼朝打倒の号令。 **10月6日 頼朝軍 相模國に至り、10月7日 鎌倉入り。** 頼朝は当初、源頼義が平直方から譲り受け、清和源氏棟梁の『鎌倉の楯』として義家・為義・義朝・義平と受け継がれた扇ガ谷源氏山麓(現在の寿福寺)に本拠を構えようとしたが、ここには既に岡崎義実が源義朝を弔う堂宇を建てていたので、頼朝は大蔵の地に変更した。その大蔵が鎌倉幕府発足の地となる。 10月13日 平維盛率いる頼朝追討軍駿河國手越駅に到着。海道の兵を加え7万余騎。先陣は富士川に達す。 10月14日 甲斐源氏武田太郎信義・安田義定、および石橋山敗戦後甲斐に逃げていた頼朝方の加藤次景廉らが平家方の駿河國目代橘遠茂軍と交戦し目代を捕獲。事前に武田氏と北條時政・義時父子が軍議を開く。 10月16日 鶴岡八幡宮寺仮堂落成。1063に源頼義が祀った八幡様を由比郷(材木座)から遷座。1191へ 同日 頼朝 9月29日に平家軍が京都を進発したことを早馬にて知る。 同日 鶴岡八幡宮寺仮堂落慶式後、頼朝軍3万余騎、平家軍を駿河國で迎撃のため進発。 10月17日 頼朝軍 松田泊。 10月18日 頼朝軍 足柄峠を越え駿河國へ。 同日 平家方大庭三郎景親は河村党を含む1千余騎にて富士川で平家軍と合流するため進発。刈野の森で頼朝軍と遭遇。その大軍に驚愕。直ちに自軍を解散し河村山に逃亡。配下の梶原平三景時は部下も見捨てて遁走。 同日 頼朝軍は黄瀬川泊。甲斐源氏武田太郎信義軍2万と合流。 10月20日 **富士川の合戦** 平家方総大将平惟盛・知度・忠度・實盛ら7万 vs 源氏方は甲斐源氏主体で頼朝・千葉常胤・三浦義澄・上総介平廣常等(吾妻鏡では総勢20万と)。駿河國富士川で対峙。 平維盛が斎藤別当實盛に意見を聞く。實盛「東國の兵は強い・・・撤退すべし」と述べ、この夜、数十名の部下と戦線を離脱し帰京。 夜襲総攻撃に先立ち平家軍の背後に回ろうとした武田信義率いる1万騎に驚いた水鳥の羽音と対岸の篝火に平家軍は狼狽し大将の平維盛を含め全兵が我先に西へ遁走。結果、頼朝軍は大して戦わず圧勝。 頼朝 一旦は追撃命令を発するも三浦介義澄・千葉介常胤・上総介廣常3名の「佐竹討滅、関東平定を優先すべき」との諫言を容れ命令を撤回、黄瀬川まで撤退着陣。同日夕 **義経(頼朝異母弟)ら20騎 黄瀬川に参陣し頼朝と涙の面会。** 黄瀬川の陣では、北條時政・土肥實平らを介し投降者多数。荻野俊重・曽我祐信・伊東祐親ら。三浦義澄の助命嘆願で頼朝は祐親を義澄に身柄預け(祐親は恥じて後日自殺)。頼朝は子の伊東祐清には嘗て命を助けられたことから参陣を請うたが、祐清は「平家の恩に報いる」と平家方へ去る。後、斎藤別当實盛と共に1183篠原の合戦にて討死する。 10月20日 延暦寺の大衆蜂起 清盛に還都を迫る。 10月22日 頼朝 武田信義を駿河國守護、その弟安田義定を遠江國守護に任じて黄瀬川撤退。 同日夕 富士川から遁走した平家軍の逃げるに速き者、京に着。清盛怒り上総守忠清を斬罪、総大将平維盛流罪。 10月23日 頼朝 相模國府(大磯町)着。富士川合戦最初の論功行賞。北條時政・千葉常胤・三浦義澄・上総介廣常・和田義盛ら本領安堵または新恩に浴す。義澄には ″私的″ に三浦介を安堵。降伏した大庭景親、長尾定景ら頼朝面前に出頭。 10月26日 頼朝 河村三郎義秀を斬罪、大庭景親を固(片)瀬川河畔で梟首、長尾新六定景(景虎の先祖)は三浦義澄に身柄預け後、岡崎義実に引き渡される。義実は石橋山にて定景が討った佐奈田義忠の父であるが、後、定景を許す。 10月27日 頼朝 当時平家方であり挙兵に応じなかった**佐竹氏征討**のため相模國府を進発。 11月4日 頼朝率いる佐竹征討軍20万、常陸國府(石岡市)へ着陣。千葉常胤・上総介廣常・三浦義澄・土肥實平以下宿老の類、群議を凝らす。志田義廣は府中にて、以仁王令旨を持って来合わせた弟新宮十郎源行家と共に甥の頼朝に面会したが、頼朝の態度が傲慢だったことから敵対心を抱き、これが1183の ″志田義廣の反乱/野木宮合戦″ へ発展する一因となったらしい。 佐竹義政: 秀義の伯父。太田城主として奥七郡を支配。 佐竹隆義: 義政弟。常陸介。このとき、大番で京都にあり。 佐竹昌成(義季か): 隆義弟 佐竹秀義: 隆義男 義政は降伏勧告に応じ大矢橋上で頼朝と対面するが、ここで上総介廣常が義政を騙し討ち。秀義は金砂山城に籠もる。 11月5日 佐竹昌成の頼朝方内応で上総介廣常軍により金砂山城陥落。秀義は陸奥國花園城(北茨城市)へ逃亡。 11月5日 平家内部からも福原遷都に不満。平宗盛 清盛と口論。 11月6日 上総介廣常 佐竹秀義逃亡後の金砂山城に入り、城壁を焼き払う。 11月8日 頼朝 常陸國府にて佐竹征伐に於ける論功行賞を行なう。このとき、捕らえられた佐竹家臣の中で、頼朝に騙し討ちされた義政家臣 岩瀬余市が頼朝を非難。頼朝は正論に勝てず、余市を許す。 **同日 頼朝 鎌倉への帰途小栗重成居館に宿泊。頼朝は常陸平氏へ猜疑心を抱いており、常陸平氏の中で例外的行動をとった小栗氏を賞す。** 11月10日 頼朝 武蔵國の葛西清重宅に宿泊。武蔵國丸子庄を清重に賜う。 11月17日 頼朝 鎌倉へ凱旋。侍所別当に和田小太郎義盛を任ずる。義盛の別当職就任は、猟島上陸時の約束・・・と。 11月20日 清盛 福原から平安京へ還幸すべきか否かの会議。席上、勧修寺宗房が「還都すべし」と発言。清盛激怒するも、翌日・・・ 11月21日 清盛 平安京への還幸を公表。 11月26日 清盛 福原京を4ヶ月で捨て**平安京還都**。この後、江戸期幕末(1868)まで京は京都にあり。 12月12日 頼朝が10月、大庭景義に命じた大倉郷の新館が完成し引越す。この行列に出仕した家人は北條時政、土肥實平、安達盛長、佐々木盛綱、三浦義澄、和田義盛、千葉介常胤、上総介廣常、畠山重忠ら311人(一説に211人)。 12月24日 信濃を掌握した義仲軍が碓氷峠を越え上野に進軍したところ頼朝から軍を引くよう抗議。義仲は信濃へ戻る。 12月28-29日 清盛男**重衡が南都(奈良)焼き討ち**。盧舎那大仏を含め東大寺・興福寺全焼。火は空を焼き、京都からも見える。
1181	養和 1	-844	治承5年1月 平清盛、兵糧と兵力確保のため平宗盛を五畿内の惣官とす。 1月14日 高倉院没。清盛 後白河院を釈放。院政復活。 **閏2月4日(1181年3月20日) 19:00 平清盛64歳1118- 1月28日夜からの熱病にて没す。**宗盛 平家棟梁。 2月10日 平家の源頼朝追討軍、先発隊が京を進発。平宗盛家人景高ら。 2月15日 平家の頼朝追討軍、本隊が京を進発。大将平重衡ら。これらのことは三善康信により頼朝に報告。 2月17日 頼朝 安田義定らに遠江國浜松庄橋本を固めるよう要請。 2月23日 志田義廣から「鎌倉(頼朝)を攻めるので与して欲しい」と要請された小山朝政は軍議を開く。朝政の「あくまでも頼朝に味方する」の意見に皆が賛同し、老軍師らの「与同すると偽り義廣を討つ」の意見に朝政も従う。1183へ 3月10日 美濃國**墨俣川の戦い** (勝)平重衡 vs 源行家。策士行家の作戦負け。夜襲失敗で義経の実兄義円まで失う。これ以前、行家の領地要求を頼朝が拒否したため行家は怒り、蒲郡に館を構えて尾張源氏を名乗っていた。行家は墨俣敗戦後矢作川まで逃げたところで頼朝軍に遭遇したため木曽義仲を頼る。 6月14日? 信濃國**横田河原の戦い** 越後平氏城太郎資長 vs 義仲(勝) 7月14日改元 7月20日 頼朝 鶴岡八幡宮寺棟上式(現社殿は江戸時代)。浅草から来た匠のために義経に馬を引かせる。

西暦	元号	年数	EVENT
			8月13日 後白河法皇 頼朝牽制のため奥州鎮守府将軍藤原秀衡に頼朝追討の院宣を発す。義経は秀衡子飼いの武士。 重源 東大寺再建の勧進を開始。
1182	寿永 1	-843	三浦義澄が預かっていた伊東祐親自殺(生年不詳)　5月27日改元　この年 大干魃。飢饉で死者京に満つ。　源頼朝は政子の安産を祈願し参道の若宮大路に段葛造成　8月 頼朝・政子に長男萬壽誕生 長じて2代将軍源頼家　10月 平宗盛 内大臣
1183	寿永 2	-842	鎌倉へ「平宗盛ら平家軍 京を進発」の報が入る。対して和田・宇佐美・岡部諸氏が浜松まで迎撃に出て鎌倉は手薄となる。 2月20日 **志田義廣の反乱** 平宗盛の甘言で鎌倉を攻撃しようとしたが、2月23日の**野木宮合戦**で源頼朝方小山朝政奇策により打ち破らる。 2月23日　義廣軍3万は佐竹氏の一部・下野小山(ｺﾔﾏ)氏の一族関政平・**多気義幹・下妻弘幹・東條忠幹・真壁長幹・鹿島氏一族等。小栗氏**は離脱して頼朝方。頼朝方は、下野小山朝政・弟宗政と、同族で古河の下河辺行平・弟政義が中心となり、八田知家も加わる。義廣軍は下野で小山朝政に大敗、奥州に敗走。義廣自身は東山道から木曽義仲の陣中へ転がり込む。足利又太郎は九州まで遁走。 **乱後、東條氏所領西端の稲敷郷は龍ヶ崎氏祖下河辺氏所領となり、義廣の信太庄は小田氏祖八田知家の所領となる。** 宗盛率いる平家軍は東海道でなく北陸道を進軍。　4月17日 越前國**燧ヶ城(ﾋｳﾁｶﾞｼﾞｮｳ)の戦い**(勝)平家vs義仲 4月 義仲が長子義高を人質として鎌倉へ送る。 5月11日夜 平家軍10万(7万とも)が義仲軍5万に北陸道**倶利伽羅峠(加賀砺波山)で大敗**。義仲軍は牛に松明。平家軍は谷へ落下。 6月1日 加賀**篠原の戦い** 平家vs義仲(勝)　この戦いで「義によって」平家に加勢した板東の武士は全滅。俣野五郎景久・高橋判官長綱・真下次郎重氏・州浜判官高能・射水藤太俊貞、さらに斎藤別当實盛、みな討死。 6月 源氏の迫った京都では、宗盛が六波羅で一門集議。宗盛は西國に落ちて再起を図ると言い、知盛はじめ若い公達は踏みとどまると主張・・・散会。 7月22日 義仲軍(志田義廣、新宮十郎源行家含む) 京の入口の近江國坂本まで進軍。 7月24日 後白河法皇へ北面武士左衛門尉資方が「明払暁 平家は西國へ都落ち」と密告。同夜、後白河は鞍馬へ脱出。 7月25日 **平家一門都落ち**　安徳天皇/國母建礼門院 神器を奉じて太宰府へ。このとき、平忠盛の男で(元)常陸介平頼盛は平家一門に従わず頼朝を頼る。頼朝は頼盛を保護。一旦没収した所領を返還し池禅尼の温情(1151, 1160参照)に応える。信太荘は美福門院得子から八條院暐子(ｼｮｳｼ)へ、以降、本家職は安嘉門院、亀山上皇。後宇多上皇のときに昭慶門院へそれぞれ伝領。領家職は常陸介頼盛から男光盛へ伝領。1185へ 7月26日 **木曽義仲軍入京**。　7月27日 後白河院 鞍馬から戻る。 8月 後白河法皇は三種の神器なきまま践祚の礼を強行、安徳弟4歳を即位させ82代後鳥羽天皇-1198 後白河は義仲を従四位に叙し朝日将軍の院宣。頼朝には征夷大将軍職の内示。 9月 緒方氏に太宰府を逐われた平家軍は、それでも山陽道八カ國、南海道六カ國を従え、四國屋島に仮内裏を建設。 行家に「平家討伐」の院宣。続いて義仲には「直ちに平家討伐」の院宣。義仲の陣を包囲する形で行家の軍。 10月1日 備中國**水島合戦**(倉敷市玉島)(勝)平家vs木曽義仲 10月 後白河法皇と頼朝の妥協成立。頼朝の官位を従五位下右兵衛佐(ｼﾞｭｺﾞｲｹﾞｳﾋｮｳｴﾉｽｹ)とし東國支配を認可。 11月20日 **義仲が後白河法皇と後鳥羽天皇を幽閉**。後白河 鎌倉へ救援要請。　11月29日 播磨**室山合戦**(勝)平家vs義仲 12月 頼朝 梶原景時を以て上総介廣常を誅す。翌年正月、廣常の濡れ衣が判明。 この年 北條泰時誕生-1242 北條義時長男。長じて鎌倉幕府3代執権、御成敗式目(貞永式目)を制定する。 宋の仏工陳和卿 東大寺大仏の補修を開始。
1184	元暦 1	-841	寿永3年1月11日 **木曽義仲 征夷大将軍** 1月20日　義仲vs頼朝の雌雄を決する宇治川で、源頼朝派遣義経軍の佐々木高綱が頼朝の生月(ｲｹﾂｷ)にて渡河先陣、同じく頼朝の磨墨(ｽﾙｽﾐ)に乗る梶原景季、平山季重・糟屋有季・熊谷直実・直実男直家、次いで2万5千。義仲は義経軍に鳥羽・伏見-羅城門-六條河原と押され逢坂の関から近江國粟津へ逃げたが相模國住人石田小太郎為久の矢に当たり**義仲死す**31歳。後、高綱と同じ近江源氏の佐々木義實が大津石山寺末寺として義仲寺を建てる。志田義廣、十郎行家は逃亡。 この義仲と頼朝の争いの中、平家は福原に戻り摂津と播磨の國境一ノ谷に城を築いた。生田の森を東の前線とし、一ノ谷との間三里に7万6千の兵を配置。 1月26日 平家追討軍京を進発。大手頼範軍5万6千には小山朝政・武田有義・下河辺行平・千葉常胤・梶原景時・稲毛重成・畠山重忠・曽我祐信ら、搦手義経軍2万には遠江守義定・大内惟義・土肥實平・熊谷直実・山名義範・平山武者所・三浦十郎ら。 1月27日 義仲戦死を鎌倉の頼朝へ報告する飛脚が相次いで到着。安田遠江守・源範頼・義経・一條忠頼の使者に遅れた梶原景時の報告には詳細な敵方戦死者と捕虜の氏名があったため頼朝は景時を重要視するようになった。景時の報告にはまた範頼が家人と先陣を争った旨あり、範頼鎌倉召喚の原因となる。 2月5日 平資盛ら前衛部隊7千 三草山(兵庫県社町上三草)の西に陣す、東には範頼・義経。義経は田代信綱・土肥實平と軍評定(ｲｸｻﾋｮｳｼﾞｮｳ)。信綱の意見 ″夜襲″ に決定。夜襲に資盛らは周章。資盛ら平家軍 高砂-屋島へ敗走。 2月7日 **一ノ谷の戦い**(義経70騎鵯越坂落しの奇襲)。平敦盛1169- 熊谷直實に敗死。 平重衡・教経は生け捕り。通盛・忠度・師盛・経正・経俊・知章・業盛・盛俊は敗死。 一門の総帥宗盛は安徳天皇と三種の神器を奉じ和田岬から水軍にて屋島へ脱出。ここに平家方の指揮系統消滅。 4月8日 一ノ谷で捕らわれた平重衡、義経により鎌倉入り。伊豆國狩野介宗茂に預けられ、後、文治元年6月23日木津川で斬首。 4月14日 三善康信鎌倉へ下向。　4月16日改元 4月26日 頼朝 木曽義仲より人質として預かっていた義仲男義高12歳を武藏國入間川で堀籐次に斬らせる。 5月4日 志田義廣 伊勢國で頼朝方に敗死。 5月21日 頼朝 論功行賞。挙兵に軍功のあった者に一州の國司を任ず。参河守蒲冠者源範頼、駿河守伏見廣綱、武藏守大内義信。義経はこの除目から外され、悲運始まる。 7月 義経 院宣により再び平家追討使。しかし伊賀國和泉守信兼源氏追討の挙兵を理由に頼朝は義経を解任、京都警護を命ず。鎌倉帰省中の範頼を平家追討司令官に起用。 8月6日 後白河法皇 義経を御所に招き検非違使少尉に任ず。義経 鎌倉に報告の飛脚をたてるが頼朝 不快感を示す。義経が伊賀平家残党を捕らえると法皇は従五位下大夫判官に任じ、頼朝 更に不興となる。 8月8日 範頼 北條義時・和田義盛・千葉常胤・三浦義澄ら1千騎にて鎌倉進発。頼朝 長谷稲瀬川に桟敷を設け壮行会。 9月1日 後白河法皇 上洛した範頼に平家追討使官符を下すが、範頼 目的地九州まで遅々として進まず、12月に備後國到着。 10月6日 頼朝 鎌倉に公文所(後 政所と改む)と問注所を設置。　この月 義経は後白河により院内昇殿を許される。
1185	文治 1	-840	元暦2年1月6日 源範頼の飛脚、鎌倉着。「兵糧欠乏、戦意喪失・・・」と。　1月12日 範頼 焦慮のあまり周防から赤間関へ進出し平家を攻めようとしたが船と食料の調達ままならず。赤間関で逗留。範頼、危機的状況。 1月26日 範頼 豊後の臼杵次郎惟隆と緒方三郎惟栄(ｺﾚﾖｼ)献上の82艘で辛くも豊後に渡る。下河辺行平・政義兄弟、八田知家父子あり。 **ここには常陸平氏皆無** 2月16日 平家 2箇所に布陣。平宗盛は讃岐國屋島(香川県高松市)、知盛は門司関(北九州市門司区)を固め、対岸の彦島(山口県下関市)を陣営とす。 2月17日 午前2時頃 義経150騎四國へ向け暴風雨の中摂津渡辺を出帆。 2月18日 義経 午前2時5艘の軍船で漕ぎ出し午前6時阿波國勝浦(徳島市)へ上陸。即刻桜間城を攻略。夜明け前に屋島対岸讃岐國引田着。人馬休養を兼ね屋島攻略の軍議。 2月19日 午前6時 義経軍屋島内裏到着、僅か150騎で平家軍を急襲。**屋島の戦い**。平家軍は瀬戸内海へ敗走。平維盛(1157-) 出家後入水(と言われるが実は既に屋島を30艘の船団で脱走し紀伊國湯浅氏を頼っていた)。 2月19日夕刻 互いに軍を引いた海辺で那須与一の「扇の的」。風流を知らぬ東夷の義経は舞う老武者まで射殺させる。 2月21日 平家家人であった田内左衛門尉 源氏に帰服。伊予の河野四郎通信 30艘の兵船と共に義経軍に参加。 2月22日 梶原景時軍の接近により平家軍壇ノ浦へ撤退。 3月20日 これまでに源氏方水軍計840艘に増強。伊予水軍河野、熊野水軍田辺湛増、周防國船所五郎ら。 3月21日 周防國の義経 豪雨のため壇ノ浦への出発を延期。周防國の在庁官人船所五郎正利が数十艘の船を献上。 3月22日 義経 数十艘を率い壇ノ浦へ進発。三浦義澄 大島津で義経を迎える。義経 三浦義澄に案内役を命ず。

西暦	元号	年数	EVENT
			同日 平家方も本拠地彦島進発。知盛 覚悟を決め非戦闘員も船に乗せる。小者、雑人、子女房には金銀を分け与える。 3月23日 義経 壇ノ浦へ到着。源氏側 計840艘、平家側 唐船の他に500余艘。 3月24日 卯の刻(午前6時)(玉葉では午刻(正午)) **壇ノ浦の合戦** 矢合せ。義経・景時対立、土肥次郎實平らが仲裁。 **平家滅亡** 安徳天皇8歳・平時子・知将知盛・有盛・清経・資盛・経盛・教盛・教経・盛継、他に伊賀家長・上総忠光・飛騨景経・飛騨景俊・越中盛嗣・平忠房ら阿弥陀寺(後鳥羽天皇勅旨で建立)(現赤間神宮)に合祀。(実は資盛は屋島へも行かず豊後に留まっていた) 平家総帥平宗盛・清宗父子は入水するも水泳ができたため虚しく泳ぐところを捕縛され義経が鎌倉へ護送。約1ヶ月滞在。その間、義経は腰越に留め置かれる(腰越状を頼朝へ送る)。その後、京へ護送中近江篠原で義経により斬首。首は京で梟された。 平清盛妹/安徳天皇生母建礼門院徳子29歳は助命され東山麓の長楽寺へ。この年10月大原寂光院へ移り1213没。 4月12日 戦後処理軍議(宿老評議) 範頼軍は九州に留まり平家没官領の処置、義経軍は平家捕虜を連れ上洛すべし。 4月26日 義経 神鏡、神爾を奉じ平氏捕虜と共に京へ凱旋。寶剣は安徳天皇と共に海へ。 5月8日 鎌倉に於いて「鎮西事等」につき沙汰を経て七ヶ条の処理方針決定。大江廣元・三善康信・藤原俊兼・藤原行政・惟宗孝尚ら。これは公文所寄人の一般政務処理の評議である。 6月23日 平重衡(1157-) 頼朝から南都の大衆に引き渡され、奈良東大寺・興福寺の僧により木津川で斬首さる。 8月14日改元 8月28日 東大寺大仏開眼。寿永2年4月に着工し、この日後白河法皇の御行を仰いで開眼。頼朝は全用材を守護佐々木高綱の周防國から供給させ、仏像の建立は鎌倉の諸御家人に割り当て。大仏殿は建久6年春に完成。 10月9日 頼朝の強い意志を受け義経を誅すべきの軍議(複数回)。その刺客、土佐房昌俊に決定。 10月17日 義経暗殺失敗。翌日、逆に義経の奏請により後白河が動く。 10月18日 後白河法皇 頼朝追討の院宣を義経に発す。 10月22日 頼朝 京よりの使いから院宣のことを知るが動ぜず。 10月25日払暁 上洛軍先発隊鎌倉を進発。小山朝政・結城朝光ら58名。頼朝 義経と行家討伐を指示。 10月29日 頼朝 鎌倉進発。土肥實平先陣、千葉介常胤後陣。 11月1日 駿河國黄瀬川着、しばし逗留。 11月3日 義経は西國、行家は四國へ向け都落ち。 11月5日夜 義経 淀河口から出船。暴風で遭難 行方不明。 11月11日 後白河 畿内・近國の國司に義経捜索令を発し、頼朝へは頼朝追討の院宣を発した弁解の使者。頼朝はその使者に「法皇は日本一の大天狗・・・」と。京には頼朝の板東武者が溢れる。 11月25日 後白河 頼朝の怒りを静めんと義経追討令を発す。文中の「不日に所在を尋ね捜して」は全國に頼朝の手が及ぶことを意味し鎌倉はこれを利用。公文所長官大江廣元が守護(守護は後の呼称)・地頭設置、補任権獲得を頼朝に献策。 11月28日 北條時政が院に参内し、守護・地頭設置に加えて諸國からの兵糧米徴収を願い出る。 11月29日 朝廷、これを認める。頼朝 ここに**追捕使・地頭補任権を獲得**。これを以て**平安時代終期/鎌倉時代始期**(諸説あり)。1333まで148年間。 頼朝は領地を持たない御家人を多く登用、全國に配置。朝廷から派遣された國司と共に地方政治を行なう。 12月6日 頼朝の意を受けた朝廷内の人事発令。 11月17日 義経の妻(妾)静(静御前)が吉野で捕縛され、12月8日 京の北條時政へ引き渡される。 この頃、信太荘領家職の平光盛は信太荘と南野荘を某と交換。1211へ
1186	文治 2	-839	3月 静御前が鎌倉へ送致され、4月8日 頼朝から鎌倉八幡宮寺社殿前で白拍子の舞を命じられる。 5月 新宮十郎行家 和泉國で頼朝方に討たれる。 7月28日 静が義経の子を生むが、男子のため即刻溺死させられる。静は釈放。 8月15日 頼朝 八幡宮にて西行(藤原秀郷後裔 俗名佐藤義清(ノリキヨ))に会う。西行は平重衡(清盛男)が焼いた奈良興福寺、東大寺の再建を目的とする勧進のため奥州藤原氏方へ向かう途中。陸奥守藤原秀衡も秀郷の後裔。 ケチな頼朝は勧進に応ぜず。頼朝が与えた銀の猫を、西行はすぐに鎌倉の子らに与えた話はこのときのもの。
1187	文治 3	-838	2月 義経奥州逃亡の噂が鎌倉へ入る。 畠山重忠 菅谷(比企郡嵐山町菅谷)に新しく城を構え本拠とす。 10月29日 陸奥守・鎮守府将軍 藤原秀衡 平泉にて病死す。生年不詳。奥州藤原氏3代目。祖父清衡 父基衡と共に遺体は中尊寺金色堂に現存。義経を将軍とし奥州六郡を守るため頼朝を討つよう遺言。家督を泰衡が継ぐ。
1188	文治 4	-837	2月 義経の奥州潜伏が鎌倉に発覚。 12月 頼朝の奏請により再度義経追討の院宣。 鎌倉五山第5位浄妙寺 足利義兼の真言宗極楽寺が前身、その後臨済宗。
1189	文治 5	-836	閏4月30日 頼朝の脅しに負けた藤原泰衡 軍兵5百にて義経の衣川館を夜襲。**義経自刃**31歳。 5月22日 泰衡が発した義経成敗を報じる飛脚、鎌倉到着。直ちに京へも報告される。 6月13日 義経の首、鎌倉着。和田義盛・梶原景時が首実検。固(片)瀬に梟す。 **奥州合戦** 6月 頼朝 奥州追討宣旨の発給を朝廷に要請するが成らぬまま鎌倉に軍勢を集結させる。 7月19日 頼朝 陸奥國藤原泰衡追討のため鎌倉進発。東海道軍は千葉常胤の下総と八田知家率いる**常陸武士団(伊佐為宗・為重・資綱・為家、小栗重成、多気義幹、鹿嶋頼幹、真壁長幹ら。東條氏不参加)**、北陸道軍は比企能員・宇佐見實政の上野・下野武士団、頼朝自ら率いる主力軍は畠山重忠が先陣をつとめ平賀義信・安田義定・和田義盛・小山朝政・三浦義澄・梶原景時らにより構成。進軍途中、宇都宮氏も東海道軍に合流。 7月25日 頼朝軍 下野國古多橋の駅に着。 7月26日 佐竹秀義が頼朝軍に参陣。これにより常陸國武士団全てが頼朝家人となる。 越後の城四郎長茂(餘五将軍平維茂の後裔)も参陣。嘗て平家方として木曽義仲と対戦した。 7月29日 頼朝軍 白河の関を越える。 8月7日 伊達郡阿津賀志山に近い國見駅着。 8月8日06:00 阿武隈川の合戦(阿津賀志山の戦い) 布陣していた秀衡の長男國衡率いる2万の軍勢を畠山・和田・小山らが破る。これが奥州合戦の序戦となる。 8月12日 陸奥多賀國府に進軍。 8月20日 頼朝 千葉・八田軍と合流。玉造郡に進軍。泰衡の多加波波城を攻略。 8月21日 板東軍3万 津久毛の柵に至る。これを知った泰衡は、こともあろうに父祖3代(藤原清衡・基衡・秀衡)が築いた平泉に火を掛け母・妻を捨てて敗走。 8月26日 頼朝へ泰衡からの赦免を請う書状が届く。 9月3日 敗走中の泰衡35歳(1155-) 郎従の河田次郎に殺される。**奥州藤原氏滅亡。** 9月6日 頼朝 泰衡の首実検。(首級は前3代のミイラと共に中尊寺金色堂に現存。眉間左と後頭部に各々1cm径の穴があり、八寸釘で釘打ちの刑の後、梟されたらしい。16箇所の切創・刺創あり。刀を7回振り下ろされ、後の2回で首が落ちたと推定される。) 頼朝は平泉に戻り10月1日まで恩賞授与等戦後処理。**頼朝の奥州平定成る。** 9月13日 頼朝 陸奥・出羽の戦乱で被害を受けた庶民代表各々に救済策の一つとして綿衣と馬を与える。 9月24日 頼朝 葛西清重を陸奥・出羽六郡の地頭取締役と平泉検非違使所長官に任ず。 10月2日 頼朝 平泉発。 10月19日宇都宮着。 10月24日 鎌倉へ凱旋。 この年 第3次十字軍遠征-1192
1190	建久 1	-835	この年、源頼朝が富岡八幡社を創建。 重源が東大寺再建。 文治6年2月 西行没73歳1118- 2月7日 熊谷直実 高野山に熊谷寺(ユウコクジ)を建立、自身が開山・開基。一ノ谷で斬った平敦盛16歳の供養のため。 4月11日改元 7月 法橋昌寛 10月の源頼朝上洛に備え先に上洛して宿舎の用意。 9月20日 大江廣元 頼朝上洛に備え、京へ向け鎌倉出発。 10月3日 頼朝44歳 京へ向け鎌倉出発。畠山重忠36歳 先陣をつとめる。馬係の八田知家遅参により出発が正午となる。 頼朝上洛軍 相模川手前懐島で夕暮れ。ここ、大庭景義領地で泊。最後尾はまだ鎌倉を出発せず。 10月4日 酒匂泊。 10月5日 関本から足柄越え、蒲原・安倍川を渡り岡部泊。 10月13日 菊川泊。この日、佐々木盛綱から鮭の楚割(スワワリ)が届き、頼朝喜んで一句詠む。 10月18日 天竜川を渡河、浜名湖橋本の駅泊。鎌倉・京の中間点。 10月25日 頼朝 父義朝の墓がある野間の大御堂に立ち寄る。 10月29日 美濃國青墓駅着。平治の乱に破れ敗走中の頼朝(当時14歳)が父義朝の死を聞いた場所。そのとき情けを受けた青墓の長者大炊も、その女延寿ともに世になく、その他の大炊の女に会う。この日、頼朝は父義朝を殺した長田庄司忠致を土磔で4～5日かけて殺すという苛酷な刑に処す。 11月5日 近江國野次の駅着。翌日上洛を予定したが、6日は朝から雨だったのと凶日のため延期。 11月7日 頼朝上洛。畠山重忠・大井四郎太郎・大田太郎・高田太郎・山口小七郎・熊谷小次郎直家・小倉真三・下河辺政義・澁谷重近・熊谷又次郎・小山田重成・北條義時・小山兵衛尉、次に頼朝。後に八田知家・伊東四郎・加藤次景廉・三浦義連・葛西清重。後陣は梶原刑

西暦	元号	年数	EVENT
			部・蒲田太郎・品川三郎・金子十郎・下河辺行平・小沢三郎・江戸太郎・梶原景時・千葉介常胤。常陸平氏では石河六郎高幹(石河氏は江戸期水戸藩士)・馬場二郎資幹・多気太郎義幹・鹿嶋三郎政幹・鹿嶋六郎・真壁六郎長幹・豊田太郎幹重・豊田兵衛尉ら(東條氏不参加)。車中から覗いた後白河法皇64歳は、頼朝に畏怖を覚える。 同日 頼朝は大江廣元の裏工作にて征夷大将軍職を得ようと後白河法皇に談判するが成らず。 11月9日 頼朝 後白河法皇御所を奉伺。同日 天皇内裏に参内。同夜 頼朝 権大納言に任ぜらる。 11月24日 頼朝 右近衛大将。 12月1日 右近衛大将職拝賀のため参内。 12月11日 頼朝 帰國挨拶のため後白河の御所を奉伺。 12月13日 後白河 頼朝に車二輌を贈る。近江國守護佐々木定綱が奉行として鎌倉へ廻送。 12月14日 頼朝 両官職を辞して鎌倉へ向け京を出発。 12月29日 (前(サキノ))権大納言右近衛大将頼朝 鎌倉帰着。
1191	建久 2	-834	椀飯奉仕 今般は前年 源頼朝が権大納言右近衛大将(既に辞職)に任じられたことの祝いの儀式 1月1日 千葉常胤一族 1月2日 三浦介義澄一族(義澄・岡崎四郎義實・和田三郎宗実(どういう訳か父義盛にあらず)・三浦左衛門尉義連・比企右衛門尉能員・三浦平六義村・三浦太郎景連 3日 小山朝政一族 4日 宇都宮朝綱一族。 1月15日 大江廣元 従来の公文所を政所と改め、鎌倉殿(鎌倉幕府)の政治開き。頼朝は京都守護職に義弟の一條能保を任命。鎌倉の意志はこの京都守護職を通じて朝廷へ伝えられ、公卿の衆議を経て施行される。すなわち ″奉勅命令″ として頼朝および後継者の意のまま「違勅の罪」により人民・ライバル等の生殺予奪を合法的に行なえることとなった。 鶴岡八幡宮寺、3月の大火で社殿の殆どを失うが直ちに再建を開始し、大臣山を削って上下両社とした。消失から8ヶ月後11月21日に完成。公式に石清水八幡宮から御神霊を迎えたのがこのときなので、鶴岡八幡宮の創建はこの日とされている。 富岡八幡宮(この時点では「御祭神」)、頼朝が民屋鎮護のため摂津國西宮神社の蛭子尊を勧請。1227から八幡宮と称す。 12月 頼朝派九條兼實 関白 同12月 鹿嶋六郎頼幹 鹿嶋神社鳴動に対する頼朝の使者として神馬を献上。 12月27日 朝廷 後白河法皇病を得る由の発表。頼朝は恢復を祈る。 宋から帰國した栄西 臨済宗(禅宗)(栄西は1168にも渡宋。2度目が1187から今年まで)
1192	建久 3	-833	永福寺(ヨウフクジ)着工。源頼朝が平家と奥州藤原氏の死者(源義経を含む)供養のため建立したもの。平泉中尊寺を模した豪奢な二階建て本堂だったことが、二階堂の地名になったらしい。1405に消失。 2月 馬場資幹 頼朝の二所詣に隋兵として参加。 3月13日05:00 後白河法皇没66歳(死因: 大腹水) 皇后は建春門院中納言。 3月16日 後白河崩御を伝える京都守護職一條能保の飛脚鎌倉着。 頼朝派公卿の九條兼實が後鳥羽天皇の摂政。 7月20日 後鳥羽天皇 頼朝46歳を征夷大将軍に任ずる詔書を発す。 7月21日 勅使庁長官中原景良・仲原康定が勅使として鎌倉へ出発。 7月26日 鎌倉着。頼朝征夷大将軍。頼朝は八幡宮神前での除書の受取役「御名代人」を義澄に命じ義澄は「三浦次郎義澄」と名乗る(御名代人に任ずるは、三浦一族に対する全幅の信頼を裏付ける)。**これを以て朝廷の政治が鎌倉殿(鎌倉幕府)に移転した。しかし1185に守護(当時は追捕使)・地頭任命権を朝廷に認めさせた時点で全國支配体制は成っていたので、1185を鎌倉時代の始期とする。** 8月5日 征夷大将軍の官府として政所始め。 8月9日14:00 頼朝46歳・政子に次男千幡(センバン)(後の實朝)誕生-1219。このおり、下妻四郎弘幹は北條義時・三浦介義澄・佐原義連・安達盛長ら御家人と共に御護刀を献じる。 11月25日 頼朝 奥州合戦の死者を祀るため永福寺建立落慶式。 同日 熊谷直実出家遁世。原因は所領争いか。または一ノ谷で平敦盛を切った自責の念か。 この頃、出家・遁世者が相継ぐ。駿河守廣綱(源頼政5男)、佐々木信實(佐々木盛綱男)、一條能保、1193に大庭景義、岡崎義實ら。 12月15日 頼朝 永福寺新造薬師堂供養の導師下向に備えて宿駅の伝馬補充を御家人に指示。「三浦義澄5疋・和田義盛4疋、中村宗平5疋・小早川遠平5疋、梶原景時2疋、澁谷重國5疋、曽我祐信2疋、原宗房1疋。」
1193	建久 4	-832	5月8日 源頼朝 富士の巻狩に出発。岳父北條時政、長男頼家ら。 15日 巻狩の宿舎へ入る。 16日より巻狩開始。 5月28日夜-29日 頼朝主催富士裾野の巻狩りに於いて豪雨のさなか曽我氏兄弟仇討ち事件。死傷者430人以上。 6月12日 八田知家は富士への急行を拒んだ常陸大掾多気義幹を謀反の心ありと頼朝へ訴え、6月22日 頼朝は三善康信・藤原俊兼を奉行として知家と義幹を対決させた。結果、義幹没落。所領没収、身柄は岡部権守泰綱に預けられ、大掾職は義幹の同族馬場小次郎資幹に与えられた。知家は大掾職を欲したが実現しなかった。多気氏は相模國芹澤に移住し後年芹澤氏として常陸平氏へ復帰する。 8月 頼朝 弟範頼を伊豆修禅寺にて殺す。 その直後、同8月 大場景義・岡崎義實ら出家 11月 安田義資誅殺 12月13日 頼朝 反北條的立場という理由で八田知家に命じ多気義幹の弟下妻弘幹梟首。 ★つぎは東條忠幹にとって憂慮すべき事態。①寿永2年(1183) 志田義廣の乱にて義廣に与したため所領西端の稲敷郷没収、且つ対岸の信太庄が八田知家に与えられたこと。②知家＆頼朝の謀略で多気義幹・下妻弘幹という実兄が没落したこと。
1194	建久 5	-831	11月 多気義幹が「前年に所領を没収された件は八田知家の讒言であった」と訴えるも源頼朝が却下。 頼朝、横須賀に満昌寺(臨済宗)(横須賀市大矢部1-5-10)創建。挙兵時の三浦義澄ほか三浦氏の功を讃え、父三浦大介義明の菩提を弔うため。この裏山の御霊神社は和田義盛が建立。室町期造立と見られる三浦大介義盛の木造座像(玉眼入り寄木造)(國重文)あり。 御霊神社裏には鎌倉期の五輪塔と板碑、南北朝期の宝篋印塔(義明の首塚)あり。
1195	建久 6	-830	2月14日 源頼朝 完成した東大寺大仏供養列席のため鎌倉出発。実は長女大姫の入内が目的。常陸平氏 馬場資幹・鹿嶋頼幹・真壁小六・小栗治郎重廣・伊佐三郎ら隋兵として参加。 3月3日 頼朝ら無事京へ入る。 3月12日 東大寺大仏供養と大仏殿落慶。 6月25日 頼朝 大姫入内の件は、何ら進展なきまま鎌倉へ出立。鎌倉帰着後、大姫の容態が悪化。大姫は、嘗て許嫁であった木曽義仲男義高が頼朝の命令で斬られて以来の鬱病。
1196	建久 7	-829	後鳥羽天皇外戚で源頼朝寄りの摂政九条兼実、源通親に因る政変で失脚。
1197	建久 8	-828	7月14日 源頼朝・政子の長女大姫死す。頼朝・政子 懲りずに次女乙姫の入内を計画…結果的には成らず。
1198	建久 9	-827	この年19歳の後鳥羽天皇 譲位し83代土御門天皇(-1210)下で院政開始。 12月27日 北條義時妹供養のため、夫の稲毛重成が相模川に橋を架け橋供養を行なう。出席した源頼朝その帰路落馬。
1199	正治 1	-826	建久10年1月13日 源頼朝没53歳。前年12月27日の落馬が原因の硬膜下出血か。ほかに「糖尿病で落馬」「範頼元家人か北條氏による暗殺」等諸説あり。 1月18日 藤原定家も日記『名月記』に頼朝の死を「朝家の大事」と記す。 1月26日 朝廷 源頼家(頼朝長子)(1182-1204) 18歳を左近衛中将に補任。 2月4日 頼朝・政子長子源頼家 家督を継ぎ鎌倉幕府2代将軍。征夷大将軍補任は4年後。 3月23日 将軍頼家 頼朝の治世を反省し一部紳領の地頭職を辞退。 4月12日 北條政子・時政・大江廣元ら、頼家の訴訟関係の直断を停止。「十三人合議制」(下記)発足。 筆頭:北條時政62歳(頼朝岳父)、北條義時37歳(時政男)、大江廣元(52歳)(政所別当)、三善義信60歳(問注所執事)、中原親能57歳(京都守護職)、三浦義澄73歳(三浦介)、八田知家(常陸守護職)、和田義盛53歳(侍所別当)、比企能員(頼家乳母夫)、安達盛長65歳(参河守護職)、足立遠元(宿老)、梶原景時(侍所所司)、二階堂(藤原)行政(政所令)、以上13名。畠山重忠・佐々木高綱・千葉介常胤らはこれに含まれず。 4月27日改元 6月30日12:00 故頼朝・政子の次女乙姫14歳死す。清盛を真似て天皇の外戚を狙った頼朝・政子の犠牲。大姫と同様。 10月 梶原景時が結城朝光を頼家に讒言。景時は逆に御家人66名に弾劾され失脚。 この年、東大寺南大門再建成る。
1200	正治 2	-825	公暁誕生-1219。頼朝長男頼家(2代将軍)の3男。長じて1219に3代将軍實朝(叔父)を暗殺する。 1月20日00:00 梶原景時 再起を図るべく上洛のため一宮館を出立。鎌倉幕府は三浦義村に追討命令。駿河國狐崎で、夜行を怪しんだ土地の豪族芦原小次郎らに討たれ梶原一族滅亡。これを契機に頼家を含む源家潰しと旧臣潰しが勢いを増す。 1月23日 三浦義澄没74歳1127- 同年 安達盛長没66歳1135- 同年 岡崎義實没89歳1112- 鎌倉五山第3位寿福寺 開基: 北條政子, 開山: 栄西 最初密教系、蘭渓道隆・大休正念ら宋僧が住持になって禅宗。
1201	建仁 1	-824	2月13日改元 3月 千葉介常胤没84歳1118-
1202	建仁 2	-823	7月23日 後鳥羽上皇 源頼家を征夷大将軍に任ず。同年 後鳥羽上皇 ″撰和歌所″ 設置。 第4次十字軍遠征-1204
1203	建仁 3	-822	9月1日 鎌倉幕府から朝廷へ源頼家死亡の報告(実は病に倒れただけで存命中)。 9月2日 比企能員の乱 この日の朝、病床の頼家と頼家の外祖父比企能員の密議(北條氏打倒)を障子一枚隔てた隣室で聴いた政子から時政に急報。(慈円の『愚管抄』では「頼家は大江廣元館で療養していた」とあり、廣元が密議を聞きつけて時政に密告したのかもしれない。)

西暦	元号	年数	EVENT
			時政と評議した廣元は措置を時政に一任。 9月2日13:00「薬師如来の供養をしたい」と騙されて名越(ﾅｺﾞｴ)の北條時政館を訪ねた比企能員暗殺さる。時政の命を受けた天野遠景と仁田四郎忠常による。後刻、仁田忠常も北條氏により殺される。 9月2日14:00 能員の死を知った比企一族が能員館に参集。政子の命で畠山重忠を含む義時軍が能員館を襲撃。 9月2日15:00 頼家の長子一幡(ｲﾁﾊﾞﾝ)焼死。一幡の実母若狭局(比企能員の娘)も一幡を捜して焼死。 9月7日 頼朝・政子次男千幡(實朝)12歳に征夷大将軍の勅許。鎌倉幕府3代将軍。後鳥羽上皇より實朝の名を賜わる。 9月29日10:00 前将軍頼家 政子に出家させられ修禅寺(伊豆修善寺)に向け鎌倉を出発。　北條時政初代執権 この頃、運慶・快慶が東大寺南大門の金剛力士像を造立。
1204	元久　1	-821	2月20日改元　3月 **三日平氏の乱** 伊勢平氏平基度・平盛光が挙兵するも京都守護職平賀武藏守朝政が鎮圧。 7月18日 鎌倉幕府2代将軍源頼家23歳没。幽閉中の修禅寺にて北條氏差し回しの刺客により浴室でふぐりを潰されたうえ刺殺さる。 10月14日 源實朝の嫁となる藤原信清女を迎えるため北條政範・結城七郎・千葉常秀・畠山重保ら大名の子息15名上洛。 北條政範は上洛途上に煩った病が悪化して死亡。これが平賀朝雅に利用され、畠山氏の没落に発展する。 11月 京都、前武藏守平賀朝雅館で畠山重保が朝雅と口論。その場は収まったが翌年に持ち越す。 12月22日 藤原信清女は鎌倉實朝方へ無事輿入れ。
1205	元久　2	-820	2月 後鳥羽上皇の『新古今和歌集』成る。寄人に藤原定家・源通具(ﾐﾁﾄﾓ)・藤原家隆・藤原雅経・藤原有家、5人を任命。 4月頃から鎌倉には不穏な空気。 4月12日 鎌倉3代将軍實朝 妻から和歌の手ほどきを受け12首を詠む。 5月 京の平賀朝雅から牧の方(時政後妻)へ「政範の病死は畠山重保が放置したためである」との讒訴が届く。 6月初旬 北條時政が稲毛重成(橘樹・都筑・多摩三郡領主)(重忠従弟)に命じ畠山氏を鎌倉へ招く。 6月19日 畠山重忠男重保軍30騎が鎌倉へ向け出発。重忠軍計135騎は少し遅れて菅谷館を出発。戦闘の用意なく平服。 6月22日早朝 重保軍は北條時政の命を受けた三浦義村軍300騎に鎌倉由比ヶ浜で討たれる。 6月22日昼頃 **鶴ヶ峰の戦い(二俣川の合戦)** 大手大将軍北條義時、関戸大将軍北條時房・和田義盛、麾下三浦義村・胤義兄弟、葛西清重・安達景盛ら1万と遭遇。4時間後、重忠は武藏國都筑郡牧ヶ原(旭区)で愛甲三郎季隆の矢に射抜かれ討死(深手を負い自害か)。重秀以下、家の子、郎党も自殺。鶴ヶ峰薬王寺に六基の墳墓あり。二俣川北側は武藏國都筑郡白根、南は相模國鎌倉郡。義時は、畠山討伐直後に父時政と牧の方をも滅ぼす計画であった。**馬場資幹、鹿嶋・小栗・行方氏は畠山氏討伐軍に参加。** 三浦義村は重忠事件は稲毛重成の謀曲と言い、重成男榛谷(ﾊﾝｶﾞﾔ)四郎重朝・重成孫重季を討つ。**(稲毛氏、榛谷氏とも桓武平氏良文流秩父氏系)** 畠山討滅に気を良くした時政は牧の方の言うまま實朝の将軍廃位と平賀朝雅の将軍擁立に動くが政子が實朝を救う。 7月19日 情勢不利を悟った北條時政・牧の方夫婦 落飾のうえ伊豆北條へ蟄居。　7月20日 北條義時 鎌倉幕府2代執権。 この直後、京の平賀朝雅が討たれる。**平賀朝雅の乱**。牧の方の陰謀で「朝雅が将軍になろうとした」というのが理由。 藤原定家ら『新古今和歌集』を撰集。
1206	建永　1	-819	4月27日改元　石川家幹、女の男に吉田社領の内の正作田5町(うち1町は浜田)を譲与する。
1207	承元　1	-818	建永2年1月14日 北條時房(時政弟)(義時叔父) 武藏守　ここに北條氏が武藏國主を獲得。　10月25日改元
1208	承元　2	-817	9月14日 出家して京にあった熊谷次郎直実 自分の死期を男小次郎に予告したうえ東山にて没。
1209	承元　3	-816	7月 鎌倉将軍家が源實朝の和歌30首を藤原定家に送る。和歌の師の一人 東重胤が下総の領地から数ヶ月間鎌倉へ戻らず。
1210	承元　4	-815	後鳥羽上皇 土御門天皇に譲位を迫り弟84代順徳天皇-1221
1211	建暦　1	-814	3月9日改元　10月 京から歌人鴨長明が関東へ下向。鎌倉3代将軍源實朝 会う。 元信太荘本家職八條院暲子没。信太荘領家職の某は、この年以前に信太荘領家職を河内國金剛寺に寄進していた。1185参照
1212	建暦　2	-813	鴨長明『方丈記』
1213	建保　1	-812	建暦3年5月2日16:00-3日 **和田氏の乱(建保合戦)** 北條氏の桎梏から抜けようとした鎌倉3代将軍源實朝が和田氏を抱き込んだことから北條義時が三浦氏の協力を取り付けたうえで和田氏を挑発。義盛は策謀に乗り鎌倉で市街戦。義盛敗死67歳。岡崎義實孫實忠、土肥・土屋氏ら和田方。三浦義村と波多野忠綱は裏切り、北條方に転向。和田氏没落。　12月6日改元　12月 建礼門院徳子没57歳 於京都大原寂光院 安徳天皇母/清盛妹　實朝の『金槐和歌集』成る。
1214	建保　2	-811	6月23日 北條時政妻 牧の方 没 於伊豆國北條
1215	建保　3	-810	1月6日 北條時政1138-没78歳。於伊豆國北條。時政は同地へ流された後、平氏名の ″明盛″ を名乗る。
1216	建保　4	-809	11月 鎌倉3代将軍源實朝、陳和卿に造船を命じて渡宋を計画。　鴨長明没64歳。
1217	建保　5	-808	鎌倉3代将軍源源実朝 逃避のため渡宋目的に造らせた大船を由比ヶ浜に進水させようとしたが失敗。
1218	建保　6	-807	2月 北條政子 熊野参詣のため入京。
1219	承久　1	-806	建保7年1月27日18:00過ぎ鎌倉3代将軍**源實朝暗殺**さる。28歳。右大臣拝賀の礼を鶴岡八幡宮にて行なった後、その随身門前にて兄頼家遺児の僧 公暁(八幡宮別当)により斬られる。生前實朝は傀儡将軍の立場を自覚してか和歌・蹴鞠に熱中、不安定さの補強のために官位の昇進を望んだ。 實朝の刀を持って随行する役の執権北條義時は「気分が悪い」と言い源仲章に代役を頼んで直前に門外へ。源仲章は公暁に義時と間違われて實朝と共に討たれたらしい。 三浦義村は義時が助かったことを聞くと直ちに長尾定景に命じ、義村を頼ろうとした公暁を討つ。これが實朝事件の ″**三浦義村黒幕説**″ の根拠となる。または北條義時・大江廣元協調路線の謀略か。 これにて源府28年間の幕閉じる。實朝の首は出て来ずじまい。實朝は700余首を遺し、その歌集を『金槐和歌集』という。 實朝が死しても、名聞のうえからも、他の御家人との関係からも、北條氏からは将軍を出すわけにいかず北條義時は次期将軍に後鳥羽上皇の皇子を願った。しかし上皇は「日本が東と西に分かれる因になる」と許さず。 北條義時は大納言藤原公経を介し左大臣九条(藤原)道家男頼経2歳(幼名三虎)を鎌倉幕府4代将軍として擁立。将軍宣下までの間、北條政子が後見することとした。ここに北條政子・義時・大江廣元三者による政治体制成る。　4月12日改元　7月15日 大内(大内裏)守護 頼茂謀反の報により北面の武士が御所を包囲・襲撃。頼茂敗死。実は後鳥羽上皇の陰謀だろう。この戦乱が承久の乱の口火となる。
1220	承久　2	-805	4月 鎌倉2代将軍源頼家男禅暁 殺される。　慈円の『愚管抄』成る。
1221	承久　3	-804	順徳天皇 父後鳥羽上皇と共に倒幕を急ぐため譲位/85代仲恭天皇-1221 5月14日 **承久の乱** 世上に疎い後鳥羽上皇 倒幕を決意し流鏑馬と称し京に兵を集める。同時に西園寺公経父子を幽閉。京都守護職伊賀光季館を急襲。光季 手兵27騎にて800余騎の上皇方三浦胤義軍と戦うが男と共に敗死。同日 後鳥羽上皇 北條義時追討の院宣を発す。 5月19日 京の三浦胤義から兄義村への飛脚、鎌倉着。義時追討の宣旨に「院に味方すべし」との手紙を添えた密書。受け取った鎌倉の三浦義村は義時へ急報。北條政子は安達景盛を通じ御家人に団結を訴え、後刻義時館にて久しぶりの評議。北條義時・北條時房・北條泰時・大江廣元・三浦義村・安達景盛(盛長男)ら。「足柄・箱根二関を固め上皇軍を迎撃」の意見が大勢を占める中、安達景盛が「軍を上洛させるべし」と譲らず。義時は両案を政子に提示。政子は景盛案を支持。大江廣元に促され、北條泰時が1騎でその夜のうちに鎌倉進発。翌日18騎。続いて北條時房、三浦義村もこれを追う。 上洛途上の泰時、″官軍に遭遇したときの処し方″ を義時に確認すべく一人で鎌倉へ戻る。義時は「上皇自ら軍を率いていた場合は降伏すべし。されど上皇動かず京にあり軍兵のみなら斬り捨てるべし。」と指示。 5月28日 北條泰時(司令官)・時房(司令官)・三浦泰村ら上洛軍 遠江國天竜川着。 6月14日 泰時率いる上洛軍(**石河三郎秀幹・石河平五・片穂刑部四郎も参加(石河氏は江戸期水戸藩士)**)、宇治川に達す。嘗て木曽征伐で佐々木高綱と梶原景季が先陣を争ったこの場所で、今度は高綱の甥佐々木信綱と、その男重綱が先陣争い。馬で渡った父信綱が先陣の譽。重綱は赤褌一丁に太刀を背負って渡ったので、後に北條泰時が ″赤褌先陣″ の賞を与える。 6月15日未明 東寺に籠もった三浦胤義を三浦義村・佐原の兵が攻めるという一族同士討ちの事態。胤義らの官軍再起不能なる旨の報に応じ上皇は停戦の院宣を発す。挙げ句の果て「謀臣の企て」と責任転嫁。 6月16日 六波羅探題設置。北條泰時と、その叔父北條時房が初代。承久の乱後処理と、西園御家人の統制が目的。 6月29日 北條義時の使者、京に到着。北條泰時・時房・毛利季光(大江廣元男)の四者評議。上皇方への断罪厳しく、″賊軍″ の汚名を恐れやむなく参軍した三浦胤義は自害、佐々木信綱叔父経高らは戦犯として斬られ、または自刃した。

西暦	元号	年数	EVENT
			7月2日 北條泰時の命により佐々木信綱が兄廣綱を、藤原基綱が父基清を斬る。公卿は洛外にて斬る。 7月6日 三上皇配流。後鳥羽は隠岐、順徳は佐渡。土御門は自ら土佐、後に阿波へ。 乱後 北條による鎌倉幕府の全國支配成る。落日の三浦氏も、見かけ上は北條氏から優遇。 8月 三善康信没82歳 12月 鎌倉幕府の意向により仲恭天皇廃位/後堀河天皇即位-1232
1222	貞應 1	-803	4月13日改元
1223	貞應 2	-802	信太庄の年貢公事「國八丈絹三百疋」「支丁六人」と。「安嘉門院庁資忠注進抄」(東寺百合文書)による。
1224	元仁 1	-801	貞應3年6月13日10:00頃 北條義時没62歳1163-。脚気の発作(ではなく毒殺だろう)。 政子 京の泰時・時房を鎌倉へ召喚す。 6月28日 政子が二人に「軍営御後見として武家のことを執行すべし」と申し渡す。これは政治を泰時・時房に一任することを意味し、大江廣元も積極的に支持。鎌倉幕府3代執権 北條泰時、叔父北條時房は副執権(後の連署制発足)。 北條(金澤(カネサハ))實時誕生(長じて小侍所別当。伯父政村女を娶る。金澤文庫設立-1276)。 親鸞 浄土真宗(一向宗) 11月20日改元
1225	嘉禄 1	-800	4月20日改元 6月10日 大江廣元没78歳 7月11日 北條政子没69歳 9月 天台座主慈円没。 前年から続く鎌倉幕府要人の相次ぐ死去に新執権北條泰時動揺するも政治手腕を発揮。 12月21日 政務処理を行なう『評定衆』を設置。中原師員・三浦義村・二階堂行村・中條家長・町野(三善)康俊・二階堂行盛・矢野倫重・後藤基綱・太田(三善)康連・佐藤業時・斎藤長定 計11名。 政務裁断権を与え、ここに執権政治体制確立。
1226	嘉禄 2	-799	1月27日 鎌倉幕府4代将軍 藤原頼経に征夷大将軍の宣旨。(摂家将軍初代)
1227	安貞 1	-798	嘉禄3年6月15日 富岡八幡宮 蛭子尊祭礼のおり旅僧に老爺が食物なく麦酒(ビールに非ず)を与えたところ「吾は八幡の神である。吾を祀れば厄を除け福を与える」と言い『富岡御祭神』は『富岡八幡宮』となった。 宋から帰國した道元が曹洞宗を伝える。 12月10日改元
1228	安貞 2	-797	ヨーロッパでは第5次十字軍遠征-1229
1229	寛喜 1	-796	3月5日改元 7月19日 鎌倉4代将軍藤原頼経、真壁友幹の譲状により子息時幹に真壁郡内14か郷の地頭職を安堵。
1230	寛喜 2	-795	馬場氏 一時的に北條政村(義時男/泰時弟)に常陸大掾職を奪われるが、すぐに復権。 全國的大飢饉-1231(1259にも)
1231	寛喜 3	-794	土御門上皇 配流先阿波で没。この後、朝廷で若死にする者多く、怨霊の噂。1239へ。
1232	貞永 1	-793	4月2日改元 8月 鎌倉幕府3代執権 北條泰時 武家最初の法律『御成敗式目(貞永式目)』を制定。 後堀河天皇譲位/87代四条天皇-1242
1233	天福 1	-792	4月15日改元 京都で猿楽が流行
1234	文暦 1	-791	11月5日改元
1235	嘉禎 1	-790	9月19日改元 藤原定家『小倉百人一首』
1236	嘉禎 2	-789	8月9日 結城朝光、鎌倉4代将軍藤原頼経の北條泰時邸入御に際し随兵となる。
1237	嘉禎 3	-788	6月23日 結城朝廣・佐竹助義、鎌倉4代将軍藤原頼経の大慈寺新造精舎供養に際し随兵となる。
1238	暦仁 1	-787	11月23日改元 2月17日 片穂六郎左衛門尉(常陸平氏)「将軍藤原頼経上洛の隋兵」『吾妻鏡』
1239	延應 1	-786	2月7日改元 2月 後鳥羽上皇 配流先隠岐島で没60歳1180-。幕府・朝廷に死者続出。怨霊の噂。 12月5日 三浦義村急死。
1240	仁治 1	-785	延應2年1月 北條時房没66歳。泰時叔父 幕府 鎌倉巨福呂坂開削 鎌倉外郭の整備 7月16日改元
1241	仁治 2	-784	2月 鎌倉大地震 六浦道(ムツラミチ)(鎌倉-六浦湊) 朝夷奈切通着工、鎌倉幕府3代執権北條泰時。鎌倉七口の一つ。 六浦道は昭和31(1956)年に新道が開通するまで使われた。 8月 藤原定家没80歳1162- 中納言。 11月29日 昼過ぎ 三浦泰村ら、小山朝廣らが酒が原因で大喧嘩。2軒の遊女屋でそれぞれが酒宴中に小山朝廣弟の朝村が犬を射ようとして外れ、矢が三浦一族の席に飛び込んだのが原因。執権泰時は仲裁役を差し向け、過度の酒宴と遊びを戒める命令を布告。
1242	仁治 3	-783	1月 四條天皇没11歳 廊下に塗った滑石に女官が注意して転ばなくなり、所在なく自分で滑ったところ頭を打って死ぬ。 朝廷は次期天皇につき執権北條泰時に意見を求める。泰時は悩んだ末、土御門上皇皇子を推薦。後嵯峨天皇-1246 5月15日 鎌倉幕府3代執権 北條泰時没60歳1183- 毒殺か。赤痢ではなく、急激な発熱・発作を伴うものだったとされる。 泰時の執権職は18年の長きに渡り、「道理の人」「名執権」と讃えられ、京の貴紳から庶民までがその死を惜しむ。 6月 北條経時(泰時孫) 鎌倉幕府4代執権
1243	寛元 1	-782	2月26日改元 4月 執権北條経時、奴婢雑人(奴隷)を解放。 6月11日 鎌倉大仏(大異山高徳院 阿弥陀如来像)成る。これは木像で、1247に倒壊。1252に青銅製へ。 12月23日 北條経時 全國の守護地頭への沙汰書(12月22日付)で奴隷解放を補強。
1244	寛元 2	-781	4月 藤原頼嗣 鎌倉幕府5代将軍 7月 越前に大仏寺創建(後年 永平寺と改む)。道元を招請。
1245	寛元 3	-780	8月16日 結城朝光・同朝廣・同弥三郎、鶴岡馬場にて流鏑馬の役を勤める。
1246	寛元 4	-779	東條氏初代五郎左衛門尉忠幹、2代光幹に加え東條一族の平幹時、平幹縄らが『新和歌集』に入集。東條氏は和歌を嗜む家系だった。 新和歌集: 撰者は宇都宮影綱、正元元年(1259)7月以前に成立、弘長元年(1261)夏まで追加・訂正が行なわれた。 3月23日 鎌倉幕府4代執権 北條経時 病状悪化のため執権職を弟時頼に譲る。北條時頼 鎌倉幕府5代執権。 4月1日夜 北條経時没23歳 直後、次期執権職をめぐり一騒動あり、北條一族 名越光時の叛(寛元の乱)。光時が前将軍藤原頼経と結託し時頼打倒の行動を起こそうとしたが安達義景の先手で時頼館を固め光時を牽制したため名越一門謝罪し光時は髪をおろす。 5月13日 名越光時伊豆へ配流。 7月11日 前将軍頼経は京へ強制送還。 後嵯峨天皇譲位/89代後深草天皇-1259 持明院統
1247	寶治 1	-778	2月28日改元 この年は1月から鎌倉に異変あり。羽蟻の大発生、赤潮、流星、黄蝶の大発生など。 6月5日 寶治合戦(三浦合戦) 安達景盛と5代執権北條時頼により三浦氏没落。朝、安達景盛の孫安達泰盛の一隊が三浦泰村の屋敷を攻撃・焼き討ち。6時間後、泰村は法華堂に一族500名余を集合させ集団自決(堂内で276名)。北條實時 六浦庄内の三浦残党追捕。常陸國では三浦氏方の守護失脚で守護職は宍戸家周(八田知重弟家政男)。 大江廣元の孫 毛利季光は妻が三浦泰村の妹だったため三浦方に、三浦方だった佐原盛連は北條方に付いた。三浦介職は佐原盛時が継ぐが、全ての権限が北條氏に移転する。 9月 台風で鎌倉大仏(木像)倒壊。現存の金銅仏は1252に造立開始。
1248	寶治 2	-777	金澤(北條)顕時誕生 父は北條實時 -1301
1249	建長 1	-776	3月18日改元 引付衆を設置 7月 吉田大野某 鹿嶋大使役(カシマオオヅカイヤク)。毎年7月10-11日、常陸一宮鹿嶋神宮の大祭に派遣される使いを鹿嶋大使と呼び、常陸大掾氏族の常陸平氏七党が7年交替。國府(大掾)(馬場)・吉田・小栗・鹿嶋・行方・東條・真壁
1250	建長 2	-775	3月 京の閑院殿造営担当御家人目録に多くの常陸平氏あり。常陸大掾・小栗次郎・相馬次郎・真壁太郎・豊田太郎・片穂六郎左衛門尉・鹿嶋中務ら。東條氏なし 5月 安達景盛没 7月 吉田大野 鹿嶋大使役 鎌倉円応寺建立。開山は智覚禅師。閻魔大王を筆頭に十王像が祀られている。十王思想: 死者は初七日に三途の川を渡り冥府でまず秦広王の裁きを受ける。次の七日目には初江王…7回目の七日目、即ち49日目には最高位の閻魔大王の裁きを受けて極楽行きか地獄へ堕ちるかの引導を渡される。その後、百箇日、1年目、3年目と、合計10回の裁判があり、合計10人の王によって裁かれる。
1251	建長 3	-774	北條時宗誕生-1284 長じて鎌倉幕府8代執権。 真壁小次郎英幹, 麻生太郎親幹「二所参詣の随兵」『吾妻鏡』 12月 了行法師ら謀反の疑いで鎌倉幕府に逮捕さる。泰氏の出家はこれと無関係であることを示すのが目的だろう。了行らは三浦/千葉家の生き残りで、執権職を北條氏から足利氏に替えようとしたもの。 その3日後、鎌倉御家人足利家総領の泰氏36歳で出家し幕府の政治から離れる(本貫地での権力は維持)。
1252	建長 4	-773	2月 鎌倉執権時頼は後嵯峨上皇の皇子を将軍に迎えたい旨を京へ伝える。 3月 後嵯峨上皇第1皇子 宗尊親王鎌倉へ下向。将軍職を更迭された九條頼嗣鎌倉を出る。 鎌倉大仏の再造立開始。5代執権北條時頼の強力な支援があったらしい。1247に倒壊した木像と同程度の規模で青銅製金銅仏に。仏身11m、120トン。物部重光、丹治久友ら数名の鋳物師による。完成は1262以前。1325へ
1253	建長 5	-772	11月5日 鎌倉五山第1位巨福山建長興國禅寺(建長寺)落慶供養。本尊は地蔵菩薩。開基:北條時頼, 開山:宋僧蘭渓道隆。場所は地獄谷と呼ばれ、刑場であり、死者風葬の地。富岡長昌寺はこの末寺。 この年 日蓮が日蓮宗(法華宗)を開く。
1254	建長 6	-771	真壁平六時幹「御所に着到」『吾妻鏡』 7月 真壁某 鹿嶋大使役
1255	建長 7	-770	7月 小栗東田重信 鹿嶋大使役
1256	康元 1	-769	7月 吉田三郎跡 鹿嶋大使役 信太郡東條は、この年8月以前に熊野新宮へ寄進・立荘され、東條荘と呼ばれる荘園になっていた『金澤文庫文書』。立荘に際しては、東條氏が重要な役割を果たしたはずである『龍ヶ崎市史別編Ⅱ 龍ヶ崎の中世城郭跡』。 10月5日改元
1257	正嘉 1	-768	3月14日改元 7月 東條兵部丞光幹(安得虎子では忠幹) 鹿嶋大使役
1258	正嘉 2	-767	3月1日 行方太郎跡(中務五郎), 真壁孫四郎「二所参詣の随兵」『吾妻鏡』 7月 鹿嶋左衛門尉忠幹 鹿嶋大使役
1259	正元 1	-766	後深草天皇(持明院統) 父後嵯峨院の命により譲位/90代亀山天皇(大覚寺統)即位-1274(両統迭立の因) 3月26日改元

西暦	元号	年数	EVENT
			7月 國府佐谷左(右か)衛門尉 鹿嶋大使役(安得虎子では正元3年となっているが正嘉3年と記録したかったのだろう。3月に改元されたので正元元年が正しい。)
1260	文應 1	-765	4月13日改元　7月 行方麻生次郎 鹿嶋大使役
1261	弘長 1	-764	2月20日改元　日蓮 伊豆に配流　7月 真壁白井 鹿嶋大使役
1262	弘長 2	-763	北條實時 菩提寺として金澤山(キンタクサン)稱名寺建立(横浜市金沢区金沢町)。浄土宗寺院。　7月 小栗某 鹿嶋大使役
1263	弘長 3	-762	7月 吉田為幹 鹿嶋大使役　11月22日 鎌倉幕府5代執権 北條時頼没37歳
1264	文永 1	-761	2月28日改元　7月 東條孫(村)五郎清幹(東條氏3代目) 鹿嶋大使役　7月 北條政村 執権、北條時宗 連署。　8月 北條長時没35歳
1265	文永 2	-760	7月 鹿嶋幹政 鹿嶋大使役
1266	文永 3	-759	7月 将軍宗尊親王を廃し、将軍惟康親王。　7月 國府岩代 鹿嶋大使役
1267	文永 4	-758	北條實時 稱名寺を浄土宗から律宗に改め、忍性の推挙を受け審海を招聘して金澤山稱名寺の中興開山とする。 7月 行方小立(高か) 鹿嶋大使役
1268	文永 5	-757	1月 蒙古皇帝フビライの使者太宰府に来る。幕府は西國の諸守護に蒙古来襲の防備を命ず。 3月 8代執権北條時宗、連署北條政村。　この頃、南北朝対立の萌芽(1392に南北朝合一)。　7月 真壁福内(田か) 鹿嶋大使役
1269	文永 6	-756	北條實時 父實泰と母の菩提追善のため稱名寺に梵鐘を寄進。　蒙古フビライの使者対馬に来着。　7月 小栗某 鹿嶋大使役
1270	文永 7	-755	7月 吉田栗崎 鹿嶋大使役
1271	文永 8	-754	7月 東條孫五郎清幹(東條氏3代目) 鹿嶋大使役　9月 蒙古フビライの使者、筑前今津に来着。幕府は九州の御家人に沿岸警備を下命。
1272	文永 9	-753	7月 鹿嶋宮崎幹親 鹿嶋大使役
1273	文永 10	-752	5月 北條政村没69歳　6月 連署北條良政　7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役
1274	文永 11	-751	亀山天皇(大覚寺統)譲位/91代後宇多天皇(大覚寺統)-1287　7月 行方某 鹿嶋大使役　10月 文永の役 鎌倉時代1回目の蒙古来襲
1275	建治 1	-750	4月25日改元　幕府 異國警護番役を制度化。　元の宣論使 長門に来着。　7月 真壁某 鹿嶋大使役　9月 幕府 蒙古の使者を鎌倉に召喚し斬る。　12月 幕府 外征を計画。 この頃 北條實時 金澤文庫を創設。武藏國久良岐郡六浦(ムツラ)荘金澤(カネサワ)郷(横浜市金沢区金沢町)の居館内。　一遍 時宗を開く
1276	建治 2	-749	7月 小栗某 鹿嶋大使役　10月 北條實時没 53歳 1224- 鎌倉幕府執権北條義時の孫。金澤を領す。引付衆、評定衆等を歴任。稱名寺を創建す。　常陸國信太郡の田数 800町歩。　鎌倉幕府 北九州沿岸に元寇防塁(石塁)設置
1277	建治 3	-748	7月 吉田塩井河 鹿嶋大使役
1278	弘安 1	-747	2月29日改元　7月 東條三郎宗幹(東條氏4代目) 鹿嶋大師役。宗幹の後は東條氏の世次名称詳ならず。『常陸誌料』 この年 金澤貞顕誕生 父は北條顕時 -1333に新田義貞の鎌倉攻めで自決する。
1279	弘安 2	-746	北條顕時(實時男) 稱名寺に護摩堂建立。　元の使者、筑紫に来着するも博多で斬られる。　7月 鹿嶋烟田吉幹 鹿嶋大使役
1280	弘安 3	-745	7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役
1281	弘安 4	-744	弘安の役 鎌倉時代2回目の蒙古来襲14万人。撃退するも、これが鎌倉幕府御家人の疲弊を招き後醍醐天皇を倒幕へ動かす。 鎌倉五山第4位浄智寺　開基: 北條宗政/師時父子　北條顕時(實時男) 稱名寺に弥勒院建立。　7月 行方某 鹿嶋大使役
1282	弘安 5	-743	鎌倉五山第2位円覚寺 開基:北條時宗, 開山:宋僧無学祖元。禅宗。北條顕時(實時男) 稱名寺に西僧坊建立。　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1283	弘安 6	-742	7月 小栗某 鹿嶋大使役
1284	弘安 7	-741	3月下旬 鎌倉幕府8代執権 北條時宗34歳 病床に伏し1週間後に没する。時宗長男北條貞時14歳 鎌倉幕府9代執権。 7月 吉田平戸範幹 鹿嶋大使役
1285	弘安 8	-740	鎌倉東慶寺建立。前年に若くして没した時宗の未亡人覺山志道尼が時宗の菩提を弔うために開山。後年、大阪夏の陣で豊臣氏滅亡後、豊臣秀頼の女を家康が助命し東慶寺に預ける。家康の孫千姫を養母とするこの女は後、20代住持天秀尼となる。このおりに家康が東慶寺に「権現様御上意」と呼ばれるお墨付きを東慶寺に渡し、駆け込み寺・縁切り寺としての寺法を保証した。現在は尼寺に非ず。 7月 東條某 鹿嶋大使役 11月 霜月騒動 9代執権北條貞時を女婿とする安達泰盛と北條得宗家内管領平頼綱の争い。安達泰盛討死55歳 北條顕時の妻の父が安達泰盛だったため、顕時は下総に配流さる。顕時男貞顕が継ぐ。貞顕から金澤氏を名乗る。
1286	弘安 9	-739	鎌倉幕府 異國に対する警備を強化。　7月 鹿嶋中居三郎跡 鹿嶋大使役
1287	弘安 10	-738	後宇多天皇(大覚寺統)譲位/92代伏見天皇(持明院統(後深草天皇系))-1298　7月 國府石河六郎幹親 鹿嶋大使役 12月 東條荘上條内祐(社か)村の例進戸帳によれば、「去年両年分」一疋が熊野新宮に送られる(熊野速玉神社文書)。このことから、この荘園は熊野速玉社領であった(茨城県史 中世編)(龍ヶ崎市史別編Ⅱ 龍ヶ崎の中世城郭跡)。
1288	正應 1	-737	4月28日改元　尊治(後醍醐)誕生-1339　7月 行方六郎跡 鹿嶋大使役
1289	正應 2	-736	8月23日 時宗開祖一遍上人、現神戸真光寺にて没。一遍は、道後の豪族河野氏族。　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1290	正應 3	-735	3月 甲斐源氏浅原為頼一族 宮中へ乱入、伏見天皇を狙うが天皇は女装して逃亡、為頼ら宮中で自刃。　7月 小栗孫次郎 鹿嶋大使役
1291	正應 4	-734	金澤貞顕 稱名寺に三重塔建立　7月 吉田東三郎跡 鹿嶋大使役
1292	正應 5	-733	7月 東條三郎跡 鹿嶋大使役
1293	永仁 1	-732	鎮西探題設置　鎌倉に大地震　執権北條貞時 平頼綱等を討伐　北畠親房誕生-1354　『蒙古来襲絵詞』成る　7月 鹿嶋惣領荒次郎 鹿嶋大使役　8月5日改元
1294	永仁 2	-731	7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役
1295	永仁 3	-730	7月 行方中務跡 鹿嶋大使役
1296	永仁 4	-729	7月 真壁某 鹿嶋大使役
1297	永仁 5	-728	永仁の徳政令　大和平野殿荘の悪党 城郭を構える。この頃から諸國悪党が城郭を築く。　7月 小栗某 鹿嶋大使役
1298	永仁 6	-727	伏見天皇譲位/93代後伏見天皇-1301　7月 吉田四郎跡 鹿嶋大使役
1299	正安 1	-726	4月25日改元　7月 東條某 鹿嶋大使役
1300	正安 2	-725	7月 鹿嶋中村某 鹿嶋大使役
1301	正安 3	-724	2月 金澤貞顕 壊れた稱名寺梵鐘を再鋳。京極高門の「稱名の晩鐘」はこれ。　3月 金澤貞顕父顕時没54歳。 北條貞時 鎌倉幕府執権職を辞する。これ以降、幕府は沈滞ムードに陥る。　7月 國府大掾時幹 鹿嶋大使役 後宇多法皇の第一次院政開始 -1308
1302	乾元 1	-723	金澤貞将(サダユキ)誕生-1333(新田義貞の鎌倉攻めで戦死する)父は金澤貞顕。　7月 行方某 鹿嶋大使役　11月21日改元
1303	嘉元 1	-722	7月 真壁惣領幹重 鹿嶋大使役　8月5日改元　この年 北條高時誕生(長じて14代鎌倉執権)
1304	嘉元 2	-721	金澤山稱名寺中興開山審海示寂76歳　7月 小栗某 鹿嶋大使役
1305	嘉元 3	-720	足利高氏誕生-1358 (「高」は北條義時からもらったもの、鎌倉倒幕後、後醍醐(尊治)から「尊」を賜わり「尊氏」と改名する) 鎌倉侍所所司北條宗方(貞時の従兄弟)が連署北條時村(7代執権政村の男)を暗殺。宗方は北條宗宣に誅される。宗方の凶行は北條貞時の誘導か。この事件で貞時の専制化に障害となりうる宗方、時村が一気に消えた。　7月 吉田白方 鹿嶋大使役
1306	徳治 1	-719	7月 東條某 鹿嶋大使役　元と交易　12月14日改元
1307	徳治 2	-718	7月 鹿嶋烟田景幹 鹿嶋大使役
1308	延慶 1	-717	この年 金澤貞顕 稱名寺に清涼寺式釈迦如来立像造立。　7月 國府大掾跡 鹿嶋大使役 徳治3年8月 後二条天皇夭折24歳 (大覚寺統)(後宇多皇子) 持明院統富仁が践祚し花園天皇(『花園天皇日記』あり)。後宇多の意向により後二条弟尊治21歳(立坊年齢としては高齢)立太子。後宇多の院政は尊治の践祚(後醍醐天皇)まで一時停止。　10月9日改元
1309	延慶 2	-716	7月 行方玉造某 鹿嶋大使役
1310	延慶 3	-715	7月 真壁椎尾山田某 鹿嶋大使役
1311	應長 1	-714	4月28日改元　5月18日夜 應長の大津波(Note)。現横浜市金沢区長浜検疫所跡の前方2Kmの砂州にあった大きな漁村「長浜千軒」が一夜で水没。しかし長浜山慈眼院福聚海寺の長浜観音が身代わりになって犠牲者ゼロ。37年後の夜、漁師が海中で光る観音様を発見した(別説: その観音様は富岡東5丁目の海照山持明院の本尊だった。当時は長浜千軒にあり移住民と共に富岡(角店の路地を入って右側)に移転した。)。観音様は現在は稱名寺金堂に安置されている。被災住民は柴、州崎、六浦、富岡、釜利谷へ移住した。東京湾対岸富津の小山、斎田、森田姓は漂着者の子孫と言われる。砂州と共に大きな松並木も水没して浅瀬となり漁師が並木の瀬と呼ぶ良い漁場となった(**金沢区並木の地名由来**)。富岡村は富岡八幡宮(の山)のご加護で被害なし。1610へ。

西暦	元号	年数	EVENT
			7月 小栗某 鹿嶋大使役　10月26日 鎌倉幕府9代執権 北條貞時41歳病没。 Note:『吾妻鏡』には地震や津波の記事がないが、水没した木々が発見されているので、この一帯に地殻変動が生じたのは確からしい。
1312	正和 1	-713	3月20日改元　7月 石川六郎資幹跡大野弥次郎経幹勤仕 鹿嶋大使役(大掾裔石川氏文書)
1313	正和 2	-712	7月 東條某 鹿嶋大使役
1314	正和 3	-711	7月 鹿嶋中務跡萩原某 鹿嶋大使役
1315	正和 4	-710	7月 北條基時 鎌倉幕府13代執権 連書金澤貞顕(金澤氏: 北條實時>北條顕時>金澤貞顕>金澤貞将)　7月 國府時幹 鹿嶋大使役
1316	正和 5	-709	7月 北條高時14歳 鎌倉幕府14代(最後の)執権　田楽、闘犬に耽り不評。　7月 行方小高某 鹿嶋大使役
1317	文保 1	-708	2月3日改元　金澤貞顕 金澤山稱名寺を再造営、元亨3(1323)年まで6年間を要す。 3月30日 鎌倉幕府の使者上洛。花園天皇(持明院統)に、皇太子尊治親王(大覚寺統)に譲位すべきことを伝える。 持明院統(後深草天皇系) vs 大覚寺統(龜山天皇系)の争いを収めるため鎌倉幕府は両統迭立(ﾘｮｳﾄｳﾃﾂﾘﾂ)を以て調停。 両統迭立: 両統から交互に天皇を立てる。そのため一方が皇位に即くとき他方から皇太子を立てる。天皇在位期間は10年を目安とする。 後宇多法皇は、嫡孫(長男邦治(後二条天皇)の子)邦良(8歳)が成長するまで次男尊治(後醍醐)をつなぎの天皇としておいて邦良を皇太子とし、尊治の子孫を邦良以降の天皇の補佐役とすべき考えだった。後宇多の強い意向を受けた鎌倉幕府は、「花園天皇が尊治に譲位すべきこと、邦良を皇太子とすること、その次の皇太子は量仁(ｶｽﾞﾋﾄ)(持明院統(後伏見の男))とすること。」という提案を行なった。「文保の和談」(尊治も邦良も大覚寺統だから、この時点で既に両統迭立に反している。幕府の困惑ぶりと統制力の欠如を物語る。) 一方、尊治は自分の次に邦良(兄の男)が即位すれば自身の子孫が皇位に即く見込みがなくなるという私的危機感を抱いた。 7月 真壁椎尾 鹿嶋大使役　9月 伏見法皇没(持明院統) 翌年、花園が尊治への譲位を決意する一因となる。
1318	文保 2	-707	2月 花園天皇(持明院統) 皇太子尊治親王に譲位し、尊治践祚して後醍醐天皇(大覚寺統)。大覚寺統家長の後宇多法皇 第二次院政開始。これより南北朝内乱の早期と称す。1441嘉吉の変で(一応)完結。　7月 小栗南方 鹿嶋大使役
1319	元應 1	-706	4月28日改元　7月 吉田大戸(次郎三郎國幹子息吉田太郎廣幹) 鹿嶋大使役
1320	元應 2	-705	6月 後醍醐の私的危機感からの暴走による王家断絶を危惧する吉田定房(第一次後宇多院政のとき執政(後宇多側近の筆頭))が後醍醐へ奏状を奏進。奏状は「後宇多も幕府も命運の尽きるときが来るのだから、兵革を用いないで時期を待つべし」と。後醍醐は黙殺。 7月 東條高田 鹿嶋大使役
1321	元亨 1	-704	2月23日改元　10月16日 院政停止につき鎌倉幕府の同意を得るための後宇多使者吉田定房京を出発～12月9日 帰京。 定房はこの間に後醍醐宛奏状の改稿を書く。前年6月に後醍醐に奏進したが黙殺されたので再度同様の奏上を行なう。 7月 鹿嶋立原某 鹿嶋大使役　12月9日 吉田定房が帰京すると即日後宇多の第二次院政停止(『増鏡』は後宇多自身の意志とするが矛盾あり)。院政廃止/後醍醐天皇親政開始。
1322	元亨 2	-703	7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役　9月 後醍醐の義父西園寺實兼没
1323	元亨 3	-702	金澤貞顕 金澤山稱名寺 伽藍・浄土式庭園完成。結界を行なう。稱名寺最盛期。山門左右の仁王様はこのときのもの。 7月 行方某 鹿嶋大使役
1324	正中 1	-701	元亨4年6月25日 後宇多法皇(後醍醐実父)没58歳　早く自派の天皇を得たい持明院統は春宮(ﾄｳｸﾞｳ)派と連携して後醍醐に邦良(大覚寺統だが)への譲位を迫り、後醍醐はその後ろ盾となっている鎌倉幕府を倒すことを決意する。 奈良に般若寺造立。本尊文殊菩薩木像の墨書に文観の名あり。倒幕計画の成就を願う文面。大施主藤原兼光は御家人で六波羅探題の伊賀兼光である。これは後醍醐の影響力の大きさを物語るもの。　7月 真壁某 鹿嶋大使役 9月19日 正中の変 後醍醐天皇の鎌倉倒幕計画露見。失敗を知った後醍醐の様子を、花園上皇は「主上は頗る困惑したもうて勅答等も前後矛盾･･･」と『花園天皇日記』元亨4年9月19日条)。倒幕計画立案は、元亨2年9月に義父、本年6月に実父を亡くしてタガが外れた後醍醐が暴走したもの。側近日野資朝/俊基、僧の玄基、武士足助重範らと9月23日の北野祭を期して六波羅探題を急襲する旨の謀議を行なったが、与同人土岐頼員が義父の六波羅奉行人に漏らしたため露見。土岐頼兼・多治見國長討死、日野資朝/俊基捕縛。状況を見極められず、且つ卑怯な後醍醐は弁明書を万里小路宣房に鎌倉へ持参させて自らは責を免れ、すぐに復権。　12月9日改元
1325	正中 2	-700	閏1月 後醍醐は、皇太子邦良への譲位を拒否する旨、吉田定房を使者として鎌倉へ下向させる。　7月 小栗某 鹿嶋大使役 鎌倉幕府が元に建長寺船を派遣。　後醍醐は鎌倉幕府や朝廷内部への政治工作を展開。寺社勢力を取り込み、楠木正成を代表とする悪党・海賊を味方につける。持明院統も後醍醐から邦良への早期譲位を画策し、両統の使者が同時に鎌倉へ馳せ向かう。この状況を、世間では競馬(ｸﾗﾍﾞｳﾏ)と称した。(『花園天皇日記』正中2年1月13日条) 鎌倉大仏殿 嵐で倒壊。1365に再建。1335～　遊行上人4代目呑海は極楽寺跡に現清浄光寺(藤沢山遊行寺)を建て独住。
1326	嘉暦 1	-699	3月 皇太子邦良が夭折。邦良に代わる皇太子として後醍醐は自身の男尊良を、後二条派は邦良の弟邦省(ｸﾆﾐ)を推したが、鎌倉は「文保の和談」に従い持明院統の量仁を指名。　4月26日改元　北條高時が鎌倉幕府執権を辞し出家。金澤貞顕が執権となるが、高時弟が激怒。貞顕は怖じ気づき1ヶ月で執権を辞す。　7月 吉田某 鹿嶋大使役
1327	嘉暦 2	-698	7月 東條某 鹿嶋大使役
1328	嘉暦 3	-697	2月 持明院統家長後伏見が鎌倉へ後醍醐の譲位と量仁践祚を訴える長文の目安を送る。　7月 鹿嶋林某 鹿嶋大使役
1329	元徳 1	-696	7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役　8月29日元徳に改元
1330	元徳 2	-695	7月 行方某 鹿嶋大使役
1331	元徳 3 元弘 1	-694	元徳3年4月 元弘の変 後醍醐天皇 倒幕再失敗。王家断絶を危惧する吉田定房が鎌倉へ漏らす。鎌倉幕府は直ちに日野俊基、文観、円観らを捕縛。後醍醐派の楠木正成が河内國赤坂城に挙兵。 元徳3年8月 後醍醐は笠置山へ遁走。皇太子量仁践祚し光厳天皇　7月 真壁某 鹿嶋大使役　8月9日 元弘に改元 8月 得宗家北條高時が身内人の長崎高資を討とうとして失敗。 10月 後醍醐 鎌倉幕府軍に抵抗するも敗れ京へ戻って神器を光厳に渡す。 11月 鎌倉幕府は両統迭立原則どおり故邦良の男康仁を皇太子に指名。
1332	元弘 2 正慶 1	-693 (光厳)	3月 後醍醐 隠岐に配流。日野資朝、俊基ら処刑。　4月28日 光厳が正慶に改元(翌年、復活した後醍醐により正慶は無効とされる) 後醍醐に代わり後醍醐の皇子護良(ﾓﾘﾅｶﾞ)親王吉野に挙兵。これより倒幕まで護良が討幕運動の中心となる。後醍醐方の楠木正成 千早城に籠もって鎌倉幕府軍と対峙。　7月 小栗某 鹿嶋大使役
1333	元弘 3 正慶 2	-692 (光厳)	閏2月 名和長年は隠岐を脱出した後醍醐を奉じて船上山で挙兵。 4月 倒幕派掃討軍大手大将名越高家が出京直後に赤松円心勢の矢で死亡。加えて搦手側大将足利尊氏は出京後、山陰道丹波國篠村(亀岡市)で後醍醐側に寝返り5月初旬転進、倒幕軍となって一気に六波羅を落とした。尊氏は鎌倉から京へ向けて出発した時点で鎌倉幕府に対する謀反を決意していた。六波羅探題北條仲時らは鎌倉へ敗走途中、近江國馬場宿(滋賀県米原町)で集団自決。 船上山の後醍醐は六波羅陥落を確認すると、光厳天皇とその元号「正慶」の廃止と光厳が行なった朝廷人事の無効を宣言。 5月初旬 新田義貞は上野國新田庄(群馬県新田町)で挙兵し鎌倉街道を南下。この挙兵は尊氏から催促されたもので、六波羅攻撃と連動している。同様に筑前博多の鎮西探題は大友氏らにより落とされる。 5月22日 鎌倉幕府滅亡/鎌倉時代終期 新田義貞 鎌倉に攻め入り北條高時31歳、金澤貞顕56歳ら北條一族870人東勝寺にて集団自決。金澤貞顕男貞将(さだゆき)は一旦東勝寺に戻るも再度敵陣に討って出て凄絶なる戦死。32歳。 6月 後醍醐帰京。鎌倉幕府の強制で譲位させられる前の状態に戻すことを宣言し光厳を皇太子とする。加えて自身の理念実行に邪魔になる全てを排除した。その結果、北畠親房/顕家ら側近とさえ葛藤を生じる。 6月13日 後醍醐は尊氏追討を主張する護良を征夷大将軍に任じるが翌年10月に撤回。一転して護良を捕らえる。 7月 吉田某 鹿嶋大使役　12月 足利尊氏弟直義 後醍醐の皇子成良親王(8歳)を奉じて鎌倉入り。鎌倉将軍府。
1334	建武 1	-691	1月29日改元　後醍醐による建武の新政　7月 東條某 鹿嶋大使役　前年冬から明年まで、元北條氏知行地で北條氏残党による反乱が相継ぐ。　10月 後醍醐は綸旨と競合する令旨を連発する護良を謀反のかどで捕縛し11月に足利直義の押さえる鎌倉へ流す。
1335	建武 2	-690	7月 中先代の乱 2年前に鎌倉東勝寺で自決した北條高時男で信濃に潜行していた弱冠10歳の北條時行(中先代(ﾅｶｾﾝﾀﾞｲ))が諏訪氏に担がれ挙兵。一時的なるも鎌倉奪還。常陸大掾馬場高幹も時行に従い相模國鶴見原ほかで勝利し鎌倉へ入る。足利直義 参河に敗走。このとき、東光寺(現鎌倉宮内)座敷牢にいた護良親王を直義配下の淵辺義博が殺す。中先代の乱は結果的に後醍醐建武政府の命取りとなる。　7月 鹿嶋安房幹詮 鹿嶋大使役 鎌倉大仏殿が台風で倒壊。台風を避けるため中にいた北條時行一行のうち500人ほどが死ぬ。1365へ 直義は参河に留まり成良親王を京へ戻す。

西暦	元号	年数	EVENT
			三浦時継は中先代方に付いたが、その男三浦高継が後醍醐天皇方、後に足利尊氏配下となり尊氏は高継に三浦介を安堵し三崎・松輪・金田・菊名・網代・諸石(磯)(いずれも三浦市)の領有を認める。 三浦氏は高継男高通の代になって寶治合戦で失った相模守護を復活。三浦介として復活する。 8月19日 ″征東将軍″ 尊氏 参河で直義と合流し鎌倉を攻撃、北條時行を破る。**中先代の乱終熄** 尊氏は事前に ″征夷大将軍″ 任官を後醍醐に要請するが拒否され、征東将軍として京を進発。 後醍醐は尊氏に帰京を命じ、応じようとする尊氏を直義が制止。鎌倉に滞留。 10月中旬、鎌倉幕府跡地に邸宅を新築。幕府再建の構え。 11月 直義は新田義貞追討を理由に諸國に兵を募る。後醍醐はこれを謀反と見なし、新田義貞を鎌倉へ向かわせる。 12月 尊氏/直義は新田義貞軍ら官軍を伊豆國箱根竹下にて敗走させ京へ進軍。陸奥守として下向していた北畠親房男で弱冠16歳の北畠顕家が後醍醐の命で足利軍を追撃。
1336	建武 3 延元 1	-689 (南朝)	1月19日付 足利尊氏下文 近江國佐佐木佐渡守定宗に東條庄高田郷を与える。北朝方の足利尊氏が後醍醐を無視して論功行賞を行なったものだが、**東條氏が高田郷を没収されたことを意味するので、東條氏は南朝へ靡き、備えとして神宮寺城を築く。** 同1月 尊氏西上・・・が、陸奥から尊氏を逐った北畠顕家が新田義貞軍と合流し尊氏軍を京から排除。 2月 後醍醐方楠木正家(正成弟とも)の依る常陸國久慈西郡瓜連城(那珂郡瓜連町)が足利方佐竹貞義・義篤らに攻められる。 2月29日南朝 延元に改元 同2月 尊氏 摂津の戦いに敗れ九州へ敗走。 3月 尊氏 九州筑前國多々良浜で菊池武敏を破り数万の大軍で京へ転進。 5月25日 **摂津湊川の戦い**。尊氏を新田義貞・楠木正成が迎え撃つ。正成 手兵500で善戦するも一族・郎党70余自刃。 5月27日 新田義貞が後醍醐天皇を比叡山に護送し移座。尊氏 その虚をつき入京。 6月5日 足利直義 大規模な比叡山攻め開始。 **7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役** 8月15日 尊氏 光明天皇(持明院統(後の北朝))を擁立。新田義貞麾下の有力武士は次々と尊氏方へ走る。 10月1日 後醍醐天皇 比叡山を下り京都へ向かう。 11月2日 後醍醐天皇 光明天皇に三種の神器(偽物)を渡し、後醍醐の皇子成良親王が皇太子となった(両統迭立の原則どおり)。これにて両統和睦成る・・・はずだったが、後醍醐はまた動く・・・ 12月21日 後醍醐天皇 楠木一族の手引きで吉野へ潜幸(南朝)。**南北朝内乱に発展** 1343までが1/3期(鮮明な南北両朝の対立)1392に合一 南北朝の争乱は[各國の土着武士(國方)(南朝)]vs[室町幕府+各國の荘園領主(京方)(北朝)]の対立という構図。 足利尊氏 京都室町に幕府開設 これを以て**室町時代始期**-1573まで237年間(始期・終期とも諸説あり)
1337	建武 4 延元 2	-688 (南朝)	2月 北朝方佐竹氏 畑田時幹を伴い南朝方小田治久の小田城を攻撃。 **7月 東條氏・小田治久・春日顕國ら常陸國南朝勢、東條太田城に挙兵。 同月 北朝方畑田時幹、東條太田城を攻める。常陸大掾本宋馬場(ﾊﾞﾝﾊﾞﾉ)高幹は北朝に寝返る。 7月 行方某 鹿嶋大使役** **9月19日 畑田時幹、佐竹義春に属して東條荘龜谷城を攻め、若党富田胤幹らを差し置き東條氏に備える。さらに笠間城を攻める。** **10月 畑田時幹、南郡大枝郷で南朝方春日顕國・小田治久と戦う。**
1338	暦應 1 延元 3	-687 (南朝)	**この年～1341が東條荘に於ける南北朝対立ピーク。** 5月 南朝方北畠顕家和泉國石津で高師直により敗死21歳 閏7月 南朝方新田義貞 越前藤島で北朝方足利一門斯波高経により敗死37歳 **7月 真壁某 鹿嶋大使役** 8月 足利尊氏 征夷大将軍に任官し室町幕府態勢強化 8月28日北朝 暦應に改元 9月9日 敗色濃くなり東國経営のため伊勢國大湊を出航した南朝方船団、北畠親房率いる500余艘が遠州灘で台風に遭い漂流。 **9月11日 同船団 再度の烈風で親房と随従は信太郡東條浦漂着。地頭東條氏(能登守か)の案内で神宮寺城へ入る。** **10月5日 常陸國守護である北朝方佐竹義篤が大掾高幹ほか鹿行の鹿嶋幹寛・畑田時幹・宮崎幹顕等を率いて霞ヶ浦を渡り神宮寺城へ来攻。容易く落城。親房は東條氏の阿波崎城へ移り、救援の小田治久により筑波山麓の小田城へ逃げ延びた(11月初旬か)。**
1339	暦應 2 延元 4	-686 (南朝)	4月 室町幕府 常陸南朝勢の結集を知り高師冬(執権高師直子)を東下 **7月 小栗某 鹿嶋大使役** 8月15日 吉野の後醍醐天皇 死期を悟り皇太子義良(ﾓﾘﾅｶﾞ)親王を97代後村上天皇として即位させ、翌16日に没52歳 **後醍醐は生涯、武士を軽視した。**1288- 北畠親房 若い後村上天皇のために『神皇正統記』を小田城で書き始める。 10月 **常陸合戦** 武藏國にいた北朝方高師冬軍 常陸へ進軍。**常陸國での南北朝両軍の本格的対立。** 11月 師冬軍 南朝方拠点小田・関・大寶諸城を攻撃。攻略目標は中御門少将藤原實寛の依る駒城(城主 平方氏(下妻市)).
1340	暦應 3 興國 1	-685 (南朝)	小田城に依る南朝方春日顕國、関城主関宗祐(結城氏傍流)らの反撃で師冬軍の駒城攻略未だ成らず。 4月28日南朝 興國に改元 5月27日 師冬軍に半年間耐えた南朝方駒城、ついに落城。 **7月 吉田某 鹿嶋大使役 9月23日 南朝方東條勢、龜谷城を北朝方(佐竹軍)から奪還。** 11月 師冬軍 下野國宇都宮を経由して常陸國瓜連城へ入る。
1341	暦應 4 興國 2	-684 (南朝)	5月16日に瓜連城を出た師冬軍、6月中旬に小田城攻撃開始。 7月 若森(つくば市)の戦いで師冬軍敗走。一進一退。 **7月 東條某 鹿嶋大使役(戦いの最中にも拘わらず！？)** 9月 婆娑羅大名土岐頼遠、京に於て光厳上皇の列に下馬せず御車に矢を射かける。1342/12に死罪。婆娑羅は他に佐佐木高氏(京極道誉)(『太平記』)、高師直(足利尊氏執事)/師泰(侍所長官 河内國・和泉國守護)兄弟等(『太平記』)が有名。 **9月17日 北朝方屋代彦七信経・別府幸實ら信太荘佐倉楯(江戸崎町)・河内郡馴馬楯(龍ヶ崎市)・東條太田城・龜谷城(江戸崎町)攻略。** 9月23日 北朝方屋代彦七信経・別府幸實ら高井城(貝原塚城か)を攻撃、諸処に放火。落城。 **10月5日 東條氏、北朝方に降伏。この後も鹿嶋大使役を務めるので余力は残していた。** 同10月 小田城内にも離反者増加。 11月10日 小田治久の小田城も開城。北畠親房は関城(真壁郡関城町)へ、春日顕國は大寶城(下妻市)へ敗走。 小田治久はその後、室町幕府へ忠勤を尽くしたので一時高師冬所領となった信太庄を奪回できた。しかし・・・1385へ
1342	康永 1 興國 3	-683 (南朝)	4月27日北朝 康永に改元 **7月 鹿嶋宮崎幹詮 鹿嶋大使役** 常陸國内での南北朝両軍の攻防は翌年11月まで続く。 12月 室町幕府 土岐頼遠を誅す。
1343	康永 2 興國 4	-682 (南朝)	**7月 國府(大掾)某(小栗某とも) 鹿嶋大使役** 11月11-12日 関城主関宗祐切腹・大寶城主下妻政泰戦死、二城陥落。伊佐城(下館市)陥落。関城の北畠親房・大寶城の春日顕國・興良親王ら事前に吉野へ脱す。南朝の東奥経営完全に挫折。北畠親房の『神皇正統記』は小田城で執筆、関城で脱稿。 1363までが南北朝内乱2/3期(室町幕府中心の武家方の分裂で南朝が延命する時期)
1344	康永 3 興國 5	-681 (南朝)	2月 高師冬 常陸國から鎌倉へ戻る。 3月 春日顕國 大寶城を攻めるが結城氏に捕縛され殺される。4月24日、春日顕國の首級が京都六条河原に梟される。小田治久・孝朝父子は北朝方へ帰順し辛うじて本領維持。**常陸國の南朝勢力壊滅。** 室町幕府初代将軍 足利尊氏没。足利義詮 2代将軍。 **7月 行方某 鹿嶋大使役**
1345	貞和 1	-680	興國6年(南朝) **7月 真壁某 鹿嶋大使役** 10月21日北朝 貞和に改元
1346	貞和 2	-679	正平1年(南朝) **7月 小栗某 鹿嶋大使役** 12月8日南朝 正平に改元
1347	貞和 3	-678	正平2年(南朝) **7月 吉田某 鹿嶋大使役**
1348	貞和 4	-677	正平3年(南朝) 南朝方楠木正行(ﾏｻﾂﾗ)(正成男) 河内國**四條畷の戦い**で高師直に敗死。 **7月 東條某 鹿嶋大使役**
1349	貞和 5	-676	正平4年(南朝) 足利直義と高師直が不和 足利基氏鎌倉公方 **7月 鹿嶋沼尾某 鹿嶋大使役**
1350	観應 1	-675	正平5年(南朝) 2月27日北朝 感應に改元 **7月 國府(大掾) 鹿嶋大使役** 11月12日 室町幕府と対立する上杉能憲 信太庄で挙兵。
1351	観應 2 正平 6	-674 (南朝)	**観應(観応)の擾乱** 足利尊氏・直義兄弟の争い頂点に達す(室町幕府の内部抗争)。 **7月 行方某 鹿嶋大使役** 高師直・師冬 上杉憲顕に攻められ甲斐で自殺。
1352	文和 1	-673	正平7年(南朝) 2月 足利尊氏 弟直義を鎌倉で毒殺。**観應の擾乱終息** **7月 真壁某 鹿嶋大使役** **武蔵野合戦** 新田義貞の遺児義興・義宗と足利尊氏が対戦 9月27日北朝 文和に改元
1353	文和 2	-672	正平8年(南朝) **7月 小栗某 鹿嶋大使役**
1354	文和 3	-671	正平9年(南朝) 4月 北畠親房没62歳 **7月 吉田某 鹿嶋大使役**
1355	文和 4	-670	正平10年(南朝) **7月 東條某 鹿嶋大使役**
1356	延文 1	-669	正平11年(南朝) 3月28日北朝 延文に改元 **7月 鹿嶋徳宿幹綱 鹿嶋大使役**
1357	延文 2	-668	正平12年(南朝) **7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役**
1358	延文 3	-667	正平13年(南朝) 4月 足利尊氏没54歳1305- 大友氏 高崎城を築く。 **7月 行方嶋崎某 鹿嶋大使役**
1359	延文 4	-666	正平14年(南朝) **7月 真壁某 鹿嶋大使役**
1360	延文 5	-665	正平15年(南朝) 室町幕府軍 楠木正儀の赤坂城塞群を攻囲 **7月 小栗某 鹿嶋大使役**
1361	康安 1	-664	正平16年(南朝) 3月29日北朝 康安に改元 室町2代将軍 足利義詮、南朝方の京都乱入で近江へ避難。 **7月 吉田平戸民部尉 鹿嶋**

西暦	元号	年数	EVENT
			大使役
1362	貞治 1	-663	正平17年(南朝) 7月 東條能登守 鹿嶋大使役　　9月23日北朝 貞治に改元
1363	貞治 2 正平 18	-662 (南朝)	7月 鹿嶋青山某 鹿嶋大使役　小田治久男孝朝 足利基氏に従い軍功あり信太庄加贈(旧領回復)さる。しかし･･･1386へ 山内上杉憲方、鎌倉御所の招きで関東管領復職。関東下向時、美濃源氏土岐氏傍流原刑部少輔秀成を帯同。原氏は江戸崎移住後に土岐原氏を称す。　この年 大内･山名両氏が室町幕府に帰伏し九州以外が幕府支配下へ 1392(南北朝合一)まで内乱の3/3期(室町幕府の九州平定と外交問題が課題となる時期)
1364	貞治 3	-661	正平19年(南朝)　7月 國府(大掾)某 鹿嶋大使役
1365	貞治 4 正平 20	-660 (南朝)	1月22日 東條能登守 足利基氏(尊氏2男 後の鎌倉公方)の命を受け、佐竹義宣が押領した久慈郡内の土地を鎌倉府奉公衆宍戸氏朝氏と協力して二階堂出羽幸鶴丸に戻す。　7月 行方某 鹿嶋大使役　1335に台風で倒壊した鎌倉大仏殿再建。1369へ
1366	貞治 5	-659	正平21年(南朝) 東條能登守 香取應安海夫注文に登場　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1367	貞治 6	-658	正平22年(南朝)　7月 小栗某 鹿嶋大使役　12月 室町幕府2代将軍 足利義詮没38歳　細川頼之上洛、管領に就任。『太平記』はこれを以て「氏族も是を重んじ外様も彼名を背かずして中夏無為の代に成て目出たかりし事共也」と寿ぎの結語で終わるが南北朝内乱はまだ続く。
1368	應安 1	-657	正平23年(南朝) 2月18日北朝 應安に改元　義詮男 足利義満11歳に将軍宣下 室町幕府3代将軍 3月 南朝後醍醐天皇男 後村上天皇没41歳 7月 吉田勝藏 鹿嶋大使役
1369	應安 2	-656	正平24年(南朝) 7月 東條某 鹿嶋大使役　1365に再建された鎌倉大仏殿台風で再び倒壊。1495へ
1370	應安 3	-655	建徳1年(南朝)　7月 鹿嶋仮使新大掾石崎掃部助 鹿嶋大使役　7月24日南朝 建徳に改元
1371	應安 4	-654	建徳2年(南朝)　7月 國府永岡某 鹿嶋大使役
1372	應安 5	-653	文中1年(南朝) 4月南朝 文中に改元　7月 行方小高某 鹿嶋大使役
1373	應安 6	-652	文中2年(南朝)　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1374	應安 7	-651	文中3年(南朝)　7月 小栗某 鹿嶋大使役　この頃に作成された『常陸國海夫注文(香取應安海夫注文)』は霞ヶ浦･北浦を中心とした内海の津とその知行者のリスト。「あはさきの津(阿波崎津)」は東條能登入道知行分。「むまわたしの津(馬渡津)」は東條地頭領家知行分。「ふっとの津(古渡津)」、「ひろとの津」、「ふなこの津」は東條能登入道知行分。「ふっとの津した(古渡津下)」は小田氏と吉原氏の知行分。ほか諸氏の記録あ
1375	永和 1	-650	天授1年(南朝) 2月27日北朝 永和に改元　5月27日南朝 天授に改元　高麗使が来日し倭寇の禁を求める。　7月 吉田大野入道法本子息 鹿嶋大使役
1376	永和 2	-649	天授2年(南朝) 7月 東條某 鹿嶋大使役
1377	永和 3	-648	天授3年(南朝) 馬場大掾高幹 鎌倉府より吉田郡･行方郡･鹿嶋郡･真壁郡･南郡･東條荘･片穂荘に於ける円覚寺の棟別銭徴収を命じられる。これは、常陸國守護に優先して大掾氏が委任されたもの。　7月 鹿嶋安房宮崎某 鹿嶋大使役
1378	永和 4	-647	天授4年(南朝)　足利義満が京の室町に花の御所を造営。　7月 國府某 鹿嶋大使役
1379	康暦 1	-646	天授5年(南朝) 3月22日北朝 康暦に改元　7月 行方手賀某 鹿嶋大使役
1380	康暦 2	-645	天授6年(南朝)　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1381	永徳 1	-644	弘和1年(南朝) 2月10日南朝 弘和に改元　2月24日北朝 永徳に改元　7月 小栗某 鹿嶋大使役
1382	永徳 2 弘和 2	-643 (南朝)	東條能登守(太郎か) 烟田重幹の言上状に〝敵〟として登場『烟田文書』。この言上状は、烟田重幹が「常陸大掾入道･真壁刑部大夫入道･東條能登入道らが梶原貞景と同心して鳥栖を押領している」と、鎌倉府に訴えたもの。　7月 吉田上野 鹿嶋大使役
1383	永徳 3	-642	弘和3年(南朝) 7月 東條某 鹿嶋大使役
1384	至徳 1	-641	元中1年(南朝) 2月27日北朝 至徳に改元　4月28日南朝 元中に改元　7月 真壁鹿嶋立原某 鹿嶋大使役
1385	至徳 2	-640	元中2年(南朝)　小田孝朝 下野小山義政男若犬丸と共に南朝の残党と協力、難台山に挙兵/降伏。小山若犬丸の乱
1386	至徳 3 元中 3	-639 (南朝)	小田孝朝 小山若犬丸の乱に関係したことから信太庄再度没収さる。信太庄は鎌倉管領上杉憲顕に宛行。 小田氏は鎌倉後期に守護職を北條氏に奪われたり、南朝方に与して佐竹氏に攻められたりで、常陸の勢力圏は徐々に佐竹氏に移行。
1387	嘉慶 1 元中 4	-638 (南朝)	関東管領山内上杉憲方被官の原刑部少輔秀成、江戸崎に移住し信太庄惣政所開設。土岐原氏を名乗り江戸崎土岐氏祖となる。土岐原氏はその後、山内上杉氏方國人領主となって戦國末期までに龍ヶ崎城、木原城(美浦村)を築き信太庄一帯を支配。しかし、少なくとも1404年までは東條氏も一定の勢力を有す。　7月 真壁某(鹿嶋津賀幹能とも)(吉田大掾とも) 鹿嶋大使役 8月23日 北朝 嘉慶に改元　11月 小田孝朝の乱 (勝)鎌倉府+関東管領上杉憲方 vs (負)室町幕府に近い小田孝朝 12月 美濃國守護土岐氏総領 頼康没70歳。養子康行が家督を継ぐ。その後、室町幕府将軍足利義満による土岐家分断工作。
1388	嘉慶 2	-637	元中5年(南朝)　美濃土岐氏 國方の美濃國守護土岐康行と京方の弟満貞の間で内乱。　倭寇が高麗の光州を襲い州都を焼く。 7月 小栗國府大掾 鹿嶋大使役
1389	康應 1 元中 6	-636 (南朝)	室町将軍足利義満 美濃國守護土岐康行を滅す。さらに土岐氏は美濃頼益、尾張満貞、伊勢仁木満長に三分され勢力削減さる。　7月 吉田行方嶋崎(吉田大掾とも) 鹿嶋大使役
1390	明徳 1	-635	元中7年(南朝) 3月26日北朝 明徳に改元　7月 東條某 鹿嶋大使役
1391	明徳 2	-634	元中8年(南朝)　明徳の乱 室町幕府軍により山名氏清敗死　7月 小栗某(鹿嶋津賀幹能とも) 鹿嶋大使役
1392	明徳 3 元中 9	-633 (南朝)	南北朝合一　室町幕府3代将軍足利義満の功。だが、この後も紛争は続く。 三種の神器は10月2日吉野から京都大覚寺へ、10月5日宮中内侍所へ移送された。
1393	明徳 4	-632	7月 行方玉造某 鹿嶋大使役
1394	應永 1	-631	7月5日改元(南北朝合一後 最初の改元)　この年一休宗純誕生-1481 後小松天皇落胤と。　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1395	應永 2	-630	7月 小栗某 鹿嶋大使役
1396	應永 3	-629	7月 吉田闕如 鹿嶋大使役
1397	應永 4	-628	足利義満 鹿苑寺金閣造営　7月 東條大沼茂幹 鹿嶋大使役
1398	應永 5	-627	7月 鹿嶋烟田某 鹿嶋大使役
1399	應永 6	-626	應永(応永)の乱 大内義弘滅亡。堺城に挙兵するも室町幕府軍に降る(南北朝内乱の延長)。　7月 大掾 鹿嶋大使役
1400	應永 7	-625	7月 行方小高 鹿嶋大使役
1401	應永 8	-624	足利義満 第1回遣明船　7月 真壁某 鹿嶋大使役
1402	應永 9	-623	第1回遣明船帰國、足利義満は明の國書を受領。　新田義貞の子孫、箱根底倉で討たれる(南北朝内乱の延長)。　7月 小栗南方御料所 鹿嶋大使役
1403	應永 10	-622	7月 吉田平戸某 鹿嶋大使役
1404	應永 11	-621	7月 東條高田氏 鹿嶋大使役。鹿嶋大使役記、これが最後。　足利義満 明から『日本國王之印』と『永楽勘合』を受領。勘合貿易開始。
1405	應永 12	-620	鎌倉永福寺(ﾖｳﾌｸｼﾞ)焼失。永福寺は、頼朝が奥州合戦で戦死した藤原氏、そして源義経らの菩提を弔うため1192に建立した。
1406	應永 13	-619	12月8日 小田孝朝、冨崎貞俊に南野荘冨崎郷内8反の田地を与える。
1407	應永 14	-618	8月29日 夜、鎌倉御所火災。足利満兼は宍戸遠江入道宿所へ移る。
1408	應永 15	-617	足利義満没51歳　南北朝内乱の後始末は1441まで続く。
1409	應永 16	-616	3月25日 土岐秀成、信太荘惣政所として活動。
1410	應永 17	-615	應永年中 江戸氏が、水戸に居館を構える馬場大掾を駆逐して進出。その江戸氏は天正18年 佐竹氏に滅ぼされる。
1411	應永 18	-614	室町幕府が明使を拒否し國交中断。　9月6日、土岐原秀成が円密院に紛失状を提出。　1月16日 上杉憲定、関東管領を辞す。　2月9日 上杉氏憲(禅秀)関東管領に就任
1412	應永 19	-613	12月18日 上杉憲定没　この年、土岐頼元が摂津富山城から上総國萬喜(満喜･万騎とも)城へ移り土岐萬喜始祖となる。
1413	應永 20	-612	9月10日 平氏幹･平智幹ら、守山村の八幡宮造営の大檀那となる。
1414	應永 21	-611	8月20日 足利持氏、國井郷の佐竹左馬助跡を鶴岡八幡宮へ寄進。
1415	應永 22	-610	この頃、土岐原氏初代秀成没/憲秀が土岐原氏 2代当主。　上杉禅秀(氏憲)の乱-1417 鎌倉公方足利持氏のとき犬懸上杉氏当主氏憲(禅秀と号す)は義憤から関東管領を辞任。対立する上杉憲基が後任に就いたため足利持氏邸を襲撃。
1416	應永 23	-609	上杉氏憲は鎌倉公方足利持氏を鎌倉から追放し、足利満隆を鎌倉御所として新政権発足･･･に見えたが･･･室町幕府が持氏を軍事的に援助したため事態は急変。
1417	應永 24	-608	1月 上杉禅秀(氏憲)自害して乱終熄(1415-)。乱で持氏に味方した大森氏は後、小田原城を本拠とする。

西暦	元号	年数	EVENT
1418	應永　25	-607	11月19日、土岐原憲秀が佐倉郷毘沙門堂別当に諸岡右京亮の男幸明丸を補任。
1419	應永　26	-606	應永の外寇 李氏朝鮮軍が対馬に来攻。
1420	應永　27	-605	7月20日 足利持氏、小山満泰に上杉禅秀の残党討進を命じる。
1421	應永　28	-604	6月25日 足利持氏、佐竹義憲と庶子家の紛争につき二階堂盛秀と宍戸持朝に調停を命じる。
1422	應永　29	-603	この年 飯尾彦六左衛門尉常房誕生-1485　長じて、應仁(応仁)の乱で焼けた京の町を嘆き「汝(ナレ)や知る都は野辺の夕雲雀(ユウヒバリ)あがるを見ても落つる涙は」と詠む。1444へ
1423	應永　30	-602	8月 土岐原憲秀、鎌倉山内上杉清方に従い行方の鳥名木國義らを率い反乱を起こした小栗氏の小栗城(協和町)に依る山入与義を攻め軍功あり。山入氏討伐軍には烟田幹胤を含む鹿嶋・行方・東條諸氏あり。これは、常陸平氏の結束を意味する。
1424	應永　31	-601	9月15日 土岐原憲秀 烟田幹胤への扶持を命じられる。 龍ヶ崎城は鎌倉時代下河辺氏の所領で、子孫が龍ヶ崎氏を称した。應永年中(1394-1428)鎌倉管領上杉氏憲に没収され、土岐胤倫が居城。天正11(1583)年佐竹氏に攻め取られたがすぐに奪還。
1425	應永　32	-600	8月16日 足利持氏、上杉房實に甲斐武田信長を討たせる。
1426	應永　33	-599	8月25日 足利持氏、甲斐武田信長を降伏させる。
1427	應永　34	-598	9月 利根・渡良瀬両川、大洪水。
1428	正長　1	-597	4月27日改元　8月28日付鳥名木國義軍忠状によれば土岐原氏3代景秀は山入与義の反乱鎮圧のため行方の鳥名木氏等を率い野口城を攻撃。土岐原氏2代憲秀もこれに加わる。
1429	永享　1	-596	9月5日改元
1430	永享　2	-595	8月6日 幕府、鎌倉府軍の那須城攻めの報に越・信・駿3國に那須救援を命ず。
1431	永享　3	-594	3月6日 足利持氏、建長寺仏殿造営用木を所々で伐採することを許す。
1432	永享　4	-593	伊勢新九郎盛時(長氏) 後の(後)北條早雲 備中國荏原荘((岡山県井原市)に誕生。父伊勢備前守盛定、母伊勢貞國女。 太田資長誕生-1486 太田資清(道真)男 道灌と號すは1478から。　室町幕府足利義教 明へ使者を送り國交回復。
1433	永享　5	-592	6月8日 烟田幹時、次男宮王丸に烟田村内田41町5段・鳥栖村地頭職等を譲与。
1434	永享　6	-591	土岐原刑部少輔憲秀没/景秀が土岐原氏3代当主。　勘合貿易復活
1435	永享　7	-590	この年(推定)7月25日付書状で真壁朝幹は負担が大きいとして鹿嶋大使役の免除を申し出る。
1436	永享　8	-589	7月 鹿嶋憲幹 鹿嶋大使役
1437	永享　9	-588	6月3日 足利持氏が上杉憲實を討つとの風聞が立つ。
1438	永享　10	-587	8月14日 上杉憲實、足利持氏と対立して本国上野へ逃避。このとき小山持政、憲實に従う。
1439	永享　11	-586	永享の乱(1438-1439)　室町幕府将軍足利義教と対立した鎌倉公方足利持氏は敗れて自刃。以後、寶徳元(1449)年まで鎌倉公方空席で混乱。足利氏勢力が衰退したため上杉憲實が事実上の統治者となる。 三浦時高は当初持氏に付いたが室町幕府方に転じて持氏を攻撃、幕府から恩賞を受け勢力を回復する。1456へ
1440	永享　12	-585	結城合戦 結城氏朝とその一族および関東の諸氏族が鎌倉御所足利持氏の遺子安王丸・春王丸を擁立して下総結城城に籠もり、山内上杉清方を総大将とする室町幕府軍(土岐原刑部少輔景秀(3代目)含む)に対抗したが落城。安王・春王は脱出に失敗し殺された。 籠城した龍ヶ崎氏を含む結城方は滅亡。龍ヶ崎右京亮(ウキョウノスケ)他2名の武将は切られ、家人3名は赦免。赦免された家人のうち高田太夫(タユウ)、新発意太夫(シンパチタユウ)は東條氏族らしく、この頃、東條氏は龍ヶ崎氏に依っていたと思われる。 土岐原氏は、この戦功により龍ヶ崎右京亮の所領を奪回できたらしい。すなわち、治承7年に志田義廣の乱で失った東條氏所領のうち龍ヶ崎氏祖下河辺政義に割譲された土地が250年後に江戸崎城の土岐原氏により回復されたことになる。
1441	嘉吉　1	-584	2月17日改元　嘉吉の乱 赤松満祐 室町幕府将軍足利義教を殺し城山城(兵庫県たつの市)に籠もるが敗死。南北朝内乱、ここに終熄。
1442	嘉吉　2	-583	12月5日 上杉憲實、幕府による子房顕の越後所領相続許可を房顕に伝える。
1443	嘉吉　3	-582	3月23日 結城の与党宍戸持里、常陸に挙兵するも長尾彈正に討たれる。
1444	文安　1	-581	2月5日改元　8月15日付 飯尾彦六左衛門尉(常房)の東條近江守宛『進献状写』があったらしい『続常陸遺文8』。「前半部分が脱落し内容不明」『龍ヶ崎市史』『常陸誌料』宮本茶村(諱：元球　別号：水雲　字：仲笏　通称：尚一郎)編纂(国立公文書館内閣文庫蔵)。 [太田]飯尾氏が東條近江守の求めに応じて書写した貞永式目の進献状か。『常陸誌料平氏譜一』
1445	文安　2	-580	2月7日 佐竹義憲、大山印旛守に本古徳の小野崎通勝跡を与える。
1446	文安　3	-579	2月18日 上杉憲景、臼田政重に河内郡遠山郷・足高郷・浜田村・北郡大増郷等の所領を譲与。
1447	文安　4	-578	関東管領山内上杉氏独裁体制進む鎌倉府にあって足利持氏遺児万寿王丸が鎌倉公方後継者と認められ鎌倉に入り元服。足利成氏と改名。
1448	文安　5	-577	足利成氏 反上杉の豪族を糾合して鎌倉公方中心の鎌倉府体制復活を図り、上杉氏との対立深まる。。
1449	寶徳　1	-576	7月28日改元　鎌倉公方に足利成氏就任。関東管領は山内上杉憲實男憲忠。
1450	寶徳　2	-575	4月 江ノ島合戦 鎌倉公方足利成氏と、上杉憲忠方の長尾景仲・太田資長(道灌と號すは1478から)連合軍が江ノ島で合戦。一旦は終熄。
1451	寶徳　3	-574	4月30日 常陸大掾清幹没。子息の高幹が大掾職を継承。
1452	享徳　1	-573	7月25日改元
1453	享徳　2	-572	12月15日 足利成氏、相模國浄光明寺領の諸役を免除。
1454	享徳　3	-571	12月 享徳の乱 鎌倉公方足利成氏が武力による鎌倉府の実権掌握を決意。関東管領山内上杉憲忠を謀殺。室町幕府は今川氏に成氏追討令を発す。30年に及ぶ内乱に発展。戦國(戦国)時代始期とする説あり。
1455	康正　1	-570	この年 太田資長24歳 父道真から家督を継ぐ。現御殿山(平山城)の居城を千代田(平城)に移す。 1月 鎌倉公方足利成氏は各地を転戦の後、下総國古河に拠点を移し上杉勢力に徹底抗戦。成氏以降5代が古河公方と称される。 古河は天然の要害であることと、足利方の豪族・國人がいた。結城:千葉氏、上総:武田氏、安房:里見氏、下野:小山氏、常陸:佐竹氏等。成氏はその後、関宿城・栗橋城・騎西城で勢力圏を確保する。7月25日改元　この頃 上杉房顕が信太庄山内衆に古河公方との対戦を命じ
1456	康正　2	-569	三浦時高 旧岡崎義實の本拠相模國中郡岡崎城を乗っ取る。しかし・・・1494へ
1457	長禄　1	-568	将軍足利義政弟政知が成氏の次の鎌倉公方として下向したが鎌倉に入れず伊豆で堀越公方。　**太田資長 江戸城を築く。**9月28日改元
1458	長禄　2	-567	★この頃、東條近江守没。(1444の『飯尾彦六左衛門尉が近江守に書状を送った』ときに45歳として)
1459	長禄　3	-566	11月 信太庄合戦 古河公方足利成氏(持氏男)支持勢力 vs 山内上杉氏(室町幕府)方(土岐原氏含む)
1460	寛正　1	-565	寛正元年8月10日 信太庄合戦での討死者への感状に『常陸大掾 一族被官人数輩』とあり。　貝原塚氏直 貝原塚城を築く。12月21日改元
1461	寛正　2	-564	12月29日 足利義政、結城駿河守・同伊賀入道・同掃部助の忠節を賞す。
1462	寛正　3	-563	12月29日 多賀谷高経、結城成朝を謀殺。
1463	寛正　4	-562	6月11日 烟田義幹、子息宮王丸に烟田・鳥栖・富田・大和田4か村の地頭職を譲与。
1464	寛正　5	-561	8月17日 幕府、小山持政・鹿嶋實幹・佐竹實定に足利成氏誅伐を命じる。
1465	寛正　6	-560	5月3日 江戸通房没56歳
1466	寛正　7	-559	6月3日 足利義政、足利成氏退治のため結城氏廣・小田太郎の参陣を促す。
1467	應仁　1	-558	3月5日改元　室町幕府8代将軍義政の後継争いから各地の守護が幕府の後ろ盾をなくして全國的争乱へ発展。 應仁の乱(応仁の乱)　細川勝元(東軍) vs 山名持豊・畠山義就ら(西軍)(挙兵側)　1473に両者が病没し、乱は1477に一応終熄。 應仕の乱を契機として戦國(戦国)時代始期となる。-1568(信長の出現)(始期を、伊勢(後北條)早雲が堀越公方を滅ぼした1491とする説もあり。)この頃、土岐原景秀没/景成が江戸崎土岐氏4代当主。
1468	應仁　2	-557	3月15日 宥加、高久吉祥院(高久神社近隣)で尊弘に印信を授ける。
1469	文明　1	-556	4月28日改元　尾張國守護斯波氏重臣で守護代織田広近が木下城を築城。信康の代に犬山城(木下城北西約1Km)へ移城。
1470	文明　2	-555	この年 行方郡島崎左衛門尉長國、長國寺を創建。
1471	文明　3	-554	閏8月20日 上杉顕定、白川結城直朝に下総結城への出陣を請う。
1472	文明　4	-553	この春 足利成氏、結城氏廣等の支援で古河を回復。
1473	文明　5	-552	應仕の乱(応仁の乱)当事者の両者が病没
1474	文明　6	-551	加賀で一向一揆
1475	文明　7	-550	1月5日 鹿嶋社、7月祭礼の制札を出す。
1476	文明　8	-549	7月28日 土岐原景成が楯縫神社(美浦村)の社殿を修理。　長尾景春 主家上杉顕定に背き武蔵鉢形山に拠る。

西暦	元号	年数	EVENT
1477	文明 9	-548	應仁の乱、ここに一応終熄。
1478	文明 10	-547	太田資長47歳、剃髪して道灌と号す。
1479	文明 11	-546	閏9月24日 足利成氏、別府宗幸に忍城國守を命じる。
1480	文明 12	-545	2月9日 石川國幹、平戸郷と島田村の田1町1反を久國に譲渡する。
1481	文明 13	-544	一休宗純没88歳1394- 小鶴原の合戦 5月5日小田成治は、常陸大掾・北條・東條・真壁・笠間の軍勢3千余騎を率いて水戸の江戸通雅を攻め小鶴原(茨城町小鶴原)に戦うが敗北。1491へ
1482	文明 14	-543	足利義政 東山山荘として慈照寺建立。
1483	文明 15	-542	8月13日 畠山義就、畠山政長と河内で戦う。
1484	文明 16	-541	6月26日 畠山義就、畠山政長と宇治で戦う。
1485	文明 17	-540	閏3月23日 飯尾彦六左衛門尉常房没64歳 阿波國守護細川成之の家臣。-1444より この年 山城國一揆
1486	文明 18	-539	扇谷上杉定正家宰 太田道灌(資長)55歳、定正の伊勢原糟屋館風呂場で讒言を信じた定正に謀殺さる(-1432)。最期に「当方滅亡！」 徳宿合戦 1月18日、次に3月、徳宿氏9代目道幹は水戸城を本拠とする江戸適雅に攻められる。5月18日には江戸氏勢2000余に攻められ烟田の援軍を含め300で戦うが徳宿氏滅亡。鹿行の援軍1500は間に合わず。直後、援軍(鹿島・香取・下総)は樅山(鉾田町樅山)で野営中に江戸軍に攻められ烟田氏が江戸氏に和睦を申し入れ敗北。江戸氏勢が軍を引く。道幹の子道春幼児にて龍寿丸と称し、家臣磯部兼長に助けられ逃れて那珂西部岩船村に隠れ、後桂村阿波山(現 東茨城郡城里町阿波山)に移り子孫ここに住す。
1487	長享 1	-538	伊勢早雲(新九郎長氏(入道して早雲庵宗瑞と號す)) 今川義忠側室であった妹北川殿を押し義貞/北川殿男竜王丸を今川家当主に立てる。その功績から今川氏より興國寺城と富士郡下方荘12郷を与えられた。 7月20日改元
1488	長享 2	-537	加賀の一向一揆 高尾城を攻め守護富樫政親を自害させる。
1489	延徳 1	-536	足利義政 慈照寺銀閣造営 塚原卜伝誕生-1571『一(ヒトツ)の太刀』を開眼。 8月21日改元
1490	延徳 2	-535	土岐原景成が開基となり東州周道を開山として江戸崎に管天寺創建。
1491	延徳 3	-534	1481の江戸氏攻めで敗北した小田氏、今度は江戸氏と同盟して大掾氏を攻める。
1492	明應 1	-533	土岐萬喜兵部大輔頼元没 小田政治誕生 コロンブス 米大陸(本人は西インド諸島と誤認)発見 7月19日改元
1493	明應 2	-532	伊勢早雲 主君の今川氏と扇谷上杉定正の援助を得て伊豆堀越公方を急襲し公方足利茶々丸を追放。早雲は茶々丸追討のため韮山城を本拠に相模、武蔵、甲斐に進出。 明應(明応)の変 細川氏は管領の地位を独占し室町幕府での専制化を強めたが、その後も分裂抗争を繰り返す。
1494	明應 3	-531	この年 (後の)斎藤道三誕生-1556。西村→長井→斎藤。 8月26日 扇谷上杉定正重臣大森寄栖庵氏頼没76歳 9月23日 新井城主三浦時高 養子の三浦義同(ヨシアツ)(道寸)に攻められ自害。(1456に相模國の雄に復した時高だったが実子がなかったので扇谷上杉氏高救の男義同を養子に迎えた。ところが晩年に実子が生まれ家督争いになった。) しかし三浦時高を破った三浦義同も後北條氏に攻められる…1512へ 10月 扇谷上杉定正頓死。
1495	明應 4	-530	9月 伊勢宗瑞(早雲) 箱根山の鷹狩りと欺き、小田原城主大森藤頼を追い小田原城を奪う(明應3年説、明應4年2月説もあり)。 鎌倉大仏殿、大津波でさらわれる。以後、再建されず大仏は露座。1703へ
1496	明應 5	-529	安房國安西氏(石橋山から敗走してきた頼朝を助けた安西三郎景益の後裔)の重臣であり領民に畏敬される里見義豊(新田氏後裔)は、それを恐れた主君安西三郎に葬られそうになり逆に攻めて切腹させる。以後、安房源氏里見左馬助義豊として大名の列。 安西三郎に寄宿していた土岐彈正少弼頼房は里見義豊の先陣を承って功あり夷隅郡を切取り築城し萬喜城主。土岐萬喜氏祖となる。
1497	明應 6	-528	5月17日 土岐原景成没。嫡男なく内紛発生。家臣団は土岐氏美濃本宗家から養子を迎えることを決定。 小田成治はこの江戸崎土岐氏の当主不在時期を狙い、臼田弥次郎・近藤八郎三郎被官原内匠助ら内通者を得て信太庄奪還に動くが土岐原源次郎治頼・臼田惣領左衛門尉らに成敗される。この後も小田氏は信太庄計略を試みる。-1523 この年毛利元就誕生-1571
1498	明應 7	-527	茶々丸自害。伊勢早雲 伊豆一國を平定。 土岐政頼 美濃で誕生(治頼長兄)。
1499	明應 8	-526	一説によれば、土岐原氏は小田氏(天庵氏治祖父治孝か)の江戸崎城夜襲で一旦没落して小田氏に臣従と。 6月 遠州大地震。
1500	明應 9	-525	土岐頼芸(治頼次兄) 美濃で誕生(より以前か)
1501	文龜 1	-524	2月29日改元 土岐治頼 美濃で誕生(より以前か)
1502	文龜 2	-523	11月1日 佐竹義篤、片岡次郎左衛門に小野崎守田・屋敷を与える。
1503	文龜 3	-522	1月5日 鹿嶋社、7月祭礼の制札を出す。
1504	永正 1	-521	2月30日改元 3月7日 東條庄高田郷の総鎮守社と目される熊野権現(高田神社)へ「常州東條庄高田郷勝貞寄進」銘の長刀が寄進される。
1505	永正 2	-520	3月 山内上杉氏と扇谷上杉氏が和睦
1506	永正 3	-519	4月 永正の乱 古河公方足利政氏 vs 嫡子足利高基。この乱により下総に小弓公方が興る。
1507	永正 4	-518	3月28日 佐竹義篤、小田部式部丞に東野の内十郎内の地を与える。
1508	永正 5	-517	上泉伊勢守信綱誕生-1577 陰流から新陰流を創始。
1509	永正 6	-516	伊勢早雲 扇谷上杉氏と対立。相模攻略を開始。
1510	永正 7	-515	★この頃(±20年) 東條豊前某(太田助衛門一有[No.2]の高祖)誕生 「高祖ヲ東條豊前某ト云 遠祖常陸大掾平國香力後也 常州河内郡(当時は信太郡)東條庄太田ヲ領ス」(この頃はまだ領主)
1511	永正 8	-514	一説によれば、この頃、当主不在の土岐原氏の江戸崎城は小田成治に攻め落とされた。
1512	永正 9	-513	11月13日 美濃の土岐源次郎治頼(12歳か)、小笠原氏隆から弓馬の道を伝授される。 伊勢早雲 最大の敵三浦氏攻略開始。相模中央部の大庭城を攻略。次いで隣接する岡崎城の三浦義同(ヨシアツ)(道寸)を攻め義同は住吉城へ敗走。支えきれず子義意(ヨシオキ)の新井城(三浦市三崎町)へ撤退。早雲は玉縄城(鎌倉市城廻)を築き扇谷上杉氏から新井城三浦氏への援軍路を絶つ。 この年、織田信秀誕生。長じて信長の父となる。信長は父信秀から多くを得る。
1513	永正 10	-512	8月30日 佐竹義篤、茂木筑後守に下野國山内郷と小深郷を与える。
1514	永正 11	-511	5月10日 足利政氏、真壁治幹に足利高基の来13日の小山への出陣について報じ、後詰を命じる。
1515	永正 12	-510	土岐源次郎治頼(15歳か)、この頃美濃から江戸崎へ来る。土岐原旧臣の土岐原家承継要請を受諾。土岐原氏5代当主。江戸崎城主となり河内郡足高城主岡見彈正忠信兼女を妻とし、治英・天岩・頼勝の三子を得る。
1516	永正 13	-509	7月 伊勢早雲 新井城を攻め三浦義同(道寸)・義意父子自刃。伊勢早雲 相模一國を統一。
1517	永正 14	-508	3月13日 佐竹義篤没48歳
1518	永正 15	-507	伊勢早雲87歳 家督を子氏綱32歳に譲る。
1519	永正 16	-506	今川義元誕生-1560 8月15日 伊勢早雲 韮山城で没88歳
1520	永正 17	-505	6月 佐竹義篤、一族の小田野彦次郎に三村之内諏訪平を与える。
1521	大永 1	-504	武田信玄誕生-1573 武田信虎長男 父を追放し家督奪取。1573大軍を率い上洛途上陣中で病死。 8月23日改元
1522	大永 2	-503	伊達氏 陸奥國守護補任により以後台頭。
1523	大永 3	-502	3月9日 屋代城合戦 小田政治 屋代城(龍ヶ崎市)を攻めるが山内上杉氏方が勝利。小田氏方は信太氏・多賀谷氏・麻生氏・真壁氏・小弓公方足利氏等、対する山内上杉氏方は江戸崎城主土岐原源次郎治頼(23歳か)・近藤八郎三郎勝秀・臼田河内守等。山内上杉氏方の結束が勝因となり、小田氏方は多くの死傷者を出して大敗。土岐原治頼は土岐原氏勢力の挽回と拡大のため信太庄奪還に動き出す。その過程で東條氏と姻戚関係を結び麾下へ取り込んだと推測。東條太田城は江戸崎土岐氏の支城となる。 6～9月 伊勢氏綱、姓を "北條" に改む。鎌倉北條氏に倣って関東支配の正当性を示し、今川家からの独立が目的。鎌倉北條氏との区別のため後北條氏、または小田原北條氏と称す。
1524	大永 4	-501	後北條氏2代目氏綱 上杉朝興の江戸城を攻略し江戸城に入る。続いて武蔵岩槻城も攻略。
1525	大永 5	-500	4月26日 久野観音寺、観音堂の再建のため土岐原頼基・近藤勝秀・土岐原治頼が大檀那となる。
1526	大永 6	-499	12月26日 多賀谷家植、人見右京亮に結城城家の人手地内の地を与える。
1527	大永 7	-498	美濃では守護代斉藤氏に推された土岐頼政と、小守護代長井氏に推される弟頼芸が対立。頼芸が兄頼政を革手城に逐い、美濃守護職を奪う。これは斉藤氏の策謀。1542へ
1528	享禄 1	-497	8月20日改元 この年 織田信康 犬山城築城
1529	享禄 2	-496	10月2日 部垂義元、小貫兵庫助の居城部垂城を攻略。
1530	享禄 3	-495	上杉謙信(長尾景寅)誕生-1578 大友義鎮(ヨシシゲ)(入道して宗麟と号す)誕生-1587

西暦	元号	年数	EVENT
1531	享禄 4	-494	小田氏治(天庵)誕生。 8月23日 佐竹義昭誕生-1565。 一向一揆 朝倉氏と戦う。
1532	天文 1	-493	7月29日改元
1533	天文 2	-492	小田氏被官 金剛寺甲斐守光寿 東條庄愛宕神社創建(既に東條氏にあらず)。
1534	天文 3	-491	★この頃(±15年) 東條兵庫幹要誕生。「(太田助衛門一有の)曾祖ヲ東條兵庫幹要ト云 相続テ太田ニ居住ス」(領主ではなくなった。幹要の父弾正が東條の地を土岐原治頼に譲り臣従したと推測。) **織田信長誕生** 尾張守護代織田氏の奉行織田信秀23歳嫡男-1582
1535	天文 4	-490	佐竹義重誕生-1602。長じて義宣・**盛重**等の父となる。 松平清康(家康祖父)が織田信秀24歳を攻め、尾張國守山まで攻め込んだときに家臣に殺される。これにより松平氏は弱体化し今川氏に臣従するようになる。
1536	天文 5	-489	**豊臣秀吉誕生**(木下藤吉郎/羽柴秀吉)-1598
1537	天文 6	-488	足利義昭誕生-1597 室町幕府最後の15代将軍となる。 犬山城、織田与次郎信康(信長叔父)が木之下から移築。
1538	天文 7	-487	後北條氏綱 下総國里見氏を破り、三浦三崎城を固めて反撃に備える。 織田信秀、今川氏豐を逐い那古野(名古屋)城を奪取。
1539	天文 8	-486	**東條庄小野の大火 逢善寺も類焼。**1555へ
1540	天文 9	-485	3月14日 佐竹義篤、部垂城を攻略。宇留野義元31歳は自害。 織田信秀29歳、松平氏の西参河へ侵攻、安祥城を奪取。
1541	天文 10	-484	7月 後北條氏綱没55歳。子氏康27歳が家督を相続。後北條氏3代目。
1542	天文 11	-483	伊達氏一族内紛始まる。 服部半蔵正成誕生-1596 土岐原治頼(42歳か)、小田氏に奪われた信太・東條・河内の旧領奪還を開始。まず神向寺城を無血で奪取、続き伊佐津二條(竹内)城主金剛寺甲斐守近衛光寿を攻めて滅す。二條城炎上。江戸崎城も奪還したと見られる。この頃には東條氏が土岐原氏の麾下にいた可能性あり。 美濃國守護土岐頼芸(ヨリナリ)、家臣の斎藤道三(秀竜(長井新九郎規秀))49歳に追放され織田信秀に匿われる。 この頃、江戸崎の土岐原治頼が土岐頼芸に贈答品を送る。この頃、土岐頼芸が土岐原治英(治頼男)に系図と鷲の絵を送る。 12月26日(1543/1/31) **徳川家康誕生**-1616(幼名:松平竹千代) 於参河國額田郡岡崎城(愛知県岡崎市康生町)
1543	天文 12	-482	土岐頼芸が江戸崎の土岐原治頼に家牒を譲り土岐家総領たることを許す。治頼は男治英の代から「土岐」に復すことを決めたとされる。 8月25日 種子島に**鉄砲伝来**。漂着したポルトガル人より島主種子島時堯が2千両(約2億円)で購入。 武田勝頼(信玄庶子)誕生
1544	天文 13	-481	1月3日 小野逢善寺12世尊雄、権大僧都に任命される。 この頃 織田信秀33歳、嫡男信長11歳に那古野城を譲り独立させる。
1545	天文 14	-480	4月9日 佐竹義篤没39歳 織田信秀34歳、松平廣忠(家康4歳父)に安祥城を攻められるも撃退。
1546	天文 15	-479	後北條氏康 **川越の夜襲**で古河公方・山内上杉憲正・扇谷上杉朝定連合軍を敗る。朝定戦死で**扇谷上杉氏滅亡**。 織田信長元服13歳
1547	天文 16	-478	栗林下総守義長誕生。 織田信康、織田信秀36歳による稲葉山城斎藤道三(54歳)攻めに参加し城下で討死。織田信清(信康十男で信長の妹婿)が犬山城主。 この年 織田信秀、松平竹千代(家康)6歳を人質として迎える(奪う)。 明へ最後の勘合貿易船派遣
1548	天文 17	-477	小田政治没/男氏治家督を継ぐ。 織田信秀37歳、斎藤道三55歳と和睦し道三の女を嫡男信長15歳の正室に迎える。
1549	天文 18	-476	フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸しイエズス会の日本での布教始まる。 織田信秀38歳、今川氏に安祥城を攻略され人質に取っていた松平竹千代(家康)8歳を今川へ渡す。 織田信秀、この頃発病。信秀は16歳の信長へ、暗殺されることを予防するため「うつけ」を装うように進言したらしい。以後、信長は「大うつけ」を演じる。 織田家に敵対する松平廣忠(家康父)、家臣に殺される。
1550	天文 19	-475	7月28日 江戸忠通、佐竹義昭と戸村で戦う。
1551	天文 20	-474	後北條氏康 川越の夜襲以来上野國平井城に逃れていた山内上杉憲政を攻める。
1552	天文 21	-473	3月 織田信長父信秀病死41歳。 後北條氏康の攻撃により上野國平井城山内上杉憲政越後へ敗走。関東の上杉氏勢力一旦壊滅。 この年、織田信秀の支援で美濃國守護に復帰していた土岐頼芸は斎藤道三59歳により再び追放され、甲斐國武田氏に寄寓していたときに武田氏を攻めた織田信長に発見されて美濃に戻り1582に死去。
1553	天文 22	-472	4月 織田信長20歳、尾張國聖徳寺で斎藤道三と会見。信長は会見場所へ到着するまでうつけを装い、急遽正装して会見したことから道三は信長に畏怖を覚えたという。 この年、川中島の戦い起こる。-1564まで複数回。上杉謙信 vs 武田信玄 江戸崎城主土岐治頼と小田氏治(天庵)が河内郡(信太郡)小坂(和泉から18-19町ほどの地)で対戦。治頼が兵を出すが東條兵部少輔重定(東條泉城主)力尽きて戦死。重定男 乙丸は4-5里の脇墾田の土民に助けられる。それを和泉の土民が聞き、乙丸を連れ帰り養育す。乙丸は後、東條彦右衛門と改め子孫今にあり。東條氏の位牌は江戸崎管天寺。家紋は桔梗と。 東條重定は土岐萬喜彈正の一族である。江戸崎土岐家には美濃本宋土岐家、上総(千葉県夷隅郡夷隅町)から土岐萬喜氏族等が来ていた。東條泉氏は小坂の対戦で滅ぶが、彦右衛門(乙丸)家は、龍ヶ崎市泉町の故城のほとりに現存。東条茂氏宅。
1554	天文 23	-471	後北條氏康 古河公方を捕らえて秦野に幽閉、その後下総國関宿へ隠居させた。 氏康 弟氏堯を小机城、妹婿綱成(福島正成子)を玉縄城、5男氏規を三崎城(三浦市城山町)(韮山城主兼務)に配す。
1555	弘治 1	-470	東條左近将監英幹の男英重、土岐治英に従い東條泉城主(龍ヶ崎市泉町)。土岐治英、焼失した小野の逢善寺再建。1539より 織田信長22歳、清洲城へ入る。 この年にも川中島の戦い。 10月23日改元
1556	弘治 2	-469	5月 土岐治英、東條左近将監英幹、東條泉元長居士、その妻と息英重(泉城主)ら来迎院多寶塔(龍ヶ崎市)を修復。 12月14日 土岐治頼没/治英が江戸崎土岐氏6代当主。 4月 織田信長23歳の後ろ盾となってきた斎藤道三(1494-)、長男義龍軍と長良川に戦い敗死。義龍は信長に敵対。
1557	弘治 3	-468	4月2日 毛利元就、周防・長門を平定。
1558	永禄 1	-467	★この頃(±10年) 東條彈正某誕生(太田助衛門一有祖父) 羽柴(豊臣)秀吉23歳、織田信長25歳に出仕。 2月15日 家康初陣17歳 今川側として岡崎衆を率い、織田方へ寝返った寺部城鈴木重教を攻め圧勝。 2月28日改元
1559	永禄 2	-466	土岐治英 小田氏と盟約し、弟土岐頼勝を小田氏家老、岡見氏盟主後見人とする。 土岐原越前守らが旦那となり地福院(牛久市)の修理をする。 後北條氏康45歳 隠居して家督を子氏政(22歳) に譲る。
1560	永禄 3	-465	5月19日昼過ぎ **桶狭間の戦い**。今川義元軍総勢4万5千のうち義元本隊2万ほどが桶狭間(名古屋市)に着陣中、織田信長軍総勢4千5百のうち精鋭2千に正面から奇襲され義元討死42歳(於豊明市)。義元方として前日に兵糧を搬入し大高城を守っていた松平元康(家康)19歳は岡崎へ逃げ帰る。 8月29日 長尾景虎 山内上杉憲政の出兵要請に応え越後進発。 9月 景虎三國峠を越え上野國に出陣。 ★この頃(±10年) 太田源五左衛門誕生(東條彈正某弟であり分家して太田を名乗る。)
1561	永禄 4	-464	3月 後北條氏政 長尾景虎に小田原城を攻撃されるが籠城して撃退。 この春、織田信長28歳、松平元康(家康)20歳と同盟。 3月 長尾景虎 鎌倉に退き山内上杉憲政より上杉の名跡と「政」の1文字、さらに関東管領職を譲られ上杉政虎と名乗る。次に照虎と改名。謙信と號すは1570。 4月 土岐治英 貝原塚城の貝原塚氏胤を攻略。 土岐原越前守 若葉と阿見の境争論を調停。
1562	永禄 5	-463	7月28日 上杉照虎 土岐治英に関東出兵を知らせ参陣を求める。 佐竹義重 家督を継ぐ。常陸南部に進出を図り小田氏と抗争。 10月30日 江戸忠通が土岐治英に佐竹義昭の出陣を知らせ参陣を求める。 土岐治英 木原城を修築し近藤勝利・義勝父子に守らせる。
1563	永禄 6	-462	土岐治英、佐竹義昭の同盟申し込みを断わる。治英はこの頃、後北條氏と同盟。小田氏治も後北條氏と同盟。
1564	永禄 7	-461	11月5日 佐竹義重、小田氏治の小田城を攻める。氏治は土浦城へ敗走。
1565	永禄 8	-460	5月、将軍足利義輝が三好三人衆、松永久秀等に暗殺される。 7月、義輝の弟覺慶(後の義昭)が近江へ脱出。 9月 織田信長32歳、花押を麒麟の「麟」に変える。足利義輝の暗殺を受けて乱世を正す決意をしたと言われる。 11月3日 佐竹義昭没35歳1531- 信長、斎藤義龍に通じる犬山城の従兄弟織田信清を攻める。信清は甲州へ敗走。 佐竹・多賀谷連合軍が信太庄に侵入したが敗走。
1566	永禄 9	-459	2月16日 上杉謙信・佐竹義重が小田城を攻める。 12月29日 家康25歳、松平から徳川に改姓(正しくは**徳**川)。
1567	永禄 10	-458	江戸崎城主土岐治英 龍ヶ崎城を改築・整備。 伊達政宗誕生-1636 8月 織田信長34歳、美濃稲葉山城を落とす。本拠を稲葉山城に移し、この地名を井之口から岐阜へ改称。また「天下布武」の印を使用開始。
1568	永禄 11	-457	6代江戸崎土岐氏の治英、2男胤倫を龍ヶ崎城主とす。胤倫は、7代江戸崎土岐氏で兄の治綱と不仲になる。 5月1日 土岐治英 石田播磨守成信を役人として峯熊野権現(桜川村古渡)を再建。霞ヶ浦の拠点整備。 9月 織田信長35歳 足利義昭を奉じて上洛。 10月 足利義昭 将軍となる。これを以て戦國時代(戦国時代)終期とし、これより織豊(安土桃山)時代-1598(または-1600)
1569	永禄 12	-456	この年 織田信長36歳、将軍足利義昭のために二条城築城。 7月1日 小田氏治 土岐治英に祭礼見物の使者を送る。 8月 信長は伊勢水軍に対抗するため九鬼嘉隆(熊野水軍の流れで北畠氏配下九鬼水軍の長だったが付近の豪族に敗れ信長の下に寄宿していた)に水軍を創設させ8月伊勢大河内(オカワチ)城に依る北畠具教(トモノリ)制圧を開始。 関東では手這坂の合戦(筑波山麓) 居城岩槻城を長男氏資に追われた太田資正(三楽斉)が佐竹義重の客将となり、与えられた片野城(茨城県新治郡八郷町根小屋)を小田氏治が攻撃。真壁氏幹、多賀谷重経らの援軍を得た資正と次男梶原政景父子は手這坂で小田氏治を

西暦	元号	年数	EVENT
			破る。　この秋 後北條氏政 武田信玄に小田原城を包囲されるが籠城。4日間で信玄勢引く。 10月 佐竹義重 真壁久幹・大掾一族を動員し小田城を攻略。 10月4日 8月から織田軍の攻撃を受けていた大河内城の北畠具教、良く耐えたが織田水軍の出撃により降伏。
1570	元亀 1	-455	4月23日改元　6月28日 **姉川の合戦**、(勝)織田信長37歳&徳川家康29歳 vs (負)浅井長政&朝倉景健。　上杉照虎 謙信と號す。 **土岐治英 城内守護神として鹿嶋神社を創建。**　7月16日 佐竹義宣誕生。於常州久慈郡太田城。佐竹義重36歳の子。 織田信長家人の池田恒興、犬山城主。　**★この頃(±20年) 東條豐前某没(太田助衛門一有の高祖父)**
1571	元亀 2	-454	後北條氏康没　毛利元就没75歳　8月佐竹義重 北條氏政と常陸國土浦に対陣。　9月 織田信長38歳、**比叡山延暦寺焼討。**根本中堂含み悉く焼き払う。女子供を含む数千人を斬り殺す。　塚原卜伝没83歳
1572	元亀 3	-453	1月9日 佐竹義重 下野國那須の各地を討取。 7月 義重 陸奥國蘆名盛氏の会津城、白川義親の居城を攻める。※蘆名氏は桓武平氏三浦一族也。　12月 **三方ヶ原の戦い**。徳川家康31歳の領國遠江へ信玄軍2万が進入。織田信長39歳の援軍功なく家康敗退。
1573	天正 1	-452	佐竹義重、小田氏治の常陸國宍倉・戸崎両城を攻め取る。　4月 武田信玄病没53歳。後北條氏堯 常陸へ侵入。 7月 織田信長(40歳)討伐を謀った将軍足利義昭を信長が追放。**室町幕府滅亡/室町時代終期**　7月28日改元　信長 越前浅倉氏と近江浅井(ｱｻﾞｲ)氏討伐
1574	天正 2	-451	**3月18日 上杉謙信 土岐治英に関東出兵を知らせ、母と子息の死をねぎらう。 畑田氏 土岐治英より鉄砲を購入。** 後北條氏堯 大軍をもって岡見氏の足高城を攻めるが栗林義長の戦略に攻めきれず和睦。 **後北條氏堯により土浦落城、小田氏・岡見氏(岡見彈正(小田氏分家))滅亡。龍ヶ崎土岐氏・江戸崎土岐氏敗北。** 7月 佐竹義重 常陸國南方に出陣して北條氏政と和睦す。 後北條氏家臣柳下豊後守が亡き妻(法名「桂窓長昌大姉」)の菩提を弔うため鎌倉明月院から僧を招き富岡に長昌庵を創建。後に長昌寺となる。桓武平氏柳下氏は酒匂川下流の柳下郷を領し頼朝、後北條氏に仕えた。1593へ
1575	天正 3	-450	2月 佐竹義重 白川に出陣し白川義親の弟善七郎某を義親の名代に立てて帰陣。 **佐竹盛重**(義勝, 初義廣, 喝食丸)誕生-1631(佐竹義重(41歳)子・義宣弟)。 5月21日 **設楽原・長篠の戦い**。織田信長42歳 武田勝頼33歳を破る。徳川家康34歳も功あり信玄に奪われた参河・遠江を徐々に回復。 **上條城主江戸崎監物が木原城攻撃。逆に江戸崎の謀将諸岡逸羽が上條城を襲撃し江戸崎監物は自殺。**　屋代城落城し屋代右京自殺。
1576	天正 4	-449	2月8日 元室町将軍足利義昭、毛利氏領國へ着船。毛利輝元へ織田信長(43歳)打倒を要請。　5月13日 毛利輝元、足利義昭の要請を受諾。　伊勢を攻略した信長は大阪本願寺の兵糧攻めに着手。織田水軍に組み込まれていた和泉、摂津の水軍、合計300艘が木津川河口の海上封鎖(九鬼水軍は紀州で戦闘中のため不参加)。　織田氏の増長を毛利輝元が憂慮。配下の村上水軍に800艘の船団で大阪本願寺へ物資を補給させる。　7月15日 村上水軍800艘のうち戦闘用の300艘が海上封鎖中の織田水軍を攻撃。ほうろく(手投げ弾)による攻撃に織田水軍壊滅。海上封鎖失敗。大阪本願寺の勢力回復を聞いた越後上杉氏、甲斐武田氏は織田氏攻略に動く。対して信長は九鬼嘉隆に「火矢、ほうろくにも燃えぬ鐵船」の建造を命令。　信長 近江國安土に築城。安土城。天守は1579に完成。 **土岐五郎 阿見を知行。**　6月10日 佐竹義親 従五位下常陸介に叙任。
1577	天正 5	-448	**土岐治英 久野の観音堂を修理。**　上泉伊勢守信綱没1508- 創始した新陰流を柳生新陰流に伝えた。 多賀谷氏が岡見氏一族の板橋城・小張城・岩崎城を落とし足高城を攻める。天正15(1587)年に落城。 **太田道灌の曾孫太田康資(異説あり)の女としてお八誕生。後にお梶、お勝、英勝院と號す。1616へ**
1578	天正 6	-447	3月13日 上杉謙信(長尾景虎)病没49歳　上杉氏滅亡により関東では後北條氏が勢いを増す。 7月14日 1576に織田信長から鐵船の建造を命じられた九鬼嘉隆、ついに6艘を完成し堺港へ到着。再度大阪本願寺兵糧攻めのため木津川河口の海上封鎖にあたる。 11月6日08:00 木津川河口に村上水軍600艘が来攻。対して信長45歳の織田水軍は鐵船6艘。大砲による村上水軍指揮船への砲撃で指揮系統を失った村上水軍は沖へ逃げ去る。この2年後に大阪本願寺、信長に降伏。
1579	天正 7	-446	4月7日(1579/5/2) 徳川家康38歳に3男秀忠誕生-1632　この年 佐竹義重 宇都宮に出陣し小山・榎下・小泉・茂呂等の地を略す。 7月 家康 信長46歳から嫡男岡崎三郎信康21歳に切腹させることを命じられ大久保忠世が守る二俣城に幽閉。 8月29日 家康 信康を産んだ築山殿を浜松近郊富塚にて岡本平左衛門・野中三五郎に斬らせる。 9月15日 家康 服部半蔵正成・天方山城守通綱に信康切腹の検視を命じる。躊躇する半蔵に代わり通綱が介錯。
1580	天正 8	-445	後北條氏政、43歳で隠居し家督を氏直(家康の娘婿)19歳に譲る。 1578から信長軍に兵糧攻めを受けていた大阪本願寺、織田信長47歳に降伏。信長の天下統一に大きく動く。
1581	天正 9	-444	**江戸崎城主土岐治綱・栗林義長 下総経営。**　徳川家康40歳、遠江を侵略していた武田勢を駆逐。
1582	天正 10	-443	2月 織田信長49歳、甲斐に出兵。3月 武田勝頼40歳・信勝16歳父子滅亡。残る信長の強敵は毛利氏のみとなる。 5月 信長、武田攻めの功を労うと称して家康41歳を安土城に招き饗応、大阪・堺の見物を命じる。自らは本能寺へ移り、森乱丸に堺見物中の家康へ「6月2日に本能寺へ出頭せよ」との使いを出させる。家康は、翌2日朝、本能寺へ向け出立。 6月2日早朝 **本能寺の変**。明智光秀(67歳)勢が信長を焼死させる。信長から既に家督を譲られていた嫡男信忠は妙覚寺にいたが二條御所へ立て籠もる。光秀は信忠も討つ。 6月13日 明智光秀 大山崎村(京都府大山崎町)で豊臣秀吉(47歳)勢に敗北。坂本城へ敗走中に殺害さる。　12月4日 **土岐頼芸没81歳** **★この頃(±5年) 太田助衛門某(一有父)[No.1]誕生「一家(東條氏)滅亡スルヲ以テ太田ト改メ武州江戸ニ住シ一生不仕シテ終ル」**
1583	天正 11	-442	**龍ヶ崎城主土岐胤倫 佐竹氏に攻められ一旦落城したが、栗林義長が佐竹軍を龍ヶ崎、江戸崎に破り、すぐに奪還。** **木原城(稲敷郡美浦村木原) 佐竹義重・義宣父子、および義宣弟蘆名盛重らに攻められる。** 4月 **賤ヶ岳の戦い** 豊臣秀吉48歳 柴田軍を破り柴田勝家自害。秀吉 大阪城を築く。　小田氏治は孫の金寿丸を人質とし佐竹義重に降伏。
1584	天正 12	-441	末森合戦 前田利家(加賀藩祖)の三國(加賀、能登、越中)支配を決定づけた末森城(石川県押水町)の戦い。 3～11月 **小牧・長久手の戦い**　豊臣秀吉49歳は大阪から12万を率いて犬山城に入り、小牧山に陣をしいた織田信雄・徳川家康43歳と合戦するも秀吉が破れる。ところが、信雄・家康は秀吉の外交戦略に屈し秀吉に臣従。 **10月6日 徳川家康に土岐治英から馬二頭を献上(本能寺の変の際、明智光秀に同盟してくれたことへの礼か)。　土岐治英 吉原(阿見町)の鹿嶋神社を修理。**　宮本武蔵誕生-1645 二刀流開眼。
1585	天正 13	-440	豊臣秀吉50歳関白。　1月 蘆名龜王丸 伊達政宗に取られた陸奥國安積信夫二郡を取り返すため佐竹義宣に援兵を請う。義重 家臣小野崎義昌に加勢させるが安積郡を略した後、義昌が家人に殺害されたため常陸國に帰る。　**4月25日 土岐治英没/治綱が江戸崎土岐氏7代目。**　6月 佐竹義重 蘆名義廣と共に陸奥國安達郡二本松で伊達政宗と対陣、しばしば其の陣を取る。　**6月25日 松田憲秀 土岐治綱に土岐源八郎胤倫の着陣を報告。**　8月16日 義重 政宗と和解し互いに軍を収める。
1586	天正 14	-439	**★この頃(±5年) 太田助衛門一有母誕生 (1648没の妙雲信女とし21歳で一有を産めば没年62歳となり妥当。)** 佐竹義重、義宣に家督を譲る(1589説あり)。　義宣16(17か)歳初陣。羽生に出馬して南摩籐十郎を討ち取る。
1587	天正 15	-438	**佐竹盛重**13歳 蘆名盛隆か養子として蘆名氏を嗣ぐ。妻蘆名盛隆女なり。　佐竹義重53歳 致仕す。　栗林下総守義長41歳 足高城で病死。　3月28日 江戸崎城主土岐治綱 峯熊野権現を修理。　6月19日 豊臣秀吉52歳、バテレン追放令。　**7月20日 岡見治廣 龍ヶ崎城主土岐胤倫に後北條氏照書状を届ける。**　秀吉が関東・奥州に惣無事令を発す。　大友宗麟没1530-(ｷﾘｼﾀﾝ大名)
1588	天正 16	-437	**3月 ★東條兵庫幹要(推定55歳) 誓書(土岐氏宛か)を書く。子孫が太田と改める。『常陸誌料 平氏譜一・二』** **4月9日 多賀谷重経が谷田部を土岐氏・岡見氏に攻撃されたことを佐竹氏へ報告。** 5月 後北條氏 前年に発せられた豊臣秀吉53歳の惣無事令に従う。秀吉は後北條氏と信州上田の真田氏との紛争(上州沼田領の帰属問題)を調停。だが後北條氏は翌年、これを無視。 若栗・足高落城。岡見氏多賀谷(下妻)にて滅亡。　天正17年にかけ水戸城江戸氏重臣神生氏反乱。江戸氏徐々に衰退。
1589	天正 17	-436	**3月3日 小田氏治 佐竹氏へ土岐兄弟(江戸崎土岐氏7代目治綱と、弟で龍ケ崎城主胤倫)の動向を報告。** 6月5日 **蘆名盛重**15歳 伊達政宗に敗戦(**摺上原の合戦**)(盛重の家臣が政宗に内応)。　6月6日 佐竹義宣 伊達政宗家臣数名を討ち取り高名。　6月16日 **蘆名盛重は実家の佐竹家へ逃げ還る。** 冬、後北條氏方が豊臣秀吉54歳の決裁を無視するとともに惣無事令に違反して上州で戦闘。秀吉は北條氏直に宣戦布告。
1590	天正 18	-435	3月 **豊臣秀吉55歳 小田原後北條氏征伐開始。秀吉方は未曾有の20万以上(人員も兵糧も余裕あり) vs 小田原方6～8万(これが限界)** **この頃、後北條氏に与する土岐氏の江戸崎勢は江戸崎城、龍ヶ崎城、木原城の三拠点を含め1500騎とされ、龍ヶ崎和泉には東條彦左衛門の名が見える。**

西暦	元号	年数	EVENT
			3月29日 秀吉 小田原防衛拠点山中城を一日で落とす。 4月6日 秀吉 箱根湯本早雲寺に本陣を置き周辺見分の後、石垣山に築城を命ず。2～3万人で昼夜突貫工事。 4月18日 秀吉 20万の大軍をもって小田原城を包囲。 5月14日 石垣山城(一夜城)、石垣をはじめ大方の普請が完了し本丸御殿・天守櫓の工事を開始。 **5月19日 秀吉方佐竹義宣の弟蘆名盛重(16歳)配下の神野覚助(ｺｳﾉ ｶｸｽｹ) 江戸崎へ乗り込む。** **5月20日 第二陣、続いて第三陣が到着。●江戸崎城主土岐治綱に降伏勧告。治綱、降伏し高田に移される。1千名の城兵を一兵も損せず秀吉軍に接収さる(婦女子を含む虐殺説あり)。治綱は許され高田から上之島へ移って石田駿河守、臼田氏ら家臣数十人と共に帰農。治綱は慶長4年(1599)上之島で没。墓は上之島。没年を慶安4年(1651)とする説もあるが？** **●治綱の男、頼英(ﾖﾘﾌｻ)は幼少なる故に叔父の土岐胤倫(治綱弟)に養育せられ河内(ｶｯﾁ)郡太田村に潜居。妻は胤倫の女(虎姫)。後に徳川家康と誼を通ずる。慶長7年(1630)同村で没。墓は稲敷市下太田 東條太田城跡隣接の共同墓地下。(本サイト『故地』に写真あり)** **●治綱と不仲だった弟の龍ヶ崎城主土岐胤倫(ﾀﾈﾄﾓ)は、秀吉派遣軍着到前に開城して(佐竹軍と戦ったとも)諸処浪々の身(その間、甥の頼英の面倒は誰が?)となり、後に龍ヶ崎へ戻り慶長4年(1599)没。胤倫の子孫は母方の豊嶋氏を名乗る。** **同日、木原城(稲敷郡美浦村木原) 秀吉方の蘆名盛重により落城。** **●同日(推測)、東條太田城も蘆名盛重により落城。最後の東條太田城主で江戸崎城主土岐治綱の男頼英が幼少のため父の江戸崎に籠城したと見られ、僅かな守備隊が残る東條太田城では東條彈正が討死。東條氏一族の生き残りは各地へ敗走。長男助衛門(9歳くらい)は太田に改姓して江戸へ逃亡・潜伏。太田氏初代となる。** 6月5日 忍城(のぼうの城)の成田氏は後北條方にあり。石田三成を総大将とする秀吉派遣軍(長束正家(副将)・浅野長政・真田昌幸・佐竹義重・宇都宮國綱・結城晴朝等)は忍城の水攻めを決定。1週間で28kmの堤を築き利根川と荒川の水を引き入れたが城は沈まず浮き城と呼ばれる。城主成田氏長の従兄弟成田長親(のぼう様)を慕う領民により堤が切られ水攻め失敗。 7月5日 **小田原落城**。 7月11日 後北條氏政53歳と弟八王子城主氏照49歳は自害。家康女婿の後北條5代目氏直は高野山へ追放。これを以て**豊臣秀吉、全國統一**。 7月14日 成田氏の忍城開城。後北條氏方で最後。 8月1日 徳川家康、秀吉の武藏國移封の命に従い江戸へ入る。江戸城の普請開始-1593。 家康は現地旧勢力の懐柔策として名家の子孫を積極的に求め、太田道灌の後裔も含まれたが道灌4代裔太田康資の子で当主の重正が京にあったため、妹(異説あり)のお八13歳がお梶と改称して家康に謁見した。36歳も年上の家康は、聡明なお梶を気に入り側室にして寵愛した。お八=お梶=お勝(於勝局)1600=英勝院1616 8月末 秀吉、常陸一國を佐竹義重とその男義宣に与える。江戸崎城と龍ヶ崎城は義宣の弟**蘆名盛重**の所領となる。 10月 **蘆名盛重** 江戸崎領主として江戸崎城へ入る。江戸崎の不動院を修復し会津から帯同させた稲荷堂随風(天海)を住職とす。 **蘆名盛重** 源譽慶厳を開山として江戸崎に大念寺創建。 12月20日 佐竹義宣 水戸城を攻め取り江戸重通を放逐。江戸氏一族の8箇所全13館を落城させる。 **12月22日 佐竹義宣 府中城の大掾清幹を攻め自害せしめる。**
1591	天正 19	-434	**2月9日(1591年4月2日)「南郡三十三館主一挙生害(南方三十三館の仕置き)」** **前年、天正18年(1590)7月に後北條氏(小田原北條氏)を倒して全國統一を実現した豊臣秀吉56歳は同年8月に常陸一國を佐竹義重・義宣父子に与えるが、南部の特に鹿行地域には常陸平氏を中心とする侮れない勢力が残存していた。** **そこで佐竹義宣は「南郡三十三館」と呼ばれる鹿行の諸氏16人を会盟目的(知行割りを行なうと言ったとも)の梅見の宴と偽って太田城(常陸太田)に招き、酒宴中に一挙に殺害した。** **犠牲者は、和光院過去帳によれば鹿嶋郡の鹿嶋氏父子・烟田氏兄弟・中居氏、および行方郡の嶋崎氏父子・玉造氏父子・相賀氏・小高氏父子・手賀氏兄弟・武田氏ほか。全員を一挙に斬殺したのではなく、一旦逃れた者がおり、それを追う手が討ったという説もある。何れにしても、当主ばかりでなく後継者までも殲滅しようとしたことを意味するので、家康に移封させられた秋田に於ける善政の評価とは裏腹に、常陸國南部には現在も佐竹氏への酷評が残る。義宣は間を置かず残る近隣の城主も放逐し、常陸一國の支配体制を確立。** **2月23日 佐竹義宣 額田城の小野崎照通を放逐。続いて3月、行方郡芹澤城の芹澤國幹を放逐し芹澤城を廃す。** 3月23日 佐竹義宣 本拠を水戸城へ移す。 3月24日 佐竹義宣 和田昭為に江戸崎の兵糧について指示を行なう。 4月20日 臼田左衛門尉 江戸崎城落城の状況を記録。 6月2日 佐竹義宣 伊達政宗家臣郡山城主伊藤太郎左衛門を攻め有利に展開。 6月4日 伊達政宗と大戦。 6月24日 政宗家臣二階堂盛隆の須賀川城を攻める。 水戸に時宗の**神應寺が開かれる**。この時点では藤沢(ﾄｳﾀｸ)道場と称す。開山:普光上人(佐竹氏の一族で小野平城主小野義高の2男) 藤沢の清浄光寺が前年に豊臣秀吉の小田原攻めに伴う戦火で焼けたため(慶長12年に再建・中興)、清浄光寺の住職であった普光を佐竹義宣が呼んで開かせたもの。1633へ
1592	文禄 1	-433	**文禄の役** 豊臣秀吉57歳、朝鮮出兵。徳川家康51歳の江戸城普請は、この時点で本丸の拡張と西の丸までは完成。 12月8日改元
1593	文禄 2	-432	徳川家康52歳、豊臣秀吉58歳の伏見城普請のため自身の江戸城普請を1603まで中断。 9月17日 柳下豊後守没 元後北條氏家臣で閏9月に富津岬から上げ潮に乗り来襲した里見軍と戦う。槍で突かれたが槍の穂先を離さず、里見軍は潮が変わり退却。その傷により死す。60cmの槍の穂先は柳下家に現存。里見軍は長昌庵本尊の阿彌陀如来立像を持ち去るが不幸が続き祟りと解して返却。天正年中に豊後守が創建した臨済宗建長寺派富岡山長昌庵は慶長年中に男忠公が鎌倉明月院より仙渓和尚を招き開山とし長昌寺と改む。本尊は釈迦如来、現在はさらに楊柳観音が芋神様として祀られている。直木三十五の墓あり。
1594	文禄 3	-431	豊嶋刑部少輔信満(明重)(桓武平氏良文流秩父氏系) 富岡(横浜市金沢区)を領す。1700石。甚五郎山(東富岡R16T字路に向い左手前の山)に陣屋(藪御殿)。下総國布川(茨城県北相馬郡利根町布川)に住した明重の父は家康に従い果敢に忍城を攻めるが討死。家康53歳はその功に報いるため、子の明重に富岡を与えた。1610へ 豊臣秀吉59歳、伏見城に入る。これより6年間在城。 10-12月 常陸國にて太閤検地実施。佐竹領責任者は石田三成。
1595	文禄 4	-430	2月28日 **蘆名盛重** 満願寺宛黒印状を発す。 6月 佐竹義宣 前年の検地結果から豊臣秀吉60歳より54万5千8百石を与えられる。 7月15日 豊臣秀次切腹。秀吉から謀反の嫌疑をかけられ秀次の眷属悉く処刑。 常陸國東條庄が信太郡から河内郡へ編入。 この年 蘆名盛泰 江戸崎で誕生。 犬山城 織田信康後城主変遷し石川貞清居城
1596	慶長 1	-429	文禄5年9月4日 別府湾直下を震源とする大地震。別府湾地震、また慶長豊後地震と呼ばれる。別府湾に浮かぶ瓜生島が沈んだとされるが痕跡なし。 9月5日 慶長伏見地震(別府湾地震に誘発されたとされる)。豊臣秀吉61歳がいる伏見城天守閣大破。 この年 服部半蔵正成没55歳 10月27日改元
1597	慶長 2	-428	**慶長の役** 豊臣秀吉62歳による2度目の朝鮮出兵 室町幕府15代(最後)将軍足利義昭病没1537-
1598	慶長 3	-427	8月18日 **豊臣秀吉没**63歳 1537-
1599	慶長 4	-426	**3月28日 元龍ケ崎城主 土岐胤倫没**
1600	慶長 5	-425	9月15日 **関ヶ原の戦い** (勝)徳川家康59歳ら東軍vs(負)豊臣家を担いだ石田三成ら西軍 家康の勝利を以て**織豊(安土桃山)時代終期** 関ヶ原の戦いには、家康の側室で23歳のお梶が男装で随行。お梶が供をする度に戦いに勝つので、家康はお勝と改めさせた。家康、大阪城へ入り論功行賞開始。これを以て**江戸時代始期**(1603年とも)-1967(大政奉還まで268年間)。 この年 江戸崎の大念寺焼失 犬山城 松平忠吉老臣小笠原吉次城主
1601	慶長 6	-424	佐竹氏の軍師 東義久が江戸で急死したため佐竹義宣上洛。徳川家康60歳、義宣に石高不明のまま出羽久保田(秋田県)への転封を言い渡す。義宣は常陸に帰國できぬまま出羽へ直行。
1602	慶長 7	-423	4月19日 佐竹義重没 68歳1535- 義宣・**盛重**らの父。於秋田仙北郡。秋田郡久保田の天徳寺に火葬。 **5月 蘆名盛重、徳川家康に所領を没収され龍ヶ崎城廃城、龍ヶ崎は江戸幕府直轄領となる。**江戸崎城は7月より土浦城主松平信一が管理し養子信吉を江戸崎に置く。**蘆名盛重は兄佐竹義宣と同じく秋田へ転封。** 11月3日 武田信吉(家康5男)水戸15万石に封ぜられる。
1603	慶長 8	-422	2月12日 **徳川家康62歳 征夷大将軍 江戸幕府開設。** **8月 蘆名盛重 秋田角館城主となり義勝と改名。 10月16日 家康 土岐頼英に鞍を与え壷の献上を求める。** 9月11日 武田信吉没21歳/11月7日 徳川頼宣(家康10男) 水戸20万石に封ぜられる。 徳川鶴千代誕生-1661 家康11男(長じて初代水戸藩主頼房) 家康、1593から中断していた江戸城普請を再開。1607に本格化。
1604	慶長 9	-421	伊奈備前守忠次 天領(江戸幕府直轄領地)の代官となる。 7月17日(1604/8/12) 2代将軍秀忠に家光誕生-1651。
1605	慶長 10	-420	4月16日 **徳川家康64歳 3男秀忠27歳に征夷大将軍職を譲る**-1623。政権世襲化の意志を天下に明示。家康は秀忠の長女千姫を豊臣秀

西暦	元号	年数	EVENT
			頼に輿入れさせ血縁関係を結びつつ秀頼に臣従を迫る。　この年(または明年)徳川鶴千代(後の頼房)3歳 下妻就封
1606	慶長　11	-419	**★太田助衛門一有[No.2]誕生-1696(父助衛門某(推定24歳)が江戸に潜伏中のこととて生誕地は江戸に違いない)**　龍ヶ崎が仙台藩伊達領となる。
1607	慶長　12	-418	徳川家康66歳、1603に再開した江戸城普請を本格化。連立式大天守閣完成。5層5階、高さ約48m。天守台を含むと約69m。姫路城・大阪城・安土城を凌ぐ。その後、天守は2代秀忠が望楼型から層塔型へ立て替え(1623)。3代家光も天守を立て替え(1638)、明暦3年(1657)の大火で焼失した後は再建されず。　柳生十兵衛誕生-1650 徳川将軍家兵法指南役柳生但馬守宗矩長男 1月 家康側室、30歳のお勝(於勝局)は家康最後の子となる6女の市姫を生む。しかし慶長16年(1611)早世する。 犬山城 徳川義直老臣平岩親吉城主
1608	慶長　13	-417	9月11日 武田信吉没21歳/11月7日 徳川頼宣(家康10男) 水戸20万石に封ぜられる。 イタリア人ヘンリー・ハドソンがニューヨーク湾とハドソン川を探検。
1609	慶長　14	-416	徳川鶴千代(後の頼房 家康11男)7歳 水戸初代藩主。下野下妻5万石より水戸へ移封25万石。幼少のため1616まで駿府家康の下にあり。 **10月8日「子生瀬の村民皆殺し事件(生瀬一揆)」水戸藩領久慈郡小生瀬村で年貢取り立ての役人と農民がﾄﾗﾌﾞﾙ。10月10日 水戸藩士が女子供を含む村民皆殺し。僅か数名が他藩領へ逃げ、口碑を残す。慶長7年(1602)説ほかあり。**
1610	慶長　15	-415	富岡村(現横浜市金沢区富岡)地頭豊嶋刑部少輔明重は、應長の大津波(1311)にも富岡地区が富岡八幡宮の加護によって被害を受けなかったとして社殿を造営。このときの棟札(ﾑﾅﾌﾀﾞ)は長浜野口記念館に現存。 これより少し前、徳川家康69歳、江戸湾埋立の支障となる高浪対策として富岡八幡宮の分霊を祀り埋立工事成功。深川の富岡八幡宮。ただし、深川富岡八幡宮の由緒書きにはこの記事がなく、『寛永4年(1627)に神託で創建』となっている。家康が勧請した御祭神を、家光が(深川)富岡八幡宮としたのかもしれない。　この年、家康は尾張藩主にした9男義直の居城として名古屋築城開始。
1611	慶長　16	-414	3月28日 二條城にて徳川家康70歳 vs 豊臣秀頼19歳の会見成る。秀頼後見役片桐且元、秀吉恩顧の大名加藤清正・福島正則・浅野幸長、秀吉正室秀頼嫡母高台院(ねね)らの配慮により事なきを得る。 お勝が生んだ家康6女の市姫 満4歳で早世。家康はお勝を水戸初代藩主徳川鶴千代ほかの養母とする。 水戸初代藩主 徳川鶴千代9歳 元服し頼房(威公)。　10月2日 土岐朝房 江戸幕府より駿河國に200石の知行を与えられる。
1612	慶長　17	-413	4月13日 巌流島の決闘。関門海峡の向島(舟島とも)で宮本武蔵 vs 佐々木(巌流)小次郎の戦い。一瞬にして武蔵勝つ。 犬山城 この年から元和3年(1617)まで城主不在
1613	慶長　18	-412	9月15日 伊達政宗の遣欧使節団支倉常長ら陸奥國月浦を出航。
1614	慶長　19	-411	初頭、徳川家康73歳はウィリアム・アダムス(三浦按針)を通じ大量の鉛、火薬を購入。　7月 方廣寺鐘銘事件。4月に完成した大仏殿梵鐘の鐘銘に家康が難癖を付け挑発。　10月1月 片桐且元一族大阪城を去り居城茨木城へ入る。　同日 京都所司代板倉勝重から家康へ、豊臣秀頼の片桐討伐方針の急報。　同日 家康から将軍秀忠へ大阪討伐の方針を伝達。**大阪冬の陣** 10月2日 大阪方は城郭を修理、兵糧米の蓄積開始。江戸在住の福島正則は秀頼の兵糧米提供要請には応じたが秀頼への援軍派遣は拒否。島津・前田・鍋島・伊達も秀頼の来援要請を拒否。封建的主従関係の論理から当然の決断。 10月4日 秀忠から東北諸大名へ、各軍の江戸参集命令。　10月6日 藤堂高虎を江戸から招き、軍議。 10月6-10日 真田幸村・長宗我部盛親・毛利勝永・後藤基次・明石守重ら有能な牢人衆が大阪城へ集結。計9万6千余。 10月11日 家康 末子頼房12歳を駿府城留守居役とし、数百騎で駿府城を出立。 10月12日 大阪方槙島重利ら堺の奉行所を急襲し鉄砲・武具を奪う。 10月13日 元大阪方片桐且元奉行所救援隊を堺に派遣するも敗退。これにより且元は徳川方に付くことを明示。 10月中旬 大阪方は軍議にて真田幸村・後藤基次らの出撃策を大野治長らが否定。籠城策に決定。 10月16日 秀忠が、伊達・上杉ら東北諸大名が江戸に参着の後、出陣する旨を岡崎に到着した家康に伝達。 10月19日 家康 岡崎に到着し、中國・西國・四國の諸大名に大阪参陣を命令。 10月20日 伊達政宗1万余・上杉景勝5千余、先鋒として江戸を進発。 10月23日正午頃 家康 二條城入り。藤堂高虎・片桐且元らと軍議。　同日、前田利常1万2千上洛。　同日、秀忠 松平忠輝・鳥井忠政・蒲生忠郷・最上家親らを江戸城留守居役として残し、5万を率いて出陣。 10月25日 家康 藤堂高虎・片桐且元に大阪城包囲の先鋒を命じる。　10月29日 松平忠直1万余にも先鋒の命令。 11月2日 徳川方先鋒軍と大阪方に小競り合い開始。 11月5日 藤堂高虎・松平忠直・前田利常・井伊直孝・本田忠政ら先鋒軍、阿倍野・住吉の間に陣す。 11月7日 蜂須賀至鎮上洛。家康に拝謁。　11月10日 秀忠上洛、伏見城。関ヶ原遅参の屈辱から今般は強行軍。 11月15日6:00頃 家康は二條城を出陣し奈良経由で大阪へ、秀忠は伏見城を出陣し河内枚方へ向かう。 11月17日 家康は住吉、秀忠は平野に着陣。　11月18日 家康・秀忠 茶臼山にて藤堂高虎・本田正信らと軍議。 11月19日 軍事衝突開始。大阪方は木津川口の砦を失う。徳川方は伝法川口も支配し大阪方の水上補給路を断つ。 11月20日 秀忠は総攻撃を主張するも、家康は秘密裏に和平工作を開始。腹心本田正純と政商後藤庄三郎を通じ、大阪城中織田有楽(信長弟)・大野治長と折衝。 11月26日 上杉景勝・佐竹義信が大阪方の鴫野と今福の砦を急襲。木村重成・後藤基次らが反撃するが敗退。 11月29日 木津川口西北の博労ケ淵の砦を奪う。そのとき守将蒲田兼相は遊女屋にあり留守。 12月3日 大阪方織田有楽から後藤庄三郎へ「今は機が熟さぬが、いずれ斡旋の労をとる」旨の回答が届く。 12月4日 前田利常・松平忠直・井伊直孝ら大阪城南壁に肉薄するも真田丸からの攻撃に撤退。冬の陣最大の攻防戦。 12月8日 有楽と治長から正純と後藤宛に「城中の牢人の処置と、秀頼の転封地等の講和条件」が届く。 12月9日 家康は講和促進のため、毎晩一斉に鬨の声をあげることと城中に大小砲の連射を開始。 12月11日 家康 城南の藤堂・井伊・前田の各陣所から大阪城中までのトンネル掘り突貫工事を開始させる。 12月15日 大阪方から講和条件提示。「淀殿を江戸へ送る。牢人処遇のため秀頼の知行加増要求。」と。家康は難色。 12月16日 家康 砲術に精通する牧野正成・稲富正直らに指揮させイギリス・オランダから購入した大筒で一斉砲撃。一発が淀殿の居室に命中。強行派淀殿の態度が一変。
1615	元和　1	-410	**大阪夏の陣** 慶長20年5月8日 豊臣秀頼・淀殿自刃 大阪城陥落/豊臣家滅亡。　慶長20年7月7日『武家諸法度』発布 7月13日改元　**元和偃武**　これより幕末まで260年間、ほぼ天下太平。　7月17日『禁中並公家諸法度』
1616	元和　2	-409	4月17日(1616年6月1日) **徳川家康没**75歳 於駿府城(静岡市) 幼少のため家康の下にいた水戸初代藩主頼房14歳は2代将軍秀忠より江戸城内に屋敷を与えられ駿府から江戸へ移る。 **側室のお勝39歳は家康没により出家し英勝院と号す。江戸代官町に住む。1634へ**
1617	元和　3	-408	慶長17年(1612)から城主不在だった犬山城、徳川家重臣成瀬正成が城主となる。明治期に一時中断するも現在まで成瀬氏が継承。
1618	元和　4	-407	12月　徳川頼房16歳に松平忠長の旧臣数十人、北條氏照の旧臣の武蔵八王子衆16人が出仕。
1619	元和　5	-406	10-12月 水戸初代藩主徳川頼房17歳が水戸へ初回の就藩。1661に没するまで就藩は合計11回しかなく、しかも短期間であった。
1620	元和　6	-405	**★太田源五左衛門(東條彈正某弟)は1590に討死していなければ、この頃没だろう(60歳として)。**
1621	元和　7	-404	4月17日 水戸に東照宮　　オランダではアメリカ開拓を目的として西インド会社設立。
1622	元和　8	-403	8月4日 徳川頼房20歳 将軍秀忠から江戸駒込に別邸を賜わる。　9月24日 頼房 幕府から松岡・小川3万石加増され28万石。
1623	元和　9	-402	この年 徳川家光20歳3代将軍-1651　2代将軍秀忠も1632に没するまで実権を握り続け二元政治。　この年、秀忠が望楼型から層塔型へ立て替えた江戸城天守閣竣工。
1624	寛永　1	-401	2月30日改元　慶珊寺 開基:豊嶋刑部少輔明重。開山:傳榮上人。元は紀伊國高野山直末不動院寶竜寺と号し、この頃は洲崎龍華寺末寺。慶珊寺には明治期、ローマ字のジェームズ・ヘボン博士も滞留。　日光東照宮陽明門成る。
1625	寛永　2	-400	徳川頼房23歳 佐竹時代からの水戸城大修築開始-寛永15年まで。
1626	寛永　3	-399	アメリカ大陸ではオランダ西インド会社が先住民(いわゆるｲﾝﾃﾞｨｱﾝ)からマンハッタン島を僅か60ギルダーで購入。ニューアムステルダムと称す。1664へ。(本國ﾗｲﾃﾞﾝ大学周辺の道路に使った石1個が1ｷﾞﾙﾀﾞｰ)
1627	寛永　4	-398	この年 江戸深川に富岡八幡宮創建。高波による埋立工事への障害除去のため家康が久良岐郡の富岡八幡を勧請。1610参照
1628	寛永　5	-397	6月10日(1628/7/11) 徳川長丸誕生-1701 頼房26歳3男(長じて水戸2代藩主光圀) 母側室谷久子 於水戸城下柵町 三木之次宅。 8月10日 14:00頃、**江戸城中刃傷事件**。目付豊嶋刑部少輔明重(富岡領主1700石)は義憤から西の丸にて老中井上主計頭正就(横須賀城主6万石)を脇差しで刺殺し即刻自刃。羽交い締めして止めようとしていた青木小左衛門忠精は明重の背中に突き出た脇差しの刃先で巻き

西暦	元号	年数	EVENT
			添え死。明重の嫡子吉継切腹。豊嶋家断絶。明重/吉継父子の墓所は横浜市金沢区慶珊寺。父子の供養塔(宝篋印塔)あり。 経緯: 明重は井上正就の長子政利と大阪町奉行兼堺政所奉行島田越前守直時女の仲人となり婚約成立。ところが春日局が正就に上意と称して、より家格の高い女との縁談を申し渡し正就も承諾したため島田の女との縁談は破談となった。面目を失った明重が「武士に二言はない！」と正就を斬殺したもの。豊嶋家が嫡子の切腹のみで済んだのは酒井忠勝が「遺恨をそのままにしないのも武士道の一つで、これを厳罰とすれば武士の意地が廃れて百姓町人と同じことになる。」と意見したためであると。責任を感じた島田直時も切腹。井上家はお咎めなし。
1629	寛永 6	-396	閏2月朔 徳川頼房27歳は中屋敷最適地の選定を高家徳大寺左兵衛に命じ小石川一帯に内定。3代将軍家光26歳は76,689坪を与える。 頼房は徳大寺左兵衛をして作庭せしめ、同年9月28日竣工。頼房は代官町の屋敷から移る。1633へ
1630	寛永 7	-395	**東條太田城最後の城主 土岐頼英(治綱男)没。於東條太田(茨城県稲敷市下太田)。頼英夫人虎姫は、土岐家元家老(美浦村大塚在住堀越俊雄氏の祖先)に庇護され1660没。** 貝原益軒誕生-1714。 9月11日 **水戸藩小石川中屋敷焼失。**
1631	寛永 8	-394	4月22日 **水戸藩小石川中屋敷再建成る。** 6月7日 **蘆名義勝(盛重)没**57歳1575- 於秋田角館
1632	寛永 9	-393	1月24日(1632/3/14) 2代将軍秀忠没(家光29歳は既に1623から3代将軍)。徳川頼房30歳へ遺物として名刀切歯貞宗・俊成・定家の真蹟等が贈られ、2月12日には銀2万枚が与えられる。 讃岐17万3千石の高松藩でお家騒動(生駒騒動)。4代藩主生駒高俊を利用しようとする「逆意方」vs「お為方」が対立。1639決着。
1633	寛永 10	-392	1月20日 相模國大地震 小田原壊滅的被害。 1月25日 佐竹義宣没 64歳 時宗水戸藤沢道場を2代其阿上人が藤沢山神應寺と改む。1680へ 3月 3代将軍家光30歳が水戸藩小石川中屋敷を訪問し頼房31歳へ作庭に関して助言。1636へ 5月 徳川長丸(後の光國/光圀)6歳 水戸藩世嗣に決定(3代将軍家光の指示)、千代松と改む。水戸から江戸の水戸藩邸に移る。
1634	寛永 11	-391	3月16日、英勝院57歳は鎌倉扇谷の太田道灌邸跡地を3代将軍家光31歳から寄進され一寺を建立。これが英勝寺の始まりとなる。境内地は銭貫高換算で5貫359文。1635へ 5月9日 徳川千代松(光國/光圀)7歳 水戸藩世嗣決定により英勝院に従って江戸城に上り3代将軍徳川家光に謁見。
1635	寛永 12	-390	3代将軍家光32歳により参勤交代制確立 英勝院58歳が江戸代官町から駒込千駄木の甥太田資宗の屋敷へ移る。1636へ
1636	寛永 13	-389	5月24日 伊達政宗没72歳1567- 仙台藩祖 7月6日 徳川千代松9歳 江戸城で3代将軍徳川家光33歳立合のもと元服。光國(光圀は56歳から)と名乗る。**光**は家**光**からの偏諱。 **★この頃 太田助衛門一有(九藏)[No.2] 水戸藩士「寛永季中威公ニ奉仕ス 切符ヲ賜テ細工人トナル」** 9月 3代将軍家光33歳が水戸藩小石川中屋敷を訪問し頼房34歳へ作庭に関して助言。1640へ 11月、英勝院59歳は3代将軍家光の命により6歳で薙染させ養子として養育した水戸初代藩主徳川頼房の女小良姫(さらひめ、またおりょうひめ)を清因尼として英勝寺の開山住持とする。1637へ
1637	寛永 14	-388	この年 **島原の乱** 12月、英勝院60歳は3代将軍家光34歳から三浦郡池子村に300石の寺領と、英勝寺内に屋敷を与えられ、清因尼と英勝寺に移る。1641へ
1638	寛永 15	-387	徳川頼房36歳 水戸城大修築完。城郭規模は廃藩まで変化なし。 江戸城は家光35歳が天守閣を建て替え、この年竣工。1657へ
1639	寛永 16	-386	鎖國 この頃 水戸藩附家老中山備前守 川和田、見和入会の地に別荘を有し付近の原野を開拓、見和新田と称す。 讃岐高松藩に対し幕府より1632からの**生駒騒動に判決**。4代藩主高俊 領地没収 出羽矢嶋へ1万石で左遷。次の高松藩主は1642へ
1640	寛永 17	-385	この年 佐々介三郎十竹(宗淳)誕生-1698 佐々成政曾孫佐々勝朗第八子。長じて安積覺兵衛らと光國の史書『大日本史』編纂に参画。 10月 3代将軍家光37歳が水戸藩小石川中屋敷を訪問し頼房38歳へ作庭に関して助言。1644へ
1641	寛永 18	-384	寛永検地 水戸藩は「縄詰め」で石高を水増し/幕府不許可。 中山備前守が開拓した見和新田の検地石高560余石。 秋頃から英勝院64歳が病気がちになる。将軍家から奥医師玄冶、名医久志本右馬助らが派遣され治療に尽くす。1642へ 8月3日(1641/9/7) 3代将軍家光38歳に長男で後の4代将軍家綱誕生。
1642	寛永 19	-383	5月 水戸初代藩主徳川頼房40歳の長男松平頼重21歳が新たな高松藩12万石の初代藩主となる。 8月23日 **英勝寺開基英勝院寂**65歳。夕刻から仮葬儀。法号英勝院長誉清春 8月24日 芝増上寺住職業譽上人、水戸初代藩主徳川頼房の使者中山信政、太田康資が鎌倉英勝寺で英勝院の埋葬に立会う。 8月27日 3代将軍家光39歳が**中根壱岐守正盛**を上使として鎌倉英勝寺へ派遣し香典白銀100枚を下賜す。 8月27日 3代将軍家光が**中根壱岐守正盛**を上使として太田資宗の屋敷へ派遣し将軍の上意を伝え慰労す。 9月20日 幕府が鎌倉由比ヶ浜にて英勝院の葬儀を規式に則り挙行。導師は増上寺住職業譽上人で、徳川頼房・光國15歳父子、太田資宗・資次父子も参列。英勝寺では100余の僧侶により千部経転読供養が営まれる。 後日、英勝院縁の松平忠昌、伊達忠宗・光宗父子、加えて尾張徳川家、紀伊徳川家、そして譜代大名らも英勝寺を訪れ焼香す。 英勝院の遺物のうち家康の書は3代将軍家光へ、栄雅筆の歌合本7冊は家綱に譲られた。 家光は英勝院の入寂に対して17日間も喪に服し、鷹狩りも取りやめたと。 幕府は英勝院が望んでいた勅額の執奏をすると共に英勝寺へ120石を加増し三浦郡池子の一村420石72戸全てを寺領として安堵。加えて英勝寺に隣接する寿福寺の裏山も寺領に繰り入れられたため、英勝寺は源氏山を含み建長寺領と接する広大な山林を獲得した。1643へ
1643	寛永 20	-382	この年 **田畑永代売買の禁** 8月23日 **英勝院一周忌**: 水戸初代藩主徳川頼房41歳は英勝寺仏殿を改修し祠堂と唐門を建立。頼房の長男で高松藩主の松平頼重22歳は山門、頼重弟の光國16歳は墓塔を建立。昨年9月20日に幕府が執奏した勅額は、後水尾天皇(この時点では上皇)宸翰「英勝寺」の御題著として高家吉良義冬が勅使として英勝寺へ届ける。1648へ
1644	正保 1	-381	3月 3代将軍家光41歳が水戸藩中屋敷小石川藩邸を訪問し頼房42歳へ作庭に助言。1665へ 12月16日改元
1645	正保 2	-380	光國18歳 伯夷伝を読み史書(1715に『大日本史』と命名)編纂を志す。 宮本武蔵没62歳1584- 生涯に六十余度の試合。無敗の剣士。 この年から1715までの70年間、**マウンダー極小期**。太陽黒点ゼロが継続。太陽磁場が弱まり銀河宇宙線の増加で雲が増加し地球寒冷化。
1646	正保 3	-379	1月8日(1646/2/23) 3代将軍家光43歳に5男で後の5代将軍綱吉誕生-1709。 4月17日 水戸東照宮初回の祭礼。
1647	正保 4	-378	中村新八(篁渓)誕生-1712 長じて安積覺兵衛、佐々介三郎らと光國の『大日本史』編纂に参画
1648	慶安 1	-377	2月15日改元 **★太田九藏歳勝[No.3]誕生(太田助衛門一有43歳長男) 長じて佐々介三郎、中村篁渓らと光國の『大日本史』編纂に参画。** **8月20日 徳川頼房46歳 英勝院7回忌につき鎌倉英勝寺へ行く。8月25日 江戸へ戻る。鎌倉英勝寺が勅願所となり紫衣の勅許も得る。1851へ** **★▲『慶安元年 子 九月九日 妙雲信女』[大] 太田助衛門一有母**
1649	慶安 2	-376	11月14日 徳川家光46歳、昨13日の浅草辺の狩で得た鶴を徳川頼房47歳へ与える。
1650	慶安 3	-375	柳生十兵衛没44歳1607-
1651	慶安 4	-374	**2月3日 江戸崎城最後の城主で江戸崎土岐氏7代治綱没。於上之島(茨城県稲敷市上之島)。** 4月20日(1651/6月8日)3代将軍徳川家光没48歳。徳川家綱4代将軍-1680 水戸千波湖の中に柳堤竣工。上町と下町の交通の便を図るため。
1652	承應 1	-373	9月18日改元 **★この頃、太田九藏一有47歳[No.2] 光國20歳の假面を彫刻。常陸太田市久昌寺に現存。**
1653	承應 2	-372	この年 仙台藩主が水戸藩主徳川頼房51歳と親交を結び潮来に仙台藏を建てる。
1654	承應 3	-371	**8月 徳川頼房52歳 英勝院の冥福を祈るため鎌倉英勝寺へ行く**
1655	明暦 1	-370	4月13日改元 澹泊斎安積覺兵衛誕生-1737 藤原南家伊東氏族。祖父が威公に出仕。幼少で朱舜水に師事。長じて彰考館総裁。光國の『大日本史』編纂に参画。
1656	明暦 2	-369	松平綱條 高松藩主頼重35歳(水戸初代藩主徳川頼房54歳の長男で光國の兄)の男として誕生-1718(長じて水戸3代藩主)
1657	明暦 3	-368	**明暦の大火** 1月18日 14:00 本妙寺(豊島区巣鴨)から出火、南東から南方向へ延焼。翌19日早朝に鎮火。(振袖火事) **明暦の大火** 1月19日 10:00 昨日とは別の場所の伝通院近く(文京区)から出火、南方向へ延焼。翌20日朝鎮火。江戸城本丸、二の丸、そして家光が建て替えた天守閣焼失。天守閣は以後再建されず(綱吉が再建しようとしたが財政難で成らず)。この大火により江戸の60%を消失、10万人以上が焼死。水戸藩小石川中屋敷も類焼。徳川頼房55歳・光國30歳らは駒込別邸へ退避。 2月27日 光國 駒込別邸に史局を設け4人で史書(1715に『大日本史』)の編纂に着手。尊皇敬幕、南朝正統の思想。前期水戸学的立場。
1658	萬治 1	-367	7月23日改元 12月13日 水戸藩小石川中屋敷の再建成り、徳川頼房56歳・光國31歳らは退避していた駒込別邸から居を移す。
1659	萬治 2	-366	明の遺臣朱舜水が日本へ亡命。1655へ
1660	萬治 3	-365	**東條太田城最後の城主 土岐頼英(治綱男)夫人虎姫没 後年1796に虎姫の画像作られる。**
1661	寛文 1	-364	4月25日改元 7月29日 徳川頼房(威公)没59歳1603-/8月19日 光國34歳を水戸2代藩主とする旨の将軍家からの上使を迎える直前、光國は兄頼重40歳に「各々の男を養子として交換し水戸家を頼重の男に嗣がせる」旨を提案。「承諾せねば上使を迎えぬ」と。頼重は結論先

西暦	元号	年数	EVENT
			延ばしのつもりで「後のことはどうとでも」と回答。光國は了承したと受け取って上使を迎え、徳川光國34歳 水戸2代藩主-1700。光國は頼重との養子交換了承を幕府へ願い出る。1663へ。光國は家臣の殉死を禁止。
1662	寛文 2	-363	★東條兵介常言誕生(太田助衛門一有57歳次男)「(分家して)本氏ニ復シテ東條ヲ稱ス」　4月25日(1662/6/11) 甲府藩主徳川綱重長男として後の6代将軍家宣誕生-1712。　7月 土岐頼英の三十三回忌。江戸崎管天寺の修復計画立案。
1663	寛文 3	-362	12月4日 水戸2代藩主徳川光國36歳は幕府から実兄で高松藩主の松平頼重の男綱方を養子に迎えることを許される。
1664	寛文 4	-361	2月18日 水戸2代藩主徳川光國37歳は実子頼常を高松初代藩主松平頼重の養子とする。　オランダがイギリスに降伏。イギリスはマンハッタン島と周辺を領有。ニューアムステルダム(マンハッタン島)はニューヨーク(イギリス國王の弟ヨーク公の名から)と改称。　太田一有か前田介十郎が光國37歳の肖像を彫刻。それを矢大臣に拵えて江戸根津神社へ納める。隋身門左側と。(『足の向く儘』三田村鳶魚著/朝倉治彦編 中公文庫)
1665	寛文 5	-360	6月 水戸2代藩主光國38歳は明から亡命した朱舜水を招聘。同年7月、舜水は水戸藩駒込別邸へ移る。光國は舜水が天和2年(1682)に寂すまで師事。光國はまた小石川中屋敷を上屋敷とすべく朱舜水の協力を得て庭園を整備。1668へ
1666	寛文 6	-359	附家老中山氏は備前守信治のとき見和新田を藩府へ納め代替地の常葉村へ家士を移して開拓、新屋敷と称す。 光國39歳 水戸常磐に共同墓地(常磐共有墓地)を造営(水戸市松本町13-34)。質素を旨とし墓碑のサイズを規定。安積澹泊、藤田幽谷・東湖・小四郎ほかの墓あり。太田氏親戚の三宅氏、川上氏も同所。
1667	寛文 7	-358	10月 徳川光國、吉田・静両神社の修造を命じ唯一宗源神道に改め、日月四神の旗・楽器等を納める。
1668	寛文 8	-357	永島祐伯(号 泥龜子) 平潟湾(横浜市金沢区)を干拓し新田開発を開始。完成は1849、永島家9代 泥巣による。泥龜新田。泥亀は湯島聖堂の儒官にして医者。隠居しこの地に移住。 千葉では椿海(ツバキノウミ)の干拓開始。銚子の西に東西12km、南北6km、周囲40kmの椿海あり。これを農地にする計画。1670に一旦完了。 **この年4月8日から翌寛文9年3月19日までの間に徳川光國41歳は整備中の小石川藩邸庭園を「後樂(楽)園」と命名。江戸市民に開放(光圀死後の元禄末期に開放中止)。後樂園は朱舜水の提案による。書院庭園(内庭(うちにわ)と称す)と後樂園の間に唐門を設置。唐門扁額には「後樂園」の題字。題字は朱舜水の書にして太田九藏一有63歳の彫刻。光國は小石川藩邸を上屋敷とする。**
1669	寛文 9	-356	★1月付『寛文規式帳(水府御規式分限)』に「町衆 祿付なし 御細工人 太田一有(64歳)」(『茨城県史料』近世政治編Ⅰ Page 87) 同規式帳に「御式壷役 祿付なし 樫原善介」(太田氏親戚)
1670	寛文 10	-355	1月22日 高松初代藩主松平頼重長男綱方没。綱方は水戸2代藩主徳川光國の養子となるはずだった。1671へ　澹泊斎安積覺兵衛 光國43歳より大番組200石。次いで小納戸役。 1668からの椿海干拓、11月に一旦完了するも新たに開削した川へ湖水を流したところ下流で大洪水。1671へ
1671	寛文 11	-354	この頃、水戸2代藩主徳川光國44歳は、常陸國天満宮の御神体として十一面観音が祀られていたため神仏分離の見地からこれを除去する。1695へ　6月3日 光國は、高松初代藩主松平頼重次男綱條を養子とすることを幕府から許される。1670より 1670に事故発生の椿海干拓事業竣工。干潟八万石と呼ばれる。しかし、水害・干魃・塩害により、最終的完成は昭和46年(1971)となる。
1672	寛文 12	-353	光國45歳 史局を駒込別邸から小石川上屋敷へ移し「彰考館(略称=史館)」と命名。修史事業(『大日本史』編纂)の本格化。
1673	延寶 1	-352	9月21日改元
1674	延寶 2	-351	佐々介三郎十竹(宗淳)、光國47歳に認められ彰考館史臣となる。光國が成田山新勝寺参詣。
1675	延寶 3	-350	11月25日 京都で大火
1676	延寶 4	-349	光國49歳 彰考館員を史料調査のため全國各地に派遣(元祿6年までの18年間に大小規模で合計13回)。
1677	延寶 5	-348	11月18日 江戸崎城最後の城主土岐治綱妻没 ★太田九藏一有72歳は水戸2代藩主徳川光國50歳の假面を作る。常陸太田市久昌寺に20-30歳の假面と共に現存。一有は、これを機に致仕した可能性あり。★太田助衛門一有「延寶年中致仕」 太田九藏歳勝[No.3]30歳「父隠居シテ其切符ヲ賜テ細工人」
1678	延寶 6	-347	12月12日 徳川綱條、今出川右大臣藤原公規の女李子と結婚。この月 徳川光國、夫人を後樂園に遊ばせ田耕・機織の苦労を見させる。
1679	延寶 7	-346	★9月16日 東條兵介常言18歳(太田一有74歳2男)「本氏ニ復シテ東條ヲ稱ス 切符ヲ賜テ細工人トナリ歩行士ノ列」常陸平氏東條氏再興成る。
1680	延寶 8	-345	時宗藤沢山神應寺、水戸神生平(藤沢小路(現水戸市梅香))から現在地へ移転。 5月8日(1680/6/4) 4代将軍家綱没。
1681	天和 1	-344	9月29日改元　この頃、水戸2代藩主徳川光國54歳は南朝関係史料の収集に意を注ぐ。
1682	天和 2	-343	4月17日 朱舜水没。この冬、朱舜水の故邸が罹災。『朱舜水先生文集』の原稿が悉く灰燼となる。
1683	天和 3	-342	徳川光國56歳、この年の10月頃から光圀と名乗る。光國の文字は9歳のときに三代将軍家光から光の字をもらい、『晋書陸雲傳』に「聖徳竜興して大國を光有す」とあるを以て決定された。それを変更した理由は不明なるも、皇室との関係が深まった時期であり、國を使うことを遠慮したのかもしれない。一方、圀は唐の暴悪な女帝則天武后が作った文字であり、熟知するはずの光國が何故にこれを採用したかは不明。 光圀、各地で収集された史料によって南朝正統の立場に立ったことから編纂中の史書(1715に『大日本史』)の紀伝改訂を指示。水戸藩執政藤井紋大夫、史館提挙職を兼任す。 ★11月25日 太田九藏歳勝36歳「歩行士ノ列トナル」★歳勝を細工人から歩行士に移籍させたのは、光圀が史書編纂に歳勝を使おうとしたためと推測。細工仕事は歳勝の父一有78歳とともに歳勝の弟で常陸平氏東條氏を再興した東條常言(22歳)が行なっていた。 この年 安積澹泊斎覺兵衛 編修として史館に入る。以後40有余年、『大日本史』の「紀伝」完成を待って没する。
1684	貞享 1	-341	2月21日改元　10月21日(1684/11/27) 後の8代将軍徳川吉宗誕生-1751 於紀州
1685	貞享 2	-340	光圀58歳が史書(『大日本史』の呼称は1715)編纂のため彰考館員を九州、中國、四國、北陸へ出張させて大調査。
1686	貞享 3	-339	★東條介衛門常信誕生(東條兵介常言25歳長男(一有81歳孫))
1687	貞享 4	-338	5代将軍綱吉 **生類哀れみの令**　水戸木町(金町)から牛頭天王社が移転。そのため、この一帯の地名が天王町となる。この場所には嘗て武田信吉の墓がある心光寺があったが延寶5年(1677)に那珂郡向山町に移され、武家屋敷地となっていた。1843へ
1688	元祿 1	-337	9月30日改元　★太田九藏歳忠誕生(太田九藏歳勝41歳次男))　この年 佐々介三郎十竹(宗淳) 彰考館総裁。
1689	元祿 2	-336	12月25日 水戸藩士佐野郷成、大番組兼使役から史館勤めとなる
1690	元祿 3	-335	10月14日 **徳川光圀63歳 致仕し家督を高松藩主である実兄松平頼重男綱條に譲る。**以降、水戸藩主は光圀の子孫でなく兄頼重の子孫となる。 この年 徳川光圀、領内玉里村光明寺裏の古墳を調査。
1691	元祿 4	-334	5月3日(1691/5/30) **徳川光圀64歳 水戸城から太田郷西山御殿(西山荘)へ蟄居。**これにより史書(1715に『大日本史』)編纂を加速。光圀死後享保5年に(一応)完成し幕府に献上/文化7年修改版/明治39年 栗田寛が完成。 ★光圀は蟄居にあたり近臣23名を帯同。西山荘近傍へ住まわせる。博文館『水戸義公傳』によれば白坂に太田九藏家あり。光圀没まで10年間。
1692	元祿 5	-333	8月 徳川光圀、佐々宗淳を摂津國湊川へ使わし楠木正成の墓を修復する。　この年 徳川光圀、栃木県湯上村の侍塚古墳を発掘調査。
1693	元祿 6	-332	★太田九藏歳知[No.4]誕生(太田九藏歳勝46歳3男)　6月 澹泊斎安積覺兵衛38歳 彰考館総裁　この年 井原西鶴没 太田九藏一有88歳は光圀66歳に命じられ桂村高久(茨城県東茨城郡城里町高久)鹿島神社の悪路王頭形を修理。 水戸3代藩主綱條 将軍家より用地を拝領し下屋敷設置。小梅御殿と呼ばれた。西は隅田川、南は北十間川に面し、現在の向島1丁目の大半を占め2万坪余りの面積であった。小石川本邸の別邸として従者の蔵奉行、水主、鷹匠の住まいとして使われ、また、船蔵や材木が置かれていた。明治になり水戸徳川家の本邸が置かれ、昭和6年に帝都復興計画により公園として開園した。現・隅田公園
1694	元祿 7	-331	松尾芭蕉没　この年 法隆寺は財政難解決のため江戸回向院で出開帳(出張展覧会)を行ない、一般客、将軍家、諸大名の寄進を含め4,200両を集める。　11月23日 光圀67歳 小石川邸で藤井紋太夫徳昭を手討ちにする。柳沢吉保への当て付けか。
1695	元祿 8	-330	★光圀68歳は東條常言34歳(太田氏3代目 歳勝弟)に命じて菅原道真の木像を彫刻させ、この年の春、常陸國天満宮へ御神体として奉納。寛文期に天満宮から除去した十一面観音は江戸小石川藩邸内に遷座。(「みなと八朔祭り」(鈴木正樹著)・「雑録・八朔祭りと屋台の囃子」(菊池恒雄著))(ご提供元：天満宮宮司神永様・宮野様・川上様) *#1/8* 8月15日-9月8日『大日本史』編纂用『往復書案』(御用書状留) 差出人:安積覺兵衛・中村新八/宛先人:佐々介三郎・石井弥五兵衛・太田九藏(歳勝48歳)・米川弥八郎(京都大学文学部蔵)
1696	元祿 9	-329	★▲『元祿九 丙子 年十二月廿日 梅雪院法譽一有居士』[名號]&[大] 太田助衛門一有[No.2]91歳1606-(水府系纂では元祿10年2月29日)(”譽” は浄土宗系を意味する)・・・位牌ではそうなっているが系圖では元祿10年丁丑2月29日91歳
1697	元祿 10	-328	12月22日 史書(1715に『大日本史』)の『百王本紀』脱稿。これにより三代特筆確立。
1698	元祿 11	-327	1月 徳川光圀71歳が彰考館総裁以下史館員の大半を水戸城二の丸に移し水戸彰考館(水館)を発足。　6月3日 佐々介三郎十竹(ｼﾞｯﾁｸ)(宗淳)没59歳於西山荘近傍不老澤(ｵｲﾇｻﾜ)の自邸 -1640

西暦	元号	年数	EVENT
1699	元禄 12	-326	★▲『元祿十二 己卯 四月十九日 生法院得譽妙忍信女』[大] 太田助衛門一有[No.2]妻 この年 光圀72歳『水府系纂』の編纂を命ず。 #2/8 2月29日-4月13日『大日本史』編纂用『往復書案』(京都御用書案) 差出人:安積覺兵衛・栗山源介/宛先人:井上玄桐・朝比奈半治・安積覺兵衛・太田九藏(歳勝52歳)・米川弥八郎(京都大学文学部蔵) #3/8 4月15日-5月15日『大日本史』編纂用『往復書案』(御用書案) 差出人:安積覺兵衛・栗山源介/宛先人:井上玄桐・太田九藏(歳勝52歳)・安積覺兵衛(京都大学文学部蔵) #4/8 9月11日-10月8日『大日本史』編纂用『往復書案』(京都御用書案) 差出人:安積覺兵衛・栗山源介・中村新八/宛先人:栗山源介・太田九藏(歳勝52歳)・井上玄桐・中村新八・伴五百衛門(京都大学文学部蔵)
1700	元禄 13	-325	12月6日(1701/1/14)朝 徳川光圀 西山荘にて没(たぶん胃癌)73歳1628-(義公)/徳川綱條(ﾂﾅｴﾀﾞ) 水戸3代藩主-1718 ★光圀没により太田九藏家(太田九藏歳勝53歳)は水戸城下の天王町へ転居。天王町には136年間在住。
1701	元禄 14	-324	#5/8 1月29日-2月23日『大日本史』編纂用『往復書案』(京都御用書案) 差出人:安積覺兵衛・中村新八・栗山源介/宛先人:井上玄桐・太田九藏(歳勝54歳)・馬場佐五衛門・酒泉彦大夫・狩野興雲・道祖・甚兵衛・近藤弥兵衛・三宅紋衛門・堀江藤右衛門・矢田倍長門守・津田平藏・田中三左衛門(京都大学文学部蔵) #6/8 2月23日-4月12日『大日本史』編纂用『往復書案』(江戸・西山御用書案) 差出人:安積覺兵衛・中村新八・栗山源介/宛先人:酒泉彦大夫・奥山立庵・太田九藏(歳勝54歳)・矢野長九郎・岡崎只衛門・秋山孫太郎・鵜殿八兵衛・栗山源介・嶋村介九郎(京都大学文学部蔵) 3月14日 赤穂藩主 浅野内匠頭長矩 殿中松の廊下刃傷事件 吉良上野介義央(1641/9/2-)に斬りつける。浅野内匠頭長矩 即日切腹/御家断絶。吉良上野介義央は重傷なれど助かる。しかし御役御免。元祿15年(1702)12月14日へ #7/8 4月12日-5月21日『大日本史』編纂用『往復書案』(江戸・西山御用書案) 差出人:安積覺兵衛・中村新八・酒泉彦大夫/宛先人:浅井太郎兵衛・近藤弥兵衛・太田九藏(歳勝54歳)・栗山源介・津田平藏(京都大学文学部蔵) 5月25日 水戸藩 幕府より領内の墾田7万石を本領とすることが許可される。これにて35万石。 #8/8 10月24日-11月18日『大日本史』編纂用『往復書案』(江戸・西山御用書案) 差出人:安積覺兵衛・酒泉彦大夫・栗山源介/宛先人:中村新八・太田九藏(歳勝54歳)・加治伝兵衛(京都大学文学部蔵)
1702	元禄 15	-323	8月 水戸3代藩主綱條 水戸彰考館員の約半数を江戸史館に移す。以後、水館・江館と称し業務を分担。 12月14-15日 赤穂浪士四十七士討入り事件 元赤穂藩國家老大石内蔵助良雄ら、吉良義央の首級を浅野長矩の墓に献じる。
1703	元禄 16	-322	2月4日 細川・松平・毛利・水野の四家に預けられていた赤穂浪士は各家の庭にて切腹(事実上は斬罪)。 ★9月 東條兵介常言42歳「小十人組ノ列」 11月23日 元祿地震(相模國大地震) 小田原大被害。死者2千超。鎌倉大仏の台座が崩れ仏体が三尺下に傾く。江戸の水戸藩でも小石川上屋敷全焼、駒込下屋敷も過半を消失。 12月29日 富士山麓で地鳴り。富士山噴火の予兆。寶永4年(1707)10月4日へ
1704	寶永 1	-321	この年3月1日から寶永5年閏1月17日まで太田氏分家東條氏の養子常綱の実家川上氏2代目有隣が鎌倉英勝寺へ「方丈付属の家老」として出張。 3月13日改元 4月3日、高松2代藩主として水戸から迎えられていた光圀長男の頼常没53歳。3代藩主として初代頼重5男頼豊を立てる。水戸4代藩主となった宗堯は頼豊の男。以後、水戸藩主は光圀の血筋から兄である頼重の血脈に移る。
1705	寶永 2	-320	徳川宗堯誕生-1730(長じて水戸4代藩主) 水戸藩では松波勘十郎の財政再建策により光圀の西山荘を廃する。
1706	寶永 3	-319	★この頃 太田九藏歳忠19歳「寶永年中二人ノ扶持ヲ賜テ細工御用ヲ勤ム」 ★5月7日 東條介衛門常信21歳「切符をヲ賜テ歩行士」
1707	寶永 4	-318	10月4日(1707/10/28) 14時頃 寶永地震。遠州灘と紀伊半島沖で同時に発生。東海・東南海・南海、各トラフの3震源域が連動。最大震度7。マグニチュード8.6。駿河國、紀伊國、四國で家屋倒壊と津波による死者2万人以上の甚大な被害。 10月5日 朝5時頃 箱根付近を震源とする地震。 11月10日から富士山麓で、元禄16年12月29日に続き再び地鳴り。噴火の予兆2回目。 11月23日(1707/12/16) 寶永の富士山大噴火。以後16日間、断続的に継続。宝永火口と宝永山を形成。4年前の元禄地震と、49日前に発生した寶永地震がこの噴火を誘発した。平安・室町各時代の噴火のような溶岩の流出はなかったものの、軽石を含む大量の火山灰で甚大な被害。死者2万人以上。御殿場、小山、山北町一帯は3mに及ぶ火山灰で壊滅。西風で南関東一円に約2週間降灰。鎌倉は16cm、江戸は4cm。
1708	寶永 5	-317	1704より 鎌倉英勝寺へ出張した川上有隣、閏1月17日にて任期満了し水戸へ帰る。富士山噴火による降灰処理に尽力されたことだろう。
1709	寶永 6	-316	1月10日(1709/2/19) 5代将軍徳川綱吉没/徳川家宣6代将軍-1712 7月3日(1709/8/8) 6代将軍徳川家宣に後の7代将軍家継誕生-1716。 10月12日 水戸3代藩主徳川綱條の男で世子であった吉孚(ﾖｼｻﾞﾈ)が25歳で没。1711へ
1710	寶永 7	-315	9月26日 徳川綱條、『水府系纂』の編集を佐野郷成に命ず。
1711	正徳 1	-314	4月25日改元 11月27日、水戸3代藩主徳川綱條は、1709に実子が絶えたため高松松平家から宗堯を養子として迎える。
1712	正徳 2	-313	★東條介衛門常房誕生(東條介衛門常信27歳長男) 中村新八(篁渓(ｺｳｹｲ))没1647- 光圀の『大日本史』編纂に貢献 10月14日(1712/11/12) 6代将軍徳川家宣没
1713	正徳 3	-312	4月2日 徳川家継7代将軍-1716
1714	正徳 4	-311	★2月21日 太田九藏歳知22歳「扶持ヲ賜テ細工御用ヲ勤ム」 澹泊斎安積覺兵衛 彰考館総裁を辞すも『大日本史』編纂を継続。 ★東條兵助常長誕生(初名千助)(常信29歳3男) 貝原益軒没85歳1630- 養生訓他著書多数。
1715	正徳 5	-310	★1月11日 太田九藏歳忠28歳「切符ヲ賜フ」 4月 3代藩主綱條により光圀編纂の史書、紀伝名称が『大日本史』(江館主張)と決定。水館は『皇朝新史』を推していた。 11月『大日本史』の本紀と列伝脱稿。 1645からのマウンダー極小期終了
1716	享保 1	-309	正徳6年 ★1月11日 太田九藏歳知24歳「切符ヲ賜フ」 4月30日(1716/6/19) 7代将軍徳川家継没 6月22日改元 8月13日 徳川吉宗8代将軍-1745 享保の改革 尾形光琳没 水戸3代藩主綱條 史館員に『大日本史』の「志」と「続編」の編纂を、安積覺兵衛には「論賛」の執筆を命ずる。 綱條はまた光圀17回忌を記念して西山の地に惠日庵(ｴﾆﾁｱﾝ)を建て、太田九藏一有作の光圀塑像(道服姿)を安置。久昌寺住職により約100年間守護される。1817へ 享保年中 生駒藩士三宅長太夫政弼没 水戸藩に出仕した三宅八三郎富盛の曽祖であり、祖父興助政之/父長太夫盛之共に生駒家に仕う。
1717	享保 2	-308	1月22日 江戸白山より出火。小石川藩邸に延焼。徳川綱條、守山藩吹上藩邸へ退避。
1718	享保 3	-307	9月11日 徳川綱條没63歳1656-(粛公)/10月15日 徳川宗堯(ﾑﾈﾀｶ) 水戸4代藩主-1730
1719	享保 4	-306	★8月14日 東條介衛門常信34歳「歩行士組頭」 鎌倉英勝寺開山玉峯清因90歳で寂。1629-
1720	享保 5	-305	水戸2代藩主徳川光國が編纂を開始した『大日本史』の紀伝清書本が完成し、10月29日 水戸4代藩主 徳川宗堯が幕府に献上(享保本)。朝廷にも献納しようとするが、「南朝正統」を理由に受納されず。
1721	享保 6	-304	目安箱設置
1722	享保 7	-303	★太田萬次郎誕生(太田九藏歳忠36歳長男)
1723	享保 8	-302	★2月28日 原田幸次郎常泰(東條介衛門常信38歳次男)「兵四郎成重(原田兵介家)カ養子トナル」…しかし…享保10年還家。原田兵介氏系図(『水府系纂 巻37』)にも本件の記載あり(成重でなく成秀となっているが)。 ★▲『享保八 癸卯 九月廿六日 生譽安心善信士』[名號]&[大] 東條兵介常言62歳「本氏ニ復シテ東條ヲ稱ス」(一有次男)
1724	享保 9	-301	★▲『享保九 甲辰 三月三日 心阿一運清信士 九藏歳勝』[名號]&[大][No.3] 77歳 ■#1(神應寺過去帳) 太田九藏(一有長男) ★太田九藏歳忠37歳「父死シテ其切符ヲ賜テ物書ノ列トナル」 ★▲『享保九 甲辰 七月廿七日 知佛永覺善信女』[名號]&[大] ■#2 知佛永覺信女 大部村 丹□□□□←これは太田九藏歳勝女の嫁ぎ先である常州大部村浪士丹平之進政信であり、したがって、その妻である歳勝女と思われる。 ★9月16日 東條介衛門常信39歳「小十人組」 近松門左衛門没
1725	享保 10	-300	★10月25日 原田幸次郎常泰(東條介衛門常信40歳次男)「不熟ニ依テ家ニ還ル」養子に行った先(原田兵介家)から実家へ戻る。
1726	享保 11	-299	★6月7日 東條介衛門常信41歳「小十人組組頭」 茨城郡栗崎村の農民出身立原翠軒祖父達朝、下士なれど水戸藩士分に取り立てられる。
1727	享保 12	-298	★▲『享保十二 丁未 二月七日 永阿離患信士』[名號]&[大] 太田丈衛門歳次没
1728	享保 13	-297	★6月23日 東條介衛門常信43歳「料理間番」 徳川宗翰誕生-1766(長じて水戸5代藩主)
1729	享保 14	-296	★▲『享保十四 己酉 四月十一日 由阿託道清信士』[名號]&[大] 太田九藏歳忠(初名半兵衛)42歳 ■#4 由阿託道信士 太田九藏 ★5月18日 太田九藏歳知37歳「兄九藏歳忠死シテ其切符ノ内ヲ賜テ物書ノ列トナリ細工御用元ノ如シ」 ★12月5日 東條介衛門常信44歳「江戸矢倉奉行」

西暦	元号	年数	EVENT
1730	享保　15	-295	4月7日 徳川宗堯没26歳1705-(成公)/5月12日 徳川宗翰(ムネモト) 水戸5代藩主-1766
1731	享保　16	-294	★2月10日 原田幸次郎常泰(東條介衛門常信46歳次男)「病身ノ故ヲ以テ暇ヲ賜フ」 ★4月24日 東條介衛門常房20歳「切符ヲ賜テ歩行士」
1732	享保　17	-293	11月16日 那珂湊で大火。1200軒焼失。翌17日にも300軒焼失。
1733	享保　18	-292	3月15日 水戸藩、士家出入りの農商人に帯刀を禁ず。
1734	享保　19	-291	★8月3日 東條兵助常長21歳「切符ヲ賜テ物書」　幕府『大日本史』の出版を許可
1735	享保　20	-290	★▲『享保二十 乙卯 十一月廿三日 専佛妙誠善信女』[名號]&[大] ■#5 太田丹之進(九藏歳知43歳)老母 ★▲『享保廿 乙卯 十二月十七日 名阿義全信士』[名號]&[大] ■#6 太部村 丹平□□次男←太田九藏歳勝女の嫁ぎ先である常州大部村浪士丹平之進政信の次男と思われる。　澹泊斎安積覺兵衛致仕するも『大日本史』紀伝の校訂継続。
1736	元文　1	-289	享保21年　★1月13日 太田萬次郎某15歳「二人扶持ヲ賜テ細工御用ヲ見習フヘキノ命ヲ蒙ル」 4月28日改元　★9月1日 東條介衛門常房25歳「歩行目付」　中國より孟宗竹伝わる。 源信興『後樂記事』著。「小石川藩邸の唐門扁額『後樂園』は徳川光圀が招いた朱舜水の書にして彫刻は太田九藏なり」と。
1737	元文　2	-288	★6月4日 東條介衛門常信52歳「奥方番」　★太田歳一誕生[No.5](歳知[No.4]37歳養子)　★▲『元文二 丁巳 十二月廿三日 圓阿了頓清信士』[大][名號] ■#7 太田丹□□□□□←丹之進九藏歳知であって、その兄弟か。 12月10日 澹泊斎安積覺兵衛没83歳-1655 光圀の『大日本史』編纂に最大の貢献　ここまでを『大日本史』編纂と水戸学形成の第1期という。この後、1786立原翠軒の総裁着任まで修史事業停滞。1786以降は「尊皇敬幕」を掲げ、藩政改革を標榜する水戸学形成の第2期とな
1738	元文　3	-287	11月1日 幕府、鎌倉で大砲を試射。
1739	元文　4	-286	★12月25日 太田九藏歳知47歳「七石三人ノ扶持ヲ賜テ歩行士ノ列」
1740	元文　5	-285	1月11日 幕府、防火のため32大名に翌年を期限として藩邸を瓦屋根への葺き替えを命じる。
1741	寛保　1	-284	2月27日改元　★11月5日 東條介衛門常房30歳「故アリテ小普請組」　★▲『寛保元年 酉 七月十四日卒 功阿亮智信士』[大] 太田萬次郎20歳 太田九藏歳忠55歳長男 ■#8 寛保二壬戌年七月 天王町 太田万次郎
1742	寛保　2	-283	6月1日 水戸城下下町洪水により轟橋の石垣崩壊。　8月8日 暴風雨により仙波湖が溢れる。
1743	寛保　3	-282	★▲『寛保三 亥 三月廿日 盛春信士 (ウラ)俗名 善之蒸』[小]　★5月20日 東條兵助常長30歳「進物役」
1744	延享　1	-281	2月21日改元　★7月25日 東條介衛門常信59歳「随性院夫人附属ノ添番」　立原翠軒誕生-1823 長じて苦労の後、彰考館総裁。
1745	延享　2	-280	9月25日 8代将軍吉宗退位
1746	延享　3	-279	★東條介衛門常信61歳「六月随性院夫人逝去ニ依テ八月十八日小普請組トナル」
1747	延享　4	-278	★1月29日 東條介衛門常信62歳「岩瀬氏女3男ヲ生ム」長男：介衛門常房 次男：原田幸次郎常泰 3男：兵助常長」
1748	寛延　1	-277	7月12日改元　三宅八三郎富盛誕生(長じて水戸藩に出仕し三宅八三郎家初代となる)
1749	寛延　2	-276	『大日本史』浄写完了　天明6年(1786)まで事業はほぼ中断。その間、史館(彰考館)は存続するも「総裁以下史館員は員に備わるのみ」と。 光圀の頃から財政的破綻状態にある水戸藩は、幕府から藩政改革の命令を受ける。1778に再度。
1750	寛延　3	-275	1月6日 水戸藩、前年の収入減により家臣の給分を徳川宗翰の貯金から支給することを決定。
1751	寶暦　1	-274	6月20日(1951/7/12) 元8代将軍徳川吉宗没　10月27日改元　徳川治保誕生-1805(長じて水戸6代藩主)
1752	寶暦　2	-273	★8月4日 東條兵助常長39歳「進物役世話役格式小十人組」
1753	寶暦　3	-272	★6月13日 東條介衛門常房42歳「歩行士ニ復ス」
1754	寶暦　4	-271	12月5日 水戸藩、水戸城下東照宮内で家臣が槍を持つことを禁止。
1755	寶暦　5	-270	★1月13日 東條介衛門常房44歳「式臺役」　★12月25日 太田九藏歳知「十石四人ノ扶持ヲ賜テ小十人組列トナル」
1756	寶暦　6	-269	3月12日 水戸城門修造が完了し柵町門開通。
1757	寶暦　7	-268	★▲『宝暦七 丁丑 三月廿二日 道晴清信士 (ウラ)文治郎 支』[小] ★10月1日 東條介衛門常房46歳「式壷役世話役」
1758	寶暦　8	-267	★4月4日 東條兵助常長45歳「吟味役ニ還ル」 ★太田九藏歳永[No.6](歳一22歳養子)誕生
1759	寶暦　9	-266	★5月22日 東條介衛門常房48歳「英勝寺方丈附属ノ奥方番トナル」*鎌倉英勝寺に出張 1/3回目* ★▲『宝暦 九卯 九月十四日 恵眼童子』[大] ■#9 天王町 太田九藏子息
1760	寶暦　10	-265	★7月2日 東條介衛門常房49歳「御金請拂ヲ兼ヌ」　*水戸へ戻る*
1761	寶暦　11	-264	10月22日 水戸城下白銀町より出火。五・六・七丁目に延焼。
1762	寶暦　12	-263	★10月24日 東條兵助常長49歳「御勝手御用懸リ 并ニ梅御殿御内證金請拂ヲ兼ヌ」 11月27日 水戸藩江戸小石川邸全焼
1763	寶暦　13	-262	★2月29日 東條介衛門常房52歳「梅御殿奥方番」　6月 立原翠軒20歳 江戸に出て彰考館書写場傭(ヤトイ)に採用さる。 この年、八戸でマグニチュード7程度の地震が3回発生。
1764	明和　1	-261	4月18日 三宅八三郎富盛 水戸藩へ出仕 合力扶持7人分ヲ賜テ小普請組(三宅八三郎家初代となる)(修の高祖母の実家) 6月2日改元　この年 小宮山楓軒誕生-1840 水戸藩農政家/学者 父昌徳と同じく彰考館。 12月27日 水戸城中から出火、屋形・三階櫓等消失。
1765	明和　2	-260	★12月6日 太田九藏歳知73歳「男子ナシ故ニ妻ノ弟高崎氏男九藏歳一29歳ヲ養子トス」 ★▲『明和二 酉 十二月廿日 頓入了證信士 (明和5年の人の夫)』[大]
1766	明和　3	-259	2月14日 徳川宗翰(良公)没39歳1728-/3月25日 徳川治保(ハルモリ) 水戸6代藩主-1805　7月 立原翠軒 水戸彰考館編集に採用。『大日本史』編纂を再開し仏事志の草稿を完成するも総裁らの非協力により1786総裁着任まで停滞。史館は朱子学、翠軒は徂徠学。
1767	明和　4	-258	★2月4日 東條介衛門常房56歳「英勝寺方丈附属ノ御用達」*鎌倉英勝寺に出張 2/3回目*
1768	明和　5	-257	5月 三宅長太夫盛之没(三宅八三郎家初代富盛の父)。父長太夫政弼と共に生駒主殿親興に出仕していた。「子孫は彼家に在り」と。 ★8月29日 東條介衛門常房57歳「役切符ヲ召放タレ扶持ヲ賜テ小普請組」　*水戸へ戻る* ★8月29日 東條兵助常長55歳「役切符ヲ召放タレ扶持ヲ賜テ小普請組」 ★▲『明和五 子 十一月十六日 清心妙浄信女 (明和2年の人の妻)』[大]
1769	明和　6	-256	ナポレオン・ボナパルト誕生-1821　8月 水戸城三階櫓再建着工-翌々明和8年11月完成
1770	明和　7	-255	11月29日 水戸藩領干魃で窮迫により音信・贈答・参会・飲宴を厳禁。　この年、名古屋、東チモールにオーロラが出現。太陽でスーパーフレアが発生した可能性。前回は994。次回は1989。　この年、盛岡でマグニチュード7.4の地震発生。
1771	明和　8	-254	★▲『明和八 辛 十一月十九日 壽阿安久清信士』[名號]&[大] 太田九藏歳知(初名丹之進)[No.4]79歳　■#10 天王町 太田九藏　11月 水戸城三階櫓再建完成　この年、石垣島近くで八重山地震。明和の大津波発生。
1772	安永　1	-253	明和9年★1月13日 太田九藏歳一36歳「養父死シテ金五両三人扶持ヲ賜テ歩行士ノ列」 明和9年★5月18日 東條介衛門常房61歳「切符ヲ賜テ再ヒ英勝寺方丈附属ノ奥方番」*鎌倉英勝寺に出張 3/3回目* 明和9年★5月18日 東條介衛門常長59歳「切符ヲ賜テ小十人組」　この年 田沼意次老中　11月16日改元
1773	安永　2	-252	12月19日 水戸藩の財政窮迫により7年の間、藩士から借上。
1774	安永　3	-251	杉田玄白『解体新書』刊行 挿絵を小田野氏(佐竹氏庶流)　藤田幽谷誕生-1826
1775	安永　4	-250	★6月11日 東條介衛門常長62歳「奥御殿奥方番」　6月 彰考館編集の立原翠軒 手詰まり打開のため総裁の鈴木白泉に弁明の書を送る。
1776	安永　5	-249	★▲『安永五年 甲 五月廿七日 妙光善信女 (ウラ)仁平治妻』[小]　7月4日 米國(まだ13州)が**独立宣言** 於フィラデルフィア
1777	安永　6	-248	★▲『安永六年 酉 三月朔日 道源清信士 (ウラ)勘平 支』[小] ★▲『安永六 酉 三月朔日 道源信士 (ウラ)俗名 勘平』[小]
1778	安永　7	-247	伊豆大島三原山噴火　1749に幕府から「破綻状態の財政を改革すべき」との命を受けた水戸6代藩主治保は増税策の実施で農村を荒廃させ失敗。再度藩政改革の命令を受け、今度は農村復興の直書を下して改革を実施。ところが運悪く天明の飢饉に見舞われる。
1779	安永　8	-246	★8月9日 東條介衛門常房68歳 妻松葉松慶常次女との長男亀之助常可の早世により「樫原善助忠某3男介衛門常壽ヲ養子トス」　桜島噴火
1780	安永　9	-245	★6月3日 東條介衛門常房没69歳 前年「樫原善助忠某三男介衛門常壽ヲ養子トス」　この年、関東大洪水 ★7月24日 東條介衛門常壽「養父(常房)死シテ扶持ヲ賜テ小普請組」
1781	天明　1	-244	安永10年　★3月 東條介衛門常長68歳「國姫君上京ニ扈従シ奉ル」　4月2日改元
1782	天明　2	-243	★▲『天明二 壬寅 正月十四日 如阿宗説信士 太田八之允』[大] 太田歳一(初名八之允)46歳[No.5] ■#11 天王町 太田九藏 ★3月16日 太田藏歳永[No.6]25歳「養父(歳一)死シテ切符三両二人扶持ヲ賜テ細工人トナル」

西暦	元号	年数	EVENT
			★9月12日 東條助三郎常浩暇ヲ賜フ　天明7(1787)年まで天明大飢饉 餓死者多数　この年、相模湾でマグニチュード7程度の小田原地震。
1783	天明 3	-242	1月 立原翠軒 馬廻組 江戸に召されて水戸6代藩主治保の侍読となり『大日本史』編纂再開を建言。治保が採用、天明6年(1786)に再開。 4月9日-7月8日 浅間山噴火10回。溶岩流により幅5km、距離12kmの鬼押出形成。先端部の厚さ50m。水戸藩領も被災。天明の飢饉が重なり水戸藩政が危機的状況。 アイスランドのラキ火山が大噴火。火山ガスから生成されたエアロゾルが成層圏に充満したため地球規模で寒冷化・食糧危機。
1784	天明 4	-241	★▲『天明四年 辰 四月廿四日 初太昂』[大] 志賀島(現 福岡県)の農民が畑中から金印を掘り出す。『韓倭奴國王(カンノワノナノコクオウ)』 西暦57年 光武帝が奴國王に与えたもの。
1785	天明 5	-240	★5月12日 東條兵助常長72歳「致仕シテ一有ト號ス」
1786	天明 6	-239	★太田平太郎(太田氏系圖では千太郎)誕生 (太田九藏歳永29歳長男)　関東大洪水　6月 立原翠軒 彰考館総裁-1803 別に総裁 富田長洲、鈴木白泉がいたが翠軒は6代藩主治保の特命にて『大日本史』編纂を専管、編纂が本格的再開。
1787	天明 7	-238	6月 厚岸にてロシアが通商を求める。　『大日本史』編纂を通じて外夷に敏感な水戸藩の彰考館総裁立原翠軒は治保の推挙で老中に就任した松平定信に外夷が要注意事項である旨の上書を提出。 ★▲『天明七 丁未 年　六月二十九日 妙法清信女 (ウラ)仁平次母』[小]　中山信名 誕生 長じて『新編常陸國誌』編纂。 ★11月19日 東條助三郎常浩「川上八太郎有福弟吉三郎常綱ヲ養子トス」 ★▲12月4日 東條兵助常長(初名千助)(常信3男)没74歳「井上源蔵秀周養女(竹内丈衛門幸成女)ヲ娶テ一男(常浩)ヲ生ム」
1788	天明 8	-237	1月 京都御所炎上　京都水戸藩邸も延焼　★▲1月25日までに東條助三郎常浩没　★1月26日 東條吉三郎常綱「養父(助三郎常浩)死シテ扶持ヲ賜テ小普請組」　★3月9日 東條介衛門常壽「切符ヲ賜テ歩行士トナル」　★3月10日 東條吉三郎常綱「切符ヲ賜テ歩行士」
1789	寛政 1	-236	1月25日改元　★8月21日 東條介衛門常壽改易 故二嗣絶 この年の夏 彰考館総裁立原翠軒『大日本史』の志表廃止を提案。これは事業終了を意味するため小宮山楓軒ほか史館員は反対するも水戸藩は承認。水戸学派論争の端緒となり翠軒失脚の原因となる。 秋頃から立原翠軒は京都の國学者藤井貞幹を通じて朝廷の裏松光世に『大日本史』朝廷献上の斡旋を依頼。裏松は承諾。1810へ フランス革命 発端となった食料不足は、1783のアイスランド ラキ火山大噴火に起因する地球寒冷化によるものとされる。
1790	寛政 2	-235	2月7日 水戸藩、江戸書写場書物方を江戸史館と改称し『大日本史』編纂事業再開。
1791	寛政 3	-234	★2月24日 東條助三郎常浩「江戸水戸搆ヲ免セラル」　★この年 太田九藏歳松誕生[No.7](歳永34歳次男) 彰考館総裁立原翠軒から朝廷の裏松光世に『大日本史』朝廷献上の斡旋を依頼されている藤井貞幹は3月19日付書簡にて詳細打合せのため裏松が上京を要請している旨を伝える。 10月 藤田幽谷18歳の『正名論』成る。水戸学改革のための理論形成の始点となる。水戸の基幹産業で豊かな古着商の男である幽谷は、彰考館総裁となった立原翠軒が非凡な才能を認めて登用した。しかし、最後は対立。
1792	寛政 4	-233	★7月9日 東條吉三郎常綱「小普請組トナル」　ロシア使節ラスクマン来航。立原翠軒の意見により水戸藩は翠軒の弟子 木村賢次と武石民蔵を蝦夷地の調査に派遣。
1793	寛政 5	-232	★8月19日 東條吉三郎常綱没(常陸平氏東條氏絶家) 5月14日(1793年6月22日) 徳川家慶誕生-1853 長じて江戸幕府12代将軍 5月15日 宮本茶村誕生(諱: 元球　別号: 水雲　字: 仲笏　通称: 尚一郎)潮来村年寄宮本平右衛門高重の第三子、次男。1801へ
1794	寛政 6	-231	この頃 中山備前守は家士と共に中手綱(高萩市)へ移り新屋敷は藩が再び武家屋敷とする天保7(1836)年まで陸田となる。
1795	寛政 7	-230	5月26日 徳川治保、ロシアへ漂泊し寛政4年に帰国した大黒屋光太夫・磯七と小石川水戸藩邸で会談。
1796	寛政 8	-229	5月17日 土岐原景成の300回忌供養。　5月 土岐治英夫人 虎姫(1660没)の画像が作られる(東條太田智心院蔵)。 ★12月25日 太田九藏歳永39歳「切符五両」
1797	寛政 9	-228	『東海道名所図会』『伊勢参宮名所図会』出版　10月22日 藤田幽谷『修史始末』を史館総裁翠軒に提出。11月8日 藤田幽谷『丁巳封事』上程で藩主治保を批判した「不敬の罪」により謹慎処分。このとき立原翠軒は藤田幽谷と絶交。　徳川斉脩誕生-1829(長じて水戸8代藩
1798	寛政 10	-227	本居宣長『古事記伝』完成
1799	寛政 11	-226	4月 水戸藩の農村復興本格的に着手。　5月 土岐治頼の画像作られる(沼田高野家所蔵)。　8月 水戸藩 農政改革のため代官を廃止。 10月19日 立原翠軒 久慈郡の訴訟事件に関連して閉門に処せられる。 11月 元彰考館総裁 立原翠軒の一番弟子 小宮山楓軒と、同じく翠軒の弟子 高野昌碩が藩政改革のため郡奉行。楓軒は紅葉村(鹿島郡鉾田町紅葉)に赴任(-1820離任まで)。 12月6日 光圀100年遠忌に『大日本史』紀伝浄写本が光圀の廟に献納。 12月9日 藤田幽谷 彰考館員に再登用。 12月21日 三宅八三郎富盛 切符ヲ賜テ英勝寺方丈付属ノ奥方番 格式小十人組列トナリ合力扶持ヲ返シ納ム
1800	寛政 12	-225	徳川齋昭誕生-1860 (長じて水戸9代藩主)　伊能忠敬 蝦夷地を測量 10月16日 三宅八三郎富盛 皐安院夫人付属ノ奥方番
1801	享和 1	-224	2月5日改元　★▲『享和元年 酉 八月五日卒　圓一貞性善信女』[大] ■#12 寛政十三酉八月 太田九藏(歳永44歳)祖母 11月 元彰考館総裁 立原翠軒の弟子 石川慎齋 水戸藩政改革のため郡奉行 潮来の宮本茶村が9歳にして五言絶句の漢詩を作り、その才能が世に知られる。-1807へ
1802	享和 2	-223	『東海道中膝栗毛』初編出版。弥次郎兵衛・喜多八。　中山信名 塙保己一に入門 『新編常陸國誌』編纂するも未完成で没。 3月 元彰考館総裁 立原翠軒の弟子 岡野蓬原 水戸藩政改革のため郡奉行　11月13日 日記役に転出していた高橋担室 彰考館員に再登用 12月7日 小姓頭 渡辺泰 彰考館に新設された史館総司。総裁の翠軒追い出し策。
1803	享和 3	-222	1月16日 藤田幽谷『大日本史』志表編纂の頭取。高橋担室 志表編纂に伴う紀伝再訂頭取。ここに翠軒の廃史案否定さる。加えて翠軒が完成させたはずの紀伝も訂正されることに決定。幽谷らは光圀の精神に復古したと歓迎。江戸の担室は水館に、尊皇絶対化のため論賛を削除する旨の書簡を送る。 2月4日 立原翠軒に彰考館総裁を辞して致仕すべきの命。これに抗議して翠軒の弟子 櫻井竜淵(リュウエン)、大竹雲夢(ウンボウ)らは連袂して彰考館を辞す。翠軒と幽谷の対立激化。「史館動揺」 翠軒は内憂・外患の危機感を抱き改革のために編纂事業の早期終了と廃史・廃館を進め、対する幽谷は光圀の遺志と言いつつ尊皇絶対化の思想を形成する。この後は藩主治保の支持を得た幽谷派が『大日本史』編纂を継続する。 一方、藩は閑職に就いた翠軒に配慮して1811、翠軒に『垂統大記』の編纂を命じる。 ★小薗井千賀誕生 町醫小薗井有隣三女 長じて太田歳松妻となる
1804	文化 1	-221	2月11日改元　ロシア使節レザノフ長崎に来港。
1805	文化 2	-220	11月1日 徳川治保没55歳1751-/12月10日 徳川治紀 水戸7代藩主-1816　豊田彦次郎(松岡)誕生-1868 長じて彰考館総裁
1806	文化 3	-219	3月16日 藤田東湖 水戸に生まれる(水戸市梅香1丁目)。
1807	文化 4	-218	8月 藤田幽谷(東湖父)・高橋担室 彰考館総裁　この年 小宮山楓軒『水府志料』を編纂。 または明年、潮来の宮本茶村15-16歳、兄篁村と共に江戸に遊学、朱子学・儒学・漢学等折衷学派の山本北山に師事。1812へ
1808	文化 5	-217	間宮林蔵が樺太を探検して間宮海峡を発見。 藤田幽谷 浜田郡(水戸市元石川)の郡奉行となる(-1812まで)。農村復興は失敗。離任時の意見書で大吟味役に責任転嫁。
1809	文化 6	-216	★『石神組御用留第七分冊』(茨城大学図書館蔵) 下記「九藏」は太田氏6代目歳永52歳 589 太田九蔵書状「御用寒水石を大森・真弓二村にて調達すべきこと」 590-2 太田九蔵覚書「寒水石二村の寸法につき郡奉行所へ通知のこと」 中山信名 幕臣中山有林養子となる。　藤田幽谷 vs 立原翠軒の対立で翠軒が失脚した後、論賛を削除した『大日本史稿』を幕府に献上。書名につき朝廷から「"大日本" と号して可」との勅許。
1810	文化 7	-215	『大日本史』を朝廷に献納。1789より
1811	文化 8	-214	3月 立原翠軒『垂統大記』の編纂を藩から命じられる。これは家康とその臣下の伝記であり1839に小宮山楓軒により完成される。しかるに翠軒派は佐幕的傾向を強める。
1812	文化 9	-213	★▲『文化九 申星　六月十日 往詣 紫阿其雲信士位　太田千太郎』[大]27歳(太田九藏歳永55歳長男)　藤田幽谷 浜田郡の郡奉行を退任。対立する立原翠軒派の農政改革が成功したため、その後反省。 宮本茶村20歳、師山本北山61歳の死で潮来へ戻り家業を再興。私塾「恥不若」を開く。-1830へ
1813	文化 10	-212	閏11月2日 夜、水戸領向山常福寺焼失。

西暦	元号	年数	EVENT
1814	文化 11	-211	9月21日 三宅八三郎富盛没67歳(水戸藩の三宅八三郎家初代。寛政11年(1799)鎌倉英勝寺へ出張した。)
1815	文化 12	-210	杉田玄白『蘭学事始』を著わす。
1816	文化 13	-209	★▲『文化十三年 子 八月十五日 寂阿静月信士 位』[大]太田九藏寅之允歳永[No.6]59歳 8月19日 徳川治紀没44歳1773-(武公)/9月28日 徳川斉脩(ナリノブ) 水戸8代藩主-1829 ★8月 太田九藏歳松26歳[No.7]「兄(千太郎)死スルヲ以テ歳永[No.6]嫡子トナル」 ★10月18日太田九藏歳松26歳「父(歳永)死シテ切符ヲ賜テ細工人トナル」
1817	文化 14	-208	8月4日 西山恵日庵火災。1716から安置されていた太田九藏一有作、道服姿の義公塑像も消失。1834へ ★▲『文化十四年 丁丑 十月朔日 法一貞眼信女 歳永妻』[大] 太田九藏寅之允歳永妻
1818	文政 1	-207	4月22日改元 金澤山稱名寺の山門(仁王門)再建。仁王様は元の佛師院興による(1323)。6-7月 水戸藩内で対立する立原翠軒派と藤田幽谷派が協力して保守門閥派に対抗。立原派郡奉行の酒井喜昌と、藤田派郡奉行の川瀬教徳は共に執政と争い左遷。1820へ
1819	文政 2	-206	★▲『文政二 己卯 年 正月二十八日 恵眼明道信士 (ウラ)俗名 仁平次事』[小]
1820	文政 3	-205	★この頃 太田藏吉歳就誕生[No.8]誕生-1867 父九藏歳松30歳/母千賀18歳 小薗井有隣女 6月19日 水戸藩保守門閥派に対しては協力して対抗する立原翠軒派と藤田幽谷派の郡奉行7人全員が左遷され、ここに水戸藩の藩政改革は挫折。
1821	文政 4	-204	伊能忠敬の実測圖成る。 ナポレオン・ボナパルト没1769-
1822	文政 5	-203	カンカン躍りが諸国に流行し江戸・水戸でも盛行。
1823	文政 6	-202	立原翠軒没80歳1744- 彰考館総裁
1824	文政 7	-201	夏、水戸藩領大津浜に英人捕鯨船員12名上陸。藩吏により拘束。藤田東湖、これを殺害せんと向かうが釈放後。 4月8日(1824/5/6) 徳川家定誕生 長じて江戸幕府13代将軍 10月17日 関鉄之介誕生 十石三人扶持関新兵衛長男として水戸城下馬口労町片町。
1825	文政 8	-200	外國船打払令 3月 會澤正志齋『新論』を著わす。これが幕末尊攘派のバイブルとなる。 色川三中 家督を相続、醤油問屋を経営。土浦の学者。天保7(1836)年『常総遺文』、『続常陸遺文』、『下総文書』編纂。『新編常陸國誌』の修訂。 水戸8代藩主徳川斉脩が桂村高久(東茨城郡城里町高久)鹿嶋神社の悪路王頭形を修理させる。元禄6年(1693)には太田一有が修理
1826	文政 9	-199	11月1日 藤田幽谷(東湖父)没53歳1774-
1827	文政 10	-198	11月19日 小林一茶没
1828	文政 11	-197	水戸8代藩主徳川斉脩の継嗣問題表面化
1829	文政 12	-196	10月4日 徳川斉脩没33歳1797-(哀公) 12月 齋昭30歳(斉脩弟) 水戸9代藩主-1860 藤田東湖24歳と杉山復堂が香取・鹿島神社に詣で、潮来の宮本茶村37歳宅に宿泊。1830へ
1830	天保 1	-195	この年 大久保一藏(利通)薩摩に誕生-1878 吉田松陰 長州藩下級武士 杉百合助常道次男として誕生。幼少期に山鹿流軍学師範吉田賢良の養子となる。 宮本茶村38歳。徳川齋昭に海防と教学の必要性を上書。 12月 徳川齋昭31歳 藩政改革着手。自分を藩主に擁立した者や下士を抜擢して改革を強行したため保守門閥派と対立する。 12月4日付 川瀬七郎右衛門宛の藤田東湖書状に「井の跡ハ原に致度候所」とあり、現勘定奉行の酒井市之允を更迭し原田兵介にすることを意味するらしい(『尊攘聚英解説』)。★1723-1725の間、当家は原田兵介家と親戚。 米國ではジャクソン大統領がインディアン諸部族をミシシッピー川以西のインディアンテリトリーへ強制移住。 12月10日改元
1831	天保 2	-194	4月6日 徳川齋昭32歳、有栖川織仁親王女登美宮を娶る。
1832	天保 3	-193	有村俊斎(後 海江田信義)誕生-1906 長じて3兄弟とも薩摩藩士にあって幕末の志士。水戸の三田に師事し生麦事件にも関与、江戸城無血開城後の城受け取り責任者。二人の弟(有村雄助/治左衛門)は櫻田門外ノ変に参加して自刃。(水戸の三田=藤田東湖+戸田蓬軒(銀治郎忠敞)+原田兵介)(『海江田信義の幕末維新』(東郷尚武著)) 藤田東湖が水戸9代藩主徳川齋昭の側用人となる。 徳川慶篤誕生-1868(長じて水戸10代藩主) 鼠小僧次郎吉36歳処刑 宮本茶村40歳、徳川齋昭33歳の推挙で水戸藩郷士列となる。1833へ 江戸に高嶋嘉右衛門誕生。明治初期に横濱の発展に寄与。高島町は嘉右衛門から命名。高嶋易断創始者。1859へ
1833	天保 4	-192	1839まで天保の飢饉 旧暦4, 5月の東北地方は異常な暑さ、旧暦6月の長雨で冷夏、旧暦8月末には霜が降る。 徳川齋昭34歳、領内巡見のおり、潮来の宮本茶村41歳宅に立ち寄る。茶村は飢饉対策として義倉の設置を上書。1836へ 9月18日、徳川齋昭が桂村高久(茨城県東茨城郡城里町高久)鹿嶋神社の悪路王頭形を修理させる。修理担当者不明。
1834	天保 5	-191	★▲『天保五 甲午 年 正月廿四日 梅弐妙薫信女』[大] ■#13 廿七日 天王町 太田九藏叔母(この九藏は歳松44歳) この年、徳川齋昭35歳は久昌寺所蔵の義公(徳川光圀)假面を原型として道服姿の義公塑像を細工人に再造させる。これは、元禄13年(1700)以前に太田九蔵一有が制作し、文化14年(1817)に焼失した塑像を「後舊の如く」復元したもの。
1835	天保 6	-190	★▲『天保六 乙未 年 五月十八日没 其山妙榮信女霊位 (ウラ)俗名 於芳事』[小] 天保通寶新鋳 この年、坂本龍馬誕生-1867 同年、土方歳三誕生-1869 11月4日(旧9月14日)栗田寛誕生-1899 於水戸 長じて彰考館編修/『大日本史』の志表編纂。
1836	天保 7	-189	★▲『天保七 丙申 年 九月二十六日入 盛秋妙教信女霊位 (ウラ)青柳村 惣次郎母』[小] 9月10日 中山備前守が1666に武家屋敷地として開拓し転居で1794頃から陸田となっていた嘗ての新屋敷に齋昭37歳が再度屋敷割り。藩政改革の一環として江戸住み藩士を移すため。梅、松、楓(当初紅葉)、柳、花、櫻、桃、桐、柏、常磐の10小路。 ★この後1839までの間に太田九藏歳松46歳、妻千賀44歳、藏吉歳就13歳(くらい)、および藏吉の姉も天王町から花小路へ転居。花小路には84年間在住。 米國ではアラモ砦の戦い。メキシコ領地テキサスのアラモ砦に立て籠もるデビー・クロケット等182人をメキシコ大統領サンタ・アナ率いる3000人が攻撃。全滅させる。しかし米國人開拓者によりテキサスはメキシコから独立。その後、1845にテキサスは米國に併合。 天保の飢饉最悪期を迎え、宮本茶村44歳は義倉を開き、さらに私財を投じて窮民の救済に当たる。1841へ
1837	天保 8	-188	徳川慶喜誕生-1913 於 江戸小石川藩邸 齋昭38歳7男 大阪で大塩平八郎の乱 吉田松陰8歳 長州藩校明倫館に入学。
1838	天保 9	-187	天保の改革 1830-1843 この冬、米國ではチェロキー族15000人をオクラホマへ強制移住。移送中、寒さで死者4000人。
1839	天保 10	-186	★▲『天保十亥年 九月廿一(二)日 昂阿西心信士 霊 九藏歳松』[大][No.7]49歳■#14 九月廿二日 新屋浦(新屋敷)花小路 太田九藏 ★▲『天保十 亥 九月廿六日 寶室我浄信士位 俗名 小薗井有隣』[小] (町醫)(歳就20歳(くらい)義父) ★12月4日 太田内藏吉歳就[No.8]20歳(くらい)「父(歳松)死シテ切符ヲ賜テ細工人トナル」 吉田松陰10歳 長州藩校明倫館で教授見習いとして講義を行なう。この後、江戸に遊学し兵学、國学、朱子学、陽明学を学び、佐久間象山から西洋兵学を学ぶ。その後、密航失敗で自首、投獄／出獄後に松下村塾で講義。
1840	天保 11	-185	小宮山楓軒没1764- 水戸藩にて藤田東湖らの藩政改革派と対立、1838致仕。楓軒の孫が『南梁年録』の小宮山南梁。 この年 戸田銀治郎忠敞執政。結城寅寿、武田彦九郎参政。 アヘン戦争勃発。清國がイギリスから輸入していたアヘンを規制したことからイギリスが攻撃。
1841	天保 12	-184	閏1月から1845年9月まで水野忠邦が幕府指導者 3月 徳川齋昭42歳 大砲を鋳造 8月 水戸城三の丸に藩校として弘道館仮開館。徳川齋昭の発意に基づき藤田東湖・會澤正志斎の意見を採用したもの。 弘道館落成式に於いて、宮本茶村49歳が梅花の詩を作る。1843へ 伊藤博文、周防國(山口県萩市)で百姓林十蔵・琴子の長男として誕生。長じて維新政府初代総理大臣。
1842	天保 13	-183	3月 水戸藩では門閥派の結城寅寿執政。 アヘン戦争で清國が英國に惨敗。南京条約により香港をイギリスに割譲。 ★この年 太田藏吉歳就23歳(くらい)「留付列トナル」 ★齋昭から家紋と大小を賜わったのはこのときか。 この年 藤田小四郎信誕生-1865 藤田東湖男 この年 水戸偕楽園 齋昭が「衆と偕(トモ)に楽しむ場」として開園。梅は軍用食料の梅干しの材料。
1843	天保 14	-182	豊田彦次郎、徳川齋昭44歳から「國史志表編集頭取」職を任ぜられる。 徳川齋昭が篤学と天保の改革を賞して宮本茶村51歳を水戸藩郷士に抜擢。1844へ (1687より)水戸城下天王町の牛頭天王社が齋昭により上河内村に移され、ここは素鵞神社となる。天王町の町名は変更なし。
1844	弘化 1	-181	天保15年5月6日 徳川齋昭45歳、幕府から「驕慢」を理由に致仕・謹慎処分。長男慶篤14歳が水戸10代藩主。齋昭は駒込別邸に蟄居。宮本茶村52歳は江戸に出て斉藤監物、住谷寅之介、高橋太一郎、吉成信貞・恒次郎父子ほかの水戸藩士や多数の義民と共に齋昭の雪冤運動を展開。1845へ 11月26日 徳川齋昭の謹慎は解除されるも藩政参与を嘉永2年(1849)まで禁止されたため保守・門閥派の結城寅壽一派が台頭。 沖田総司誕生-1868 天然理心流。結核を病むが新撰組一番隊隊長。 12月2日改元
1845	弘化 2	-180	「疱瘡守神富岡山芋大明神への道 是より行程三里」の道しるべ保土ヶ谷宿、金澤道分岐点に設置。寺は寛永年中。

西暦	元号	年数	EVENT
			9月から1857年6月まで阿部正弘が幕府指導者　米國では1836にメキシコから独立したテキサスを米國に併合。 宮本茶村53歳、前年の徳川齋昭雪冤運動を幕府から罰せられ、義民と共に水戸赤沼牢へ幽囚。1847へ
1846	弘化　3	-179	浦賀へ黒船初回来航 軍艦コロンバス、ヴインセンズの2隻にてビッドル提督 老中阿部正弘より「通商の意志なし」の回答を得て去る。 4月24日 米國ではテキサス奪還を目的にメキシコ軍がリオグランデ川を越え5月13日米墨戦争開始。米国がメキシコに勝利しカリフォルニアを得ると対日政策に本腰を入れる。ビッドルの軟弱な外交姿勢に批判が集中。 閏5月24日(1846/7/17) 徳川家茂(初め慶福)誕生-1866 長じて江戸幕府14代将軍
1847	弘化　4	-178	徳川慶喜11歳 一橋家相続。慶喜は齋昭の方針により、誕生7ヶ月からこの年まで水戸で養育。　**3月28日 土岐胤倫の百五十回忌供養** 9月13日 米國ではペリー提督率いる海軍がメキシコのベラクルス港を占領し米墨戦争に勝利。前々年併合のテキサスに加えカリフォルニアが米國領となる。 宮本茶村55歳、水戸赤沼牢から出獄し、命ぜられた蟄居のため水戸から潮来まで歩いて帰る(普通は出獄直後には歩けぬため籃輿に乗るが、茶村は1日に1万歩獄中を歩いて足腰を鍛えていた。)。1849へ　この年、善光寺地震。
1848	嘉永　1	-177	2月28日改元　5月7日 米国人、松前に漂着し幕府が長崎へ護送。　6月2日 米国人、利尻島へ漂着し幕府が長崎へ護送。
1849	嘉永　2	-176	3月13日 徳川齋昭、水戸藩政参与復帰。藩主慶篤に対する三連枝後見の廃止。　11月 曾澤正志斎、宮本茶村57歳らの蟄居解除。茶村は以後、号を水雲と改め著述に専念。1851へ　この年、永島家9代 泥巣が泥亀新田を完成(横浜市金沢区)。 **★▲『嘉永二年 己酉 五月廿四日 深一善念妙諦信女位 歳松娘』[大] ■#15 新屋敷 花小路 大田倉吉姉(正しくは太田藏吉姉)**
1850	嘉永　3	-175	11月 井伊直弼32歳 彦根藩主襲封。直弼は長野義言(ヨシトキ)(主膳)を異常に敬慕し、安政の大獄～櫻田門外ノ変へ進む。
1851	嘉永　4	-174	長州吉田松陰が水戸の学者を訪れる。 宮本茶村59歳、『関城繹史』脱稿。(元)水戸9代藩主徳川齋昭に進上。1852へ **11月付の英勝寺絵図には、表門、山門、鐘楼、仏殿、祠堂、唐門等の伽藍に加えて水戸から迎えた住持の住まいである御殿、下御殿、そして用達、代官、物見、役所、長屋等の役人の仕事場や住まいが見える。英勝寺は同じ尼寺である東慶寺とは異なって一般に公開されず、その佇まいから「水戸家御殿」とも称された。-1853へ**
1852	嘉永　5	-173	徳川齋昭が保守・門閥派の結城一派を全員罷免。　長州吉田松陰22歳が潮来の宮本水雲(茶村)60歳宅に来訪・止宿。1857へ 11月 ペリー提督(1794-1858)はサスケハナ、ミシシッピー、サラトガ、プリマスの4隻にて米國バージニア州ノーフォークを出航。まず香港へ。
1853	嘉永　6	-172	4月 ペリー艦隊は香港到着　5月 沖縄に寄港。小笠原で一仕事後、沖縄に戻る。　6月3日(西暦7月8日) 浦賀沖へ到着(黒船来航2回目)。「泰平の眠りを覚ます上喜撰(蒸気船)たった四杯で夜も眠れず」。　6月9日 米國フィルモア大統領の國書を浦賀奉行が受け取る。ペリーは来年再来航する旨を通告し6月12日に一旦退去。　6月22日(1853/7/27) 江戸幕府12代将軍 徳川家慶没　この年、小田原地震　徳川昭武誕生-1910(長じて水戸11代藩主) クリミア戦争勃発 南下政策のロシアがトルコに開戦。対してイギリス、フランスがトルコと同盟してロシアに宣戦布告。 **鎌倉英勝寺 6代住持清吟尼入寂。以降、水戸家からの住持が絶え、代わって徳川家が英勝寺を支援するも次第に衰退。1889へ**
1854	安政　1	-171	嘉永7年1月16日(西暦2月23日) ペリー艦隊今度は7隻(ｻｽｹﾊﾅ、ﾐｼｼｯﾋﾟｰ、ﾎﾟｰﾊﾀﾝ、ﾚｷｼﾝﾄﾝ、ﾏｾﾄﾞﾆｱﾝ、ｳﾞｧﾝﾀﾞﾘｱ、ｻｻﾞﾝﾌﾟﾄﾝ)で再来。 15:00頃、江戸湾金澤沖へ錨泊。江戸幕府は3月3日、**日米和親条約**を締結。幕府に下田、函館の開港を約束させた。　11月27日改元 この年、伊賀上野地震。安政東海地震。安政南海地震。
1855	安政　2	-170	6月 日下部伊三治 水戸藩郷士列となり益習館世話役 10月2日22:00頃 **安政の大地震**　小石川水戸藩邸御長屋にて藤田東湖は老母と屋外へ一旦逃げるも母が火鉢の火を心配して戻り、崩れてきた鴨居を東湖が支え母は避難。東湖は力尽きて圧死。この地震で戸田銀治郎忠敞も没。水戸改革派重鎮2名を一挙に失う。　徳川篤敬誕生-1898(長じて12代水戸徳川家当主) 10月 阿部正弘は彦根藩主井伊直弼の提案を受け佐倉藩主堀田正睦に老中首座を移譲し自らは老中としてこれを補佐する体制。川路聖謨、岩瀬忠震、水野忠徳等、幕府外國貿易取調掛となる。 12月 越前藩士橋本左内 江戸藩邸に在り水戸藩士**原田兵介**・薩摩藩士西郷隆盛・幕府代官林伊太郎らと時事を談ず。
1856	安政　3	-169	4月25日 齋昭57歳 元家老結城虎寿を死罪、側医**十河祐元**を斬罪に処す。結城寅寿が徳川慶篤を暗殺し高松藩主松平頼胤を水戸藩主にする計画が露見したもの。齋昭ら藩政改革派と、保守門閥派の対立激化。　この年 豊田彦次郎松岡 彰考館総裁 5月4日付 鹿児島の大山正円宛て西郷隆盛書状に「一橋候を西上へ引上られ候賦に相決し･･･」とある。(「候賦に相決し」は、水戸の武田耕雲斎・桑原信毅・**原田兵介**・安島帯刀等と密談をして決定したという意味)　7月21日 米國総領事ハリスが下田に来航し8月5日玉泉寺に領事館を設置。　この年、安政の八戸沖地震。
1857	安政　4	-168	5月 弘道館本開館式　6月 幕府主席老中阿部正弘39歳没(神経性胃炎らしい) 1858年4月まで堀田正睦が後任として幕府指導者 伊藤博文、松下村塾に入り吉田松陰に学ぶ。以後、桂小五郎、高杉晋作、井上馨、山縣有朋らと討幕運動。 宮本茶村65歳、『関城繹史』を含む『常陸誌料』35巻脱稿。1859へ　米國マンハッタン島のセントラルパーク、この年に造営開始。
1858	安政　5	-167	1月5日 堀田正睦 日米修好通商条約勅許を求めて京へ赴くが、朝廷の頑強な反対で成らず。 4月23日 **井伊直弼大老**に就任。1860年3月3日(櫻田門外の変)まで幕府を主導。水戸徳川家と井伊家の親密な交際は直弼の代で険悪化。 6月17日 15日に軍艦「ポーハタン号」で下田に入港したハリスが小柴(横浜市金沢区)沖まで進出して幕府を威嚇。同時に書簡を堀田正睦に送り清國が英仏連合軍に敗れた経緯を伝えて開港を迫る。これが、翌々日の条約調印の決定的要因らしい。 6月19日(1859/7/29) ハリス/江戸幕府 **日米修好通商条約**締結。井伊直弼が勅諚を得ぬまま調印。 6月24日 松平慶永(春嶽)が井伊邸で条約無断調印の件を面詰。次いで水戸藩主徳川慶篤27歳、一橋慶喜、尾張藩主徳川慶恕(ヨシクミ)35歳が登城日の規約を無視して江戸城へ乗り込み井伊を問責す。 6月25日 幕府、紀州の徳川慶福(7月21日に家茂に改名)を将軍継嗣とする旨、諸大名に正式発表。 6月 長崎でコレラ発生。この月以降、江戸を含む全國に大流行。長崎来港ミシシッピー号乗組員から伝染。コロリと呼ばれた。 7月5日 登城日の規約違反として齋昭59歳 再謹慎。一橋慶喜は登城停止。　7月6日 コレラに感染して将軍徳川家定没 7月10日 日蘭修交通商条約調印　7月11日 日露修好通商条約調印 7月16日 島津斉彬没50歳。側近の西郷隆盛32歳が殉死を決意するが清水寺成就院住職、勤王の僧月照が思いとどまらせる。茂久が藩主/その父久光が後見役。久光は過激な運動に慎重。　7月18日 日英修好通商条約調印　7月11日 日露修好通商条約調印 8月8日 幕府と水戸藩に攘夷実行の勅諚下る『**戊午の密勅**』。孝明天皇が、日米修好通商条約の無断調印と徳川齋昭らの処罰を非難した勅諚で、幕府を介さず水戸藩に直接下賜したため直弼が激怒し『安政の大獄』に発展する。齋昭ら一橋派に同調した尊攘派の西郷隆盛、梅田雲浜らが公家を通じて孝明天皇に勅諚を出させたもの。水戸藩ではこの扱いをめぐって尊攘派が激派と鎮派に分裂。 8月末日 幕府、水戸藩執政岡田徳至、大場一眞齋、武田耕雲齋正生らに藩政からの退隠を命ず。 9月3日 日仏修好通商条約調印　9月6日 初代歌川(安藤)廣重没62歳「東海道五十三次」「名所江戸百景」 **安政の大獄**始まる。9月7日 京都で尊攘運動中の元小浜藩士 梅田雲浜44歳逮捕。9月18日 戊午の密勅の演出役水戸藩士鵜飼吉左衛門61歳・幸吉31歳父子、京都町奉行所に逮捕。9月27日 鵜飼父子と共謀した日下部伊三治45歳(薩摩藩士となっていた)江戸で捕縛。 下総國布川の赤松宗旦『利根川図史』刊行。戦國末期の江戸崎・龍ヶ崎土岐氏と姻戚関係ある足高城主家臣 栗林義長伝あり。 10月22日 19:00過ぎ、越前藩江戸屋敷に江戸町奉行所から10人以上が乗り込み、次期将軍への一橋慶喜擁立を策動した疑いで邸内にある橋本左内の役宅捜索を申し入れる。対応した目付の時間稼ぎで証拠書類を左内宅から運び出し完了。 10月23日 町奉行所に出頭した橋本左内逮捕。越前藩預かりのうえ謹慎。翌1859年10月7日死罪。 10月25日 徳川家茂14代将軍　この月になってコレラの流行がやや下火。 11月16日 安政の大獄で京都から逃亡した西郷隆盛、斉彬没後の薩摩藩に帰藩を拒まれ月照と入水自殺。西郷のみ蘇生し、翌1859年1月、藩命で奄美大島に潜伏する。島の娘 愛加那(本名 於戸間金)と一男一女を設ける。西郷33歳、愛加那23歳。 12月5日 長州藩が元藩士吉田松陰29歳を萩の野山獄に投獄。老中間部詮勝襲撃を企てた疑い。翌年5月25日、幕命で江戸へ護送。 12月末日 孝明天皇 間部詮勝の強硬な要求で通商条約締結の勅許を出す。　この年、立山の飛越地震。
1859	安政　6	-166	1月10日 左大臣 近衛忠熙52歳、右大臣 鷹司輔熙53歳、辞職して落飾(出家)する旨を天皇に奏請。これは、反幕密謀(日米修好条約調印反対、および慶喜擁立)を企てたとする井伊直弼率いる幕府からの圧力による。 同日、前関白 鷹司正通71歳、前内大臣 三條實方(サネツム)58歳も落飾を奏請す。 1月13日 幕府が神奈川、長崎、箱館三開港場への移住、出稼ぎ、および自由取引の許可を発表。 4月19日 幕府、野山獄に就牢中の吉田松陰を江戸に送致するよう長州藩に命ずる。

西暦	元号	年数	EVENT
			4月26日 水戸藩家老安島帯刀48歳、水戸藩士茅根伊予之介36歳ら、評定所に召喚。 5月26日 イギリス駐日総領事ラザフォード・オールコック50歳、品川沖に来航。 5月27日 江戸幕府 外國奉行水野忠徳45歳らがオールコックの艦を訪問しヴィクトリア女王の親書を受理。 5月 水戸尊攘派 小金に屯集　幕府、井伊大老により登用された老中太田資始を7月に罷免、間部銓勝を12月に罷免。水戸藩への処分を寛大にしようとして大老と対立した結果。 6月2日(1859/7/1) 幕府、**横濱開港**。横濱、長崎、箱館での自由貿易を正式に許可。 6月5日 幕府、横濱の外國人居留地を定め、外國人の遊歩区域を周辺10里以内と定める。 7月6日 文政12年12月に國外追放となったドイツ人医師シーボルト63歳、長男アレキサンダー12歳を伴い再度長崎に来港。 7月9日 江戸に送致された吉田松陰、小伝馬町の牢屋敷に収監。 7月26日 大風雨で利根川、荒川が各地で氾濫、関東一円大洪水。 7月27日 横濱でロシア軍艦の見習士官ら3名が攘夷派により殺傷さる(最初の外國人殺傷事件)。8月22日に艦長が外國奉行に厳重抗議。犯人不明のまま幕府の謝罪、神奈川奉行の罷免、そして被害者の墓所建立で妥結。 8月23日 イギリスの「死の商人」トーマス・グラバー21歳、長崎に来航。本拠を上海から長崎に移しグラバー商会を設立、薩長土肥の勤王諸藩に武器を売り込む。一方、坂本龍馬ら維新の志士を支援。 8月27日 幕府、一橋慶喜を隠居・謹慎、前水戸藩主徳川齋昭を國元永蟄居、元藩主徳川慶篤28歳を差控に処す。一橋派の粛正推進。 8月27日 幕府、水戸藩士を断罪。安達帯刀切腹。鵜飼吉左衛門62歳・幸吉32歳父子を死罪。 9月13日 前年捕縛された梅田雲浜45歳、幽閉中の江戸小倉藩邸で病死。 10月7日 幕府、越前藩士橋本左内26歳、元土佐藩士飯泉喜内55歳、尊攘派志士頼三樹三郎35歳(頼山陽3男)に死罪。ほか多数の逮捕者に遠島、追放等の処分を申し渡す。 10月11日 一橋派の前土佐藩主山内容堂33歳、幕府に謹慎を命ぜられる。文久2年4月まで江戸品川鮫津の土佐藩別邸に蟄居。 10月27日 幕府、拘留中の元長州藩士吉田松陰に死罪、ほか多数の逮捕者に遠島、追放、および押込等の処分を言い渡す。 11月5日 薩摩藩主島津茂久20歳、精忠組を結成した大久保利通30歳、海江田信義28歳らに脱藩および挙兵計画の短慮を諭し再考を促す書簡を手渡す。これを受けて大久保らは思いとどまる。 11月8日 藩命で奄美大島に潜伏中の薩摩藩士西郷隆盛は島の名門竜家の娘、愛加那と結婚。 12月16日 大老井伊直弼45歳が若年寄安藤信正(信睦(ﾉﾌﾞﾕｷ))41歳を通じ勅諚返納を水戸藩に厳命。対して水戸藩尊攘派の反発が激化。返納に反対する水戸藩士、郷士、神官、郷医、農民ら数百人が長岡駅(茨城町)に屯集(これを長岡勢と称す)。 12月29日 水戸藩家老が安藤信正邸を訪れ、藩内過激派数百人の騒擾を報じて勅諚返納の猶予を嘆願。安藤は拒絶。 宮本茶村67歳、『常陸國郡郷考』12巻脱稿。1860へ　1832より 江戸の材木商 高嶋嘉右衛門が横濱へ拠点を移す。日本初のガス工場建設。ガス灯設置。新橋-横濱間の鉄道開業に尽力。鉄道のために埋め立てた地域が高島町と名づけられる。
1860	萬延　1	-165	咸臨丸 米國への渡航に成功。(咸臨丸は朝陽と共に@$10万でｵﾗﾝﾀﾞから購入) 安政7年2月18日 長岡勢が水戸城下消魂(ﾀﾏｹﾞ)橋付近で藩兵と衝突。　2月20日 長岡勢解散(分散) 安政7年3月3日 **櫻田門外の変** 井伊直弼 水戸脱藩士17名、薩摩脱藩士1名により暗殺さる。　3月18日改元 この後、幕府は2名の老中 久世広周・安藤信正政権となる。この両名は一橋派と対立関係にあった。櫻田事変の反省から公武合体策をとり、孝明天皇妹和宮の将軍家茂への降嫁を画策。4月に開始、岩倉具視の推奨が孝明天皇を動かし10月に勅許。 櫻田事変に刺激された水戸藩尊攘同志が川和田村(水戸市内)に参集、大貫村(大洗町)へ移動(大貫勢)。 閏3月 水戸藩大貫勢 勅書返納に反対する旨の陳情書を水戸藩庁へ提出し島田村(常澄村)に参集(島田勢)。 **★▲『萬延元 庚申 年　四月八日 進弐貞壽信女 小薗井有隣三省女 歳松妻 ([小のｳﾗ]太田歳就母 俗名 千賀 年五十八才 神□□□)』[小][大] ■#16 新谷敷花小路 大田藏吉母(正しくは「新屋敷花小路 太田藏吉母」)** 8月15日 徳川齋昭(烈公)没61歳1800-　齋昭は「結城一派(市川三左衛門弘美を含む)を二度と登用せぬよう」遺書を残す。しかし… 大貫勢・島田勢を含む旧長岡勢は齋昭没により江戸へ向かうが江戸の藩役人に阻止され新宿(ﾆｲｼﾞｭｸ)(葛飾区)へ集合。意見の不一致からここで2派に分裂。 8月26日 水戸10代藩主徳川慶篤が水戸へ向かう。これに分裂した長岡勢の大津之綱ら多数派が随行。他の一派林以徳ら37人は三田の薩摩藩邸へ入る。齋昭亡き後、薩摩藩が攘夷を決行するときには先鋒の任を務めたい旨の嘆願書を提出。 3月末から登城停止処分中の水戸藩主慶篤、11月14日に処分解除されるが藩内激派への刺激を考慮して登城せず。 11月19日 幕府は激派が心服している元執政岡田徳至、大場一眞齋、武田耕雲齋正生らの水戸藩政への参画を決定。 11月24日 慶篤登城するとともに3名に水戸藩政への参与を命令。　**12月付『水戸藩御規式帳』に「水戸奥方番 三宅八三郎」** 宮本茶村68歳、『関城繹史』・『常陸國郡郷考』を発刊。1862へ
1861	文久　1	-164	1月 米公使館付書記官ヒュースケン 麻布中の橋で暗殺さる。　2月19日改元 **★8月某日 太田藏吉歳就42歳(くらい)へ新屋敷楓小路 三宅八三郎五女きむ28歳入籍。花小路の太田家から三宅家は僅か数軒先。藏吉は齋昭に取り立てられたので改革派寄りにあっただろう。** 7月 高輪東禅寺の英公使館、水戸藩士に襲撃される。 11月15日 皇女和宮16歳 江戸へ到着。 米國では**南北戦争**勃発-1865
1862	文久　2	-163	1月 **坂下門外の変** 安藤信正襲撃さる(水戸、宇都宮浪士合計6名の犯行)(櫻田門外の変以降 警護が厳重になり軽傷で済むが失脚) 4月23日 **寺田屋事件**(薩摩藩内紛) 薩摩藩主の父島津光久は有馬新七尊攘急進派が幕府側の公家を襲撃するため終結していた寺田屋へ奈良原喜八郎らを送り鎮撫させたが斬り合いに発展。尊攘派6人、藩主側1人が死亡。 この後、久光の意を汲んで公武合体に藩論統一。孝明天皇は久光を評価。久光の要請を受けて「一橋慶喜に将軍を補佐させ松平慶永(春嶽)を大老とすべし」の勅を大原重徳を勅使として江戸への派遣決定。久光ら薩摩藩が護衛して6月末に江戸へ到着。慶喜26歳は将軍後見職、慶永は大老と同格の政治総裁職となる。 6月25日 宮本茶村(諱: 元球　別号: 水雲　字: 仲笏　通称: 尚一郎)没70歳 於潮来村。葬列千余人と。 編纂・著作は『関城繹史』、『諸族譜』、『常陸長歴』、『常陸國郡郷考』を含む『常陸誌料』、さらに漢詩500首以上。 儒学者、歴史家、考証学者、漢学者、漢詩人。水戸藩郷士として「天保の改革」に尽力すると共に「天保の飢饉」に際しては義倉を開き、さらに私財を投じて窮民を救う。1907へ　この年 米國西部では白人とアパッチ族との戦争が始まる。1886へ 8月21日 14:00頃 **生麦事件** 江戸から帰京途中の島津久光一行の犯行。　皇女和宮17歳 14代将軍家茂に降嫁。 12月 朝廷内の反幕派で尊攘急進派の三條實美(ｻﾈﾄﾐ)が國事御用係に任命され朝廷は攘夷論が高まり将軍家茂に上洛を求める。
1863	文久　3	-162	1月 長州藩士 高杉晋作、伊藤博文、井上馨ら、御殿山に建築中の**英國公使館焼討**。 3月4日 水戸藩主慶篤32歳将軍家茂の護衛として入京。藤田小四郎信22歳ら尊攘派應従。島津久光は京へ参集した有力大名と公家らに過激な攘夷を行なわぬよう求めたが、久光はそれが容れられぬことを知ると僅か5日の京都滞在で薩摩へ帰國してしまう。 4月20日 尊攘派公家の圧力で将軍家茂は5月10日に攘夷を実行することを約束させられる。 5月11日 長州藩のみが攘夷を実行。下関砲台からこの日に米船、23日に仏船、そして26日に蘭船を砲撃。 5月 一橋慶喜27歳 江戸へ帰る。藤田小四郎ら攘夷を期待するも成らず。慶喜に随行。 6月1日 長州藩が実行した攘夷被害各國が長州へ報復開始。米艦が長州の軍艦2隻を撃沈。　6月5日 仏艦が下関砲台を破壊。さらに250名が上陸して前田と壇ノ浦の砲台を破壊。長州藩は軍事力の大差を認識。攘夷論を捨て、以後、英國に接近。 6月27日 生麦事件が薩英戦争に発展。鹿児島で双方に多くの死傷者を出す。　6月30日英國艦隊 鹿児島湾を去る。 8月13日 尊攘倒幕論者の三條實美が孝明天皇に無断で「倒幕の軍議を実施する」旨の勅命を発す。天皇は激怒。好期と見た薩摩藩はこの日、京都守護職の会津藩に同盟を申し入れ、翌14日から三條實美に敵対する公家を引き込んで『七卿落ち』に持ち込む。 8月18日 京都で政変『**七卿落ち**』。孝明天皇は幕府と会津藩兵に宮門を守らせて御前会議を開催。長州藩尊攘急進派に推されて朝廷内で勢威を振るった三條實美ら七卿が罷免され長州へ逃げる。長州藩も宮廷を逐われ一橋派の松平慶永・島津久光ら公武合体派が入京し開國論さえ唱える状況となる。 8～9月 藤田小四郎信、密計を立てる。　この秋、小四郎は江戸で澁澤栄一とも二度会見する。 この冬、小四郎が筑波挙兵を武田耕雲斎正生に伝え理解を求めるが耕雲斎は時期尚早として強く説諭。だが小四郎は計画を進め12月には同士150名。軍資金調達のため「押借」横行。 10月 仏海軍のカミュ中尉、横濱井土ヶ谷で殺害さる。

西暦	元号	年数	EVENT
1864	元治 1	-161	2月 藤田小四郎、府中(石岡市)に拠点を移す。　2月20日改元　彰考館総裁 豊田彦次郎(松岡)没1805- 3月27日 **藤田小四郎23歳ら63名、筑波山に挙兵。水戸藩天狗争乱(子年のお騒ぎ)**。筑波勢大将は田丸稲之衛門(水戸町奉行60歳)。 4月2日 幕府、水戸藩家老に天狗党取締りを指示。　4月3日朝 170余名となった筑波勢下山し日光を目指す。 4月5日 筑波勢、宇都宮到着。 4月7日 筑波勢、宇都宮藩へ日光占拠を視野に参詣の申し入れ。条件付きで受諾さる。 4月9日 12名、4月10日 37名が日光参拝 。　4月10日 幕府、天狗鎮圧を水戸藩へ要求。　4月11日 筑波勢、日光下山。 4月14日 筑波勢、大平山に依る。　5月2日 諸生ら岩船山願入寺に会合。 5月26日 諸生派、水戸千波原に終結。市川三左衛門弘美、朝比奈彌太郎、佐藤圖書らが引率し南上。同時に鎮派も南上。 5月30日 筑波勢、大平山を下山し筑波へ向かう。　6月1日 市川三左衛門弘美、水戸藩執政となる。　6月5日22:00頃 **池田屋事件**。後に長州征伐に発展。　6月6日 田中愿蔵、栃木町を焼く　6月9日 幕府、天狗追討令を発す。　6月17日 市川ら天狗追討のため江戸を出発。　6月21日 田中愿蔵、真鍋を焼く。　7月7日 幕府の天狗追討軍、高道祖に筑波勢を破る。 7月9日 筑波勢、追討軍を破る(**下妻戦争**)。　7月10日 幕府、若年寄田沼意尊(先祖は賄賂渡世)に筑波勢追討を命ず。 7月19日 **禁門の変(蛤御門の変)**　7月23日 市川ら水戸入城。水戸の政権を握って尊攘派を弾圧。 7月24日 **第一次長州戦争**　7月25日 藤田小四郎ら水戸城下で戦闘(藤柄戦争)。　同日、二本松藩に水戸出兵の幕命届く。 8月4日 水戸鎮撫の幕命で宍戸藩主松平頼徳江戸出発。途上大発勢と合流。 8月9日 二本松藩兵出発　8月10日 松平頼徳、大発勢、武田勢が水戸に入るが市川派、入城拒否。 8月13-15日 **那珂湊戦争**。松平頼徳、大発勢、武田勢に筑波勢が加わり諸生派敗走。**那珂湊天満宮は無事**。 8月16日 松平頼徳ら那珂湊に入る。藤田小四郎ら小川へ引き上げ。　8月20日 頼徳ら水戸へ進軍し神勢館に至る。 8月22日 神勢館の戦い。　この日、幕府の天狗追討軍筑波山を包囲。 **★8月25日 太田捨吉[No.9]誕生-1919 藏吉歳就45歳(くらい)/きむ31歳 長男 於新屋敷花小路** 8月26日 二本松藩兵、水戸神崎寺に到着。　8月27日 市川派が神勢館攻撃。　8月27日 二本松藩兵、弘道館で幕軍と軍議。 8月29日 松平頼徳ら那珂湊へ撤退し、筑波勢・潮来勢らと合流。　9月26日 田沼意尊軍、助川城の田中隊攻撃。田中隊敗走。 10月1日 八溝山で田中隊解散。　10月4日 田中愿蔵、役人に捕縛さる。　10月5日 松平頼徳、水戸で切腹。 10月16日 田中愿蔵、久慈川塙下河原の刑場で斬首。　10月17-19日 那珂湊の頼徳隊、追討軍に降伏。 10月23日 那珂湊の天狗壊滅。筑波勢、潮来勢、武田勢逃走。　10月25日 天狗党大子着。　11月1日 天狗党西上軍、大子出発。 1月6日 幕府の田沼意尊ら天狗追討軍水戸を出発。 11月11日 天狗等西上軍、上州で戦闘。　11月17日 天狗西上軍、信州に至る。 11月23日 幕府、西上軍の目的地が京都であることを京都所司代へ通報。　11月27日 天狗西上軍、美濃に至る。 11月29日 一橋慶喜28歳、朝廷宛内願書にて「天狗党追討」を明らかにする。後日「なかなか危ない身の上ゆえ」と言い訳。 12月1日 天狗西上軍、越前へ向かうことを決定。　12月2日 一橋慶喜率いる天狗追討軍、京都を出発。　12月5日 天狗西上軍、越前に至る。　同日、西國では長州藩が幕府に降伏。**第一次長州戦争終熄**。　12月9日 水戸10代藩主徳川慶篤、藩内混乱の責により謹慎。 12月11日 天狗西上軍、新保に至る。加賀藩士との交渉開始。「降伏」に決定。　12月13日 一橋慶喜、西上軍からの嘆願書を却下。　12月17日 一橋慶喜、天狗党西上軍からの再度の嘆願書を却下。　12月20日 天狗党西上軍降伏。加賀藩預けとなる。 12月23-25日 天狗党、敦賀へ移送。各所に収容。加賀藩は天狗党員を丁重に扱う。
1865	慶應 1	-160	元治2年1月2日 西國では高杉晋作らが馬関(ﾊﾞｶﾝ)を占拠して挙兵。 元治2年1月18日 入京した田沼意尊に一橋慶喜が天狗党員を引き渡す。　元治2年1月25日 幕府の追討軍、敦賀着。　1月29日 天狗党員の身柄が追討軍に引き渡される。　元治2年1月 水戸では諸生派政権による天狗残党狩り。　元治2年2月1日 天狗党員の尋問開始。　元治2年2月4日 武田耕雲斎正生、藤田小四郎信24歳ら天狗党幹部24人敦賀で斬首。　2月15日 135人敦賀で斬首。 元治2年2月16日 天狗党員102人敦賀で斬首。　2月17日 天狗党に従軍した美濃・尾張の農民ら78人釈放。 元治2年2月19日 天狗党員75人敦賀で斬首。　2月23日 16人敦賀で斬首。 これまでで天狗党員の斬首合計352人。小林幸八は取調中「横濱で外國人を斬った」ことを認めたため横濱へ送られて斬首。 武田耕雲齋孫武田金治郎蓋18歳ら130人「流罪」。「構いなし」と「追放」187人。水戸藩領農民として水戸藩引き渡し130人。 2月28日 西國では長州藩が幕府へ対抗する決議。第二次長州戦争へ。 元治2年3月25日 武田耕雲齋、田丸稲之右衛門、山國兵部、藤田小四郎の首を那珂湊、水戸城下に梟す。この後、水戸で耕雲齋遺族の処刑。妻とき子48歳は耕雲齋の首を抱かされて斬首さる。　4月5日 天狗党大発勢29名、古河で処刑。以後、大発勢の処刑相継ぐ。 4月7日 江戸藩邸の市川ら門閥派から水戸政府へ「水戸の入牢者を全員死罪とし反対派を幽囚すべし」と伝えるが水戸政府は異論を唱えて本件一時中止。　4月8日 慶應に改元　米國の南北戦争(1861より)は北軍勝利で終結。 **★10月25日 慶應元年十月廿五日の一件(『南梁年録87』国立国会図書館蔵)。** **この一件は、諸生派が天狗党激派と鎮派の抹殺を目的に水戸赤沼牢屋敷に於て夜中に決行した事件。** **元若年寄岡田新太郎、同人叔父岡田損藏、美濃部又五郎、三浦贇男、岡部城之介、三木雅樂吉、元大番武藤善吉、那須寅藏、小山田健之允、高橋重太夫、有賀半藏、柿栖次郎衛門、齋藤市右衛門、津田豐太郎、吉見喜代八郎、安藤木工之進、小林六衛門ら17人死罪、寺社方勤元締水野哲太郎1人斬死。御細工人太田九藏藏吉1人永牢(推定46歳)。** **※「太田九藏が連座したのは妬みからの讒言による」との口碑あり。このとき、妻きむ32歳。長男捨吉2歳。** **幕府は「慶應元年10月25日の一件」で水戸藩内の動揺を憂慮。穏健政策に転じ藩主慶篤は遠山熊之介重明を側用人見習いに抜擢。幽囚人を自宅謹慎とし、遠山ら鎮派を藩政に参加させて藩政刷新を目論んだ。太田九藏も自宅謹慎となったと思量される。**
1866	慶應 2	-159	1月21日 西國では坂本龍馬の仲介で薩長同盟成る。 2月3日 市川三左衛門弘美と諸生ら門閥派は前年の幕府と慶篤の政策に強く反発して学館(弘道館)物見へ終結。市川らが諸生を率いて出府する挙に出て鎮派の遠山を排す。このとき、諸生は市川派と内藤弥大夫派に分裂。　6月7日 **第二次長州戦争開戦** 6月13日 市川ら門閥派による天狗党鎮派弾圧が強まる中、朝廷は水戸藩附家老中山備中守信微に上京を命じた。　6月19日 江戸に至り、6月21日 水戸藩邸へ到着。中山は市川ら門閥派により差控の身にあったが、幕府はそれを解き上京を命じた。幕府も門閥派に批判的になりつつあった。　7月20日 将軍家茂、大阪城中で病没21歳(公表は8月20日)。　7月晦日 水戸藩附家老中山備中守信微。京都本國寺へ到着。　8月16日 **第二次長州戦争終熄**　この秋、一橋慶喜・幕府・中山備中守信微 vs 市川三左衛門弘美ら門閥派の対立先鋭化。　12月5日 **一橋慶喜30歳 15代将軍**。 12月29日 孝明天皇没。攘夷主義者だが幕府支持者でもあった。岩倉具視による毒殺説あり。
1867	慶應 3	-158	1月11日 徳川昭武(後に水戸11代藩主)、ﾊﾟﾘ万博出席のため横濱を出航。 **★▲『慶應三 丁年 卯 九月二十三日 積阿稱念清信士 位 藏吉歳就』[大][新] 太田藏吉歳就[No.8] ■#17 九月廿五日 (推定48歳)** **★9月25日 太田捨吉4歳 家督相続[No.9] 母きむ34歳** 10月12日 徳川慶喜 二条城にて在京の老中以下へ大政奉還の決意を通達。10月13日 二条城にて在京諸藩10万石以上の大名重臣へ説明。10月14日 明治天皇へ上表文提出。10月15日 朝廷が**大政奉還**の勅許。これを以て**江戸時代終期** この年、慶喜は写真判定により側室3名を選定。旗本松平勘十郎女で旗本荒井省吾養女を経て小姓頭新村猛雄養女となっていた新村信(ﾉﾌﾞ)。**旗本中根芳三郎女の中根幸(ｺｳ)**。新門辰五郎(中村金太郎)女の芳(ﾖｼ)。-1872　11月15日 坂本龍馬暗殺32歳1835- 元土佐藩郷士。暗殺実行犯は京都見廻組の者とされる。　河合継之助没41歳1827- 長岡藩家老。　12月9日 **王政復古の大号令**
1868	明治 1	-157	慶應4年1月3日 **戊辰戦争**-1869　1月19日 在京水戸藩士に藩政改革のため東帰の勅許。　1月30日 新撰組井上源三郎、伏見で戦死。 3月10日 天狗派の水戸城攻撃により市川勢、会津方面へ脱走。**天狗派が政権を掌握**。以後、天狗派による門閥派への復讐が続く。 3月12日 1月19日に京を発った水戸藩士が水戸到着。　3月 天狗派三木佐大夫らが水戸の門閥派追討を実施。 3月 維新政府が神仏判然令を制定。神仏分離政策に伴う廃仏毀釈で寺院に甚大な被害。 3月25日 水戸藩郡奉行所は元治元年以来天狗党を含む尊攘派に加わり罪を課せられた者の跡目相続を認める通達を出す。獄死者を含む救済策。　4月5日 徳川義篤没37歳1832-(順公)/11月 徳川昭武16歳 水戸11代藩主-1910 4月6日 武田金治郎、天狗派130名を率いて京を発つ。 閏4月29日、田安家徳川家達が新政府から徳川宗家相続(16代)の許可　5月 武田金次郎ら水戸到着。諸生・門閥派への復讐開始。 5月17日 近藤勇、板橋にて斬首。　慶應4年7月19日 沖田総司、千駄ヶ谷にて病没25歳。 8月26日 海路北海道へ逃走中の旧幕府海軍副総裁榎本武揚率いる軍艦8隻のうち1隻が台風で銚子付近で難破沈没。一部は銚子へ上陸逃亡。このことが逃走中の市川三左衛門弘美らの耳に入る。　9月8日改元(以降 一世一元制) **明治維新**

西暦	元号	年数	EVENT
			明治1年9月 神奈川県設置。現神奈川県域には三浦・鎌倉・橘樹・都筑・久良岐・高座の6郡、小田原・荻野山中・六浦の3藩あり。 9月29日 水戸へ舞い戻った諸生派残党の市川三左衛門弘美らが水戸城を襲撃。占拠。 10月1日 **弘道館の戦い** 水戸城の市川ら諸生派敗退　10月2日夜 市川勢水戸を脱出。尼子扇之介らが率いる追討軍「純眞隊」500余が追撃。市川勢は長岡(茨城町)-紅葉(鉾田町)-玉造(玉造町)-船で霞ヶ浦渡海-潮来(潮来町)・・・ 10月4日 逃走中の市川勢、松岸村(銚子市)(当時高崎藩飛知)着。銚子から榎本武揚のように船で北海道へ渡ろうとして高崎藩兵と交渉したが果たせず109人が高崎藩に投降。市川三左衛門弘美ら約70人は八日市場へ逃走。 10月6日 市川勢約70人、八日市場着。**八日市場の戦い(地元では松山戦争と称す)**。ここで追討軍水戸藩兵と交戦。市川方戦死者40人、追討軍「純眞隊」側5人。市川勢約30人逃走。そのうち市川自身は単独で東京へ逃亡。 市川方の戦死者一部: 前執政朝比奈弥太郎泰尚41歳、その養子で小姓頭泰彙、小姓頭佐藤主税信好、その弟溜男、前執政筧助太夫政布28歳、その弟平十郎21歳、先手同心頭富田理介敏行、徒目付友部徳之介25歳。市川は高野村(八日市場市)の剣士大木左内宅に匿われたが村民に気付かれ東京へ逃走。久我三左衛門と変名し女の嫁ぎ先寶徳寺に一時潜伏。　10月21日 **箱館戦争(五稜郭の戦い)**-1869 12月23日 水戸藩、箱館出兵を藩内に布達。しかし財政窮乏で自費出兵成らず。新政府に官費出兵を願い出る。
1869	明治 2	-156	1月 新政府、版籍奉還の受付準備に着手。　1月10日 新政府、箱館鎮定の見通しが立ったとして水戸藩出兵を停止するが、水戸藩はなおも出兵を請願。　1月25日 新政府、水戸藩の箱館出兵請願を容れ200人の出兵を承認。　2月15日 水戸藩出兵。 2月26日夜 東京青山百人町剣道師範村松某宅に潜伏中の市川三左衛門弘美、水戸の捕吏に捕縛される。 3月8日 水戸藩箱館出兵の220人東京出発/3月11日 青森港着。滞在。　3月末 水戸藩、版籍奉還の建白。 4月3日 江戸で捕縛された水戸藩門閥派首領**市川三左衛門弘美処刑**「叛逆無道重々不届き至極大胆の致し方に付、後昆の誡として上下御町引き回しの上、(水戸)長岡原に於て逆磔に行ふ者也」 4月13日 水戸藩は藩主昭武の民部大輔辞任を新政府に申請。 4月15日 水戸藩兵青森港出航/16日 江差上陸。 4月29日 矢不来台場攻撃で水戸藩兵13人死傷。 4月17日 新政府は水戸藩からの藩主昭武の民部大輔辞任を許可し、版籍奉還の建白を賞すとともに奉還は会議の公論を待つ旨を回答。 5月17日 箱館五稜郭の旧幕府軍1000余人、薩長の新政府軍に降伏。5月18日 **戊辰戦争終結**。水戸藩兵はその護送と五稜郭の請取り。 6月2日 水戸藩兵、豊安丸で箱館出航/6月8日 東京着/6月15日 水戸へ帰着。水戸藩兵220人のうち戦死9人、負傷19人。 6月17日 新政府、**版籍奉還**を断行。従来の藩主は藩知事となる。徳川昭武17歳、初代水戸藩知事。 7月 明治元年3月からこれまでに水戸藩諸生派の処刑者300人を越える(梟首、磔等)。 7月21日 水戸藩知事徳川昭武が弘道館に入る(版籍奉還後なので水戸城でなく弘道館にした)。 8月2日 職制改正。華族・士族・平民の別を定む。公家・諸侯を華族、家臣を士族、他を平民とする。 この年**東京遷都**
1870	明治 3	-155	平民に苗字を許す　この年は版籍奉還から廃藩置縣に至る過渡期　彰考館閉鎖
1871	明治 4	-154	7月14日 **廃藩置縣**　えた非人の称を廃す。　11月13日 新府縣の設定。旧藩名を名乗る縣は消滅。水戸縣は茨城縣。 9代目成瀬正肥の犬山城は愛知縣所有となり廃城。天守閣を除く櫓、城門等、殆どの施設が移築、または破却。
1872	明治 5	-153	徳川宗家では財政逼迫により用人整理。宗家からお仕向けを受ける慶喜家でも財政改革を迫られ9月に側室を整理。信(ノブ)と**幸(コウ)**は対象外。慶喜の子で成人した12人は信と**幸**の子で、信は5男仲博、3女鉄子、9女経子、7男慶久、11女英子、10男精を産んでいる。**幸は4男厚、4女筆子、7女浪子、8女國子、10女糸子、9男誠を産む。** 9月12日(1872/10/14) 新橋停車場(後の汐留駅(1986廃止))-横濱停車場(現 桜木町駅)に鉄道開通。10月14日を鉄道の日と制定。
1873	明治 6	-152	東京日本橋と京都三條大橋に道路元標設置。　徴兵令交付
1874	明治 7	-151	1月14日 20:00 右大臣岩倉具視48歳、暗殺未遂。1月18日 未明、犯人武市熊吉逮捕。一味7名元土佐藩士捕縛。斬罪。
1875	明治 8	-150	千島/樺太交換
1876	明治 9	-149	3月28日 廃刀令布告
1877	明治 10	-148	**西南戦争**　西郷隆盛没51歳1827-。　木戸孝允没45歳1840-
1878	明治 11	-147	5月14日 8:00 参議兼内務卿大久保利通暗殺47歳。元加賀藩出身者6名が滅多斬り。下手人は自首。斬罪。
1879	明治 12	-146	6月5日 徳川昭武、偕楽園南隅に彰考館を開設し『大日本史』編纂再開。
1880	明治 13	-145	1月15日 栗田寛、水戸大坂町へ転居し家塾輔仁学舎開設。
1881	明治 14	-144	2月 神道事務局設置　7月24日 斬首刑廃止。　下野していた板垣退助自由党を結成。自由民権・四民平等。 8月31日 維新政府の伊藤博文派は肥前出身の大隈重信を罷免。10月11日の御前会議で國会開設の裁可を得る。**明治14年の政変**。 10月26日 米國では『OK牧場の決闘』。
1882	明治 15	-143	日本銀行設立　4月6日 18:10 自由党総裁板垣退助45歳暗殺未遂。
1883	明治 16	-142	岩倉具視没59歳1825-　米國マンハッタンにブルックリン橋完成(ニューヨーク最古の橋)。1867に建設計画。
1884	明治 17	-141	6月27日 徳川篤敬、『大日本史 氏族志』13巻を朝廷へ献上。
1885	明治 18	-140	太政官制廃止。内閣制度発足。伊藤博文が初代内閣総理大臣。伊藤総理は井上馨らに憲法草案の起草を指示。
1886	明治 19	-139	Statue of Liberty(自由の女神)(アッパーニューヨーク湾リバティ島) 米國独立100年を祝してフランスより贈呈。　徳川圀順(クニユキ)誕生-1969(長じて13代水戸徳川家当主(14代は圀斉))。　9月4日 米國西部では白人とアパッチ族との戦争が酋長ジェロニモの降伏で終結。1862より
1887	明治 20	-138	5月 伊藤博文、井上馨らは政府の法律顧問だったドイツ人から助言を得て大日本帝國憲法案起草。 6月4日 憲法草案の検討を伊藤博文、井上馨、伊東巳代治、金子堅太郎らが旅館東屋(横浜市金沢区)で開始。 8月6日　東屋に泥棒が入り、憲法の草案が入っている行李を盗まれる。行李は後日近所の畑で発見され草案は無事だった。以後は、場所を伊藤博文の夏島別邸に移して検討が進められ夏島草案成る。
1888	明治 21	-137	4月 夏島草案に修正が加えられ成案となる。伊藤博文は天皇の諮問機関として枢密院を設置。自ら議長となって、この憲法草案の審議を行なう。　この年 山岡鉄舟没53歳1836- 尊王攘夷派の幕臣 **★太田捨吉25歳 この頃には水戸の警察官となっていたと思量される。捨吉自筆のメモが現存。市民に寄り添う内容。** 磐梯山噴火。岩屑雪崩で山体崩壊。現在の山容へ変化。
1889	明治 22	-136	1月　大日本帝國憲法、枢密院での審議結了。　2月11日 **大日本帝國憲法発布**　**★3月4日 日高ゑい18歳 太田捨吉26歳に入籍。捨吉母きむ56歳。**　4月1日 横浜が市となる。面積5.4km^2、戸数25,849戸、人口116,193人。　6月16日 東海道線と横須賀線(横須賀/大船間)開通。**鎌倉英勝寺は横須賀線建設に伴い堂宇と寺地の一部を失う**。1895へ 10月19日 16:00頃 外務大臣大隈重信52歳暗殺未遂。来島恒喜の爆弾テロで右足を失う重傷なるも助かる。
1890	明治 23	-135	**第1回帝國議会**　北里柴三郎 破傷風血清療法発見　9月16日 オスマン帝国(一部が現トルコ)海軍軍艦エルトゥールル号が日本訪問の帰途、台風により和歌山県串本沖で座礁。機関の水蒸気爆発で沈没。600余名が漂流。大島村(現串本町)へ泳ぎ着いた約10名から事故を知った全村民が救助に全力を尽くす。一方、明治天皇の指示で国が救助を支援。ドイツ軍艦も協力。500名を越える犠牲者を出しつつも69名が生還。帰国者により日本側の尽力が故国へ伝えられ、日本/トルコの友好関係の端緒が開かれる。
1891	明治 24	-134	濃尾地震。城主不在の犬山城、付櫓や石垣が倒壊。愛知県は修復を条件に成瀬氏に所有権返還を提案。
1892	明治 25	-133	8月2日 金さん銀さん誕生。金さんは2000年107歳、銀さんは2001年108歳まで生きる。 米國アッパーニューヨーク湾のエリス島に連邦政府移民局設置。移民の手続を約60年間行なう。
1893	明治 26	-132	6月12日 清水次郎長没74才。墓は妻のお蝶(3代目)、大政、小政ら子分らと共に梅蔭寺。 松平容保没59歳1835- 会津藩主　明治4年に廃城(天守のみ残存)となっていた犬山城 旧城主成瀬正肥に譲与。以来現在まで。
1894	明治 27	-131	7月25日 **日清戦争**-1895
1895	明治 28	-130	**★▲『明治二十八年 六月十五(六)日 新華其 暁夢孫児 霊 太田鉄彦』[大][新] ■#18 上市花小路 太田捨吉次男 同年3月生** **鎌倉英勝寺へ松平家から住持が入る。1919へ**　11月30日 **日清戦争勝利**
1896	明治 29	-129	7月1日 茨城縣に郡制施行
1897	明治 30	-128	**★▲『明治三十年 八月九日 口元 秋月善童子 霊 太田章三』[新] ■#19 八月九日 旧七月十一日 上市花小路　士族太田捨吉3男 同年2月生**
1898	明治 31	-127	7月12日 徳川篤敬(定公)没44歳(12代水戸徳川家当主)
1899	明治 32	-126	勝海舟没77歳1823-　成瀬氏の犬山城、天守西側の破損部修理。 1月25日 栗田寛没67歳1835- 彰考館編修として『大日本史』の志表を編纂。この功績により『大日本史』は1906に完成する。

西暦	元号	年数	EVENT
1900	明治 33	-125	4月24日 東京株式市場大暴落、各地に金融恐慌。
1901	明治 34	-124	6月16日 孫文 日本へ亡命
1902	明治 35	-123	★▲『明治三十五年 五月廿一日 口元 静思善嬰女 太田梅』(温妹)(捨吉長女)[新] ■#20 太田梅子 五月三十一日 旧四月廿四日 上市花小路 戸主士族官吏太田捨吉長女 明治廿五年二月十三日生　鎌倉に江ノ島電鉄(江ノ電)開通
1903	明治 36	-122	
1904	明治 37	-121	2月8日 日露戦争-1905　8月10日 旗艦三笠の東郷平八郎大将率いる日本連合艦隊、黄海海戦でロシア東洋艦隊に大打撃。
1905	明治 38	-120	5月27日 東郷平八郎の日本連合艦隊 日本海海戦でロシアバルチック艦隊を全滅。　9月5日 日露戦争勝利　ポーツマス条約調印
1906	明治 39	-119	海江田信義(有村俊斎)没75歳1832- 薩摩藩士で幕末の志士から元老院議官 貴族院議員 枢密顧問官 5月18日05:12 サンフランシスコ地震 M7.8　彰考館栗田寛の功績により『大日本史』完成 全402巻(うち目録4巻)
1907	明治 40	-118	11月15日 故宮本茶村、正五位追贈。1983へ
1908	明治 41	-117	榎本武揚没73歳1836-。戊辰戦争で旧江戸幕府脱走軍と共に函館に戦うが降伏。東京辰ノ口牢に投獄。出獄後は明治新政府で要職を歴任。
1909	明治 42	-116	2月25日　水戸常磐神社境内に彰考館新築落成
1910	明治 43	-115	7月3日 徳川昭武没58歳1853-(節公)。藩主は昭武11代が最後で、徳川篤敬が水戸徳川家12代当主。　鎌倉江ノ電開通　韓國併合 不二屋 横浜元町に洋菓子店開店。
1911	明治 44	-114	大鳥圭介没79歳1833- 敗軍の将　中國では辛亥革命勃発。孫文率いる革命軍により清王朝倒れる。 川上氏御母堂誕生-2011年ご健在
1912	大正 1	-113	明治45年 東京市長、尾崎行雄がワシントンDCに桜の苗木3000本を贈る。3年後に米國から返礼としてハナミズキ40本が贈られる。7月30日改元
1913	大正 2	-112	徳川慶喜没77歳1837-。江戸幕府15代将軍・公爵・貴族院議員。
1914	大正 3	-111	7月28日 第一次世界大戦-1918　桜島噴火 溶岩で大隅半島に陸続きとなる。 横濱鶴見に花月園遊園地(現競輪場)開園。新橋の料亭花月経営者平岡広高が東福寺境内3万坪を借用。谷崎潤一郎『痴人の愛』の舞台。1933経営権が京浜急行。1950閉園/競輪場へ。(修幼少の頃には競輪場に動物園が併設されていた)
1915	大正 4	-110	3年前に東京市長より送られた桜の返礼として米國政府から日本へ白のハナミズキ40本が贈られる。日本への導入初回。
1916	大正 5	-109	4月 京浜急行開業
1917	大正 6	-108	2月3日 米国、ドイツと国交断絶　4月6日 米国、対ドイツ宣戦　10月24日 日ロ通商条約破棄
1918	大正 7	-107	★▲『大正七年八月廿一日 貞松院欣弐妙念大姉』[新] 太田きむ85歳1834- 06:45没 於本籍地(茨城縣水戸市大字上市花小路) 太田捨吉55歳母 三宅八三郎五女 ■#21 戸主捨吉母無業 天保五年十月二十日生 昭和四四・三・一九改葬 11月11日 第一次世界大戦終結
1919	大正 8	-106	★▲『大正八年五月十七日 積德院歡阿聖心居士 勲八等 太田捨吉 支』[新] 07:00没56歳1864-(修曾祖父) 於本籍地(茨城縣水戸市大字上市花小路[No.9] ■#22 戸主温父 元治元年八月廿五日生 昭和四四・三・一九改葬 ★5月29日 長男 太田温27歳 父捨吉死するを以て家督相続届出　母ゑい48歳 鎌倉英勝寺、明治28年(1895)に松平家から入った住持が入寂。これを以て徳川家関係から住持となる姫が絶える。この後は東京青山善光寺より住持を招請して現在に至る。1923へ
1920	大正 9	-105	★温/茂兄弟が母ゑいと共に水戸花小路から横濱へ転居したのは、前年またはこの年だろう。 現横浜市神奈川区西寺尾に民営斎場。 橘樹郡生麦村字岸谷(現鶴見区岸谷3丁目)に遊園地『三笠園』開園。房野池・菖蒲園・桜並木あり。～昭和2年(1927)閉園。
1921	大正 10	-104	11月4日 原敬首相東京駅頭で刺殺される
1922	大正 11	-103	11月 オスマン帝国滅亡
1923	大正 12	-102	9月1日 11:58 関東大震災。Mw7.9。震源域は神奈川県西部から房総半島まで。死者・行方不明者10万5千人超。 鎌倉大仏は台座前面が30cm沈下し仏体が50cm前に滑り出して胎内が破壊。　川上氏御母堂(当時12歳)によれば桂村(城里町)から「東京の空が黒く見えた」と。 この地震で鎌倉英勝寺の堂宇倒壊。英勝寺は山門のみ復元を断念し薪として3円50銭で売りに出す。それを知った篤志家の間島弟彦氏は部材を全部購入し、葛西ヶ谷の自邸内に復元。2001へ
1924	大正 13	-101	横濱鶴見生麦にキリンビール工場(生麦事件碑そば)。 横濱鶴見に日本屈指の牡丹園。建築家上遠喜三郎が2年前に一万坪の畑と山林を入手し家と庭を公開。1943の『花栽培禁止』で閉園、1952に再開園したが1963大船フラワーセンターに移管して閉園。現在、建物のみ残る。
1925	大正 14	-100	横濱鶴見に森永製菓工場 12月21日 15:00頃-20:30頃まで現横浜市鶴見区潮田町で『鶴見騒擾事件』。死者3(幼児1)、負傷者153、逮捕者416。渡田の火力発電所建設に絡む抗争。(間組下請の三谷秀組600) vs (清水組下請の青山組+松尾組(現松尾工務店)+大阪の淡熊(ﾀﾞﾝｸﾏ)会=800)。鳶職、土工、鉄工らに渡世人が加わり猟銃、モーゼル自動拳銃、拳銃、ダイナマイト、日本刀、匕首、槍、竹槍、スコップ、ツルハシ、鉄棒、棍棒等で大乱闘。青山方勝利。　12月22日 被疑者一斉検挙　12月30日 和解・手打式
1926	昭和 1	-99	鶴見臨港鉄道開通。昭和18年國有化。東横線も開通。沿線分譲地の開発と共に綱島温泉開業。土地100坪のラジウム温泉。戦後、割烹旅館東京園が経営し現在も公衆浴場。歌手三橋美智也が釜焚きをしていたとか。　11月28日 第一京浜國道(R15)竣工　12月25日改元
1927	昭和 2	-98	第一次昭和恐慌 現横浜市久保山に市営斎場。(修実父黒政泰治は2001年11月ここで火葬) 大正9年(1920)に開園した三笠園(現横浜市鶴見区岸谷3丁目)が営業不振で閉園。
1928	昭和 3	-97	この頃、昨年閉園した三笠園の房野池が埋め立てられる。
1929	昭和 4	-96	第二次昭和恐慌 この年から生見尾小学校が鶴見高等尋常小学校、生麦尋常高等小学校に分割、前者が豊岡に移転、更に分かれて東寺尾に東台尋常高等小学校開校。
1930	昭和 5	-95	マンハッタンにクライスラービル竣工
1931	昭和 6	-94	マンハッタンにエンパイアステートビル竣工。クライスラービルより少しでも高く！と。　7月 満州事変
1932	昭和 7	-93	5月15日 五・一五事件
1933	昭和 8	-92	★1月1日 水戸市の土地名称変更により我が家の本籍欄の「大字上市」が削除され「茨城縣水戸市花小路」となる。 横濱鶴見の花月園遊園地、業績不振で倒産。負債¥600万。経営権が京浜急行へ。
1934	昭和 9	-91	2月 直木三十五没。於富岡慶珊寺裏山の自宅(現橋本氏邸)。墓は富岡山長昌寺。　丹那トンネル開通。
1935	昭和 10	-90	成瀬氏の犬山城、國宝に指定/昭和27年(1952)に法改正で再指定される。
1936	昭和 11	-89	2月26～29日 二・二六事件　6月18日 第2京浜國道(R1)着工するも、日中戦争・大東亜戦争(太平洋戦争)で工事中断し全線開通は1958。　この年、岸谷プール完成(現横浜市鶴見区岸谷3丁目)。当時の我が家の北側すぐ下。毎年、夏は賑やかだった。
1937	昭和 12	-88	7月7日 盧溝橋事件　これを発端に日中戦争-1945/9/9　この年 東京の環状七号線着工。開通は1942。
1938	昭和 13	-87	國家総動員法発令　横浜鶴見川大洪水
1939	昭和 14	-86	第二次世界大戦-1945
1940	昭和 15	-85	この年に予定された東京オリンピック中止。　大政翼賛会発足。隣組制度強化。「トントントンカラリン…」
1941	昭和 16	-84	3月 鶴見区東寺尾に『響橋(通称『めがね橋』)』開通。基本設計(1938)早大建築学科今井兼次(1895-1987)、実施設計内務省土木局渡辺正春、内務省直轄の工事。　横濱鶴見に第一商業学校(現横浜商科大学)開校。 12月8日 真珠湾攻撃・大東亜戦争(太平洋戦争)-1945。　この年から横須賀猿島に高射砲設置。計5座。砲座のみ現存。
1942	昭和 17	-83	1937に着工した東京の環状七号線開通　現横浜市鶴見区獅子ヶ谷町に私立橘女学校開校。校長土光登美(土光敏夫母)
1943	昭和 18	-82	大正15年に開通した鶴見臨港鉄道國有化。
1944	昭和 19	-81	2月 富岡小学校の大半が漏電で焼失。当時は現三春学園の位置にあり。児童数300以下。　近衛文麿、東條英機首相の暗殺を計画/未遂。自称『大化の改新』と。
1945	昭和 20	-80	3月10日 未明 東京大空襲 B29 334機が焼夷弾約33万発1665トン以上投下。墨田区、江東区、台東区等、約40平方キロが焦土。死者10万人超。　4月、5月にも空襲(5月25日夜半の空襲で小石川後楽園唐門が焼失(推測))。　5月29日 8:30-昼頃まで横濱大空襲 B29 約500機 焼夷弾約2570トン。　6月10日 横濱富岡空襲 大日本兵器産業(日平産業)、日本飛行機、飛行艇基地等。湘南電車(京浜急行)富岡駅

西暦	元号	年数	EVENT
			下の人道トンネル前に爆弾が落ち避難中の数10人犠牲。電車のトンネルに待避した電車も損壊。犠牲者多数。 7月26日、米・英・中国がポツダム宣言。 **7月28日夜 青森大空襲** 黄燐使用の新型焼夷弾(消しても常温では自然発火)。避難を禁じられ死者1018人。 **8月2日 水戸大空襲** 水戸城二の丸三階櫓も焼失。 **8月6日 8:15 広島市に原子爆弾** ウラニウム235型(ﾌｧｯﾄﾏﾝ)。 **8月9日 11:02 長崎市に原子爆弾** プルトニウム239型(ﾘﾄﾙﾎﾞｰｲ)。 **8月14日 終戦の詔書** ポツダム宣言を受諾し降伏を決定。 **8月15日、玉音放送** 第二次世界大戦・大東亜戦争(太平洋戦争)終戦。原爆の犠牲者20万人。その他の戦死者20万人以上と言われ実数不詳。 8月28日 マッカーサー厚木飛行場着。 **9月2日 東京湾に停泊する米海軍戦艦ミズーリで降伏文書に調印。欧米では、この日を以て終戦とする。**
1946	昭和 21	-79	**日本国憲法公布**
1947	昭和 22	-78	六三三制新教育実施
1948	昭和 23	-77	11月12日 極東国際軍事裁判で東條英機ら7名有罪判決 横浜市鶴見区北寺尾に修の母校となる寺尾中学校開校。生麦中学校他多くの中学校が開校。
1949	昭和 24	-76	湯川秀樹ノーベル賞。 第2京浜国道(R1)一部開通(1936着工 全線開通1958)。
1950	昭和 25	-75	新利根村太田の東條太田城跡にあった太田中学校焼失。太田中学校はその後、統廃合で廃され、跡地は東海建材の工場となった。 朝鮮戦争 警察予備隊(自衛隊の前身)発足 6月 横浜鶴見の花月園遊園地が競輪場となる。
1951	昭和 26	-74	4月24日 13:45 **国鉄桜木町事故**。死者103/重軽傷65。垂れ下がった架線でパンタグラフが損傷し火災に至ったもの。
1952	昭和 27	-73	**★▲『昭和二十七年二月二十八日 春覺院榮光妙壽大姉』[新] 太田ゑい81歳1872- 04:10没 於横浜市鶴見区生麦町(捨吉妻)(修曾祖母)長男温(修祖父)満58歳 修は満4歳誕生日前なるも早朝の騒ぎと火葬場へ行った記憶あり。** 昭和10年(1935)に国宝に指定された成瀬氏の犬山城、本年の法改正で再度指定。
1953	昭和 28	-72	2月1日 NHK東京テレビ局放送開始 8月28日 日本テレビが初の民間テレビ局放送開始
1954	昭和 29	-71	警察予備隊から自衛隊へ改称。 5月 第五福龍丸、ビキニ環礁に於ける米国水爆実験被災事件。
1955	昭和 30	-70	11月5日 国勢調査で茨城県人口2064024人
1956	昭和 31	-69	5月9日 日本登山隊がマナスル発登頂
1957	昭和 32	-68	日ソ通商条約調印 7月 西九州豪雨。諫早大水害 死者700名。
1958	昭和 33	-67	**★11月1日 昭和32年の法務省令第27号により太田氏戸籍改製** 第2京浜国道(R1)全線開通(1936着工)
1959	昭和 34	-66	高浜虚子没
1960	昭和 35	-65	1月 安保闘争 日米新安保条約調印 5月23日午前4時過ぎ(日本時間)、**チリ地震**(M8.6(Mw(ﾓｰﾒﾝﾄﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ)は9.5))。津波は750km/hで伝播し22時間半後の24日午前3時頃、**日本の太平洋沿岸に到達**。三陸で8m超。全国で死者・行方不明者139名。
1961	昭和 36	-64	成瀬氏の犬山城、昭和40年(1965)まで解体修理。付櫓復原。米国ではアイリッシュのジョン・F・ケネディが35代大統領就任。(ﾚｰｶﾞﾝもｱｲﾘｯｼｭ)
1962	昭和 37	-63	『住居表示に関する法律』施行。これにより由緒ある町名が失われて行くこととなる。
1963	昭和 38	-62	10月 太田修、電話級アマチュア無線技師国家試験合格。無線局申請するも書類不備で開局が遅延。中学生では開局できず…残念。 11月9日 21:40 **国鉄鶴見事故** 死者161, 重軽傷 119 横浜市鶴見区で脱線した下り貨物列車に上り横須賀線が衝突/脱線。それに更に上下横須賀線が衝突。三重事故。見に行った近所の友人は後日「数日間、食事ができなかった」と。鶴見総持寺に慰霊碑。 1924に開園した横浜鶴見の牡丹園、大船フラワーセンターに移管して閉園。現在は北寺尾6丁目に当時の建物が残るのみ。
1964	昭和 39	-61	**★5月19日 太田修 アマチュア無線局開局 JA1POP** 6月16日午後1時2分 **新潟地震** M 7.5により非常通信実施。10月 東京オリンピック
1965	昭和 40	-60	成瀬氏の犬山城 昭和36年(1961)からの解体修理完了。所有者は2004年まで成瀬氏個人、管理は犬山市。
1966	昭和 41	-59	2月4日 ANA機、羽田空港沖で墜落。 3月4日 カナダ空港機、羽田空港で激突。 3月5日 BOAC機、富士山付近で墜落。
1967	昭和 42	-58	**★この年 太田家が横浜市鶴見区から金沢区へ転居。** 6月5日 イスラエル vs アラブ連合開戦 **第三次中東戦争** 6日でイスラエル完勝
1968	昭和 43	-57	4月 住居表示により水戸市花小路町名廃止、5月より新荘3丁目となる。6月26日 小笠原諸島返還 東京都小笠原村 川端康成ノーベル賞
1969	昭和 44	-56	**★3月19日 太田家墓、水戸神應寺より横浜市港南区日野公園墓地へ改葬。4月21日 埋葬。「遠くて墓参りに行けない」ため。** 12月13日 徳川圀順(ｸﾆﾕｷ)没84歳1886-(明公)(13代水戸徳川家当主)/14代水戸徳川家当主は圀斉(ｸﾆﾅﾘ) 昭和59年時点ではご健在。
1970	昭和 45	-55	3月31日 **赤軍派日航よど号ハイｼﾞｬｯｸ事件** 韓国金浦空港経由、北朝鮮へ。 11月25日 三島由紀夫、陸上自衛隊立て籠もり/自決事件。
1971	昭和 46	-54	1月18日 22:00～19日 05:00 7MHz帯に於いて全国アマチュア局一斉停波。中国より浸入する放送波調査のため。
1972	昭和 47	-53	**沖縄返還 日中国交正常化**
1973	昭和 48	-52	マンハッタンにワールドトレードセンタービル2棟竣工。日本人の設計。2011 アルカイダによる同時多発テロで2棟とも崩壊。 石油ショック。
1974	昭和 49	-51	
1975	昭和 50	-50	1月12日 茨城県稲敷郡新利根村下太田318、(株)東海敷地となっている東條太田城址が村の史跡に指定。 3月 富岡総合公園開園(昭和11年10月より横浜海軍航空隊(浜空)、昭和20年9月 米陸軍第508通信修理隊の接収跡地。)
1976	昭和 51	-49	
1977	昭和 52	-48	
1978	昭和 53	-47	
1979	昭和 54	-46	元号法成立 天皇の代替わり毎に制令で定める。
1980	昭和 55	-45	米国セントヘレンズ山が噴火。5月18日、山体崩壊と爆発で標高が2950mから2550mに低下。
1981	昭和 56	-44	
1982	昭和 57	-43	富岡の太田家、この頃増築。延べ床面積: 旧=20坪 新=25坪。増築の邪魔になるとして自立鉄塔撤去。その後はルーフタワー。
1983	昭和 58	-42	故**宮本茶村 茨城県偉人顕彰**。顕彰碑は潮来浄国寺筋向かいの茶村墓地内。
1984	昭和 59	-41	
1985	昭和 60	-40	
1986	昭和 61	-39	8月21日 カメルーンではオク山と称す火山頂上のニオス湖から20km下流の住民約1700人、家畜約3500頭が短時間で全滅。死因は酸欠。 多量の降雨で冷却され重くなった上層の水が下へ移動。火山ガスが溶け込んだ下層の水が上昇したため湖水爆発が発生。放出された二酸化炭素が原因。
1987	昭和 62	-38	12月17日 千葉県東方沖でM6.7の地震発生。最大震度5。死者2人、負傷者161人。成田空港ではガラスが割れ、鉄道の高架橋が破損。
1988	昭和 63	-37	
1989	平成 1	-36	昭和64年1月7日 **昭和天皇崩御**/平成に改元 10月17日17:04 サンフランシスコ **ロマプリータ地震** M7.1(Mw6.9) 私(太田修)はこのとき震源から約700km離れたラスベガスのホテルの部屋にいたところ「ドン・ミシッ」と1回だけごく僅かに揺れて、地震であると直感。他の同行者は無反応。 この年、太陽に大きなフレアが発生。カナダケベック州で停電が9時間。前回は1770。
1990	平成 2	-35	
1991	平成 3	-34	6月 フィリピンのピナトゥボ火山噴火。大量の火山灰で家屋倒壊多数。
1992	平成 4	-33	
1993	平成 5	-32	7月12日 22:17 **北海道南西沖地震** M7.8 直後に30mの津波。奥尻島青苗地区、火災でほぼ全滅。残ったのは約50軒。
1994	平成 6	-31	1月17日 04:30:55 ロサンジェルス **ノースリッジ地震** Mw6.7 6月27日 オウム真理教による**松本サリン事件** 死者7名。当初犯人と誤認された河野さんの奥様植物人間。
1995	平成 7	-30	1月17日 05:46 **阪神淡路大地震** Mw7.0。震源域は神戸市・淡路島直下。死者6434人。 3月20日 オウム真理教による**地下鉄サリン事件** 駅員・乗客13人死亡、負傷者約6300人。
1996	平成 8	-29	
1997	平成 9	-28	
1998	平成 10	-27	
1999	平成 11	-26	9月21日 01:49(現地時間) 台湾で**921大地震**(台湾中部大地震) Mw=7.6/日本の震度階級で7相当 死者・行方不明者2444人の大災害 その日のうちに日本から救助隊到着 台湾の人々は、いまもその恩を忘れず。
2000	平成 12	-25	金さん107歳で逝去
2001	平成 13	-24	**2月 鎌倉英勝寺の山門部材が葛西ヶ谷から英勝寺へ戻る。山門復興を願う関係者の尽力で再建資金を調達し2007へ。** 2月28日 銀さん108歳で逝去 9月11日 米国で**同時多発テロ** ビン・ラディンらイスラム過激派組織アルカイダの犯行らしい。NYのワールドトレードセンター南北両棟に旅客

西暦	元号	年数	EVENT
			機が突っ込み2棟とも崩壊。数千人の犠牲者。ワシントンDCのDODにも旅客機が突入し180人余の犠牲。ブッシュの米政府、アフガニスタンのアルカイダに報復攻撃。後にビン・ラディンを潜伏先で殺害。
2002	平成 14	−23	
2003	平成 15	−22	
2004	平成 16	−21	10月26日 **スマトラ島沖地震** M9(Mw9.2)。インド洋沿岸諸国に津波被害。死者・行方不明者22万人。
2005	平成 17	−20	
2006	平成 18	−19	
2007	平成 19	−18	7月 **鎌倉英勝寺山門復興着工** 平成22年度(2011年3月末日まで)に竣工予定。 7月16日 10:13 **新潟県中越沖地震** M6.8。活断層が動いたプレート内地震で震源域は新潟の南西60km付近、深さ約10km。新潟県柏崎市、長岡市、刈羽村で震度6強、小千谷市、上越市で震度6弱。死者11名、負傷者1987名、全壊家屋1109棟、半壊3026棟。
2008	平成 20	−17	
2009	平成 21	−16	
2010	平成 22	−15	
2011	平成 23	−14	3月11日 14:46 **平成23年東北地方太平洋沖地震** 三陸沖・福島県沖・茨城県沖のプレートが連動して動きM9.0。宮城県北部で震度7。水戸でも震度6強。建物倒壊、地割れ、崖崩れ、停電、断水、火災等多発。ひたちなか市は震度6強、4mの津波なるも犠牲者なし。天満宮は中の鳥居の貫と扁額が落下。拝殿前の石灯籠一対が倒壊。 大津波発生。岩手・宮城・福島各県で甚大な被害。青森・茨城・千葉各県も被災。**東日本大震災**と命名。千葉県東部でも津波で死者。浦安では広範囲で液状化。横浜市金沢区でも液状化。 地震被害に加え、大津波による犠牲者多数。人、家、車、船、全てを巻き込み平坦地では内陸へ10Kmほども浸入。貞観11年(869)の貞観地震を大幅に越える規模。 東京電力福島第一原子力発電所も被災。14-15mの津波で非常電源動作停止。冷却機能不全で炉心溶融による放射能漏れ発生。大規模な二次災害に発展。 被災者救援・被災地復旧に自衛隊、米軍、警察、消防、世界各国からの救援隊・支援金、ボランティア、民間企業が多大な貢献。 ★2010年、産業技術総合研究所の岡村行信氏が震災予防調査会に「869年の貞観地震と同規模の地震が発生すれば、原子力発電所等に大きな被害が予想される。」との文書を提出していた。 **2017年8月現在**: 死者 15894人/行方不明者 2550人/合計 18444人(6月9日 警察庁まとめ) 現在も死者の氏名判明が続く。 3月12日 3:59 新潟県中越地方でM6.6、深さ約10km。長野県栄村が震度6強。東北地方太平洋沖地震による誘発らしい。この類の地震と、余震が1ヶ月以上頻発。 同日 5:42 新潟県中越地方でM5.3、深さごく浅い。長野県栄村が震度6弱。　同日 日光白根山直下地震。震度4。 3月15日 22:31 富士山直下地震。静岡県東部でM6.0、震源深さ約10km。富士吉田市が震度6強。3.11がこの地震を誘発したとされる。 3月21日 箱根山直下地震。震度2。　同日 秋田駒ヶ岳直下地震。震度1。 **3月末日 鎌倉英勝寺山門復興工事竣功。5月16日 山門復興落慶式。5月17～22日 特別拝観。** 4月19日 浅間山直下地震。震度1。 6月26日「平泉―仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」として中尊寺ほかが世界遺産に登録。 **6月29日 宮本茶村裔 宮本英尚様、スポーツ振興に貢献したとして平成23年春の藍綬褒章を受章。**
2012	平成 24	−13	
2013	平成 25	−12	5月17日 文化審議会が**鎌倉英勝寺の仏殿・山門・鐘楼・祠堂・祠堂門を国重文**に指定するよう文科相に答申→8月7日 官報告示 6月22日 ユネスコの世界遺産委員会が富士山を世界文化遺産に登録することを決定。登録名称は『富士山－信仰の対象と芸術の源泉－』。 11月20日 海底火山噴火で西之島脇に新島出現。噴火継続し新島が拡大して12月26日 西之島に接続。
2014	平成 26	−11	6月21日『富岡製糸場と絹産業遺産群』の世界文化遺産への登録が決定。 9月27日 11:52 御嶽山が予兆なく噴火。小規模の水蒸気爆発なるも噴石と火山灰で犠牲者63名。
2015	平成 27	−10	
2016	平成 28	−9	
2017	平成 29	−8	
2018	平成 30	−7	1月23日 10時過ぎ 草津の本白根山が予兆なく噴火。小規模の水蒸気爆発なるも訓練中の陸上自衛隊員1名が女性隊員を守り噴石で死亡。観光客ら負傷者多数。
2019	平成 31	−6	5月1日改元　**令和**元年
2020	令和 2	−5	
2021	令和 3	−4	
2022	令和 4	−3	3月15日 宮本茶村ご後裔宮本英尚様ご逝去。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
2023	令和 5	−2	
2024	令和 6	−1	1月1日 16:10 **令和6年能登半島地震** M7.6、最大震度7。半島北部から海中の複数の逆断層が約150kmにわたって割れ動いたもの。死者245人、行方不明者3人。輪島市で大火災。古い建物を中心に多数倒壊。新しい建物も液状化や地盤の隆起で傾斜。津波発生、海岸の隆起で漁港が使えず。その後も余震が多数回発生。割れ残りの断層が複数存在するため今後も注意を要す。 4月3日 7:58(現地時間) **台湾花蓮県東方沖でM7.2の地震**。花蓮県で震度6強。死者17人(ほとんどが落石による)。建物倒壊、道路寸断で景勝地太魯閣(ﾀﾛｺ)峡谷孤立。その後も多数回の大きな余震で建物倒壊。 4月5日 10:23(現地時間) NY(ﾆｭｰﾖｰｸ州)の西隣**NJ(ﾆｭｰｼﾞｬｰｼﾞｰ州)でM4.8の地震**が発生。震源の深さ約4.7km。NJで道路のひび割れ、建物損傷、物の落下はあったが負傷者なし。NYも揺れた。**米国東海岸では地震が極めて珍しいため大騒ぎ**となった。
2025	令和 7	0	
2026	令和 8	1	
2027	令和 9	2	
2028	令和 10	3	

Notes ① ★と赤は当家に直接関係のある出来事。　青は当家に直接関係のある弔事。　ピンクは当家に間接的に関係のある出来事。　**ゴシック**は重要な一般的事項。　緑ゴシックはもっと重要な一般的事項。　**ゴシックのボールド**は緑ゴシックよりさらに強調したい場合。
▲は当家に現存する位牌。『 』内は位牌の記載文字。　[大]は ″先祖の霊″ の大型の位牌(最古(箱の前面に「太田九藏」とある。年月 日もあるようだが読みとれない))。　[小]は小型の位牌(2番目に古い)。　[新]は慶應から昭和の最新版。　[名號]は表中央に ″南無阿弥陀佛″、裏中央に ″名號 梅雪院法譽一有居士″ と大書きされた超大型の位牌で、表裏に多数の戒名が連記されている。[大]とﾀﾞﾌﾞっている。　■は水戸神應寺過去帳の記載で、位牌との差分のみ転記。

② [No.xx]と[No.xx]は太田氏の代数。東條から太田に改姓した助衛門某(水戸藩に出仕した助衛門一有の父)が初代。

③ 固有名詞の旧漢字はワープロで出る限り忠実に合わせた。″国″ と ″國″ の使い分けは面倒なので昭和20年以前は無条件で ″國″ にした。ただし、中国に殷(商)が建国される前は漢字がなかったので ″国″ を使った。昭和20年以前の年齢は「数え」を用いた。**(いい加減＆不徹底)**

④ 本年表は専ら個人的な興味に基づいて作成した。したがって、公開を目的としていない。当家、常陸平氏、水戸藩等に関係する出来事、そして常陸國、茨城県稲敷郡、龍ヶ崎市、牛久市、水戸市、さらに元地元の横浜市鶴見区、現地元の金沢区、およびそれら周辺に関する出来事を重点的に収録した。

⑤ 桁幅: 5.5, 3.33, 2.33, 7.0, 101.33　余白 左=0.2, 右=0.2, 上=1.5, 下=1.0, フッター=0.6　ページ中央=ﾁｪｯｸ　100%で印刷　先頭ページ番号=1

★注 ●上記③、新旧字体の使い分けは、かなり**いい加減＆不徹底**ですので引用される場合はご留意下さい。

以上　太田 修/JA1POP